

Gentran:Server® for Windows®

アプリケーション
インテグレーション
EDIFACT
チュートリアル ガイド
バージョン 5.0

Sterling Commerce
An IBM Company

著作権に関する表示

Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995 - 2004
Sterling Commerce, Inc.
ALL RIGHTS RESERVED

スターリング コマース ソフトウェア

営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンスの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されます。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンスの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名は、該当各社の商標または登録商標である場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。「限定保証」以外には、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的および黙示的保証も行われぬものとします。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国国内に居住するか、本ソフトウェアを米国国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

目次

基本操作

概要	1-2
▶ はじめに	1-2
▶ 本書の内容	1-3
マッピングについて	1-5
▶ マッピングの概要	1-5
▶ ファイル書式	1-8
アプリケーション インテグレーション サブシステム	1-13
▶ 概要	1-13
▶ [Gentran アプリケーション インテグレーション] ウィンドウ	1-14
グローバル表示オプションのカスタマイズ	1-16
▶ 概要	1-16
アプリケーション インテグレーションでのマップのビルド	1-21
▶ 概要	1-21
▶ チュートリアル の使い方	1-23

インバウンド発注書 (ORDERS)

概要	2-3
▶ はじめに	2-3
▶ 基本操作	2-4
▶ アプリケーション ファイル書式の分析	2-6
▶ EDI ファイルの分析	2-11
▶ アプリケーション ファイルと EDI ファイルの相関	2-14
エクスポート マップ	2-19
▶ エクスポート マップの作成	2-19
▶ EDI マップ コンポーネントのアクティブ化	2-25
▶ EDI 区切文字の検証方法	2-29
アプリケーション ファイル書式	2-32
▶ アプリケーション ファイル書式の定義	2-32
▶ POHEADER レコードの作成方法	2-33
▶ PODetailGroup の作成方法	2-36
▶ PODetailGroup 従属レコードの作成	2-38
▶ POSUMMARY レコードの作成方法	2-42

アプリケーション フィールドの作成	2-44
▶ 概要	2-44
▶ POHEADER レコード用アプリケーション フィールドの作成方法	2-47
▶ PODETAIL レコード用アプリケーション フィールドの作成方法	2-50
▶ PODESC レコード用アプリケーション フィールドの作成方法	2-52
▶ POALLCHG レコード用アプリケーション フィールドの作成方法	2-54
▶ POSUMMARY レコード用アプリケーション フィールドの作成方法	2-56
データのマッピング	2-58
▶ 概要	2-58
POHEADER レコードのマッピング	2-59
▶ 概要	2-59
▶ CUSTNUMHDR フィールド	2-60
▶ PODATEHDR フィールド	2-62
▶ PONUMHDR フィールド	2-69
▶ POTYPECODE フィールド	2-72
▶ SHIPTONAME 情報のマップ方法	2-73
▶ DELDATE フィールド	2-81
▶ NUMLINEITEMS のマップ方法	2-86
PODETAIL レコードのマッピング	2-91
▶ 概要	2-91
▶ CUSTNUMDET フィールド	2-92
▶ PODATEDET フィールド	2-94
▶ PONUMDET フィールド	2-96
▶ CUSTPROCEDURE/UPCCODE フィールド	2-97
▶ UOM フィールド	2-100
▶ UNITPR フィールド	2-103
▶ QTYORD フィールド	2-106
PODESC レコードのマッピング	2-109
▶ 概要	2-109
▶ CUSTNUMDESC フィールド	2-110
▶ フィールド	2-112
▶ PONUMDESC フィールド	2-114
POALLCHG レコードのマッピング	2-116
▶ 概要	2-116
▶ CUSTNUMAC フィールド	2-117
▶ PODATEAC フィールド	2-119
▶ PONUMAC フィールド	2-120
▶ ACIND フィールド	2-121
▶ ACMETHAND フィールド	2-124
▶ ACTOTAMT フィールド	2-125
POSUMMARY レコードのマッピング	2-127
▶ 概要	2-127
▶ CUSTNUMSUM フィールド	2-128

▶	PODATESUM フィールド	2-130
▶	PONUMSUM フィールド	2-131
▶	NUMLINEITEMSUM フィールド	2-132
マップのまとめ		2-133
▶	概要	2-133
▶	マップのコンパイル方法	2-134
▶	レポートの印刷方法	2-137
▶	トランスレーション オブジェクトのテスト	2-138

アウトバウンド請求書 (INVOIC)

概要		3-4
▶	はじめに	3-4
▶	基本操作	3-5
▶	アプリケーション ファイル書式の分析	3-7
▶	EDI ファイルの分析	3-13
▶	アプリケーション ファイルと EDI ファイルの相関	3-17
システム インポート マップ		3-23
▶	システム インポート マップの作成	3-23
▶	HEADER レコードの作成方法	3-28
▶	HEADER レコードの作成方法	3-30
▶	キーの定義	3-33
▶	マップのコンパイル方法	3-38
▶	レポートの印刷方法	3-41
▶	トランスレーション オブジェクトのテスト	3-42
インポート マップの作成		3-43
▶	インポート マップの作成方法	3-43
▶	EDI マップ コンポーネントのアクティブ化	3-48
▶	リテラル定数の定義	3-52
▶	UNS01 エレメントのマップ方法	3-54
▶	グループと繰り返しセグメントのプロモート	3-55
▶	EDI 区切文字の検証方法	3-66
ほかのアプリケーション ファイル書式の定義		3-69
▶	概要	3-69
▶	HEADER レコードのコピー方法	3-70
▶	HEADER スタンダード ルールの削除方法	3-71
▶	INVBEGIN レコードの作成方法	3-72
▶	INVCOMMENT グループの作成方法	3-74
▶	INVCommentGroup 従属レコードの作成	3-75
▶	INVDETAIL レコードの作成方法	3-78
▶	INVSUMMARY レコードの作成方法	3-79
アプリケーション フィールドの作成		3-81
▶	概要	3-81
▶	INVBEGIN アプリケーション フィールドの定義方法	3-85

▶ INVCOMMENT1 レコード用アプリケーション フィールドの定義方法	3-88
▶ INVCOMMENT2 アプリケーション フィールドの定義方法	3-90
▶ INVDETAIL アプリケーション フィールドの定義方法	3-92
▶ INVSUMMARY アプリケーション フィールドの定義方法	3-94
データのマッピング	3-96
▶ 概要	3-96
▶ INVNUMBEG フィールド	3-97
▶ INVDATE フィールド	3-99
▶ PONUM フィールド	3-103
▶ PODATE フィールド	3-106
出荷 / 請求先情報のマッピング	3-109
▶ 概要	3-109
▶ VENDNAME フィールド	3-110
▶ SHIPTOLOC フィールド	3-113
▶ BOLNUM フィールド	3-115
▶ SHIPDATE フィールド	3-116
INVCommentGroup: INVCOMMENT1 レコード	3-119
▶ 概要	3-119
▶ INVCOMMENT1 レコード内のフィールドのマッピング	3-120
▶ REFNUM フィールドのマッピング方法	3-121
INVCommentGroup: INVCOMMENT2 レコード	3-123
▶ 概要	3-123
INVCommentGroup: INVDETAIL レコード	3-124
▶ 概要	3-124
▶ ITEMNUM フィールド	3-125
▶ QTYSHIP フィールド	3-129
▶ QTYORD フィールド	3-134
▶ UNITPRICE フィールド	3-136
▶ CUSTPROCEDURE フィールド	3-144
▶ UPCCODE フィールド	3-145
INVSUMMARY レコード	3-147
▶ 概要	3-147
▶ TOTALAMOUNT フィールド	3-148
▶ TRANSTOTAL フィールド	3-150
マップのまとめ	3-152
▶ 概要	3-152
▶ マップのコンパイル方法	3-153
▶ レポートの印刷方法	3-156
▶ トランスレーション オブジェクトのテスト	3-157

用語解説

基本操作

目次

概要	2
▶ はじめに	2
▶ 本書の内容	3
マッピングについて	5
▶ マッピングの概要	5
▶ ファイル書式	8
アプリケーション インテグレーション サブシステム	13
▶ 概要	13
▶ [Gentran アプリケーション インテグレーション] ウィンドウ.....	14
グローバル表示オプションのカスタマイズ	16
▶ 概要	16
アプリケーション インテグレーションでのマップのビルド	21
▶ 概要	21
▶ チュートリアル の使い方	23



概要

はじめに

アプリケーション インテグレーション サブシステム

スターリング コマースの電子商取引マッピング ソフトウェア、Gentran:Server® for Windows® アプリケーション インテグレーション システムをご購入いただきありがとうございます。Gentran:Server for Windows は、パートナーにドキュメントを送信するときに自社のアプリケーション ファイルを EDI スタandard 形式にトランスレート (アウトバウンド マッピング) し、パートナーからドキュメントを受信するときに EDI スタandard 形式を自社のアプリケーション形式にトランスレート (インバウンド マッピング) するためのツールを提供します。

本書の内容

概要

このガイドには、EDIFACT スタンダードを用いた Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステム用のチュートリアルが含まれています。このチュートリアルでは、インバウンド マッピング (発注書) の例およびアウトバウンド マッピング (請求書) の例を取り上げます。このチュートリアルの目的は、マッピングプロセスを理解しやすい簡潔なステップに細分化することであり、例を使用することにより、ユーザー独自のマップの作成に必要なタスクを習得できるようにします。

参照情報にアクセスするには、Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーションのオンライン ヘルプまたは『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。このガイドに記載されているタスクの詳細については、Gentran:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。

メモ

このマニュアルの前提知識として、PC および Microsoft® Windows の次の機能に関する知識が必要です。

- マウスおよびカーソルの動作を説明する用語。
- Windows の属性を説明する用語 (ダイアログ ボックス、アイコン、ウィンドウ、およびボタンなど)。

また、このガイドの前提知識として、EDI のコンセプト、EDI スタンダード構造、内部アプリケーション形式、データ マッピングのコンセプト、および Gentran:Server for Windows に関する知識が必要です。

目次

このマニュアルは、複数の章で構成されています。次の表に、各章の概略をまとめます。

章番号	章タイトル	説明
1	基本操作	このガイドの内容、構成、表記、およびシステム要件について説明します。この章では、Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーションを使用してマップをビルドする方法、およびグローバル表示オプションのカスタマイズ方法を簡単に説明します。また、マッピングおよび Gentran:Server for Windows についても概説します。
2	インバウンド 発注書	EDIFACT インバウンド (ORDERS) 発注書用エクスポート マップの作成に必要なタスクおよび手順について説明します。 (次のページへ続く)

(続き) 章番号	章タイトル	説明
3	アウトバウンド 請求書	EDIFACT アウトバウンド (INVOIC) 請求書用システム インポート マップおよびインポートマップの作成に必要なタスクと手順について説明します。
	用語解説	マッピングの定義、および Gentrans:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステムの用語や概念について解説します。

マッピングについて

マッピングの概要

はじめに

マップとは、アプリケーション ファイルと EDI スタンドードとの関係を示すために、Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステムでユーザーが定義する一連の指示のことです。また、マップには、システムによるデータのトランスレーション方法も定義されます。

インバウンド マッピング

インバウンド マッピングでは、トレーディング パートナーの EDI スタンドード形式のビジネスドキュメントが自社のアプリケーション ファイル書式にトランスレーションされます。インバウンド データをトランスレーションするには、Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステムでエクスポート マップを作成する必要があります (アプリケーション ファイルへの "エクスポート処理" がシステムによって実行されているためです)。

アウトバウンド マッピング

アウトバウンド マッピングでは、ドキュメントをパートナーへ送信できるように、自社で使用されているアプリケーション ファイル書式が EDI スタンドード形式にトランスレーションされます。アウトバウンド データをトランスレーションするには、インポート マップおよびシステム インポート マップを作成する必要があります。システムによって、アプリケーション ファイルからの "インポート処理" が実行されているので、インポート マップを作成する必要があります。インポート マップは、自社のアプリケーション ファイル (フラット定義ファイル) のデータを、パートナーが受け取る EDI スタンドード形式ドキュメントへ変換する方法を定義します。アプリケーション ファイルに複数のドキュメントが含まれている場合、ドキュメントの処理に使用するインポート マップをシステムが特定できるように、アプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係 (パートナー エディタで作成) を指定するシステム インポート マップを作成する必要があります。システム インポート マップ作成の詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。

(次のページへ続く)

トランスレーション オブジェクト

ユーザーが作成したマップは、トランスレーション オブジェクトの "ソース" となります。トランスレーション オブジェクトは、ファイルをある形式から別の形式に変換する方法をトランスレータに指示する一連のルールです。トランスレーション中に実行するすべての機能には、トランスレーション オブジェクトが必要です。トランスレーション オブジェクトは、Gentran:Server for Windows EDI のすべてのトランスレーション機能を制御します。トランスレーション オブジェクトは、次の 2 種類のカテゴリのいずれかに分類できます。

- ▶ システム トランスレーション オブジェクト
- ▶ ユーザー トランスレーション オブジェクト

システム トランスレーション オブジェクトでは、インターチェンジ、ファンクショナルグループ、およびトランザクションセットの作成と分割を制御します。また、ファンクショナル受信確認を生成したり、ファンクショナル受信確認との整合性をとるためにも使用されます。ユーザー トランスレーション オブジェクトでは、データ入力、インポート、エクスポート、ターンアラウンドドキュメント、および印刷レポート作成を制御します。必要なシステム トランスレーション オブジェクトはすべて、Gentran:Server for Windows によって自動的にインストールされます。

Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーションでは、インポート、エクスポート、およびターンアラウンドドキュメントのトランスレーション オブジェクトを作成できます。Gentran:Server for Windows フォーム インテグレーション サブシステムでは、データ登録トランスレーション オブジェクトおよび印刷トランスレーション オブジェクトを作成できます。Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステム (または Gentran:Server for Windows フォーム インテグレーション サブシステム) を使用してトランスレーション オブジェクトを生成したら、そのトランスレーション オブジェクトを Gentran:Server に登録する必要があります。また、すべてのトレーディング パートナーに対して適切な取引関係を確立することも必要です。取引関係を確立するには、トランスレータがデータのトランスレーションに使用する適切なトランスレーション オブジェクト名を指定しておく必要があります。

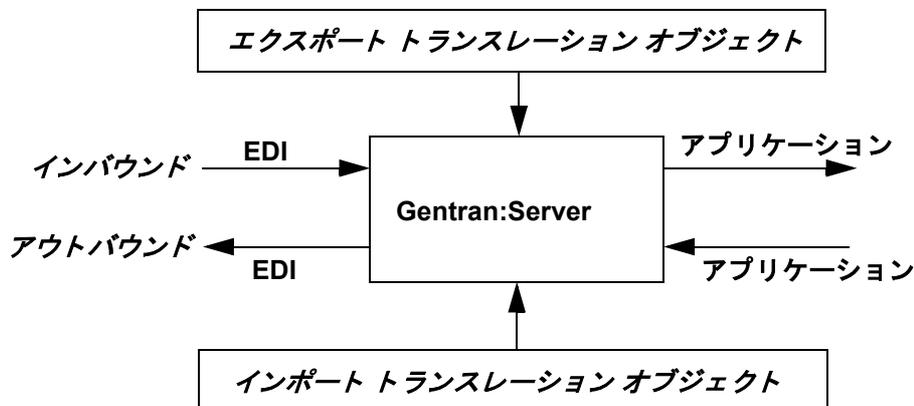
参照

トランスレーション オブジェクト、トレーディング パートナーの関係、およびトランスレーション オブジェクトの命名の詳細については、Gentran:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。

(次のページへ続く)

図：インバウンドおよびアウトバウンド
トランスレーション
処理

次の図に、インバウンドおよびアウトバウンド トランスレーション処理を示します。



インポート マップを作成するには、自社のアプリケーション ファイル書式およびパートナーが自社から受信するドキュメントの形式として期待する EDI スタンダード形式を、Gentran:Server for Windows に対して定義する必要があります。エクスポート マップを作成するには、Gentran:Server for Windows に対して、EDI スタンダード形式 (パートナーが送信するドキュメント) と自社のアプリケーション ファイル形式 (アプリケーションが処理できるデータ形式) を定義する必要があります。

ファイル書式

概要

このセクションでは、アプリケーション ファイル書式および EDI ファイル書式について説明します。

アプリケーション ファイル書式

インポート マップまたはエクスポート マップを作成する場合、Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステムに対して、アプリケーションを定義する必要があります。Gentran:Server for Windows 用語では、自社で使用しているアプリケーション ファイルは "固定形式ファイル" または "固定長ファイル" と呼ばれます。アプリケーション ファイルには、パートナーのドキュメントから抽出するフィールド情報 (マップがインバウンドの場合)、またはパートナーに送信するすべての情報 (マップがアウトバウンドの場合) が含まれている必要があります。

アプリケーション マップ コンポーネ ント

次の表に、アプリケーション ファイルの定義に使用されるマップ コンポーネントについてまとめます。

コンポーネント	アイコン	説明
グループ		<p>ループ構造のことで、この構造にはグループ データが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達成するまで、順次繰り返される関連するレコードとグループまたはどちらか一方が含まれます。他のグループに従属するグループ (サブグループ) を作成する場合、このグループはネストされたループ構造 (ループ内のループ) になります。アプリケーション (固定長) ファイルはグループであるため、アプリケーション インテグレーション サブシステム内の他のグループおよびサブグループと同様に左の図に示すアイコンで表されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

コンポーネント	アイコン	説明
レコード		関連フィールドのグループが含まれます。レコードは一度だけ実行される場合と、複数回繰り返される場合があります。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、レコードが左の図に示すアイコンで表されます。
フィールド		アプリケーション ファイル内に定義される情報の最小単位です。フィールドとは、対応する EDI エlement にマップ (連結) されるアプリケーション マップ コンポーネントのことを指します。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、フィールドが左の図に示すアイコンで表されます。Element がスタンダード ルールを含む場合、Element のアイコンの右に、黒色のアスタリスクが表示されます。

メモ

- ▶ フィールドにマッピング処理が実行されている場合、フィールドのアイコンの上に赤いチェックマークが表示されます。
- ▶ フィールドがスタンダード ルールを含む場合、Element アイコンの右側に黒いアスタリスクが表示されます。

アプリケーション ファイル書式を定義する前に、必要なレコード、フィールド、およびグループのレイアウトを取得する必要があります。各マップ コンポーネントは、システムが処理するのに最も論理的な順番で順次並べられます。アプリケーション ファイルの各レベルは、順次作成される必要があります。たとえば、アプリケーションにはレコードとグループが含まれます。レコードにはフィールドが、グループにはレコードとサブグループまたはどちらか一方が含まれます。つまり、レコードとグループを作成してから、それらに従属するフィールドを作成する必要があります。

(次のページへ続く)

EDI ファイル書式

EDI ファイルには、パートナーのドキュメントから抽出するために必要な情報 (マップがインバウンドの場合)、またはパートナーに送信するために必要な情報 (マップがアウトバウンドの場合) のいずれかのすべての情報が含まれている必要があります。

Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、ユーザーが選択したスタンダード (エージェンシー)、バージョン、トランザクション セット、およびリリース (TRADACOMS スタンダードの場合のみ) に基づいて、EDI ファイルが生成されます。システムには、選択したドキュメントのバージョンのスタンダード エージェンシーによって定義されたすべてのグループ、セグメント、複合、およびエレメントが含まれます。新しいマップを作成する際に EDI ファイルを生成する方法の詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。インポート マップまたはエクスポート マップを作成する場合、通常、システムが生成した EDI ファイルをカスタマイズする必要があります。EDI ファイルはマップ コンポーネントを修正したり、Gentran:Server for Windows の特殊機能を使用して EDI ファイル構造を操作したりしてカスタマイズできます。

ユーザーが使用する特定の EDI マップ コンポーネントは、作成されるマップの種類に応じて異なりますが、具体的には、選択されたスタンダード、バージョン、およびトランザクション セット (ドキュメント) や、自社で必要とされるグループ、セグメント、複合エレメント、およびエレメントなどです。EDI ファイルを生成または定義する前に、どのマップ コンポーネントを使用しているか確認することをお勧めします。

特殊なスタンダードバージョン

Gentran:Server for Windows スタンダード データベースでは使用できない特殊なバージョンの EDI スタンダードを使用する場合、EDI ファイルをユーザーが定義する必要があります。

(次のページへ続く)

EDI マップ コンポーネント

次の表に、Gentran:Server for Windows で EDI ファイルの定義に使用されるマップコンポーネントについてまとめます。

コンポーネント	アイコン	説明
グループ		ループ構造のことで、この構造にはグループデータが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達成するまで、順次繰り返される関連するセグメントとグループまたはどちらか一方が含まれます。グループは EDI スタンドによって定義されます。他のグループに従属するグループは、サブグループ (ネストされたループ構造、つまりループ内のループ) になります。EDI ファイルはグループであるため、アプリケーション インテグレーション サブシステム内の他のグループおよびサブグループと同様に左の図に示すアイコンで表されます。
セグメント		関連するエレメント、または有用なデータをやり取りするために組み合わせられた複合データエレメントのグループを含みます。セグメントは EDI スタンドによって定義されます。セグメントは一度だけ実行される場合と、複数回繰り返される場合があります。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、セグメントが左の図に示すアイコンで表されます。
複合		複数のコンポーネント データ エレメントまたはサブエレメントを含むデータ エレメントです。複合は、それらの複合を使用する EDI スタンド (EDIFACT、TRADACOMS、および一部の ANSI X12 スタンド) によって定義されます。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、複合が左の図に示すアイコンで表されます。

(次のページへ続く)

コンポーネント	アイコン	説明
エレメント		EDI スタンドアードによって定義される情報の最小単位です。個々のエレメントは、それぞれの状況に応じて意味合いが異なります。エレメントは、通常、セグメントに組み合わせられて初めて有用な意味を持つとみなされます。また、エレメントとは EDI マップ コンポーネントのことで、対応するアプリケーションフィールドにマッピング (連結) して、EDI ファイルとの間でデータをやり取りします。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、エレメントが左の図に示すアイコンで表されます。

メモ

- エレメントにマッピング処理が実行されている場合、フィールドのアイコンの上に赤いチェックマークが表示されます。
- エレメントがスタンダード ルールを含む場合、エレメントのアイコンの右に、黒色のアスタリスクが表示されます。

参照

マップ コンポーネント プロパティのカスタマイズ、および **Gentran:Server for Windows** の特殊機能を使用した EDI ファイル構造の操作の詳細については、**Gentran:Server for Windows** 『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。

アプリケーション インテグレーション サブシステム

概要

はじめに

Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステムを使用すると、パートナーにドキュメントを送信するときに自社のアプリケーション ファイルを EDI スタandard 形式にトランスレート (アウトバウンド マッピング) し、パートナーからドキュメントを受信するときに EDI Standard 形式を自社のアプリケーション形式にトランスレート (インバウンド マッピング) できます。

ナビゲーション

次の 4 つのいずれかの方法で Gentran:Server for Windows [アプリケーション インテグレーション] ウィンドウにアクセスすることができます。

- ▶ メイン メニュー バーからメニュー オプションをクリックします。
- ▶ メイン ツールバーの適切なボタンをクリックします。
- ▶ マップの適切な部分をクリックします。
- ▶ マップ コンポーネントをマウスの右ボタンでクリックして、ショートカット メニューを表示します。ショートカット メニューには、マップ コンポーネントで現在使用できるすべての機能が含まれています。ショートカット メニューの内容は、選択したマップ コンポーネントのレベルと種類によって異なります。

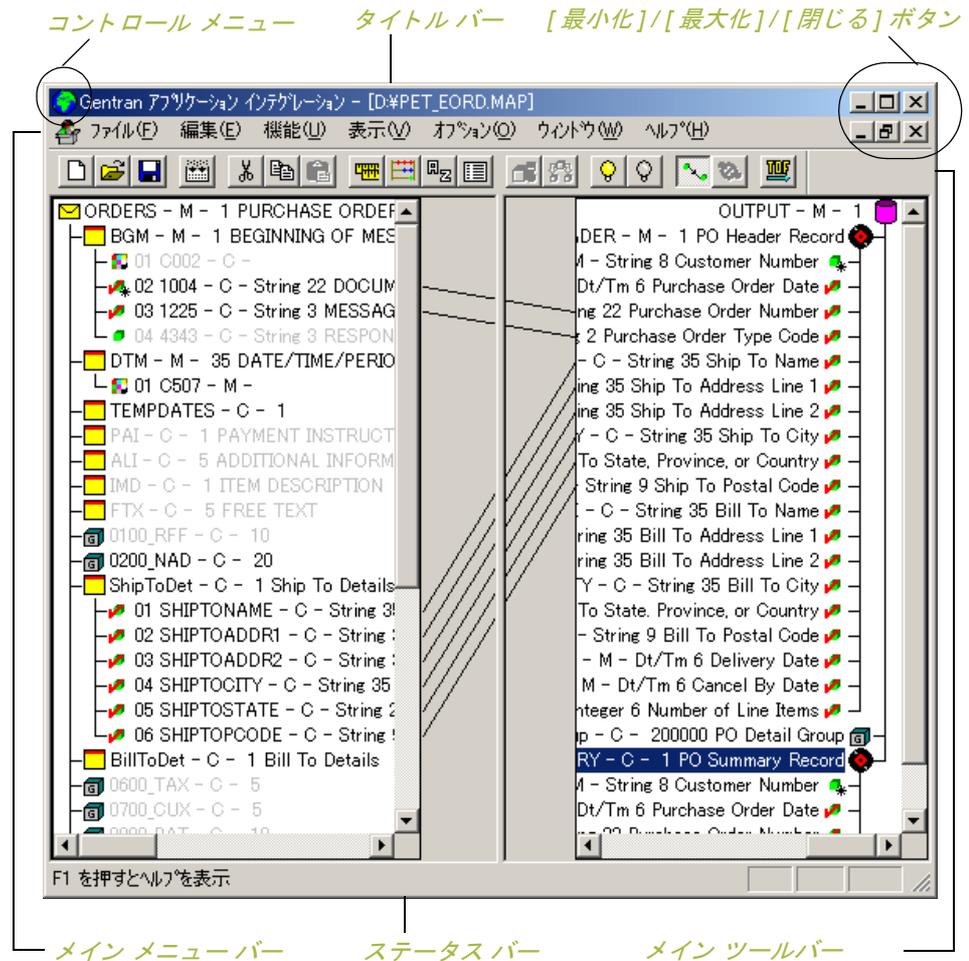
メモ

Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーションを起動すると、メイン メニュー バーには、メニュー項目のサブセットが表示されます。新しいマップを作成するか、または既存のマップを開いた (読み込む) と、メニュー項目の完全なセットが表示されます。

[Gentran アプリケーション インテグレーション] ウィンドウ

[Gentran アプリケーション インテグレーション] ウィンドウ

次の図に、[Gentran アプリケーション インテグレーション] ウィンドウを示します。



(次のページへ続く)

[アプリケーション インテグレーション] ウィンドウの コンポーネント

次の表に、[アプリケーション インテグレーション] ウィンドウのコンポーネントをまとめます。

各部	機能
コントロール メニュー	次のコマンドがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [復元] ▶ [移動] ▶ [サイズ] ▶ [最小化] ▶ [最大化] ▶ [閉じる]
タイトル バー	アプリケーションの名前が表示されます。タイトルバーを使用することにより、デスクトップ上のウィンドウを移動することができます。
最小化	ウィンドウをアイコンとして表示します。
最大化	ウィンドウを最大サイズで表示します。
メイン メニュー バー	ドロップダウン メニューが表示されます。使用できないアイテムはグレー表示になっています。 参照 各コマンドの詳細説明は、オンライン ヘルプで検索することができます。
メイン ツールバー	アプリケーション インテグレーション サブシステムで頻繁に使用する機能にアクセスできます。使用できないアイテムはグレー表示になっています。メイン ツールバーはドッキング可能なツールバーなので、クライアント ウィンドウの端に配置することができます。
ステータス バー	選択、コマンド、およびプロセスの状態情報が表示されます。また、メニューで反転表示した項目の定義、現在のキーボードの入力モードも表示されます ("Caps Lock" キーの場合は CAP など)。

グローバル表示オプションのカスタマイズ

概要

はじめに

Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーションでは、マップの表示形式をカスタマイズできます。グローバル表示オプションは、すべてのマップに適用されます。このセクションでは、次の操作の実行方法について説明します。

- ▶ グローバル表示オプションのカスタマイズ
- ▶ 連結の表示 (グローバル オプション)
- ▶ グローバル確認オプションの設定

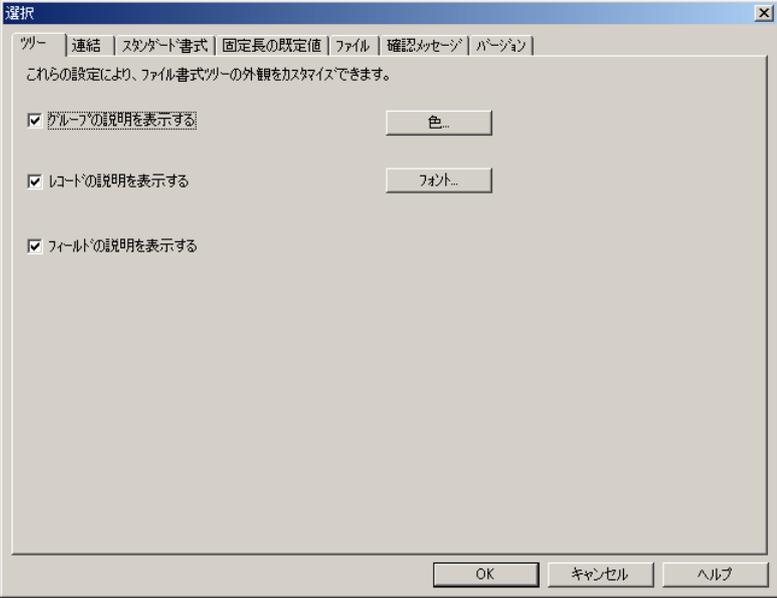
メモ

グローバル マップ表示オプションの設定や変更はいつでもできます。

(次のページへ続く)

グローバル表示 オプションの カスタマイズ

すべてのマップに適用されるグローバルな表示オプションをカスタマイズするには、次の手順に従います。

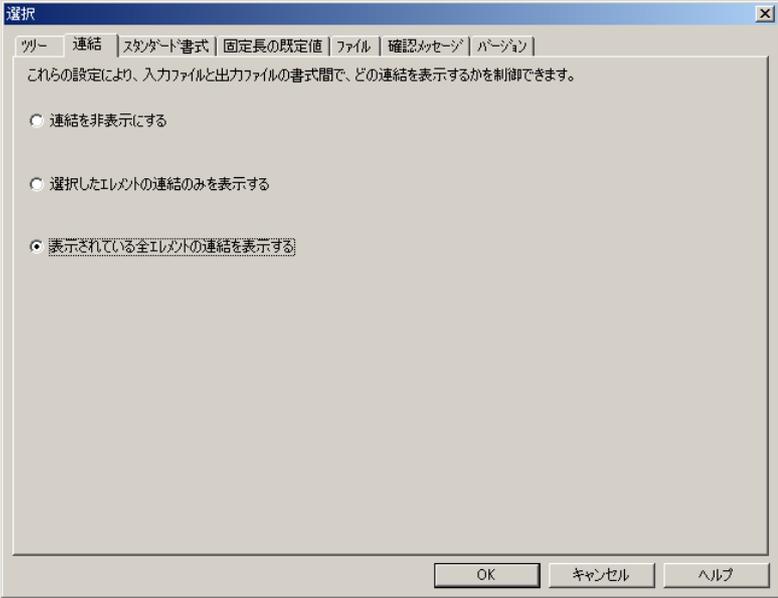
ステップ	操作
1	<p>[オプション]メニューから[選択]を選択します。[選択]ダイアログボックスでは、GENTRAN:Server for Windows用のグローバルな既定値を設定することができます。</p> <p>システムからの応答 [選択]ダイアログボックスが表示されます。既定では、[ツリー]タブが表示されます。</p> 
2	<p>グループ、レコード(セグメント)、およびフィールド(エレメント)の説明の既定の表示をオンにする場合は、適切なオプションを選択します。</p> <p>ヒント 通常は、参照用にすべての説明を表示しておきます。ただし、画面のサイズによっては、説明を非表示にしないとマップ全体を表示できない場合があります。</p> <p>メモ 説明を非表示にする前に、マップのフォントサイズを小さくしてみることもできます(GENTRAN:Server for Windows『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』の「グローバルなフォントのカスタマイズ方法」を参照してください)。</p>
3	<p>[OK]をクリックして変更内容を保存し、[選択]ダイアログボックスを閉じます。</p>

(次のページへ続く)

連結のグローバル表示のカスタマイズ

マッピングの連結は、マップの入力側にあるフィールドまたはエレメントを、出力側にあるフィールドまたはエレメントを結ぶ線として表示されます。

マッピング連結のグローバルな表示をカスタマイズするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[オプション]メニューから[選択]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [選択]ダイアログボックスが表示されます。既定では、[ツリー]タブが表示されます。</p>
2	<p>[連結]タブを選択して、連結オプションを表示します。[連結]タブでは、マッピング連結の既定の表示を設定することができます。</p> 
3	<p>次の設定のいずれか1つを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [連結を非表示にする]: マッピングの連結は表示されません。 ▶ [選択したエレメントの連結のみを表示する]: 現在選択しているフィールドのマッピング連結のみを表示します(一度に多くの連結を表示することによる混乱を避けるため、このオプションにより、選択したフィールドに注意を集中することができます)。 ▶ [表示されている全エレメントの連結を表示する]: マッピングの連結をすべて表示します。 <p>ユーザーが選択したオプションは、すべてのマップに適用される既定値になります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	[OK] をクリックして変更内容を保存し、[選択] ダイアログ ボックスを閉じます。

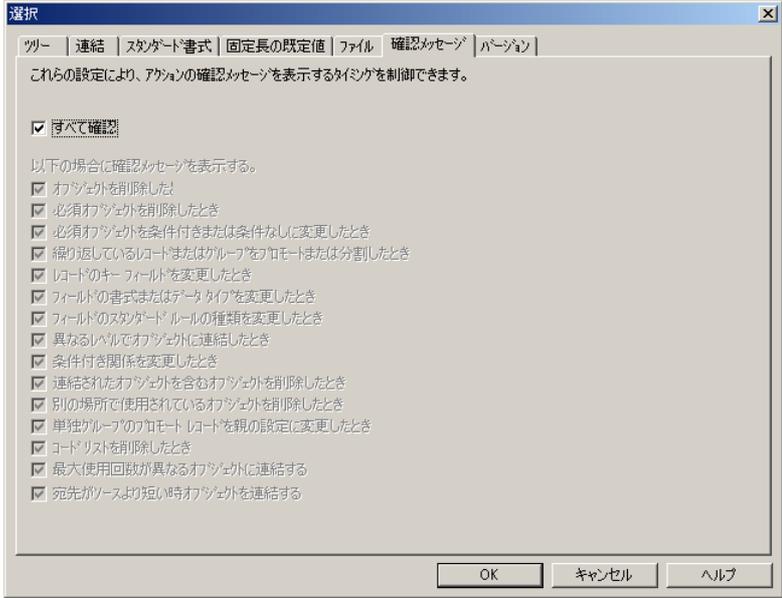
グローバル確認オプションの設定方法

[選択] ダイアログ ボックスの [確認メッセージ] タブでは、どのような場合に確認メッセージを表示するかを指定できます。

注意

これらのオプションをどのように設定するかによって、受け取る確認メッセージを、このチュートリアル の例よりも多くまたは少なくすることができます。

確認オプションを設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[オプション] メニューから [選択] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [ツリー] タブが表示されます)。</p>
2	<p>[確認メッセージ] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 確認オプションが表示されます。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	[すべて確認] チェックボックスをオンにする (すべての確認メッセージを表示する) か、または実行された操作ごとに個々の確認メッセージを選択して、グローバル確認オプションを設定します。
4	[OK] をクリックして、確認オプションを保存します。 システムからの応答 選択した確認オプションが設定されます。

アプリケーション インテグレーションでの マップのビルド

概要

マップのビルド処理

次の表に、マップのビルド処理の概要をまとめます。

段階	説明
1	準備と分析 アプリケーション ファイルのレイアウトを取得して、使用している EDI スタンドとどのように対応しているかを判断します。データを各アプリケーション フィールドとの間でやり取りする方法を判断します。
2	グローバル既定値の設定 (最初のみ) GENTRAN:Server for Windows アプリケーション インテグレーション サブシステムを初めて使用するとき、システムが使用する既定値の日付書式を設定します。グローバル日付の既定値の設定の詳細については、GENTRAN:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。
3	新規マップの作成、保存、および命名 マップの作成、保存、および命名の詳細については、2-19 ページの「エクスポート マップの作成」を参照してください。
4	適切な EDI グループ、セグメント、およびエレメントのアクティブ化 アクティブ化の詳細については、2-25 ページの「EDI マップ コンポーネントのアクティブ化」を参照してください。
5	アプリケーション ファイル書式の定義 アプリケーション ファイル書式の定義の詳細については、2-32 ページの「アプリケーション ファイル書式の定義」を参照してください。
6	各アプリケーション フィールドに対する適切なデータのマップ データのマップの詳細については、2-58 ページの「データのマッピング」を参照してください。
7	トランスレーション オブジェクトのコンパイル トランスレーション オブジェクトのコンパイル、およびトランスレーション オブジェクトの命名規則の詳細については、2-134 ページの「マップのコンパイル方法」を参照してください。 (次のページへ続く)

(続き) 段階	説明
8	マッピング レポートの印刷 マップを確認、検討し、必要に応じて修正します。マッピング レポートの印刷の詳細については、2 - 137 ページの「レポートの印刷方法」を参照してください。
9	GENTRAN:Server for Windows にトランスレーシ ョン オブジェクトを登録 トランスレーション オブジェクトの登録の詳細については、GENTRAN:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。
10	適切な取引関係の作成 GENTRAN:Server for Windows で、トレーディング パートナーに対する適切な取引関係を確立します。取引関係の作成の詳細については、GENTRAN:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。このチュートリアルで使用される取引関係 (PETZONE1) は、チュートリアルのディスクットに収録されています。このチュートリアルを開始する前に、パートナー プロファイル (PETZONE1.PAR) を GENTRAN:Server for Windows にインポートする必要があります。取引関係のインポートの詳細については、GENTRAN:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。
11	トランスレーション オブジェクトのテスト パートナーからテスト データを取得して、データを処理します。受信確認処理を確認します (該当する場合)。ネットワークのコミュニケーションを確認します。

チュートリアルの使い方

チュートリアルの 基礎

これらのチュートリアルでは、ユーザーが作成するトランスレーション オブジェクト用のテスト データが提供されています。次の表に、テスト データの場所の指定方法をまとめます。

トランスレーション オブジェクトの種類	テスト データ名	既定パスの場所
インバウンド (エクスポート)	PETTSTE1.INT	C:\¥GENSRVNT¥TUTORIAL ¥PETTESTE1.INT
アウトバウンド (システム インポート とインポート)	PET_EINV.TXT	C:\¥GENSRVNT¥TUTORIAL ¥PET_EINV.TXT

インバウンド発注書 (ORDERS)

目次

概要	3
▶ はじめに	3
▶ 基本操作	4
▶ アプリケーション ファイル書式の分析.....	6
▶ EDI ファイルの分析.....	11
▶ アプリケーション ファイルと EDI ファイルの相関	14
エクスポート マップ	19
▶ エクスポート マップの作成.....	19
▶ EDI マップ コンポーネントのアクティブ化.....	25
▶ EDI 区切文字の検証方法.....	29
アプリケーション ファイル書式	32
▶ アプリケーション ファイル書式の定義.....	32
▶ POHEADER レコードの作成方法	33
▶ PODetailGroup の作成方法	36
▶ PODetailGroup 従属レコードの作成	38
▶ POSUMMARY レコードの作成方法.....	42
アプリケーション フィールドの作成	44
▶ 概要	44
▶ POHEADER レコード用アプリケーション フィールドの作成方法.....	47
▶ PODETAIL レコード用アプリケーション フィールドの作成方法.....	50
▶ PODESC レコード用アプリケーション フィールドの作成方法.....	52
▶ POALLCHG レコード用アプリケーション フィールドの作成方法.....	54
▶ POSUMMARY レコード用アプリケーション フィールドの作成方法	56
データのマッピング	58
▶ 概要	58
POHEADER レコードのマッピング	59
▶ 概要	59
▶ CUSTNUMHDR フィールド	60
▶ PODATEHDR フィールド.....	62
▶ PONUMHDR フィールド	69

▶ POTYPECODE フィールド	72
▶ SHIPTONAME 情報のマップ方法	73
▶ DELDATE フィールド	81
▶ NUMLINEITEMS のマップ方法	86
PODETAIL レコードのマッピング	91
▶ 概要	91
▶ CUSTNUMDET フィールド	92
▶ PODATEDET フィールド	94
▶ PONUMDET フィールド	96
▶ CUSTPROCEDURE/UPCCODE フィールド	97
▶ UOM フィールド	100
▶ UNITPR フィールド	103
▶ QTYORD フィールド	106
PODESC レコードのマッピング	109
▶ 概要	109
▶ CUSTNUMDESC フィールド	110
▶ フィールド	112
▶ PONUMDESC フィールド	114
POALLCHG レコードのマッピング	116
▶ 概要	116
▶ CUSTNUMAC フィールド	117
▶ PODATEAC フィールド	119
▶ PONUMAC フィールド	120
▶ ACIND フィールド	121
▶ ACMETHAND フィールド	124
▶ ACTOTAMT フィールド	125
POSUMMARY レコードのマッピング	127
▶ 概要	127
▶ CUSTNUMSUM フィールド	128
▶ PODATESUM フィールド	130
▶ PONUMSUM フィールド	131
▶ NUMLINEITEMSUM フィールド	132
マップのまとめ	133
▶ 概要	133
▶ マップのコンパイル方法	134
▶ レポートの印刷方法	137
▶ トランスレーションオブジェクトのテスト	138

概要

はじめに

本章の内容

このチュートリアルでは、トレーディング パートナーからの受信データ EDIFACT 発注書 (ORDERS) のトランスレーションに使われるマップの作成に必要なタスクを定義しています。

この章では、インバウンド発注書のマップ作成に関連するタスクおよび処理について説明します。次のトピックが含まれています。

- ▶ マッピング分析
 - ▶ 新規マップの作成
 - ▶ グループ、セグメント、およびエレメントのアクティブ化
 - ▶ アプリケーション ファイル書式の定義
 - ▶ データのマッピング
 - ▶ マップのまとめ
-

基本操作

概要

このマニュアルは、この一冊で完全なチュートリアルとなるように書かれています。インストールプログラムと一緒に提供されている完成したマップを参照せずに、各タスクを順番に完了することをお勧めします(または、モデルを使用して自社のマップを検証してください)。

このチュートリアルの各タスクは、(あたかもユーザー独自のシナリオであるかのように)順次に完了することにより、個々のマッピング タスクを習得できるだけでなく、独自マップの作成時に活用する手法に対する論理的アプローチも習得できます。

インバウンド マッピングでの想定事項とシナリオ

このチュートリアルの演習では、次のことを想定しています。

- ▶ ユーザーの勤務先は、各種ペット用サプライを製造する MWT Manufacturing Co. です。
- ▶ MWT Manufacturing Co. は、こうしたサプライを大手のペット用サプライ小売チェーンに直販しています。
- ▶ 大手のペット用サプライ小売店である Pet Zone は、MWT Manufacturing Co. に発注書を送付しているトレーディング パートナーです。

MWT Manufacturing Co. は、Pet Zone から受け取った発注書を自社でトランスレーションするためのマップを作成する必要があります。発注書を自社のアプリケーション ファイル書式にトランスレーションした後は、注文処理システムで処理して Pet Zone へ商品を出荷することができます。

注文の処理にシステムが必要とする情報を定義した既存のアプリケーション ファイルレイアウトは、自社の受注部門から入手してあります。パートナーから送信される注文書のデータ内容については、Pet Zone との話し合いの内容から把握してください。

(次のページへ続く)

マッピング分析

マップ作成の第1ステップは、マッピング要件を分析することです。これは、マッピングを成功させるうえで最も重要なステップです。分析が完了すれば、効率的かつ論理的な方法でマップを作成するために必要なあらゆる情報が得られます。この重要なステップを省略すると、マップ作成のタスクがかなり長引いて困難になったり、見落としや手ぬかりが原因でマップが無効になったりする可能性があります。

次の表に、マッピング分析に使用されるステップをまとめます。これらのステップは、インバウンドデータおよびアウトバウンドデータのどちらのトランザクションにも適用されます。

ステップ	操作
1	アプリケーションファイル書式を分析します。
2	パートナーの EDI ファイル書式を分析します。
3	アプリケーションファイル書式と EDI ファイル書式を関連させます。
4	マップの作成を開始します。

アプリケーション ファイル書式の分析

概要

マッピング分析では第1ステップとして、アプリケーション ファイル書式を分析します。その理由は、ユーザーが最もよく理解しているコンポーネントであると考えられるためです。このチュートリアル用のアプリケーション ファイル書式には、パートナーから送信された発注書から抽出する必要がある情報がすべて格納されているため、発注書がシステムで正しく処理され、会社が注文に適切に応じることが可能となっています。

Gentran:Server for Windows アプリケーション インテグレーションに対して、アプリケーション ファイル書式を定義する必要があります。自社に既存のアプリケーション ファイル書式がある場合は、担当者からレコード レイアウトを取得してください。自社に既存のアプリケーション ファイル書式がない場合、アプリケーション ファイル書式を作成するには、データを正しく処理すべきフィールドを決定した後、レコードの下に対象のフィールドを論理的にグループ化する必要があります。

アプリケーション ファイルレイアウト

このチュートリアルでは、アプリケーション ファイルレイアウトが次のようになっています。

フィールド名	必須/ オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
ヘッダー レコード (POHEADER)。1 メッセージにつき 1 件。					
CUSTNUMHDR	X	Customer Number	String	1	8
PODATEHDR	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMHDR	X	Purchase Order Number	String	1	22
POTYPECODE		Purchase Order Type Code	String	0	2
SHIPTONAME		Ship To Name	String	0	35
SHIPTOADD1		Ship To Address Line 1	String	0	35
SHIPTOADD2		Ship To Address Line 2	String	0	35
SHIPTOCITY		Ship To City	String	0	35
SHIPTOSTATE		Ship To State, Province, or Country	String	0	2
SHIPTOPOSTALCODE		Ship To Postal Code	String	0	9
(次のページへ続く)					

(続き) フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
BILLTONAME		Bill To Name	String	0	35
BILLTOADD1		Bill To Address Line 1	String	0	35
BILLTOADD2		Bill To Address Line 2	String	0	35
BILLTOCITY		Bill To City	String	0	35
BILLTOSTATE		Bill To State, Province, or Country	String	0	2
BILLTOPOSTALCODE		Bill To Postal Code	String	0	9
DELDATE	X	Delivery Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
CANCELDATE	X	Cancel By Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
NUMLINEITEMS	X	Number of Line Items	Number (N0)	1	6
PO 明細グループ (PODetailGroup)。1 メッセージにつき最大 20 万件。					
明細レコード (PODETAIL)。1 メッセージにつき 1 件。					
CUSTNUMDET	X	Customer Number	String	1	8
PODATEDET	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMDET	X	Purchase Order Number	String	1	22
CUSTPROCEDURE	X	Customer Product Code	String	1	30
UPCCODE	X	UPC Code	String	1	30
UOM		Unit of Measure	String	0	7
UNITPR		Unit Price	Number (N2)	0	14
QTYORD	X	Quantity Ordered	Number (N0)	1	9
(次のページへ続く)					

(続き) フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
説明レコード (PODESC)。1 メッセージにつき最大 5 件。					
CUSTNUMDESC	X	Customer Number	String	1	8
PODATEDESC	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMDESC	X	Purchase Order Number	String	1	22
DESC		Description	String	0	80
引当 / 料金レコード (POALLCHG)。1 メッセージにつき最大 5 件。					
CUSTNUMAC	X	Customer Number	String	1	8
PODATEAC	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMAC	X	Purchase Order Number	String	1	22
ACIND		Allowance or Charge Indicator	String	0	1
ACMETHAND		Allowance or Charge Method of Handling Code	String	0	2
ACTOTAMT		Allowance or Charge Total Amount	Number (N2)	0	9
合計レコード (POSUMMARY)。1 メッセージにつき 1 件。					
CUSTNUMSUM	X	Customer Number	String	1	8
PODATESUM	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMSUM	X	Purchase Order Number	String	1	22
NUMLINEITEMSUM	X	Number of Line Items	Number (N0)	1	6

(次のページへ続く)

アプリケーション ファイル定義

上の表には、Gentran:Server for Windows に対してアプリケーション ファイル書式を定義するために必要な最小限の情報 (名前、状態区分 (必須 / オプション)、説明、データ型、およびフィールド長) が記載されています。各レコード内には、論理的に関連するアプリケーション フィールドがグループ化されています。これらのフィールドに含まれている EDI ファイルは、システムが発注書の処理に必要とされるものです。グループを構成するのは、論理的に関連するアプリケーション レコードです。

各レコードにはキー (3つのフィールドから構成される) が含まれており、各レコードの先頭に同じ識別情報が配置されることが保証されています。各レコードを個別に識別することを目的に、アプリケーションにはレコード キーが含まれています。この発注書のレコード キーの構成は、次のとおりです。

- ▶ 自社パートナーのカスタマ番号
- ▶ 発注書日付
- ▶ 発注書番号

レコード / グループ 定義

レコード / グループ定義を、次の表に示します。

レコード / グループ	定義
POHEADER (ヘッダー)	発注書タイプコード、出荷 / 請求先情報、配送 / キャンセル日付情報、および発注書に記載されるライン アイテム数で構成されています。このヘッダーレコードは必須であり、トランスレーションされた発注書ごとに 1 回ずつ出現します。
PODetailGroup (明細情報)	ライン アイテムのすべての注文情報 (アイテム、単位、価格、注文数量、説明、引当、料金などの情報) で構成されます。各 PODetailGroup は、トランスレーションされた注文ごとに最大 20 万回出現することができます。この数は、最大発注数 (20 万アイテム) と同等です。PODetailGroup 中の情報は、レコード単位でさらに細分されます。
PODETAIL (明細)	ライン アイテムのコード番号、単位、価格、および注文数量が含まれています。PODETAIL レコードは、DetailGroup ごとに 1 回ずつ出現します。 (次のページへ続く)

(続き) レコード / グループ	定義
PODESC (説明)	<p>注文済みライン アイテムに関する説明情報が含まれています。PODESC レコードは PODetailGroup ごとに最大 5 回まで出現可能です。そのため、アイテムごとに複数の説明項目を使用することができます。</p> <p>例 ラインアイテムが "dog collar" の場合は、[説明] フィールドが "red"、"large"、および "leather" のようになります。</p>
POALLCHG (引当および料金)	<p>引当 / 料金 インジケータ、処理方法コード、および引当 / 料金の合計金額が含まれています。POALLCHG レコードは PODetailGroup ごとに最大 5 回まで出現可能です。そのため、アイテムごとに引当と料金またはどちらか一方を複数回使用することができます。</p>
POSUMMARY (合計)	<p>発注書に記載される合計ライン アイテム数が含まれています。POSUMMARY レコードは、トランスレーションされた発注書ごとに 1 回ずつ出現します。</p>

次の手順

これで、アプリケーション ファイル書式は十分に分析されました。次の手順ではパートナーから受信される発注書の要件を決定します。

EDI ファイルの分析

概要

EDI ファイルを分析するには、トレーディング パートナーから自社宛てに何が送信されるのかを、まず最初に確認する必要があります。自社で使用するスタンダード、バージョン、およびメッセージについては、自社およびパートナーの同意が必要です。このチュートリアルで使用しているのは、EDIFACT スタンダード、バージョン 92.1、メッセージ ORDERS (発注書メッセージ) です。ここで重要なのは、自社パートナーが発注書に記載して送信する情報の種類、および使用される各エレメントに含まれるデータの種類の把握しておくことです。

EDI ファイルを分析する前に、使用する EDI スタンダード (1 つまたは複数) を確認しておくことが非常に役立ちます。EDI スタンダードのマニュアルは、ご使用の各スタンダードおよびバージョンに対応したものを入手してください。スタンダードのマニュアルは、EDI スタンダード エージェンシーから入手することができます。

パートナーと送信内容を検討した後に、自社に必要なセグメントおよびエレメントを決定し、EDI スタンダードを再検討して、使用可能に (アクティブ化) するマップ コンポーネントの一覧を作成します。

(次のページへ続く)

マップ コンポーネント

次の表に、このチュートリアルに必要なマップ コンポーネントをまとめます。ただし、これらのコンポーネントは現時点ではアクティブではありません (複合列は、該当するエレメントの配置場所が分かる情報が表示されるだけです)。

グループ	セグメント	グループ	セグメント	複合 エレメント	エレメント
	BGM セグメント (既にアクティブ)				BGM05 エレメント BGM06 エレメント
	DTM セグメント (既にアクティブ)			C507	DTM02 エレメント
NAD グループ	NAD セグメント			C080 C059 C059	NAD10 エレメント NAD16 エレメント NAD17 エレメント NAD19 エレメント NAD20 エレメント NAD21 エレメント
LIN グループ	LIN セグメント			C212	LIN03 エレメント
	IMD2 セグメント			C273	IMD:206 エレメント
	QTY:3 セグメント			C186	QTY:303 エレメント
	MOA:5 セグメント			C516	MOA:502 エレメント
	ALC グループ	ALC:2 セグメント			
		MOA グループ	MOA:8 セグメント	C516	MOA:802 エレメント
	CNT セグメント			C270	

メモ

条件グループまたは条件セグメントをアクティブにすると、必須の従属セグメントおよびエレメントが自動的にアクティブになります。

推奨事項

Gentran:Server for Windows で、このマップで作成されたメッセージを容易に判別するには、マップごとにドキュメント名を設定することをお勧めします。これにより、Gentran:Server for Windows のドキュメントブラウザで、各メッセージを判別できるようになります。

(次のページへ続く)

マップ コンポーネント (続き)

ドキュメント名を設定するには、マップ内のエレメントまたはフィールドのうち、このマップによりトランスレーションされたメッセージを判別するデータが入っているものを選択する必要があります。ドキュメントブラウザで、このメッセージが入った [名前] 列には、選択されたエレメントまたはフィールドからのデータが入ります。

推奨事項

エレメントまたはフィールドは、メッセージ内に 1 回だけ出現する **String** のデータ型のものを選択することを強くお勧めします。このチュートリアルでは、発注書番号がマップのドキュメント名となっています。

次の手順

EDI ファイルおよびアプリケーションの分析完了後は、2 つのコンポーネントを相関させることが、マップ分析での最終ステップとなります。

アプリケーション ファイルと EDI ファイルの相関

概要

アプリケーションのファイル書式と EDI ファイルとの整合性を維持するには、各アプリケーション ファイルとそれに対応する EDI ファイルのエレメントを指定して、マッピングの方法を選択する必要があります。情報をフィールドにマッピングする方法には、連結、スタンダード ルール、拡張ルール、またはこれら 3 つを組み合わせたものがあります。

連結 (簡易マッピング) を使用すると、マップの入力側にあるフィールドまたはエレメントを、マップの出力側にあるフィールドまたはエレメントにマップすることができます。2 つのマップ コンポーネント (フィールド) 間の連結は、2 つのフィールドをつなぐ線として表示されます。

スタンダード ルールを使用すると、単純連結より複雑でも拡張ルールほどは手間のかからない、マップ操作機能へのアクセスが可能になります。

拡張ルールを使用すると、ユーザーが **Gentran:Server for Windows** 専用のプログラミング言語を使って、ほとんどすべての必要なマッピング操作を実行することができます。

さらに、EDI データのグループから拡張ルールを使用して抽出される出荷先や請求先の名前、住所などのアイテムをマップが処理できるように、一時記憶 (作業) 領域を設定することもできます。

推奨事項

アプリケーション ファイルのフィールドごとに、どのマッピング操作が必要かを定めることをお勧めします。

(次のページへ続く)

マッピング操作

次の表に、このチュートリアル用に必要な (アプリケーション フィールド別) マッピング操作をまとめます。

フィールド名	説明	マッピング操作
ヘッダー レコード (POHEADER)。1 メッセージにつき 1 件。		
CUSTNUMHDR	Customer Number	パートナー レコードからアプリケーション ID を抽出
PODATEHDR	Purchase Order Date	"4" (PODATE) コードを使用して、DTM02 へ連結
PONUMHDR	Purchase Order Number	BGM05 へ連結
POTYPECODE	Purchase Order Type Code	BGM06 へ連結
SHIPTONAME	Ship To Name	"ST" (ShipTo) コードを使用して、NAD10 へ連結
SHIPTOADD1	Ship To Address Line 1	"ST" (ShipTo) コードを使用して、NAD16 へ連結
SHIPTOADD2	Ship To Address Line 2	"ST" (ShipTo) コードを使用して、NAD17 へ連結
SHIPTOCITY	Ship To City	"ST" (ShipTo) コードを使用して、NAD19 へ連結
SHIPTOSTATE	Ship To State, Province, or Country	"ST" (ShipTo) コードを使用して、NAD20 へ連結
SHIPTOPOSTALCODE	Ship To Postal Code	"ST" (ShipTo) コードを使用して、NAD21 へ連結
BILLTONAME	Bill To Name	"BT" (BillTo) コードを使用して、NAD10 へ連結
BILLTOADD1	Bill To Address Line 1	"BT" (BillTo) コードを使用して、NAD16 へ連結
BILLTOADD2	Bill To Address Line 2	"BT" (BillTo) コードを使用して、NAD17 へ連結
BILLTOCITY	Bill To City	"BT" (BillTo) コードを使用して、NAD19 へ連結
BILLTOSTATE	Bill To State, Province, or Country	"BT" (BillTo) コードを使用して、NAD20 へ連結 (次のページへ続く)

(続き) フィールド名	説明	マッピング操作
BILLTOPOSTALCODE	Bill To Postal Code	"BT" (BillTo) コードを使用して、NAD21 へ連結
DELDATE	Delivery Date	"117" (DELDATE) コードを使用して、DTM02 へ連結
CANCELDATE	Cancel By Date	"153" (CANCELDATE) コードを使用して、DTM02 へ連結
NUMLINEITEMS	Number of Line Items	"2" (NUMLINEITEMS) コードを使用して、CNT02 へ連結
PO 明細グループ (PODetailGroup)。1 メッセージにつき最大 20 万件。		
明細ヘッダー (PODETAIL)。1 メッセージにつき 1 件。		
CUSTNUMDET	Customer Number	パートナーレコードからアプリケーション ID を抽出
PODATEDET	Purchase Order Date	"4" (PODATE) コードを使用して、DTM02 へ連結
PONUMDET	Purchase Order Number	BGM05 へ連結
CUSTPROCEDURE	Customer Product Code	LIN03 へ連結
UPCCODE	UPC Code	適切な "PRODCODE" からパートナーアイテム別に Partner xref を抽出
UOM	Unit of Measure	QTY:303 への連結のための拡張ルール
UNITPR	Unit Price	"146" (UNITPRICE) コードを使用して、MOA:502 へ連結
QTYORD	Quantity Ordered	"21" (QTYORD) コードを使用して、QTY:302 へ連結
説明レコード (PODESC)。1 メッセージにつき最大 5 件。		
CUSTNUMDESC	Customer Number	パートナーレコードからアプリケーション ID を抽出
PODATEDESC	Purchase Order Date	"4" (PODATE) コードを使用して、DTM02 へ連結 (次のページへ続く)

(続き) フィールド名	説明	マッピング操作
PONUMDESC	Purchase Order Number	BGM05 へ連結
DESC	Description	IMD:206 へ連結
引当 / 料金レコード (POALLCHG)。1 メッセージにつき最大 5 件。		
CUSTNUMAC	Customer Number	パートナーレコードからアプリケーション ID を抽出
PODATEAC	Purchase Order Date	"4" (PODATE) コードを使用して、DTM02 へ連結
PONUMAC	Purchase Order Number	BGM05 へ連結
ACIND	Allowance or Charge Indicator	ALC:201 へ連結
ACMETHAND	Allowance or Change Method of Handling Code	ALC:204 へ連結
ACTOTAMT	Allowance or Charge Total Amount	MOA:802 へ連結
合計レコード (POSUMMARY)。1 メッセージにつき 1 件。		
CUSTNUMSUM	Customer Number	パートナーレコードからアプリケーション ID を抽出
PODATESUM	Purchase Order Date	"4" (PODATE) コードを使用して、DTM02 へ連結
PONUMSUM	Purchase Order Number	BGM05 へ連結
NUMLINEITEMSUM	Number of Line Items	"2" (NUMLINEITEMS) コードを使用して、CNT02 へ連結

(次のページへ続く)

クロスリファレンス テーブル

マップ データをトランスレーションするためにコード テーブルが必要かどうかを判断する必要があります。コード テーブルが必要な場合は、このマップでのみ使用可能なコード テーブルを **Gentran:Server for Windows** アプリケーション インテグレーションで作成するか、またはパートナー エディタでパートナー関係または内部システム パートナーにテーブルを追加するかを決める必要があります。このチュートリアルでは、購入済みアイテム用にパートナーのコードをトランスレーションし、同じアイテム用に自社コードをトランスレーションする目的から、クロスリファレンス テーブルから取得されたをマップしておく必要があります。クロスリファレンス テーブルは、自社とパートナーが異なる名前 (または番号) でアイテムを参照している場合に使用します。

次の表に、このチュートリアルに付属しているクロスリファレンス テーブル内の情報をまとめます。

自社での値	パートナーでの値	説明	参照データ
12345678901234	555666411	Large Dog Collar	Red
23456789012345	555666817	Spring Breeze Cat Litter	10# Bag
34567890123456	555666908	Small Beef Basted Rawhide Bones	Bag of 12
45678901234567	555666321	X-Large Food Bowl	Black
56789012345678	555666287	FatKat Kitty Bed	Blue with White Trim
67890123456789	555666413	Catnip Mouse Toy	

メモ

このクロスリファレンス テーブルは作成不要です。Gentran:Server のインストール時にチュートリアル データと共に提供される PETZONE パートナー (PETZONE1.PAR) に組み込まれているからです。

次の手順

アプリケーションのファイル書式をどのように EDI ファイルと関連付けるのか計画した後に、実際にマップの作成を開始します。

エクスポート マップ

エクスポート マップの作成

概要

新しいマップを作成するときの最初のタスクは、マップの入力側および出力側に使用される書式を定義することです。この例では、エクスポート マップを作成することにより、パートナーから送信された発注書を **Gentran:Server for Windows** でアプリケーション ファイルにトランスレーションできるようにします。マップの入力側には、受信される **EDIFACT ORDERS** 発注書を反映させる必要があります。システムに対して **ORDERS** メッセージをユーザー自身が定義する代わりに、**Gentran:Server for Windows** でシステム上のスタンダード データベースを使用して、スタンダードに従って発注書を作成できます。マップの出力側には、アプリケーション ファイルを反映させる必要があります。

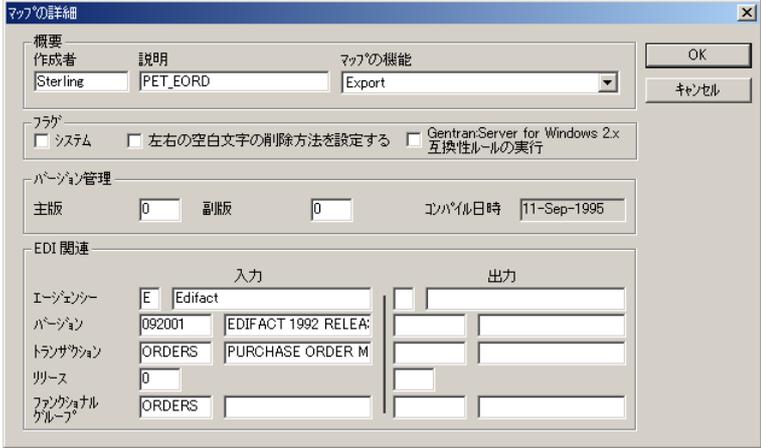
(次のページへ続く)

手順

インバウンド発注書のエクスポート マップを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル]メニューの[新規作成]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [新規マップウィザード]が表示されます。</p>
2	<p>次のいくつかの質問に答えた後、[次へ]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [作成するマップの種類を指定してください。] [Export]を選択します。 ▶ [マップの名前を指定してください。] マップの一意名として「PET_EORD」を入力します。自動的に .MAP 拡張子が追加されます。 ▶ [ユーザー名を入力してください。] ユーザー名がシステムから確認要求された名前とは異なる場合に入力します。 <p>システムからの応答 [新規マップウィザード - 入力書式]ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>メモ マップの入力側の書式設定を完了する必要があります。入力側の書式とは、Gentran:Server システムによってトランスレーションされるデータの書式です。</p>
3	<p>[この構文を使用して新しいデータ形式を作成する]リストから [Delimited EDI] を選択し、[カスタマイズ] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新規 Delimited EDI] ウィザードが表示されます。</p>
4	[次へ] をクリックします。
5	<p>[ODBC データ ソース] リストから [Gentran Standards] (EDI スタンドアード データ ソースを別の名前で定義した場合はその名前) を選択して、[次へ] をクリックします。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>次のように選択します。</p> <p>a. [[E] EDIFACT] スタンダード エージェンシーを選択します。</p> <p>b. [[092001] EDIFACT 1992 RELEASE 1 (92.1)] バージョンを選択します。</p> <p>c. [[ORDERS] PURCHASE ORDER MESSAGE] トランザクションセットを選択します。</p> <p>d. [次へ] をクリックします。</p>
7	<p>[完了] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択されたトランザクションセットが読み込まれ、[新規マップウィザード - 入力書式] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<p>[次へ] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新規マップウィザード - 出力書式] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
9	<p>[この構文を使用して新しいデータ形式を作成する] リストから [Positional] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新規マップウィザード] が表示されます。</p>
10	<p>[完了] をクリックすると、新しいマップが作成されます (この処理に想定される所要時間は2～3秒です)。</p> <p>システムからの応答 アプリケーション インテグレーションのウィンドウに新しいマップが表示されます。</p> <p>メモ 新しいマップの作成および保存が完了したら、マップの入力側と出力側を定義する必要があります。定義の手順は、マップの種類がインポート、システム インポート、エクスポート、またはターナラウンドのいずれであるかによって異なります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
11	<p>[編集] メニューから [詳細] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [マップの詳細] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
12	[説明] ボックスに「 PET E 92.1 ORDERS Export 」と入力します。
13	<p>[主版] ボックスおよび [副版] ボックスにデータを入力して、このトランスレーション オブジェクトのバージョン番号を指定します。[主版] ボックスには、バージョン番号として「1」を入力します。[副版] ボックスでは「0」をリリース番号としてそのまま使用します。</p> <p>メモ マップにメジャーな変更を加えた場合、次の実数に対するバージョンが (たとえば、2.0、3.0 のように) 増分されます。マップにマイナーな変更を加えた場合、パーセント ポイントに対するバージョンが (たとえば、2.1、2.2 のように) 増分されます。</p>
14	<p>[OK] をクリックすると、マップの詳細が保存されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
15	<p>[ファイル]メニューの [名前を付けて保存] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
16	<p>[ファイル名] ボックスに "pet_cord.map" が入っていることを確認します。</p> <p>メモ マップを初めて保存するとき、または "名前を付けて保存" 機能を使用してマップのコピーを別の名前で保存するときは、フィールド名をマップに割り当ててください。マップを正しく定義するためには、マップの名前に一意の文字 (1 ~ 8 文字) を使用する必要があります。既定のファイル拡張子は ".MAP" です。この拡張子を使用することにより、マップファイルが他の種類のファイル (たとえば、トランスレーションオブジェクト) と区別されます。Gentran:Server for Windows の命名規則としては、次のものが挙げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ソースマップ (Gentran:Server for Windows で作成されたマップ) に名前を付ける際には、(たとえば、HEADER_T.MAP のように) ファイル拡張子 ".MAP" を使用する必要があります。 ▶ コンパイルされたトランスレーションオブジェクト (ソースマップをコンパイルした結果としてのトランスレーションオブジェクト) に名前を付ける際には、ソースマップに割り当てられたものと同じファイル名を使用しますが、(たとえば、HEADER_T.TPL のように) ファイル拡張子 ".TPL" を使用する必要があります。 <p>推奨事項 上記の命名規則を使用して、ソースマップおよびコンパイル済みトランスレーションオブジェクトを他の種類のファイルと区別することをお勧めします。また、ソースマップと、ソースマップからコンパイルされたトランスレーションオブジェクトに同じファイル名を使用 (ただし、異なるファイル拡張子を付ける) ことをお勧めします。</p> <p>注意 コンパイルされるトランスレーションオブジェクトで、ソースマップを上書きしないよう十分に注意してください。ソースマップと区別するため、トランスレーションオブジェクト名には .TPL というファイル拡張子を使用してください。</p>
17	<p>[保存] をクリックすると、マップが保存されます。</p> <p>メモ このチュートリアル各セクションを完了した後、またはマップに何らかの変更を加えた場合は、[ファイル]メニューから [保存] を選択してマップを保存する必要があります。</p>

次の手順

これで、新しいエクスポート マップの作成および保存が完了しました。今度は、マップの入力側および出力側を定義する必要があります。

EDI マップ コンポーネントのアクティブ化

概要

次の表に、EDI ファイルのマップ コンポーネントをまとめます。

アイコン	説明
	EDI ファイル
	セグメント
	ループ (グループ)
	複合エレメント
	エレメント

次の表に、固定長ファイルのマップ コンポーネントをまとめます。

アイコン	説明
	固定長ファイル
	レコード
	ループ (グループ)
	フィールド

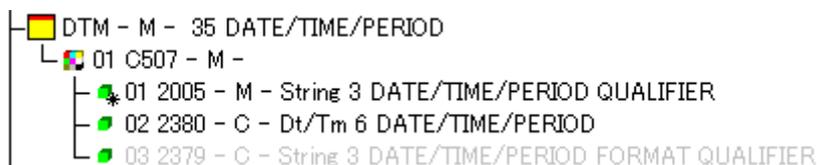
(次のページへ続く)

概要 (続き)

ユーザーが使用する特定の EDI マップ コンポーネントは、作成対象となるマップの種類、選択されたスタンダード、バージョンおよびトランザクションセット (メッセージ) のほか、自社に必要なセグメントおよびエレメントに応じて異なります。この手順を開始する前に、使用するセグメントおよびエレメントを決めておくことをお勧めします。

Gentran:Server for Windows で、マップの EDI 側 (1 つまたは複数) が生成されると、選択されたバージョンのメッセージに対してスタンダード エージェンシーが定義しているグループ、セグメント、複合エレメント、およびエレメントがすべてシステムに取り込まれます。スタンダードによって " 必須 " (存在している) と定義されているすべてのグループ、セグメント、複合およびエレメントがアクティブにされます。必須グループ、セグメント、複合およびエレメントを自分で非アクティブにすることはできません。Gentran:Server for Windows では、既定ではアクティブなマップ コンポーネントの表示には黒いフォントが使用され、非アクティブなマップ コンポーネントの表示にはグレーのフォントが使用 (グレー表示) されます。

この例では、DTM セグメントおよび DTM01 エレメントは必須であるためシステムにより既にアクティブ化されていますが、それ以外に使用しなければならない DTM02 エレメント (条件エレメント) は、ユーザーが自分でアクティブにする必要があります。



データをトランスレートする際、アクティブにされていないグループ、セグメント、複合、およびエレメント (またはレコードおよびフィールド) は処理されません。この理由から、必須としては定義されていないグループ、セグメント、複合エレメントおよびエレメントであっても、マッピング時に使用する必要があると判断されたものはすべて、ユーザーが自分でアクティブにする必要があります。

(次のページへ続く)

アクティブ化

次の表に、ユーザーが自分でアクティブにする必要のあるグループ、サブグループ、セグメント、およびエレメントをまとめます。

グループ	セグメント	グループ	セグメント	複合 エレメント	エレメント
	BGM セグメント (既にアクティブ)				BGM05 エレメント BGM06 エレメント
	DTM セグメント (既にアクティブ)			C507	DTM02 エレメント
NAD グループ	NAD セグメント			C080 C059	NAD10 エレメント NAD16 エレメント NAD17 エレメント NAD19 エレメント NAD20 エレメント NAD21 エレメント
LIN グループ	LIN セグメント			C212	LIN03 エレメント
	IMD:2 セグメント			C273	IMD:206 エレメント
	QTY:3 セグメント			C186	QTY:303 エレメント
	MOA:5 セグメント			C516	MOA:502 エレメント
	ALC グループ	ALC:2 セグメント			
		MOA グループ	MOA:8 セグメント	C516	MOA:802 エレメント
	CNT セグメント				

(次のページへ続く)

手順

必要な条件グループ、セグメント、およびエレメントをアクティブにするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>前の表にリストされたグループおよびセグメントを、ダブルクリックして開きます。必要なグループ、セグメント、および複合エレメントをまずすべて開いてからアクティブにすることにより、マップをスクロールダウンして、セグメントおよびエレメントをシーケンシャルにアクティブにすることができます。</p> <p>メモ 条件グループまたは条件セグメントをアクティブにすると、必須の従属セグメントおよびエレメントが自動的にアクティブになります。</p>
2	メイン ツールバーの [アクティブ] ボタンをクリックします。
3	<p>表にリストされた非アクティブなグループをそれぞれクリックします。選択されたグループはアクティブになります。</p> <p>メモ 意図しないグループ、セグメントまたはエレメントをクリックした場合は、それを右クリックし、ショートカット メニューにアクセスして、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択してください。</p>
4	表にリストされた非アクティブなセグメントをそれぞれクリックします。選択されたセグメントはアクティブになります。
5	表にリストされた非アクティブなエレメントをそれぞれクリックします。選択されたエレメントはアクティブになります。
6	必要なグループ、セグメント、およびエレメントをすべてアクティブにした後、メイン ツールバーの [アクティブ] ボタンをクリックすると、アクティブ モードがオフになります。
7	<p>[表示] メニューから [アクティブのみ表示] を選択します。</p> <p>メモ この機能によって、表示する対象をアクティブなマップ コンポーネントだけに限定するようにシステムに指示が出されます。</p>

EDI 区切文字の検証方法

概要

ご使用の EDI スタンドに複合エレメントまたはサブエレメントが含まれている場合、Gentran:Server for Windows で、適切な区切文字が指定されていることを確認する必要があります。区切文字とは、システムで定義されているフラグであり、特定の EDI コンポーネントを区切るために使用されます。区切文字がすべての可変フィールド長スタンドにとって必要である理由は、データが圧縮される（そして、先頭のゼロおよび後続ブランクが削除される）ためです。フィールドは長さが可変であるため、あるエレメントが終了して別のエレメントが開始する位置をシステムで判別するには、フラグが必要です。たとえば、エレメント区切文字は、新しいエレメントが開始される場所を示します。

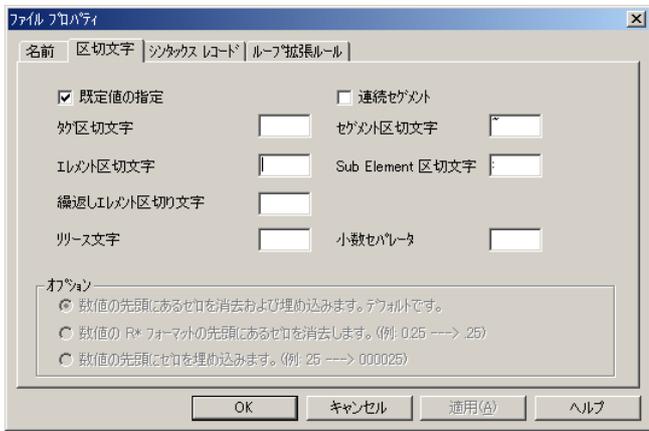
推奨事項

Gentran:Server for Windows で EDI 区切文字の検証が必須とされるのは、ご使用のスタンドに複合エレメントまたはサブエレメントが用意されている場合だけです。EDI 区切文字の検証タスクは、ご使用のスタンドには関係なく実行することをお勧めします。

(次のページへ続く)

手順

EDI 区切文字を検証するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>ORDERS ORDER DETAILS EDI ファイルアイコンを右クリックして、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ファイルプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<p>[区切文字] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 区切文字の設定が表示されます。</p> 
3	<p>[既定値の指定] チェックボックスがオンになっていることを確認します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作																					
4	<p>その区切文字が EDIFACT スタandard 用の必要な区切文字であることを検証します。区切文字が下の表中にある既定値とは異なる場合、文字または 16 進数値のどちらかを適切なボックスに入力してください。EDIFACT 用の既定の区切文字は次のとおりです (EDIFACT の場合、タグ区切文字が使用されません)。</p> <table border="1" data-bbox="620 593 1406 1059"> <thead> <tr> <th data-bbox="620 593 949 689">ボックス</th> <th data-bbox="949 593 1163 689">EDIFACT 用の既定の文字</th> <th data-bbox="1163 593 1406 689">EDIFACT 用の既定の 16 進数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="620 689 949 748">タグ区切文字</td> <td data-bbox="949 689 1163 748"></td> <td data-bbox="1163 689 1406 748"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="620 748 949 808">エレメント区切文字</td> <td data-bbox="949 748 1163 808">+(プラス)</td> <td data-bbox="1163 748 1406 808">0x2B</td> </tr> <tr> <td data-bbox="620 808 949 869">セグメント区切文字</td> <td data-bbox="949 808 1163 869">'(単一引用符)</td> <td data-bbox="1163 808 1406 869">0x27</td> </tr> <tr> <td data-bbox="620 869 949 929">サブエレメント区切文字</td> <td data-bbox="949 869 1163 929">:(コロン)</td> <td data-bbox="1163 869 1406 929">0x3A</td> </tr> <tr> <td data-bbox="620 929 949 990">リリース文字</td> <td data-bbox="949 929 1163 990">?(疑問符)</td> <td data-bbox="1163 929 1406 990">0x3F</td> </tr> <tr> <td data-bbox="620 990 949 1059">小数セパレータ</td> <td data-bbox="949 990 1163 1059">.(ピリオド)</td> <td data-bbox="1163 990 1406 1059">0x2E</td> </tr> </tbody> </table>	ボックス	EDIFACT 用の既定の文字	EDIFACT 用の既定の 16 進数値	タグ区切文字			エレメント区切文字	+(プラス)	0x2B	セグメント区切文字	'(単一引用符)	0x27	サブエレメント区切文字	:(コロン)	0x3A	リリース文字	?(疑問符)	0x3F	小数セパレータ	.(ピリオド)	0x2E
ボックス	EDIFACT 用の既定の文字	EDIFACT 用の既定の 16 進数値																				
タグ区切文字																						
エレメント区切文字	+(プラス)	0x2B																				
セグメント区切文字	'(単一引用符)	0x27																				
サブエレメント区切文字	:(コロン)	0x3A																				
リリース文字	?(疑問符)	0x3F																				
小数セパレータ	.(ピリオド)	0x2E																				
5	<p>[OK] をクリックして、[ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>																					

アプリケーション ファイル書式

アプリケーション ファイル書式の定義

概要

マップの片側が固定長 (固定形式) の場合、Gentran:Server for Windows に対してアプリケーションファイル書式を定義する必要があります。このチュートリアルでは、マップの出力側が固定長となります。アプリケーションファイルには、パートナーのメッセージから抽出する必要がある全情報を格納する必要があります。これにより、システムでの正確なデータ処理が可能になります。

アプリケーションファイル書式を定義する前に、必要なレコード、フィールド、およびグループのレイアウトを取得してください。レコードには関連するフィールドが、そしてグループには関連するレコードが含まれます。各マップコンポーネントは、システムでの処理に合った最も論理的な順序でシーケンシャルに配置する必要があります。アプリケーションファイル書式の各レベルは、シーケンシャルに作成されていなければなりません。

たとえば、ご使用のアプリケーションファイル書式がレコードおよびグループで構成されているとします。レコードはフィールドで構成されていて、グループはレコードで構成されています。このため、従属フィールドおよびレコードを作成する際には、事前にレコードおよびグループを作成しておく必要があります。

POHEADER レコードの作成方法

概要

アプリケーション ファイル内の先頭レコードは通常、ヘッダーレコードです。先頭レコードは、マップのアプリケーション側 (出力) にあるアイコンに従属しています。

POHEADER (ヘッダー) レコードは、発注書タイプコード、出荷 / 請求先情報、配送 / キャンセル日付情報、および発注書に記載されるライン アイテム数で構成されています。このヘッダーレコードは必須であり、トランスレーションされた発注書ごとに 1 回ずつ出現します。

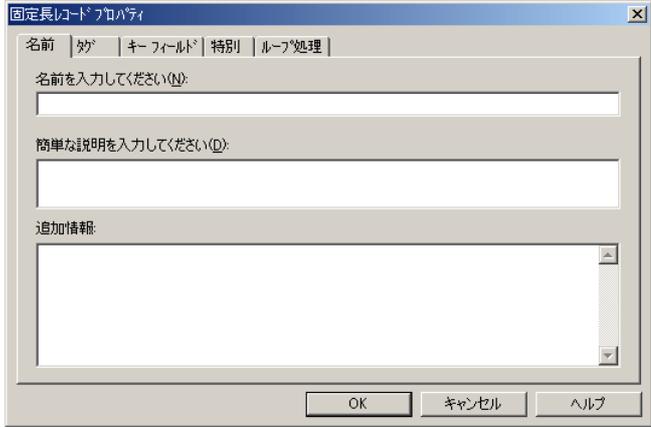
推奨事項

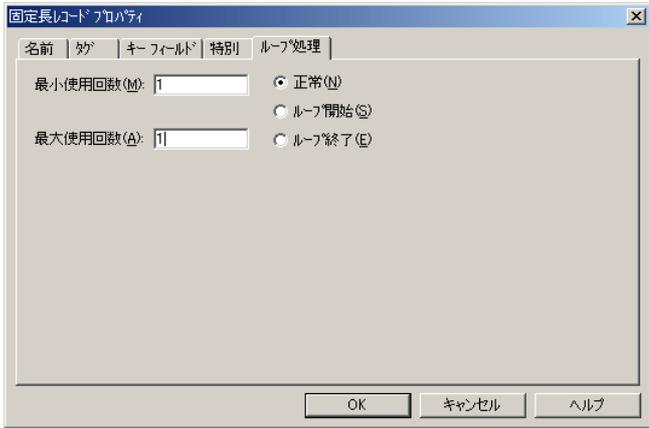
アプリケーション ファイルごとに 1 つのヘッダーレコードを含めることをお勧めします。ヘッダーレコードは通常は必須であり、繰り返し数は 1 回のみです (ループ構造ではありません)。

(次のページへ続く)

手順

先頭のアプリケーションレコード (POHEADER) を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>固定長ファイルアイコンを右クリックし、反転表示 (インバウンド マップ用に出力) して、サブメニューから [配下に作成]>[レコード] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>[名前] ボックスに、レコード識別コードとして「POHEADER」を入力します。</p> <p>注意 [名前] ボックスには、スペースやダッシュ (-) を使用できません。語の区切りには、アンダースコア (_) を使用します。</p>
3	<p>[説明] ボックスに、レコードの説明として「PO Header Record」と入力します。このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のレコードとこのレコードを区別するために使用されます。</p>
4	<p>[タグ] タブを選択して、タグ情報にアクセスします。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[タグ] ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「HDR」を入力します。たとえば、レコードは次の特徴を備えたものとしてシステムに認識されます。</p> <p><TAG>[Field_1][Field_2]</p> <p>各レコード用のレコード TAG によって、システムにレコードが認識されるため、マッピング要件の判別が可能になります。</p> <p>推奨事項 レコード タグを明示的に含める目的から、フィールドを定義する代わりに [固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスでレコード タグを定義することをお勧めします。</p>
6	<p>[配置] ボックスでは、既定値 "1" をデータレコード内のタグの開始列位置としてそのまま使用します。</p>
7	<p>[ループ処理] タブを選択します。</p>
8	<p>[最小使用回数] ボックスに「1」を入力すると、ヘッダーレコードが必須になります。この数は、最小限必要なレコード繰り返し回数です。レコードを反復 (ループ) したい場合は、レコードの反復を許可する最大限の回数を [最大使用回数] ボックスに入力します。</p> <p>メモ [最小使用回数] ボックスに 0 (ゼロ) が入ると、レコードは条件付きになります。[最小使用回数] ボックスに 1 以上の値が入ると、レコードは必須になります。</p> <p>推奨事項 常に、既定値 "1" を受け入れることをお勧めします。これにより、レコードの出現回数が 1 回だけに限定されるように保たれます。</p> 
9	<p>[OK] をクリックすると、POHEADER レコードが作成されます。</p>

PODetailGroup の作成方法

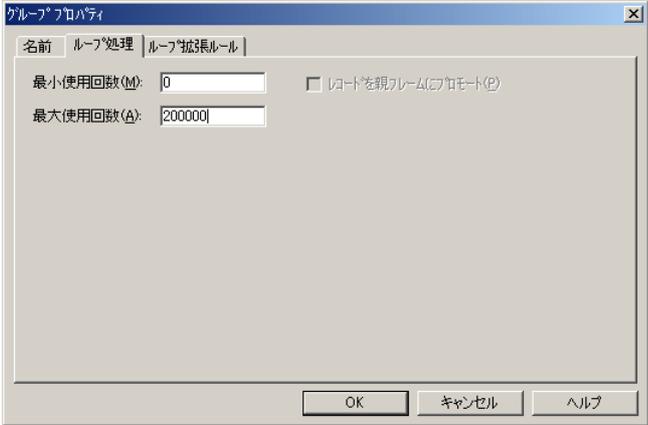
概要

PODetailGroup (明細情報) は、ラインアイテムのすべての注文情報 (アイテム、単位、価格、注文数量、説明、引当、料金などの情報) で構成されます。各 PODetailGroup は、トランスレーションされた注文ごとに最大 20 万回出現します。これにより、最大 20 万件までアイテムを注文できるようになります。PODetailGroup 内の情報は、データが終了するまで、またはループの最大繰り返し許容回数に達するまで連続して繰り返される関連レコードによって細かく分離されます。

手順

PODetailGroup を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>POHEADER レコードをクリックして、反転表示します。[編集]メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [グループ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>[名前] ボックスに「PODetailGroup」と入力します。このグループにすべての明細レコードが含まれていることが示されます。これはセグメント ループ識別コードです。</p>
3	<p>[説明] ボックスに、ループの説明として「PO Detail Group」と入力します。このボックスは、ループの簡単な説明を示すのに使用されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	[ループ処理] タブを選択して、ループのオプションを表示します。
5	<ul style="list-style-type: none">▶ [最小使用回数] ボックスは、既定値 "0" (ゼロ) のままにします。この数は、最小限必要なループ繰り返し回数です。条件付きループの場合、このボックスには必ず「0」(ゼロ)を入力する必要があります。必須ループの場合、このボックスには「1」、またはそれより大きい値を入力する必要があります。▶ [最大使用回数] ボックスに「200000」と入力します。これにより、このグループのレコードが最大 20 万回まで反復可能となるように指定されます。この時点で、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。 
6	[OK] をクリックすると、PODetailGroup が作成されます。

PODetailGroup 従属レコードの作成

概要

このチュートリアルでは、PODetailGroup に次の 3 種類の従属レコードが含まれています。

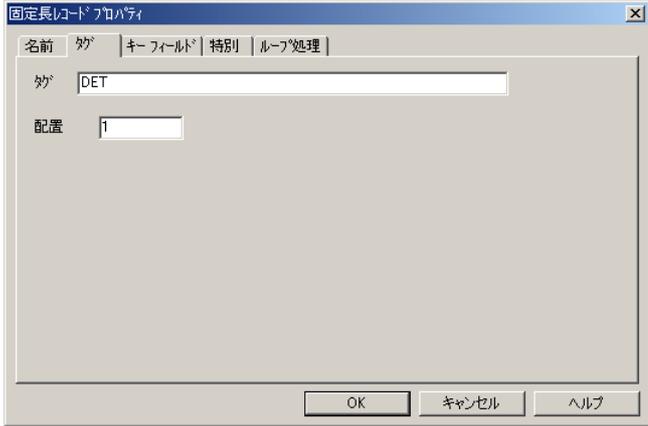
- ▶ PODETAIL
- ▶ PODESC
- ▶ POALLCHG

最初の従属レコード (PODETAIL) を作成した後は、同レベルに従属レコード (PODESC および POALLCHG) を定義することができます。

PODETAIL レコードの作成方法

PODETAIL レコードを作成するには、次の手順に従います。

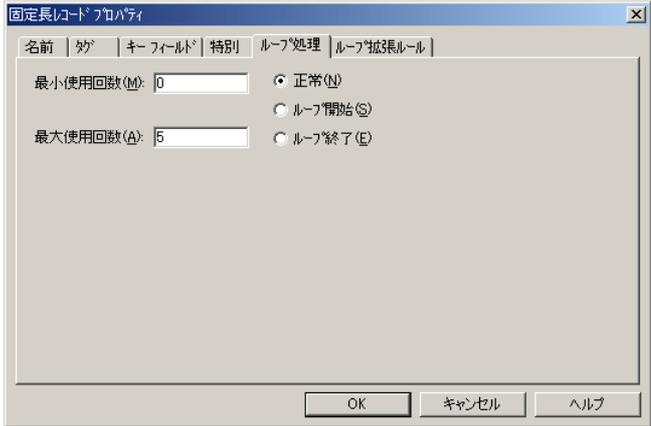
ステップ	操作
1	<p>PODetail Group をクリックし、反転表示して、[編集] メニューから [配下に作成] を選択します。サブメニューから [レコード] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	[名前] ボックスに、レコード識別コードとして「PODETAIL」を入力します。
3	[説明] ボックスに、レコードの説明として「PO Detail Record」を入力します。このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のレコードとこのレコードを区別するために使用されます。
4	[タグ] タブを選択して、タグ情報を表示します。
5	<p>[タグ] ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「DET」を入力します。たとえば、レコードは次の特徴を備えたものとしてシステムに認識されます。</p> <p><TAG> [Field_1] [Field_2]</p> <p>各レコード用のレコード TAG によって、システムにレコードが認識されるため、マッピング要件の判別が可能になります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>[配置] ボックスでは、既定値 "1" をデータレコード内のタグの開始列位置としてそのまま使用します。</p> <p>この時点で、[固定長レコードプロパティ] ダイアログボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックすると、PODETAIL レコードが作成されます。</p>

PODESC レコードの作成方法

PODESC レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>PODETAIL レコードを反転表示して、[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [レコード] を選択すると、[固定長レコードプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<p>[名前] ボックスに、レコード識別コードとして「PODESC」を入力します。</p>
3	<p>[説明] ボックスに、レコードの説明として「Description Record」を入力します。このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のレコードとこのレコードを区別するために使用されます。</p>
4	<p>[タグ] タブを選択して、タグ情報を表示します。</p>
5	<p>[タグ] ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「DES」を入力します。</p>
6	<p>[配置] ボックスでは、既定値 "1" をデータレコード内のタグの開始列位置としてそのまま使用します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	<p>[ループ処理] タブを選択します。</p> <p>[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの [ループ処理] セクションでは、このレコードの繰り返しが許可される最大回数および最小回数を指定することができます。また、レコードが必須であるか、または条件付きであるかを指定することもできます。レコードがループ構造の場合のみ、このセクションを変更してください。その他の場合は、既定値のままにしておきます。</p>
8	<p>[最小使用回数] ボックスは、既定値 "0" のままにします。この数は、最小限必要なレコード繰り返し回数です。</p> <p>[最大使用回数] ボックスに、レコードの繰り返しが許可される最大回数として「5」を入力します。</p> <p>この時点で、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
9	[OK] をクリックすると、PODESC レコードが作成されます。

(次のページへ続く)

POALLCHG レコードの作成方法

POALLCHG レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODESC レコードを反転表示して、[編集]メニューから[挿入]を選択します。サブメニューから[レコード]を選択すると、[固定長レコードプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2	[名前]ボックスに、レコード識別コードとして「POALLCHG」を入力します。
3	[説明]ボックスに、レコードの説明として「Allowance/Charge Record」と入力します。このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のレコードとこのレコードを区別するために使用されます。
4	[タグ]タブを選択して、タグ情報を表示します。
5	[タグ]ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「ACG」と入力します。
6	[配置]ボックスでは、既定値 "1" をデータレコード内のタグの開始列位置としてそのまま使用します。
7	[ループ処理]タブを選択します。
8	[最大使用回数]ボックスに、レコードの繰り返しが許可される最大回数として「5」を入力します。[最小使用回数]ボックスは、既定値 "0" (ゼロ) のままにします。
9	[OK]をクリックすると、POALLCHG レコードが作成されます。

POSUMMARY レコードの作成方法

概要

最後に作成する必要があるレコード (POSUMMARY) は、POHEADER レコードおよび PODetailGroup と同レベルにあります。

POSUMMARY (合計) レコードには、発注書に記載される合計ライン アイテム数が含まれています。POSUMMARY レコードは、トランスレーションされた発注書ごとに 1 回ずつ出現します。

手順

POSUMMARY レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODetailGroup を反転表示して、[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [レコード] を選択すると、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。 メモ 同等のレコード / グループを作成したい場合は、[編集] メニューの [挿入] を使用します。従属グループ / レコード / フィールドを作成するには、[配下に作成] を使用します。
2	[名前] ボックスに、レコード識別コードとして「POSUMMARY」と入力します。
3	[説明] ボックスに、レコードの説明として「PO Summary Record」と入力します。
4	[タグ] タブを選択して、タグ情報を表示します。
5	[タグ] ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「SUM」を入力します。
6	[配置] ボックスでは、既定値 "1" をデータレコード内のタグの開始列位置としてそのまま使用します。
7	[ループ処理] タブを選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
8	<p>[最小使用回数] ボックスは、既定値 "0" (ゼロ) のままにします。</p> <p>また、[最大使用回数] ボックスは、既定値 "1" のままにします。 これにより、合計レコードの繰り返し数が 1 回のみに限られます (ループ構造ではなくなります)。</p>
9	<p>[OK] をクリックすると、POSUMMARY レコードが作成されます。</p> <p>この時点で、マップのアプリケーション側 (出力) の表示が、下図のようになります。</p> <div data-bbox="651 734 1244 967" style="text-align: center;"><pre>graph TD; A[OUTPUT - M - 1] --- B[POHEADER - M - 1 PO Header Record]; A --- C[PODetailGroup - C - 200000 PO Detail Group]; A --- D[PODETAIL - C - 1 PO Detail Record]; A --- E[PODESC - C - 5 Description Record]; A --- F[POALLCHG - C - 5 Allowance/Charge Record]; A --- G[POSUMMARY - C - 1 PO Summary Record];</pre></div>

アプリケーション フィールドの作成

概要

はじめに

ユーザーが作成した各レコード内には、論理的に関連するアプリケーションフィールドがグループ化されています。これらのフィールドには、システムが発注書の処理に必要とするデータの構造および内容が定義されています。

アプリケーションフィールドをレコードに追加する最も簡単な方法は、[固定長フィールド エディタ]を使用することです。一般的には、アプリケーションファイル内の先頭レコード (POHEADER) 用にフィールドを作成して、各シーケンシャルレコードの処理を続行します。

アプリケーションフィールド

次の表に、ユーザーが自分で作成する必要があるアプリケーションフィールドをまとめます。

フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
ヘッダーレコード (POHEADER)。1 メッセージにつき 1 件。					
CUSTNUMHDR	X	Customer Number	String	1	8
PODATEHDR	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMHDR	X	Purchase Order Number	String	1	22
POTYP CODE		Purchase Order Type Code	String	0	2
SHIPTONAME		Ship To Name	String	0	35
SHIPTOADD1		Ship To Address Line 1	String	0	35
SHIPTOADD2		Ship To Address Line 2	String	0	35
SHIPTOCITY		Ship To City	String	0	35
SHIPTOSTATE		Ship To State, Province, or Country	String	0	2
SHIPTOPOSTALCODE		Ship To Postal Code	String	0	9
BILLTONAME		Bill To Name	String	0	35

(次のページへ続く)

(続き) フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
BILLTOADD1		Bill To Address Line 1	String	0	35
BILLTOADD2		Bill To Address Line 2	String	0	35
BILLTOCITY		Bill To City	String	0	35
BILLTOSTATE		Bill To State, Province, or Country	String	0	2
BILLTOPOSTALCODE		Bill To Postal Code	String	0	9
DELDATE	X	Delivery Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
CANCELDATE	X	Cancel By Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
NUMLINEITEMS	X	Number of Line Items	Number (N0)	1	6
PO 明細グループ (PODetailGroup)。1 メッセージにつき最大 20 万件。					
明細レコード (PODETAIL)。1 メッセージにつき 1 件。					
CUSTNUMDET	X	Customer Number	String	1	8
PODATEDET	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMDET	X	Purchase Order Number	String	1	22
CUSTPROCEDURE	X	Customer Product Code	String	1	30
UPCCODE	X	UPC Code	String	1	30
UOM		Unit of Measure	String	0	7
UNITPR		Unit Price	Number (N2)	0	14
QTYORD	X	Quantity Ordered	Number (N0)	1	9
(次のページへ続く)					

(続き) フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
説明レコード (PODESC)。1 メッセージにつき最大 5 件。					
CUSTNUMDESC	X	Customer Number	String	1	8
PODATEDESC	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMDESC	X	Purchase Order Number	String	1	22
DESC		Description	String	0	80
引当 / 料金レコード (POALLCHG)。1 メッセージにつき最大 5 件。					
CUSTNUMAC	X	Customer Number	String	1	8
PODATEAC	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMAC	X	Purchase Order Number	String	1	22
ACIND		Allowance or Charge Indicator	String	0	1
ACMETHAND		Allowance or Charge Method of Handling Code	String	0	2
ACTOTAMT		Allowance or Charge Total Amount	Number (N2)	0	9
合計レコード (POSUMMARY)。1 メッセージにつき 1 件。					
CUSTNUMSUM	X	Customer Number	String	1	8
PODATESUM	X	Purchase Order Date	Dt/Tm (MMDDYY)	6	6
PONUMSUM	X	Purchase Order Number	String	1	22
NUMLINEITEMSUM	X	Number of Line Items	Number (N0)	1	6

POHEADER レコード用アプリケーション フィールドの作成方法

手順

POHEADER レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	POHEADER アプリケーションレコードを右クリックして、ショートカット メニューにアクセスします。
2	<p>ショートカット メニューから [フィールドの編集] を選択して、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p> 
3	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成] をクリックします。新しいフィールドが配置される [フィールド] セクションに、ハイライト バーが表示されます。[フィールドの詳細] セクションのフィールドに値を入力する必要があります。
4	<p>[名前] ボックスに「CUSTNUMHDR」と入力します。この入力値は、POHEADER レコード内の先頭フィールドの名前です。各アプリケーションフィールドには、一意の名前を付ける必要があります。複数のレコードに出現するフィールドには、どのレコードに含まれるフィールドであるのかを識別できるようなサフィックスを名前の末尾に付けると便利です。たとえば、「HDR」はヘッダーレコードを表します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	[必須] チェックボックスをオンにすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。この例で必須とされるのはカスタマ番号です。カスタマ番号が存在しないと、発注書の送信者がシステムに識別されません。
6	[説明] ボックスに、ボックスの説明として「Customer Number」を入力します。
7	<p>[データ型] リストで、フィールド タイプとして [String] を選択します。これで、このフィールドに英数字データを含める必要のあることが指定されました。</p> <p>ヒント レコード内のフィールド位置を正確に指定する必要がある場合は、[開始位置] ボックスにフィールド開始位置を入力してください。フィールドの開始位置の指定は、使用するフィールドの数は少ないものの、それらのフィールドをレコードに正確に配置したい場合などに実行します。</p> <p>このチュートリアルでは、各フィールドの開始位置を指定する代わりに別の方法を使用します。これは、レコード内にフィールドをシーケンシャルに追加して、" 自動配置 " 機能を使用する方法です。" 自動配置 " 機能の詳細については、下記のステップ 13 を参照してください。</p>
8	データ型が "Number" または "Dt/Tm" の場合、[書式] リストから適切な書式を選択します。
9	[最小長] ボックスに、フィールドの最小長として「1」を入力します。
10	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「8」を入力します。
11	フィールドを追加し、そのフィールドの後ろに配置される次のフィールドを作成する場合は、Enter を押します。そのフィールドの下部に、ブランクの値を持つ新しいフィールドが配置されます。この新しいフィールドは、ユーザーがいつでも識別できる状態です。
12	<p>2 - 44 ページ ページに掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
13	<p>最終フィールドが追加された後、[自動配置] をクリックすると、そのフィールドがレコード内に自動的に配置されます。[最大長] ボックスで指定された長さのフィールドが前のフィールドのすぐ後ろに配置されるという条件に基づいて、レコード内の各フィールドの開始位置が自動的に計算されます。[はい] をクリックして、フィールドが順に配列されることを通知する警告メッセージを確認します。</p> <p>注意 " 自動配置 " 機能が有効になるのは、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスでレコード タグを定義して、レコード内の全フィールドを各フィールドの出現順序で定義した場合だけ (このチュートリアルで演習したとおり) です。</p> <p>[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります (この時点で [フィールド] リストに表示されるのは、レコード内の最後の 11 フィールドだけです)。</p> 
14	<p>POHEADER レコードにフィールドを追加した後、[閉じる] をクリックします。</p>

PODETAIL レコード用アプリケーション フィールドの作成方法

手順

PODETAIL レコード用アプリケーションフィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODETAIL アプリケーションレコードをマウスの右ボタンでクリックし、[フィールドの編集]を選択して、[固定長フィールドエディタ]ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成]をクリックします。
3	[名前]ボックスに「CUSTNUMDET」と入力します。
4	[必須]オプションをクリックすると、フィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明]ボックスに、フィールドの説明として「Customer Number」を入力します。
6	[データ型]リストから、フィールド タイプとして[String]を選択します。
7	データ型が"Number"または"Dt/Tm"の場合、[書式]リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が"0"の場合、[最小長]ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が"0"以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長]ボックスに、フィールドの最大長として「8」を入力します。
10	フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、 Enter を押します。
11	2 - 44 ページ ページ以降に掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。 メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押し、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除]をクリックして[はい]をクリックすれば削除されます。 (次のページへ続く)

ステップ	操作																																													
12	<p>最終フィールドが追加された後、[自動配置] をクリックすると、そのフィールドがレコード内に自動的に配置されます。フィールドをこれから整列する旨の警告メッセージに、[はい] をクリックして応答します。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p>  <table border="1" data-bbox="646 875 1082 1037"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>必須M/条件付C</th> <th>種類</th> <th>開始</th> <th>長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>CUSTNUMDET</td><td>M</td><td>String</td><td>4</td><td>8</td></tr> <tr><td>PODATEDET</td><td>M</td><td>Date/Time</td><td>12</td><td>6</td></tr> <tr><td>PONUMDET</td><td>M</td><td>String</td><td>18</td><td>22</td></tr> <tr><td>CUSTPROCEDURE</td><td>M</td><td>String</td><td>40</td><td>30</td></tr> <tr><td>UPCCODE</td><td>M</td><td>String</td><td>70</td><td>30</td></tr> <tr><td>UOM</td><td>C</td><td>String</td><td>100</td><td>7</td></tr> <tr><td>UNITPR</td><td>C</td><td>Numeric</td><td>107</td><td>14</td></tr> <tr><td>QTYORD</td><td>M</td><td>Numeric</td><td>121</td><td>9</td></tr> </tbody> </table>	名前	必須M/条件付C	種類	開始	長さ	CUSTNUMDET	M	String	4	8	PODATEDET	M	Date/Time	12	6	PONUMDET	M	String	18	22	CUSTPROCEDURE	M	String	40	30	UPCCODE	M	String	70	30	UOM	C	String	100	7	UNITPR	C	Numeric	107	14	QTYORD	M	Numeric	121	9
名前	必須M/条件付C	種類	開始	長さ																																										
CUSTNUMDET	M	String	4	8																																										
PODATEDET	M	Date/Time	12	6																																										
PONUMDET	M	String	18	22																																										
CUSTPROCEDURE	M	String	40	30																																										
UPCCODE	M	String	70	30																																										
UOM	C	String	100	7																																										
UNITPR	C	Numeric	107	14																																										
QTYORD	M	Numeric	121	9																																										
13	<p>PODETAIL レコードにフィールドをすべて追加した後、[閉じる] をクリックします。</p>																																													

PODESC レコード用アプリケーション フィールドの作成方法

手順

PODESC レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODESC アプリケーションレコードをマウスの右ボタンでクリックし、[フィールドの編集]を選択して、[固定長フィールド エディタ]ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成]をクリックします。
3	[名前]ボックスに「CUSTNUMDESC」と入力します。
4	[必須]チェックボックスをオンにすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明]ボックスに、説明として「Customer Number」を入力します。
6	[データ型]リストで、フィールドの種類として[String]を選択します。すると、このフィールドに英数字データを含める必要のあることが指定されます。
7	データ型が"Number"または"Dt/Tm"の場合、[書式]リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が"0"の場合、[最小長]ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が"0"以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長]ボックスに、フィールドの最大長として「8」を入力します。
10	フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、 Enter を押します。
11	2-44 ページ ページに掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。 メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除]をクリックして[はい]をクリックすれば削除されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
12	<p>最終フィールドが追加された後、[自動配置] をクリックすると、そのフィールドがレコード内に自動的に配置されます。[はい] をクリックして警告メッセージに応答します。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
13	<p>PODESC レコードにフィールドを追加した後、[閉じる] をクリックします。</p>

POALLCHG レコード用アプリケーション フィールドの作成方法

手順

POALLCHG レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	POALLCHG アプリケーションレコードをマウスの右ボタンでクリックし、ショートカット メニューから [フィールドの編集] を選択して、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成] をクリックします。
3	[名前] ボックスに「CUSTNUMAC」と入力します。
4	[必須] チェックボックスをオンにすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明] ボックスに、フィールドの説明として「Customer Number」を入力します。
6	[データ型] リストから、フィールド タイプとして [String] を選択します。
7	データ型が "Number" または "Dt/Tm" の場合、[書式] リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が "0" の場合、[最小長] ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が "0" 以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「8」を入力します。
10	フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、 Enter を押します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
11	<p>2 - 44 ページ ページに掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。</p>
12	<p>最終フィールドが追加された後、[自動配置] をクリックすると、そのフィールドがレコード内に自動的に配置されます。[はい] をクリックして、フィールドが順に配列されることを通知する警告メッセージを確認します。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
13	<p>POALLCHG レコードにフィールドをすべて追加した後、[閉じる] をクリックします。</p>

POSUMMARY レコード用アプリケーション フィールドの作成方法

手順

POSUMMARY レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	POSUMMARY アプリケーション レコードをマウスの右ボタンでクリックし、ショートカット メニューから [固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成] をクリックします。
3	[名前] ボックスに「CUSTNUMSUM」と入力します。この入力値は、POSUMMARY レコード内の先頭フィールドの名前です。
4	[必須] チェックボックスをオンにすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明] ボックスに、フィールドの説明として「Customer Number」を入力します。このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のフィールドとこのフィールドを区別するために使用されます。
6	[データ型] リストから、フィールド タイプとして [String] を選択します。
7	データ型が "Number" または "Dt/Tm" の場合、[書式] リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が "0" の場合、[最小長] ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が "0" 以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「8」を入力します。
10	フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、 Enter を押します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
11	<p>2 - 44 ページ ページに掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。</p>
12	<p>最終フィールドが追加された後、[自動配置] をクリックすると、そのフィールドがレコード内に自動的に配置されます。[はい] をクリックして、フィールドが順に配列されることを通知する警告メッセージを確認します。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
13	<p>POSUMMARY レコードにフィールドを追加した後、[閉じる] をクリックします。</p>

次の手順

Gentran:Server に対してアプリケーション ファイル書式を定義した後は、必要なデータを EDI ファイルからアプリケーション フィールドへマップする必要があります。

データのマッピング

概要

はじめに

このセクションでは、各アプリケーションフィールドを順次に考察したうえで、各フィールドに適切なデータをマップするために実行する必要があるマッピング操作について説明します。

POHEADER レコードのマッピング

概要

はじめに

このセクションでは、POHEADER (ヘッダー) レコード内の各フィールドをマップする方法について説明します。POHEADER (ヘッダー) レコードは、次のような構成です。

- ▶ 発注書タイプコード
- ▶ 出荷 / 請求先情報
- ▶ 配送 / キャンセル日付情報
- ▶ 発注書に記載されるライン アイテム数

このヘッダー レコードは必須であり、トランスレーションされた発注書ごとに 1 回ずつ出現します。

CUSTNUMHDR フィールド

概要

アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、Gentran:Server for Windows パートナー データベースから選択された情報を、スタンダード ルールを介してマップ内に使用することができます。パートナー エディタ内のトレーディング パートナーのプロファイルから取得された情報は、マップ内にある選択されたエレメントまたはフィールドへマップすることができます。使用するマップ情報には、テーブル内の任意のフィールド (場所、ルックアップ、またはクロスリファレンス) やパートナー レコードからのデータも含まれています。

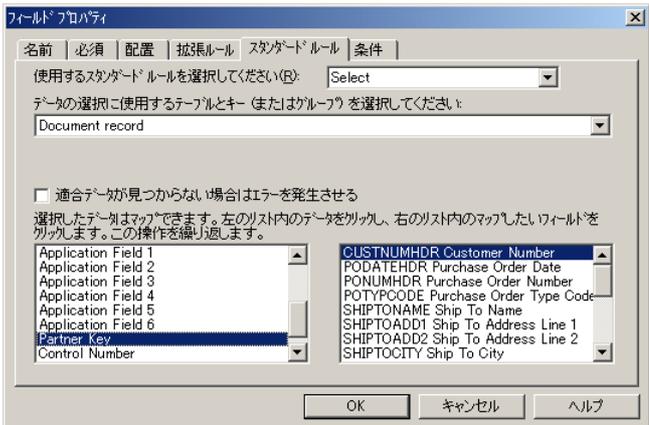
このマップで、パートナーの定義から情報を取得して、マップのアプリケーション側にある [Customer Number] フィールドに設定する必要があります。[Customer Number] はレコード キーの一部であるため、アプリケーション ファイル書式に 5 回、各レコード (CUSTNUMHDR、CUSTNUMDET、CUSTNUMDESC、CUSTNUMAC、および CUSTNUMSUM) に 1 回出現します。

カスタマ番号のマップ方法

パートナーのカスタマ番号は、アプリケーション ファイル書式内の各レコード キーの一部となっています。このカスタマ番号によって、発注書の送信元トレーディング パートナーが識別されます。このカスタマ番号は、既にこのパートナー用のパートナー定義の一部となっているため、パートナーの定義から各カスタマ番号フィールドへマップできます。

ドキュメント レコードからカスタマ番号をマップするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	POHEADER レコード内の CUSTNUMHDR フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルール リストで、[Select] を選択します。
4	テーブルとキーのリストで、[Document record] を選択します。この操作で、ドキュメント レコードから選択した情報によって、このフィールドが更新されます。
5	左側の [マップ元] リストから [Partner Key] を選択します。このフィールドには、このパートナーの顧客番号が入ります。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>右側の [マップ先] リストから [CUSTNUMHDR] を選択します。このフィールドは、パートナー エディタから取得された情報のマップ先です。</p> <p>[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダードルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックすると、スタンダード ルールが CUSTNUMHDR フィールドに追加されます。</p>

PODATEHDR フィールド

概要

マップの EDI 側では、マップ ヘッダーの日付情報が DTM セグメントに格納されます。このセグメントは複数回にわたって繰り返されます。DTM02 エlement (日/時/期間) のプロパティは、パートナーから送信される最小長、最大長、型、および書式が反映されるように変更する必要があります。

DTM01 (日/時/期間修飾子) が "4" の場合、DTM セグメントのそうした反復には注文日/時が含まれます。注文日/時のマップ先は、各アプリケーションレコード (PODATEHDR、PODATEDET、PODATEDESC、PODATEAC、および PODATESUM) 内の PODATE フィールドでなければなりません。

DTM セグメントから適切な情報をアプリケーションヘッダーレコード内の PODATEHDR フィールドへマップするには、データ型を判別した後に、注文日/時情報を抽出する必要があります。

DTM02 エlement のプロパティの変更方法

ここでパートナーからの送信内容として判別されたのは、DTM02 エlement (日/時/期間) を表す 6 桁です。これらの 6 桁が、YYMMDD 書式の Dt/Tm データ型 (2 桁の年、2 桁の月、および 2 桁の日) となります。DTM02 エlement の最小長、最大長、型、および書式は、ユーザーが自分で変更する必要があります。

DTM02 エlement の長さを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM02 エlement をダブルクリックすると、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[必須] タブを選択します。
3	[最小長] ボックスに、最小長として「6」を入力します。
4	[最大長] ボックスに、最大長として「6」を入力します。
5	[データ型] リストから [Date/Time] を選択します。すると、このエlement が日/時エlement として指定されます。フィールドのデータ型を変更するとその書式が無効化される旨のメッセージが表示されて、確認を促されます。フィールドのデータ型を変更する場合は、[はい] をクリックしてこのメッセージに回答し、先へ進みます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>[書式] リストから [YYMMDD] を選択します。すると、最初の 2 桁に年、2 番目の 2 桁に月、そして最後の 2 桁に日が入るように指定されます。</p> <p>[必須] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックすると、[エlement プロパティ] ダイアログボックスが終了します。</p>

一時記憶領域 セグメントおよび エレメント

注文日 / 時情報をアプリケーションファイル書式にマップするには、非繰り返し一時記憶領域セグメントおよびエレメントをマップの EDI 側に作成する必要があります。拡張ルールを使って DTM セグメントから注文日 / 時情報を抽出して、適切な一時記憶領域エレメントに移動してください。その後、注文日 / 時を一時記憶領域エレメントから PODATEHDR アプリケーションフィールドへ直接マップしてください。

(次のページへ続く)

TEMPDATES 一時記憶領域セグメントの作成方法

これから、一時記憶領域セグメントの詳細を作成します。次の情報を使用します。

- ▶ [名前]: TEMPDATES
- ▶ [タグ]: \$\$\$
- ▶ [最小使用回数]: 0
- ▶ [最大使用回数]: 1

TEMPDATES 一時記憶領域セグメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM セグメントを反転表示します。DTM セグメントの後ろには、一時記憶領域セグメントが同レベルで配置されています。
2	[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [セグメント] を選択します。[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前] ボックスに「TEMPDATES」と入力します。
4	[タグ] タブを選択します。
5	[タグ] ボックスに「\$\$\$」と入力します。「\$\$\$」の値を持つセグメントは [タグ] ボックスに読み込まれないため、適合検査中はこの一時記憶領域セグメントにエラーのフラグは付けられません。
6	[OK] をクリックすると、TEMPDATES 一時記憶領域セグメントが作成されます。

(次のページへ続く)

PODATE 一時記憶 領域エレメントの 作成方法

これから、ここでの情報を使用して作成された一時記憶領域セグメントに、エレメントを追加します。次の情報を使用します。

- ▶ [名前]: PODATE
- ▶ [説明]: 発注書日付
- ▶ [最小]: 6
- ▶ [最大]: 6
- ▶ [型]: 日/時
- ▶ [書式]: YYMMDD

PODATE エレメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	TEMPDATES セグメントを反転表示します。[編集]メニューから[配下に作成]を選択して、従属エレメントを作成します。
2	サブメニューから[エレメント]を選択します。[エレメント プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前]ボックスに「PODATE」と入力します。
4	[説明]ボックスに「Purchase Order Date」と入力します。
5	[必須]タブを選択します。
6	[最小長]ボックスに、最小長として「6」を入力します。
7	[最大長]ボックスに、最大長として「6」を入力します。
8	[データ型]リストから[Date/Time]を選択します。メッセージボックスが表示されて確認を促されたら、[はい]をクリックしてメッセージプロンプトに応答し、先へ進みます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
9	<p>[書式] リストから [YYMMDD] を選択します。すると、エレメントの書式設定方法が指定されます。</p> <p>[必須] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
10	[OK] をクリックすると、PODATE エレメントが作成されます。

(次のページへ続く)

拡張ルールの使用法

DTM セグメントから注文日 / 時を抽出して PODATE 一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。システムにより拡張ルールが実行されるのは、DTM01 (日 / 時修飾子) が読み込まれた後です。

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM01 エレメントをダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] リストに次のように入力します。 <pre>IF #2005 = "4" THEN BEGIN \$ORDERS.#PODATE=#2380; END</pre> <p>ルールが実行されるのは、DTM01 エレメントに "4" (Order Date/ Time) が含まれている場合です。</p>
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。ユーザーがトランスレーション オブジェクトをコンパイルすると、マップ内にある各ルールがコンパイルされます。システムを使用して各ルールを個別にコンパイルすることが可能なため、ルールの作成後はそのルールの精度を検証することができます。 メモ これにより、ルールがインタラクティブにコンパイルされます。また、エラー発生時のエラー修正も可能になります。コンパイル処理中に発生するエラーや警告は、[コンパイル エラー] ボックスに表示されます。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが DTM01 エレメントに追加されます。

(次のページへ続く)

注文日 / 時の マップ方法

PODATEHDR フィールドを PODATE 一時記憶領域エレメントから直接マップするには、" 連結 " 機能を使用します。" 連結 " 機能を使用すると、マップの入力側にあるフィールドまたはエレメントを、マップの出力側にあるフィールドまたはエレメントにマップすることができます。2つのフィールド間の連結は、2つのフィールドを接続する線分によって視覚的に表されます。

注文日 / 時をマップするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	" 連結 " 機能が現在アクティブでない場合は、メイン ツールバーの [連結] ボタンをクリックすれば、" 連結 " 機能がオンになります。
2	TEMPDATES セグメント内の PODATE 一時記憶領域エレメントをクリックします。エレメントをクリックすると、カーソルが " 連結の矢印 " に変わります。 
3	POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド PODATEHDR をクリックします。PODATE エレメントと PODATEHDR フィールド間の連結を示す線分が、視覚的に表示されます。

PONUMHDR フィールド

概要

PONUMHDR フィールドは、" 連結 " 機能を使えば BGM05 (ドキュメント / メッセージ番号) から直接マップできます。パートナーから自社に送信される BGM05 エlement (ドキュメント / メッセージ番号) 用の文字は 22 文字のみであるため、その Element に対して許容される最大長を変更する必要があります。

マップ メッセージをより簡単に識別できるよう、[ドキュメント名] をセットアップすることをお勧めします。これにより、Gentran:Server for Windows のドキュメント ブラウザで、各メッセージを判別できるようになります。

ドキュメント名を設定するには、マップ内の Element またはフィールドのうち、このマップによりトランスレーションされたメッセージを判別するデータが入っているものを選択します。ドキュメント ブラウザで、このメッセージが入った [名前] フィールドには、選択された Element またはフィールドからのデータが入ります。

メモ

Element またはフィールドは、メッセージ内に 1 回だけ出現する String のデータ型のものを選択することを強くお勧めします。発注書の場合は通常、発注番号がドキュメント名になります。

ドキュメント / メッセージ番号の マップ方法

ドキュメント / メッセージ番号をマップするには、BGM レコード内の BGM05 Element を、POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド PONUMHDR に連結します。

(次のページへ続く)

**BGM05 エlement
の最大長の変更方法**

パートナーから送信される BGM05 エlement (ドキュメント / メッセージ番号) 用の英数字は 22 文字のみであるため、BGM05 エlement の最大長を変更する必要があります。

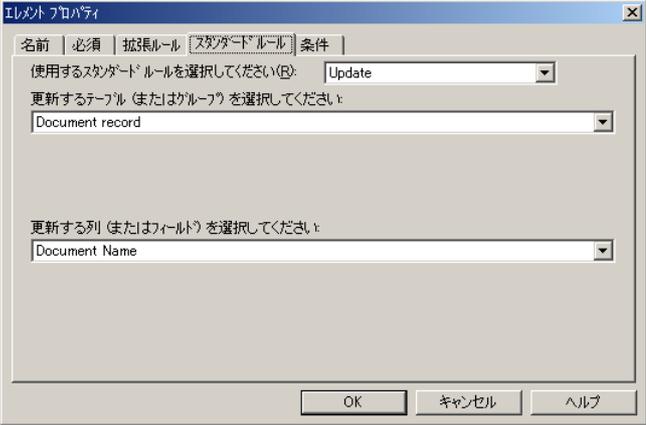
BGM05 エlement の最大長を変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM05 エlement をダブルクリックすると、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[必須] タブを選択します。
3	[最大長] ボックスに、最大長として「22」を入力します。
4	次の手順に進みます。

**ドキュメント名の
設定方法**

BGM05 エlement 用の [エlement プロパティ] ダイアログ ボックスが表示された状態で、この発注書のドキュメント 名を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタンダード ルール] タブを選択して、ルール オプションを表示します。
2	[スタンダード ルール] リストから [Update] を選択します。
3	[テーブル] リストから [Document record] を選択します。すると、Gentran:Server for Windows 内のドキュメント レコードが更新されるように指定したことになります。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
4	<p>[列] リストから [Document Name] を選択します。すると、ドキュメント ブラウザの [名前] 列がこのエレメントの内容で更新されるように指定したことになります。</p> <p>[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p>  <p>The screenshot shows a dialog box titled 'エレメント プロパティ' (Element Properties). It has several tabs: '名前' (Name), '必須' (Required), '拡張ルール' (Extended Rules), 'スタンダードルール' (Standard Rules), and '条件' (Conditions). The 'スタンダードルール' tab is active. It contains three dropdown menus: '使用するスタンダードルールを選択してください。' (Select a standard rule to use.) with 'Update' selected; '更新するテーブル (またはグループ) を選択してください。' (Select a table (or group) to update.) with 'Document record' selected; and '更新する列 (またはフィールド) を選択してください。' (Select a column (or field) to update.) with 'Document Name' selected. At the bottom are buttons for 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help).</p>
5	[OK] をクリックすると、ドキュメント名が設定されます。

POTYPCODE フィールド

概要

POTYPCODE フィールドは、" 連結 " 機能を使えば BGM06 (コーディング済みメッセージ関数) エレメントから直接マップできます。

手順

コーディング済みメッセージ関数をマップするには、BGM レコード内の BGM06 エレメントを、POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド POTYPCODE に連結します。

SHIPTONAME 情報のマップ方法

概要

マップの EDI 側では、名前および住所情報が NAD グループ内の NAD セグメントに格納されます。NAD グループは、出荷 / 請求先名および住所情報から構成され、複数回にわたって繰り返されます。パーティ修飾子 (NAD グループ内) が "ST" の場合、NAD グループのそうした反復には出荷先情報が含まれます。出荷先情報のマップ先は、アプリケーションヘッダーレコード内の [Ship To] フィールドでなければなりません。パーティ修飾子が "BT" の場合、NAD グループのそうした反復には請求先情報が含まれます。請求先情報のマップ先は、アプリケーションヘッダーレコード内の [Bill To] フィールドでなければなりません。

適切な情報 (請求先または出荷先どちらか) を NAD グループからアプリケーションヘッダーレコード内の [Bill To] フィールドまたは [Ship To] フィールドへマップするには、タイプを判別した後で請求 / 出荷先情報を抽出する必要があります。パートナーから自社に送信される NAD20 エレメント (国サブエンティティ ID) 用の文字は 2 文字のみであるため、そのエレメントに対して許容される最大長を変更する必要があります。

請求 / 出荷先情報をアプリケーションファイル書式にマップするには、非繰り返し一時記憶領域セグメントおよびエレメントをマップの EDI 側に作成する必要があります。NAD グループから出荷 / 請求先情報を抽出して、適切な一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。出荷 / 請求先情報は、一時記憶領域エレメントからアプリケーションフィールドへ直接マップしてください。

一時記憶領域セグメント

次の表に、ユーザーによって作成される一時記憶領域セグメントをまとめます。

名前	説明	タグ	最小使用回数	最大使用回数
ShipToDet	Ship To Details	\$\$\$	0	1
BillToDet	Bill To Details	\$\$\$	0	1

(次のページへ続く)

出荷先用の一時記憶領域セグメントの作成方法

ShipToDet 一時記憶領域セグメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	NAD グループを反転表示します。NAD グループの後ろには、2つの一時記憶領域セグメントが同レベルで配置されています。
2	[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [レコード] を選択します。[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前] ボックスに「ShipToDet」と入力します。
4	[説明] ボックスに「Ship To Details」と入力します。
5	[タグ] タブを選択します。
6	[タグ] タブで、「\$\$\$」と入力します。
7	[OK] をクリックして、ShipToDet 一時記憶セグメントを作成します。

請求先用の一時記憶領域セグメントの作成方法

BillToDet 一時記憶領域セグメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	ShipToDet セグメントを反転表示します。
2	[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [セグメント] を選択します。[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前] ボックスに「BillToDet」と入力します。
4	[説明] ボックスに「Bill To Details」と入力します。
5	[タグ] タブを選択します。
6	[タグ] ボックスに「\$\$\$」と入力します。
7	[OK] をクリックすると、BillToDet 一時記憶領域セグメントが作成されます。

一時記憶領域 エレメント

次の表に、先ほど作成された一時記憶領域エレメントに追加するエレメントをまとめます。

EDI セグメント	EDI エレメント	最大長
ShipToDet	SHIPTONAME	35
	SHIPTOADDR1	35
	SHIPTOADDR2	35
	SHIPTOCITY	35
	SHIPTOSTATE	2
	SHIPTOPCODE	9
BillToDet	BILLTONAME	35
	BILLTOADDR1	35
	BILLTOADDR2	35
	BILLTOCITY	35
	BILLTOSTATE	2
	BILLTOPCODE	9

出荷先用の一時記憶 領域エレメントの 作成方法

ShipToDet エレメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	ShipToDet セグメントを反転表示します。[編集]メニューから [配下に作成] を選択して、従属エレメントを作成します。
2	サブメニューから [エレメント] を選択します。[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前] ボックスに「SHIPTONAME」と入力します。
4	[必須] タブを選択します。
5	[最大長] ボックスに、最大長として「35」を入力します。
6	[OK] をクリックして SHIPTONAME エレメントが作成されたら、残りの Ship To エレメントを作成します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	SHIPTONAME エlementが反転表示された状態で、[編集]メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [エlement] を選択すると、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
8	2 - 75 ページ ページの表にリストされた ShipToDet EDI セグメントにある残りのElementについても、手順 3 ~ 7 を繰り返します。

請求先用の一時記憶 領域Elementの 作成方法

BillToDet Elementを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	BillToDet セグメントを反転表示します。[編集]メニューから [配下に作成] を選択して、従属Elementを作成します。
2	サブメニューから [Element] を選択します。[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前] ボックスに「BILLTONAME」と入力します。
4	[必須] タブを選択します。
5	[最大長] ボックスに、最大長として「35」を入力します。
6	[OK] をクリックして BILLTONAME Elementが作成されたら、残りの Bill To Elementを作成します。
7	BILLTONAME Elementが反転表示された状態で、[編集]メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [Element] を選択すると、[Element プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
8	2 - 75 ページ ページの表にリストされた BillToDet EDI セグメントにある残りのElementについても、手順 3 ~ 7 を繰り返します。

(次のページへ続く)

NAD20 エlement の最大長の変更方法

NAD20 エlement (国サブエンティティ ID) は NAD01 エlement (パーティ修飾子) に指定されたパーティの都道府県、地方、または国を表しますが、パートナーから自社に送信される NAD20 エlement 用の文字は 2 文字のみであるため、NAD20 エlement の最大長を変更する必要があります。

NAD20 エlement の長さを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	NAD20 エlement をダブルクリックすると、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[必須] タブを選択します。
3	[最大長] ボックスに、最大長として「2」を入力します。
4	[OK] をクリックして、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

拡張ルールの 使用方法

NAD グループから出荷 / 請求先情報を抽出して、適切な一時記憶領域エlement に移動するには、拡張ルールを使用します。拡張ルールは、NAD グループのオカレンスが読み込まれた後で実行されます。

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	NAD グループを右クリックし、[拡張ルール] を選択します。すると、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示され、[ルール拡張ルール] タブが選択されます。
2	[終了時] オプションをクリックします。すると、ルール終了時にルールが実行されることが指定されます。NAD グループのオカレンス (請求 / 出荷先情報を含む) が読み込まれ、このルールが実行されます。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
3	<p>[エディタ] ボックスに次のように入力します。</p> <pre> IF #3035 = "BT" THEN BEGIN \$ORDERS.#BILLTONAME = #3036; \$ORDERS.#BILLTOADDR1 = #3042; \$ORDERS.#BILLTOADDR2 = #3042:2; \$ORDERS.#BILLTOCITY = #3164; \$ORDERS.#BILLTOSTATE = #3229; \$ORDERS.#BILLTOPCODE = #3251; END IF #3035 = "ST" THEN BEGIN \$ORDERS.#SHIPTONAME = #3036; \$ORDERS.#SHIPTOADDR1 = #3042; \$ORDERS.#SHIPTOADDR2 = #3042:2; \$ORDERS.#SHIPTOCITY = #3164; \$ORDERS.#SHIPTOSTATE = #3229; \$ORDERS.#SHIPTOPCODE = #3251; END </pre> <p>メモ マップ内に複数回出現するセグメント / レコードやエレメント / フィールドは、名前の <ID> によって識別されます。以降のオカレンスは、<ID>:n で識別されます。ここで、"n" はマップ内のオカレンス番号です。</p>
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールของシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが NAD グループに追加されます。

(次のページへ続く)

出荷先名情報の マッピング

一時記憶領域セグメントおよびエレメントを作成した後、拡張ルールを追加して、出荷 / 請求先情報を一時記憶領域エレメントからアプリケーションフィールドへ直接マップします。

次の表に、アプリケーションフィールド、およびそのマップ先となるエレメントをまとめます。

マップ対象の POHEADER フィールド	必要な連結操作
SHIPTONAME	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の SHIPTONAME エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド SHIPTONAME へ連結します。
SHIPTOADD1	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の SHIPTOADDR1 エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド SHIPTOADDR1 へ連結します。
SHIPTOADD2	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の SHIPTOADDR2 エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド SHIPTOADDR2 へ連結します。
SHIPTOCITY	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の SHIPTOCITY エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド SHIPTOCITY へ連結します。
SHIPTOSTATE	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の SHIPTOSTATE エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド SHIPTOSTATE へ連結します。
SHIPTPCODE	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の SHIPTOPCODE エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド SHIPTOPCODE へ連結します。
BILLTONAME	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の BILLTONAME エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド BILLTONAME へ連結します。

(次のページへ続く)

(続き) マップ対象の POHEADER フィールド	必要な連結操作
BILLTOADD1	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の BILLTOADDR1 エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド BILLTOADDR1 へ連結します。
BILLTOADD2	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の BILLTOADDR2 エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド BILLTOADDR2 へ連結します。
BILLTOCITY	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の BILLTOCITY エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド BILLTOCITY へ連結します。
BILLTOSTATE	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の BILLTOSTATE エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド BILLTOSTATE へ連結します。
BILLTOPCODE	ShipToDet 一時記憶領域セグメント内の BILLTOPCODE エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド BILLTOPOSTALCODE へ連結します。

DELDATE フィールド

概要

DTM セグメントは、すべての発注書日付情報から構成され、複数回にわたって繰り返されます。DTM01 (日/時/期間修飾子) が "117" の場合、DTM セグメントのそうした反復には最初の配送日/時が含まれます。配送情報のマップ先は、アプリケーションヘッダーレコード内の [DELDATE] フィールドでなければなりません。DTM01 (日/時/期間修飾子) が "153" の場合、DTM セグメントのそうした反復には最後のキャンセル日/時が含まれます。キャンセル日付情報のマップ先は、アプリケーションヘッダーレコード内の [CANCELDATE] フィールドでなければなりません。

配送/キャンセル日付情報をアプリケーションファイルへマップするには、マップの EDI 側に既に作成した TEMPDATES 一時記憶領域セグメント内に、一時記憶領域エレメントを作成する必要があります。DTM セグメントから配送/キャンセル日付情報を抽出して、適切な一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。配送/キャンセル日付は、一時記憶領域エレメントからアプリケーションフィールドへ直接マップしてください。

DTM02 エレメント (日/時/期間) のプロパティは、パートナーから送信される最小長、最大長、型、および書式が反映されるように既に変更されています。

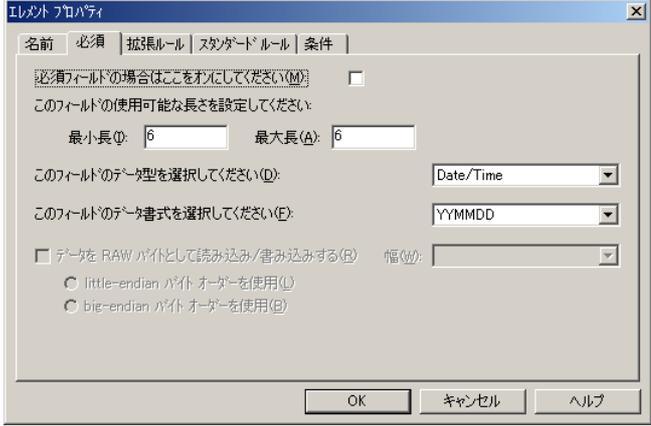
一時記憶領域の日付エレメントの作成方法

DELDATE および CANCELDATE 一時記憶領域エレメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODATE エレメント (TEMPDATES セグメント内) を反転表示して、[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [エレメント] を選択すると、[エレメントプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
2	[名前] ボックスに「DELDATE」と入力します。
3	[説明] ボックスに「Delivery Date」と入力します。
4	[必須] タブを選択します。
5	[最小長] ボックスに、最小長として「6」を入力します。
6	[最大長] ボックスに、最大長として「6」を入力します。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	<p>[データ型] リストから [Date/Time] を選択します。すると、このエレメントが日 / 時エレメントとして指定されます。フィールドのデータ型を変更するとその書式が無効化される旨のメッセージが表示されて確認を促された場合は、[はい] をクリックしてこのメッセージに応答して、先へ進みます。</p> <p>メモ メッセージプロンプトをオフにするには、[オプション] メニューの [選択] を選択します。[確認メッセージ] タブを選択して、[すべて確認] チェックボックスをオフにします。[以下の場合に確認メッセージを表示する。] リストで、[フィールドの書式またはデータ型を変更したとき] チェックボックスをオフにします。[OK] をクリックして保存します。</p>
8	<p>[書式] リストから [YYMMDD] を選択します。すると、最初の 2 桁に年、2 番目の 2 桁に月、そして最後の 2 桁に日が入るように指定されます。</p>
9	<p>[OK] をクリックすると、DELDATE エレメントが作成されます。次に、CANCELDATE エレメントを作成します。</p>
10	<p>DELDATE エレメントが反転表示された状態で、[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [フィールド] を選択すると、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
11	<p>[名前] ボックスに「CANCELDATE」と入力します。</p>
12	<p>[説明] ボックスに「Cancel By Date」と入力します。</p>
13	<p>[必須] タブを選択します。</p>
14	<p>[最小長] ボックスに、最小長として「6」を入力します。</p>
15	<p>[最大長] ボックスに、最大長として「6」を入力します。</p>
16	<p>[データ型] リストから [Date/Time] を選択します。すると、このエレメントが日 / 時エレメントとして指定されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
17	<p>[書式] リストから [YYMMDD] を選択します。すると、最初の 2 桁に年、2 番目の 2 桁に月、そして最後の 2 桁に日が入るように指定されます。</p> <p>この時点で、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
18	<p>[OK] をクリックすると、CANCELDATE エレメントが作成されます。</p>

(次のページへ続く)

拡張ルールの 作成方法

DTM セグメントから配送 / キャンセル日付情報を抽出して、適切な一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。システムにより拡張ルールが実行されるのは、DTM01 (日 / 時 / 期間修飾子) が読み込まれた後です。

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM01 エレメントをダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] リストには、拡張ルールが既に含まれています。拡張ルールは、DTM セグメント (日 / 時 / 期間修飾子が "4" の場合) から発注日 / 時を抽出して PODATE 一時記憶領域エレメントに移動するためのルールです。[ルール] リスト (既存の拡張ルールの下) に、次のように入力します。 <pre>IF #2005 = "117" THEN BEGIN \$ORDERS.#DELDATE = #2380; END IF #2005 = "153" THEN BEGIN \$ORDERS.#CANCELDATE = #2380; END</pre>
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを必須します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが DTM01 エレメントに追加されます。

(次のページへ続く)

**DELDATE ファイル
のマップ方法**

一時記憶領域セグメントおよびエレメントを作成した後、拡張ルールを追加して、配送/キャンセル日付情報を一時記憶領域エレメントからアプリケーションフィールドへ直接マップします。

配送日付をマップするには、TEMPDATES 一時記憶領域セグメント内の DELDATE エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド DELDATE へ連結します。

**CANCELDATE
エレメントの
マップ方法**

キャンセル日付をマップするには、TEMPDATES 一時記憶領域セグメント内の CANCELDATE エレメントを POHEADER レコード内のアプリケーションフィールド CANCELDATE へ連結します。

NUMLINEITEMS のマップ方法

概要

マップの EDI 側では、Control の総数情報が CNT セグメントに格納されます。セグメントにはすべてのコントロール値が含まれています。このセグメントは、複数回にわたって繰り返されます。CNT01 (コントロール修飾子) が "2" の場合、CNT セグメントのそうした反復には、メッセージ内のライン アイテム数が入ります。合計ライン アイテム数のマップ先は、POHEADER アプリケーション レコード内の NUMLINEITEMS フィールド、および POSUMMARY アプリケーション レコード内の NUMLINEITEMSUM フィールドでなければなりません。

CNT セグメントから適切な情報をアプリケーション ヘッダー レコード内の NUMLINEITEMSUMS フィールドへマップするには、コントロール値のタイプを判別して、ライン アイテム数を抽出する必要があります。

ライン アイテム数をアプリケーション ファイル書式にマップするには、非繰り返し一時記憶領域セグメントおよびエレメントをマップの EDI 側に作成する必要があります。CNT セグメントからライン アイテム数を抽出して、適切な一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。ライン アイテム数は、一時記憶領域エレメントから NUMLINEITEMS アプリケーション フィールドへ直接マップしてください。

(次のページへ続く)

TEMPCONTROL
一時記憶領域セグメントの作成方法

一時記憶領域セグメントの詳細を作成するには、次の情報を使用します。

- ▶ [名前]: TEMPCONTROL
- ▶ [タグ]: \$\$\$
- ▶ [最小使用回数]: 0
- ▶ [最大使用回数]: 1

TEMPDATES 一時記憶領域セグメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	CNT セグメントを反転表示します。CNT セグメントの後ろには、一時記憶領域セグメントが同レベルで配置されています。
2	[編集]メニューから[挿入]を選択します。サブメニューから[セグメント]を選択します。[EDI セグメント プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3	[名前]ボックスに「TEMPCONTROL」と入力します。
4	[タグ]タブを選択します。
5	[タグ]ボックスに「\$\$\$」と入力します。
6	[OK]をクリックすると、TEMPCONTROL 一時記憶領域セグメントが作成されます。

(次のページへ続く)

NUMLINEITEMS 一時記憶領域エレ メントの作成方法

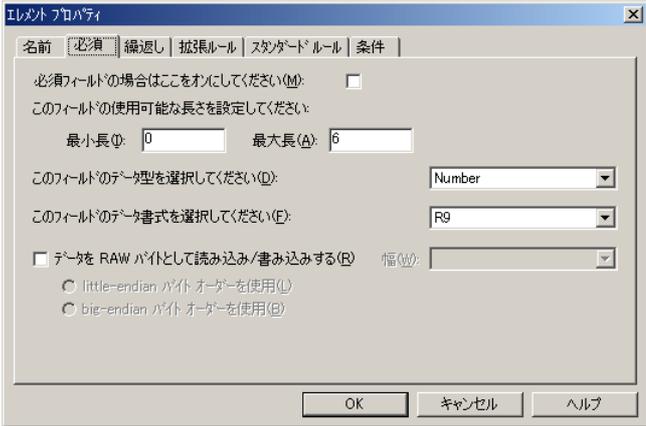
先ほど作成した一時記憶領域セグメントに、エレメントを追加します。一時記憶領域エレメントを作成するには、次の情報を使用します。

- ▶ [名前]: NUMLINEITEMS
- ▶ [説明]: Number of Line Items
- ▶ [最大]: 6
- ▶ [型]: 番号
- ▶ [書式]: R9

NUMLINEITEMS エレメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	TEMPCONTROL セグメントを反転表示します。[編集]メニューから [配下に作成] を選択して、従属エレメントを作成します。
2	サブメニューから [エレメント] を選択します。[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前] ボックスに「NUMLINEITEMS」と入力します。
4	[説明] ボックスに「Number of Line Items」と入力します。
5	[必須] タブを選択します。
6	[最大長] ボックスに、最大長として「6」を入力します。
7	[データ型] リストから [Number] を選択します。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
8	<p>[書式] リストから [R9] を選択します。すると、明示的な小数点でエレメントが書式設定されます。また、エレメントに最大9桁まで格納されるようになります。</p> <p>この時点で、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
9	<p>[OK] をクリックすると、NUMLINEITEMS エレメントが作成されます。</p>

(次のページへ続く)

拡張ルールの作成方法

CNT セグメントからライン アイテム数を抽出して、NUMLINEITEMS 一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。拡張ルールは、CNT セグメントのオカレンスが読み込まれた後で実行されます。

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	CNT セグメントを右クリックし、[拡張ルール] を選択します。すると、[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示され、[ループ拡張ルール] タブが選択されます。
2	[終了時] オプションを選択します。すると、ループ終了時にルールが実行されることが指定されます。CNT セグメントのオカレンス (コントロール値情報を含む) が読み込まれ、このルールが実行されます。
3	[エディタ] ボックスに次のように入力します。 <pre>IF #6069 = "2" THEN BEGIN \$ORDERS.#NUMLINEITEMS = #6066; END</pre>
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが CNT セグメントに追加されます。

合計ライン アイテム数のマップ方法

NUMLINEITEMS フィールドを NUMLINEITEMS 一時記憶領域エレメントから直接マップするには、" 連結 " 機能を使用します。

ライン アイテム数をアプリケーション ヘッダー レコードにマップするには、TEMPCONTROL 一時記憶領域セグメント内の NUMLINEITEMS 一時記憶領域エレメントを、POHEADER レコード内のアプリケーション フィールド NUMLINEITEMS に連結します。

PODETAIL レコードのマッピング

概要

はじめに

PODetailGroup (明細情報) は、ラインアイテムのすべての注文情報 (アイテム、単位、価格、注文数量、説明、引当、料金などの情報) で構成されます。各 PODetailGroup は、トランスレーションされた注文ごとに最大 20 万回出現します。この数は、最大発注数 (20 万アイテム) と同等です。PODetailGroup 中の情報は、次のレコード単位でさらに細分されます。

- ▶ PODETAIL
- ▶ PODESC
- ▶ POALLCHG

このセクションでは、PODETAIL (明細) レコード内の各フィールドをマップする方法について説明します。PODETAIL (明細) レコードには、ラインアイテムのコード番号、単位、価格、および注文数量が含まれています。PODETAIL レコードは、DetailGroup ごとに 1 回ずつ出現します。

CUSTNUMDET フィールド

概要

アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、Gentran:Server for Windows パートナー エディタから選択された情報を、スタンダード ルールを介してマップ内に使用することができます。パートナー エディタ内のトレーディング パートナーのプロファイルから取得された情報は、マップ内にある選択されたエレメントまたはフィールドへマップしてください。マップ内に使用する情報には、テーブル内の任意のフィールド (場所、ルックアップ、またはクロスリファレンス) やパートナー キーからのデータも含まれています。

このマップで、パートナーの定義から情報を取得して、マップのアプリケーション側にある [Customer Number] フィールドに設定する必要があります。[Customer Number] は各レコードのレコード キーの一部であるため、アプリケーションに 5 回、各レコード (CUSTNUMHDR、CUSTNUMDET、CUSTNUMDESC、CUSTNUMAC、および CUSTNUMSUM) に 1 回出現します。

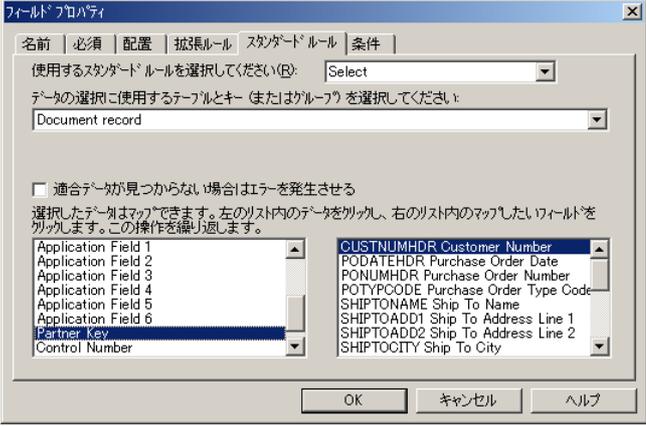
パートナーのカスタマ番号は、アプリケーション ファイル内の各レコード キーの一部となっています。このカスタマ番号によって、発注書の送信元トレーディング パートナーが識別されます。このカスタマ番号は、既にこのパートナー用のパートナー定義の一部となっているため、パートナーの定義から各カスタマ番号フィールドへマップできます。

手順

パートナーの定義から取得されたカスタマ番号をマップするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODETAILL レコード内の CUSTNUMDET フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Select] を選択します。
4	テーブルとキーのリストから [Document record] を選択します。これにより、このフィールドをドキュメント レコードから選択された情報で更新するよう、システムに指示が出されます。
5	左側の [マップ元] リストから [Partner Key] を選択します。このフィールドには、このパートナー用のカスタマ番号が入ります。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>右側の [マップ先] リストから [CUSTNUMDET] を選択します。このフィールドが、パートナー エディタ情報のマップ先になります。</p> <p>[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックすると、スタンダード ルールが CUSTNUMDET フィールドに追加されます。</p>

PODATEDET フィールド

概要

マップの EDI 側では、日付情報が DTM セグメントに格納されます。DTM セグメントには、マップのヘッダー部の日付情報が含まれています。このセグメントは複数回にわたって繰り返されます。DTM01 (日 / 時 / 期間修飾子) が "4" の場合、DTM セグメントのそうした反復には注文日 / 時が含まれます。注文日 / 時のマップ先は、各アプリケーションレコード (PODATEHDR、PODATEDET、PODATEDESC、PODATEAC、および PODATESUM) 内の PODATE フィールドでなければなりません。

マップの EDI 側に作成されたのは、非繰り返し一時記憶領域セグメントおよびエレメントです。拡張ルールによって DTM セグメントから注文日 / 時情報が抽出され、PODATE 一時記憶領域エレメントに移動されました。

TEMPDATES 一時記憶領域セグメントは繰り返されません。PODATE 一時記憶領域エレメントから取得された情報のマップ先は、PODATEDET フィールドでなければなりません。PODATEDET フィールドは、20 万回繰り返される PODetailGroup 内の PODETAIL セグメントに含まれています。

フィールドおよびエレメントは、同レベルにあるものどうしをマップする必要があります。つまり、非繰り返しセグメントからグループへはマップできません。たとえば、TEMPDATES 一時記憶領域セグメント内の発注書日付は、アプリケーションの PODATEDET フィールドへ直接にはマップすることができません。

このアプリケーションフィールドに発注書日付をマップするには、拡張ルールを使って PODATE 一時記憶領域エレメントから発注書日付を抽出して、PODATEDET フィールドへ移動する必要があります。

(次のページへ続く)

**拡張ルールの
作成方法**

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODATEDET フィールドをダブルクリックして、[フィールドプロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] リストに次のように入力します。 <pre>#PODATEDET = \$ORDERS.#PODATE;</pre> "\$ORDERS.#PODATE" は、PODATE 一時記憶領域エレメント用のアドレス入力です。このルールは、PODATEDET フィールドが処理された後で実行されます。
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが PODATEDET フィールドに追加されます。

PONUMDET フィールド

概要

BGM05 (ドキュメント / メッセージ番号) エlementには、発注書番号が含まれています。BGM セグメントは繰り返されません。BGM05 Elementから取得された情報のマップ先は、PONUMDET フィールドでなければなりません。PONUMDET フィールドは、20 万回繰り返される PODetailGroup 内に含まれています。

フィールドおよびElementは、同レベルにあるものどうしに限りマップすることが可能です。このアプリケーションフィールドにドキュメント / メッセージ番号をマップするには、拡張ルールを使って BGM05 Elementから発注書番号を抽出して、PONUMDET フィールドへ移動する必要があります。

拡張ルールの作成方法

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PONUMDET フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] リストに次のように入力します。 #PONUMDET = \$ORDERS.#1004; "\$ ORDERS.#1004" は、BGM05 Element用のアドレス入力です。このルールは、PONUMDET フィールドが処理された後で実行されます。
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが PONUMDET フィールドに追加されます。

CUSTPROCEDURE/UPCCODE フィールド

概要

アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、Gentran:Server for Windows パートナー データベースから選択された情報を、スタンダード ルールを介してマップ内に使用することができます。パートナー エディタ内のトレーディング パートナーのプロファイルから取得された情報は、マップ内にある選択されたエレメントまたはフィールドへマップすることができます。マップ内に使用する情報には、テーブル内の任意のフィールド (場所、ルックアップ、またはクロスリファレンス) やパートナー レコードからのデータも含まれています。

購入済みアイテム用にパートナーのコードをトランスレーションし、同じアイテム用に自社コードをトランスレーションするには、PETZONE1 パートナー プロファイル用クロスリファレンス テーブルから取得されたものをマップしておく必要があります。パートナーがアイテムごとに使用しているのは、customer product code (CUSTPROCEDURE) です。自社では、アイテムごとに UPC コード (UPCCODE) を使用しています。自社とパートナーとで customer product code を UPC コードごとに決めた後は、パートナー エディタでクロスリファレンス テーブルを作成し、その情報をマップ内に使用することができます。

クロスリファレンス テーブルは、自社とパートナーが異なる名前 (または番号) でアイテムを参照している場合に使用します。たとえば、自社では "widget" を表す一意の名前を "wid" とし、パートナーは同じ "widget" を表す一意の名前を "1234" とした場合には、システムはクロスリファレンス テーブルを使用して、"widget" アイテムを表す名前 2 つをトランスレーションします。

自社では、このマップ内に、注文済みアイテムごとに 1 つのコード (UPC コード) を設定してあります。一方、パートナーは、同じアイテムを異なるコード (customer product code) で識別しています。自社では、customer product code を LIN03 エレメント (アイテム番号) からマップのアプリケーション側にあるカスタマ製品コード フィールド (CUSTPROCEDURE) へマップする必要があります。そのためには、customer product code を UPC コードにトランスレーションするためのクロスリファレンス テーブルを作成する必要があります。

メモ

クロスリファレンス テーブルを作成する前に、ユーザーは各 UPC コードに対応する customer product code をパートナーに確認する必要があります。確認後、パートナー エディタでクロスリファレンス テーブルを作成して、その情報をマップ内で使用できます。

最後に、スタンダード ルールを使用して、トランスレーション済みの値を CUSTPROCEDURE フィールドから UPCCODE フィールドへマップする必要があります。

(次のページへ続く)

カスタマ製品コード のマップ方法

customer product code をマップするには、LIN セグメント (LIN グループ) 内の LIN03 エレメントを PODETAIL レコード内のアプリケーション フィールド CUSTPROCEDURE へ連結します。

クロスリファレンス テーブルの作成方法

パートナー エディタで、クロスリファレンス テーブルを作成して "PRODCODE" と命名します。クロスリファレンス テーブルの作成の詳細については、Gentran:Server for Windows 『ユーザー ガイド』またはオンライン ヘルプを参照してください。

メモ

ユーザーが作成したクロスリファレンス テーブルには、エントリが 6 つだけ含まれます。実際のテーブルには、自社で製造するアイテムのうちパートナーが購入するものをすべて記載することができます。例を次に示します。

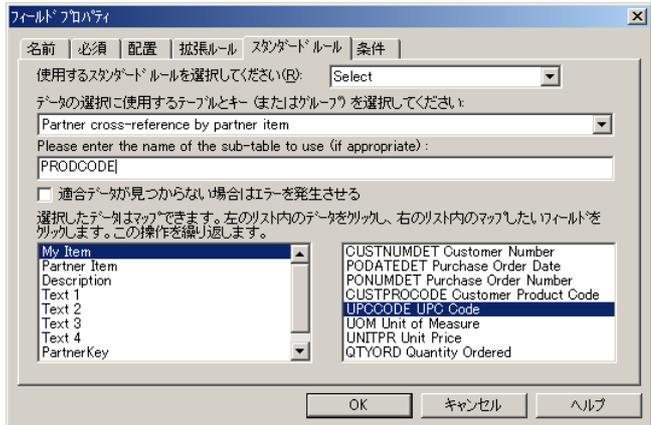
クロスリファレンス テーブルを作成するときは、次の表中の情報を使用してください。[自社の値]フィールドには、アイテム用に自社の UPC コードが入ります。[パートナーの値]フィールドには、アイテム用にパートナーの customer product code が入ります。[説明]フィールドには、アイテムの説明 (そのほか、適用可能な場合はサイズなど) が入ります。[参照データ]フィールドには、追加数量や色情報が入ります。

自社の値	パートナーの値	説明	参照データ
12345678901234	555666411	Large Dog Collar	Red
23456789012345	555666817	Spring Breeze Cat Litter	5 Kg. Bag
34567890123456	555666908	Small Beef Basted Rawhide Bones	Bag of 12
45678901234567	555666321	X-Large Food Bowl	Black
56789012345678	555666287	FatKat Kitty Bed	Blue with White Trim
67890123456789	555666413	Catnip Mouse Toy	

(次のページへ続く)

**CUSTPROCEDURE から UPCCODE への
トランスレーション
方法**

パートナーが注文した各アイテムのパートナー側 customer product code を自社側 UPC コードにトランスレーションするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODETAIL レコード内の CUSTPROCEDURE フィールドをダブルクリックします。[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Select] を選択します。
4	テーブルとキーのリストから [Partner cross-reference by partner item] を選択します。この操作により、クロスリファレンス テーブルを使用して、パートナーのアイテムでトランスレーションされます。
5	[Sub Table] ボックスに「PRODCODE」と入力します。この名前は、作成したクロスリファレンス テーブルの名前です。
6	[エラーを発生させる] チェックボックスをオンにします。すると、トランスレーションが失敗した場合、適合エラーの発生を指示するシグナルが送られます。
7	左側の [マップ元] リストから [My Item] を選択して、このフィールドから内容をマップします。
8	右側の [マップ先] リストから [UPCCODE] を選択して、このフィールドにパートナー エディタ情報をマップします。 [スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。
	
9	[OK] をクリックして、クロスリファレンス テーブルからマップします。

UOM フィールド

概要

マップの EDI 側では、ライン アイテム情報が LIN グループ (LIN セグメント、IMD:2 セグメント、QTY:3 セグメント、および MOA:5 セグメント内) に格納されます。QTY:3 セグメントは複数回にわたって繰り返されます。単位 (UOM) は、QTY:3 セグメントから非繰り返し PODetail アプリケーションレコードにマップする必要があります。単位を QTY:303 エレメントから PODetail レコードにマップするには、非繰り返し一時記憶領域セグメントおよびエレメントをマップの EDI 側に作成する必要があります。

QTY:3 セグメントから単位を抽出して、適切な一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。単位は、一時記憶領域エレメントから UOM アプリケーションフィールドへ直接マップしてください。

TEMPLINEITEM 一時記憶領域セグメントの作成方法

TEMPLINEITEM 一時記憶領域セグメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループ内の LIN セグメントを反転表示します。[編集]メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [セグメント] を選択します。 システムからの応答 [EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[名前] ボックスに「TEMPLINEITEM」と入力します。
3	[タグ] タブを選択します。
4	[タグ] ボックスに「\$\$\$」と入力します。
5	[OK] をクリックすると、TEMPLINEITEM 一時記憶領域セグメントが作成されます。

(次のページへ続く)

UNITMEAS 一時記憶領域エレメントの作成方法

UNITMEAS 一時記憶領域エレメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	TEMPLINEITEM セグメントを反転表示します。[編集]メニューから [配下に作成] を選択して、従属エレメントを作成します。サブメニューから [エレメント] を選択します。 システムからの応答 [エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[名前] ボックスに「UNITMEAS」と入力します。
3	[説明] ボックスに「Unit of Measurement」と入力します。
4	[必須] タブを選択します。
5	[最大長] ボックスに、最大長として「3」を入力します。
6	[OK] をクリックすると、UNITMEAS エレメントが作成されます。

(次のページへ続く)

拡張ルールの 作成方法

QTY:3 セグメントから単位を抽出して、UNITMEAS 一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。システムにより拡張ルールが実行されるのは、QTY:303 エレメント (単位修飾子) が読み込まれた後です。

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	QTY:303 エレメントをダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] ボックスに次のように入力します。 <pre>IF #6063 = "21" THEN BEGIN \$2500_LIN.#UNITMEAS = #6411:2; END</pre> <p>QTY:303 エレメントに "21" (Quantity Ordered) が含まれていないことがシステムにより検証され、このルールが実行されます。</p>
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが QTY:303 エレメントに追加されます。

単位のマッピング

UOM (単位) フィールドを UNITMEAS 一時記憶領域エレメントから直接マップするには、"連結" 機能を使用します。

TEMPLINEITEM 一時記憶領域セグメント (LIN グループ) 内の UNITMEAS 一時記憶領域エレメントを PODETAIL レコード内のアプリケーション フィールド UOM へ連結します。

UNITPR フィールド

概要

MOA:5 セグメントは複数回にわたって繰り返されます。MOA:5 セグメントの単価は、非繰り返し PODETAIL アプリケーション レコードにマップする必要があります。MOA:5 セグメントには金額情報が含まれています。このセグメントは、複数回にわたって繰り返されます。MOA:501 エレメント (金額タイプ) が "146" の場合、MOA:5 セグメントのそうした反復には、そのライン アイテムの単価が入ります。単価のマップ先は、PODETAIL アプリケーション レコード内の UNITPR フィールドでなければなりません。

MOA:5 セグメントから UNITPR フィールドに適切な情報をマップするには、金額タイプを判別した後で、単価を抽出する必要があります。一時記憶領域エレメントは、既に作成した TEMPLINEITEM 一時記憶領域セグメント内に作成する必要があります。

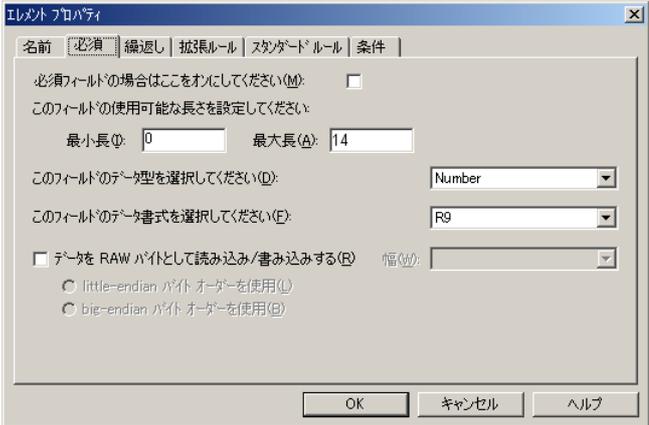
拡張ルールを使って MOA:5 セグメントから単価を抽出して、適切な一時記憶領域エレメントに移動してください。その後は、単価を一時記憶領域エレメントから UNITPR アプリケーション フィールドへ直接マップすることができます。

UNITPRICE 一時記憶領域エレメントの作成方法

UNITPRICE 一時記憶領域エレメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>TEMPLINEITEM セグメント内の UNITMEAS 一時記憶領域エレメントを反転表示します。[編集]メニューから[挿入]を選択して、従属エレメントを作成します。サブメニューから[エレメント]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	[名前]ボックスに「UNITPRICE」と入力します。
3	[説明]ボックスに「Unit Price」と入力します。
4	[必須]タブを選択します。
5	[最大長]ボックスに、最大長として「14」を入力します。
6	[データ型]リストから [Number] を選択します。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	<p>[書式] リストから [R9] を選択します。すると、明示的な小数点でエレメントが書式設定されます。また、エレメントに最大9桁まで格納されるようになります。</p> <p>この時点で、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
8	[OK] をクリックすると、UNITPRICE エレメントが作成されます。

(次のページへ続く)

拡張ルールの 作成方法

MOA:5 セグメントから単価を抽出して、UNITPRICE 一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。システムにより拡張ルールが実行されるのは、MOA:501 エレメント (金額タイプ) が読み込まれた後です。

ステップ	操作
1	MOA:501 エレメントをダブルクリックして、[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] ボックスに次のように入力します。 <pre>IF #5025 = "145" THEN BEGIN \$2500_LIN.#UNITPRICE = #5004; END</pre> MOA:501 エレメントに "146" (Unit Price) が含まれていないことがシステムにより検証され、このルールが実行されます。
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが MOA:501 エレメントに追加されます。

単価のマッピング

UNITPR (Unit price) フィールドを UNITPRICE 一時記憶領域エレメントから直接マップするには、"連結" 機能を使用します。

TEMPLINEITEM 一時記憶領域セグメント (LIN グループ) 内の UNITPRICE 一時記憶領域エレメントを PODETAIL レコード内のアプリケーション フィールド UNITPR へ連結します。

QTYORD フィールド

概要

QTY:3 セグメントの注文数量は、非繰り返し PODETAIL アプリケーションレコードにマップする必要があります。QTY:3 セグメントには数量情報が含まれています。このセグメントは、複数回にわたって繰り返されます。QTY:301 エlement (数量修飾子) が "21" の場合、QTY:3 セグメントのそうした反復には、そのラインアイテムの注文数量が入ります。注文数量のマップ先は、PODETAIL アプリケーションレコード内の QTYORD フィールドでなければなりません。

QTY:3 セグメントから QTYORD フィールドに適切な情報をマップするには、数量タイプを判別して、注文数量を抽出する必要があります。一時記憶領域エレメントは、既に作成した TEMPLINEITEM 一時記憶領域セグメント内に作成する必要があります。

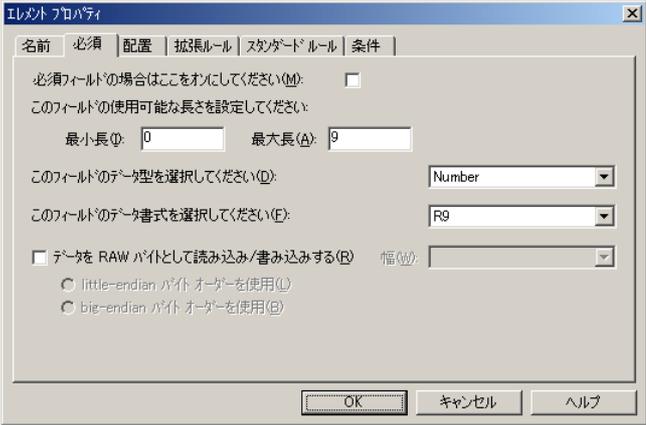
QTY:3 セグメントから注文数量を抽出して、適切な一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。その後、注文数量を一時記憶領域エレメントから QTYORD アプリケーションフィールドへ直接マップすることができます。

QTYORD 一時記憶領域エレメントの作成方法

QTYORD 一時記憶領域エレメントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>TEMPLINEITEM セグメント内の UNITPRICE 一時記憶領域エレメントを反転表示します。[編集]メニューから [挿入] を選択して、従属エレメントを作成します。サブメニューから [エレメント] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	[名前] ボックスに「QTYORD」と入力します。
3	[説明] ボックスに「Quantity Ordered」と入力します。
4	[必須] タブを選択します。
5	[最大長] ボックスに、最大長として「9」を入力します。
6	[データ型] リストから [Number] を選択します。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	<p>[書式] リストから [R9] を選択します。すると、明示的な小数点でエレメントが書式設定されます。また、エレメントに最大9桁まで格納されるようになります。</p> <p>[必須] タブの表示が、下図のようになります。</p>  <p>The screenshot shows a dialog box titled 'エレメント プロパティ' (Element Properties) with several tabs: '名前' (Name), '必須' (Required), '配置' (Position), '拡張ルール' (Extension Rules), 'スケーディングルール' (Scaling Rules), and '条件' (Conditions). The '必須' tab is active. It contains a checkbox for '必須フィールドの場合はここをオンにしてください(M)' (Turn on here if this is a required field), which is currently unchecked. Below it are input fields for 'このフィールドの使用可能な長さを設定してください' (Set the maximum length of this field), with '最小長(L): 0' and '最大長(A): 9'. There are two dropdown menus: 'このフィールドのデータ型を選択してください(D)' (Select the data type for this field) set to 'Number', and 'このフィールドのデータ書式を選択してください(E)' (Select the data format for this field) set to 'R9'. At the bottom, there is a checkbox for 'データを RAW バイトとして読み込み/書き込みする(R)' (Load/write data as RAW bytes) which is unchecked, and a '幅(W):' dropdown set to '2'. Below that are radio buttons for 'little-endian バイト オーダーを使用(L)' and 'big-endian バイト オーダーを使用(B)'. At the very bottom are 'OK', 'キャンセル', and 'ヘルプ' buttons.</p>
8	<p>[OK] をクリックすると、QTYORD エレメントが作成されます。</p>

(次のページへ続く)

拡張ルールの 作成方法

QTY:3 セグメントから単価を抽出して、QTYORD 一時記憶領域エレメントに移動するには、拡張ルールを使用します。システムにより拡張ルールが実行されるのは、QTY:301 エレメント (数量修飾子) が読み込まれた後です。

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	QTY:301 エレメントをダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] ボックスに次のように入力します。 <pre>IF #6063 = "21" THEN BEGIN \$2500_LIN.#QTYORD = #6060; END</pre> <p>QTY:301 エレメントに "21" (Quantity Ordered) が含まれていることがシステムにより検証され、このルールが実行されます。</p>
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが QTY:301 エレメントに追加されます。

注文数量の マッピング

QTYORD (Quantity ordered) を QTYORD 一時記憶領域エレメントから直接マップするには、"連結" 機能を使用します。

TEMPLINEITEM 一時記憶領域セグメント (LIN グループ) 内の QTYORD 一時記憶領域エレメントを PODETAIL レコード内のアプリケーション フィールド QTYORD へ連結します。

PODESC レコードのマッピング

概要

はじめに

このセクションでは、PODESC (説明)レコード内の各フィールドをマップする方法について説明します。PODESC (説明)レコードには、注文済みラインアイテムに関する説明情報が含まれています。PODESC レコードは PODetailGroup ごとに最大 5 回まで出現します。そのため、アイテムごとに複数の説明項目を使用することができます。たとえば、ラインアイテムが "dog collar" の場合は、[説明]フィールドが "red"、"large"、および "leather" のようになります。

CUSTNUMDESC フィールド

概要

アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、Gentran:Server for Windows パートナー エディタから選択された情報を、スタンダード ルールを介してマップ内に使用することができます。パートナー エディタ内のトレーディング パートナーのプロファイルから取得された情報は、マップ内にある選択されたエレメントまたはフィールドへマップすることができます。マップ内に使用できる情報には、テーブル内の任意のフィールド (場所、ルックアップ、またはクロスリファレンス) やパートナー キーからのデータも含まれています。

このマップで、パートナーの定義から取得した情報を使用して、マップのアプリケーション側にある [Customer Number] フィールドに設定する必要があります。[Customer Number] は各レコードのレコード キーの一部であるため、アプリケーション ファイル書式に 5 回、各レコード (CUSTNUMHDR、CUSTNUMDET、CUSTNUMDESC、CUSTNUMAC、および CUSTNUMSUM) に 1 回出現します。

パートナーのカスタマ番号は、アプリケーション ファイル書式内の各レコード キーの一部となっています。このカスタマ番号によって、発注書の送信元トレーディング パートナーが識別されます。このカスタマ番号は、既にこのパートナー用のパートナー定義の一部となっているため、パートナーの定義から各カスタマ番号フィールドへマップできます。

手順

パートナーの定義から取得されたカスタマ番号をマップするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODESC レコード内の CUSTNUMDESC フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Select] を選択します。
4	テーブルとキーのリストから [Document record] を選択します。これにより、このフィールドがドキュメント レコードから取得されたで更新されるようになります。
5	[エラーを発生させる] チェックボックスをオンにします。すると、有効なエントリがシステムで検出されない場合はエラーが発生するようになります。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	左側の [マップ元] リストから [Partner Key] を選択します。このフィールドには、このパートナー用のカスタマ番号が入ります。
7	右側の [マップ先] リストから [CUSTNUMDESC] を選択します。このフィールドが、パートナー エディタ情報のマップ先になります。 [スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。 <div data-bbox="624 678 1270 1104" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div>
8	[OK] をクリックすると、スタンダード ルールが CUSTNUMDESC フィールドに追加されます。

フィールド

概要

マップの EDI 側では、日付情報が DTM セグメントに格納されます。DTM セグメントには、マップのヘッダー部の日付情報が含まれています。このセグメントは複数回にわたって繰り返されます。DTM01 (日 / 時 / 期間修飾子) が "4" の場合、DTM セグメントのそうした反復には注文日 / 時が含まれます。注文日 / 時のマップ先は、各アプリケーションレコード (PODATEHDR、PODATEDET、PODATEDESC、PODATEAC、および PODATESUM) 内の PODATE フィールドでなければなりません。

マップの EDI 側に既に作成されたのは、非繰り返し一時記憶領域セグメントおよびエレメントです。拡張ルールによって DTM セグメントから注文日 / 時情報が抽出され、PODATE 一時記憶領域エレメントに移動されました。

TEMPDATES 一時記憶領域セグメントは繰り返されません。PODATE 一時記憶領域エレメントから取得された情報のマップ先は、PODATEDESC フィールドでなければなりません。PODATEDESC フィールドは、20 万回繰り返される PODetailGroup 内の PODESC セグメントに含まれています。

フィールドおよびエレメントは、同レベルにあるものどうしに限りマップしてください。つまり、非繰り返しセグメントからグループへはマップできません。たとえば、TEMPDATES 一時記憶領域セグメント内の発注書日付は、アプリケーションの PODATEDESC フィールドへ直接にはマップすることができません。

このアプリケーションフィールドに発注書日付をマップするには、拡張ルールを使って PODATE 一時記憶領域エレメントから発注書日付を抽出して、PODATEDESC フィールドへ移動する必要があります。

(次のページへ続く)

**拡張ルールの
作成方法**

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODATEDESC フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] ボックスに次のように入力します。 <pre>#PODATEDESC = \$ORDERS.#PODATE;</pre> <p>このルールは、PODATEDESC フィールドが処理された後で実行されます。</p>
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが PODATEDESC フィールドに追加されます。

PONUMDESC フィールド

概要

BGM05 (ドキュメント / メッセージ番号) エlementには、発注書番号が含まれています。BGM セグメントは繰り返されません。BGM05 Elementから取得された情報のマップ先は、PONUMDESC フィールドでなければなりません。PONUMDESC フィールドは、20 万回繰り返される PODetailGroup 内に含まれています。

フィールドおよびElementは、同レベルにあるものどうしに限りマップしてください。つまり、非繰り返しセグメントからグループへはマップできません。たとえば、BGM セグメント内のドキュメント / メッセージ番号は、アプリケーションの PODATEDESC フィールドへ直接にはマップすることができません。

このアプリケーション フィールドにドキュメント / メッセージ番号をマップするには、拡張ルールを使って BGM05 Elementから発注書番号を抽出して、PONUMDESC フィールドへ移動する必要があります。

拡張ルールの作成方法

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PONUMDESC フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] ボックスに次のように入力します。 #PONUMDESC = \$ORDERS.#1004; このルールは、PODATEDESC フィールドが処理された後で実行されます。
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが PODATEDESC フィールドに追加されます。

(次のページへ続く)

DESC フィールド のマップ方法

DESC フィールドは、自社パートナーが自由形式の書式でアイテムを記述できるように提供されています。自社パートナーから送信されるセグメント反復数が 5 回のみであることは認知されているため、IMD:2 セグメントの最大使用回数を変更する必要があります。

最大使用回数の変更

IMD:02 セグメントのプロパティを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	IMD:2 セグメント (LIN グループ) を右クリックします。ショートカット メニューから [プロパティ] を選択して、[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[ループ処理] タブを選択します。
3	[最大使用回数] ボックスに「5」と入力します。
4	[OK] をクリックして、[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

DESC フィールドの連結

DESC (説明) フィールドを IMD:206 エlement から直接マップするには、「連結」機能を使用します。

IMD:2 一時記憶領域セグメント (LIN グループ) 内の IMD:206 エlement を PODESC レコード内のアプリケーション フィールド DESC へ連結します。

POALLCHG レコードのマッピング

概要

はじめに

このセクションでは、POALLCHG (Allowance/ Charge) レコード内の各フィールドをマップする方法について説明します。POALLCHG (Allowance and Charge) レコードには、引当 / 料金インジケータ、処理方法コード、および引当 / 料金の合計金額が含まれています。POALLCHG レコードは PODetailGroup ごとに最大 5 回まで出現します。そのため、アイテムごとに引当と料金またはどちらか一方を複数使用することができます。

CUSTNUMAC フィールド

概要

アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、Gentran:Server for Windows パートナー エディタから選択された情報を、スタンダード ルールを介してマップ内に使用することができます。パートナー エディタ内のトレーディング パートナーのプロファイルから取得された情報は、マップ内にある選択されたエレメントまたはフィールドへマップすることができます。マップ内に使用できる情報には、テーブル内の任意のフィールド (場所、ルックアップ、またはクロスリファレンス) やパートナー キーからのデータも含まれています。

このマップで、パートナーの定義から取得した情報を使用して、マップのアプリケーション側にある [Customer Number] フィールドに設定する必要があります。[Customer Number] は各レコードのレコード キーの一部であるため、アプリケーション ファイル書式に 5 回、各レコード (CUSTNUMHDR、CUSTNUMDET、CUSTNUMDESC、CUSTNUMAC、および CUSTNUMSUM) に 1 回出現します。

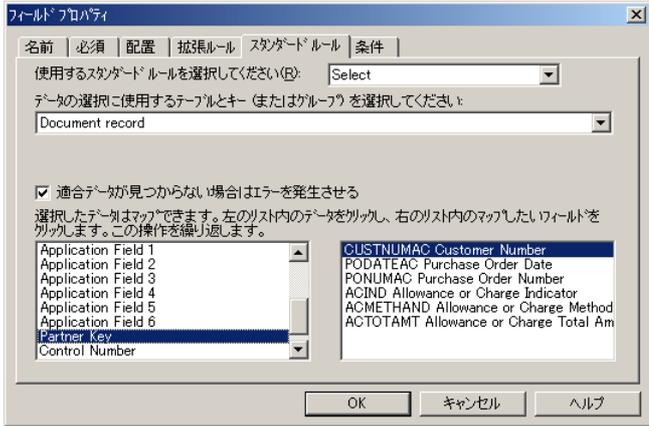
パートナーのカスタマ番号は、アプリケーション ファイル書式内の各レコード キーの一部となっています。このカスタマ番号によって、発注書の送信元トレーディング パートナーが識別されます。このカスタマ番号は、既にこのパートナー用のパートナー定義の一部となっているため、パートナーの定義から各カスタマ番号フィールドへマップできます。

手順

パートナーの定義から取得されたカスタマ番号をマップするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	POALLCHG レコード内の CUSTNUMAC フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Select] を選択します。
4	テーブルとキーのリストで、[Document record] を選択します。
5	[エラーを発生させる] チェックボックスをオンにします。
6	左側の [マップ元] リストから [Partner Key] を選択します。このフィールドには、このパートナー用のカスタマ番号が入ります。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	<p>右側の [マップ先] リストから [CUSTNUMAC] を選択します。</p> <p>[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
8	<p>[OK] をクリックすると、スタンダード ルールが CUSTNUMAC フィールドに追加されます。</p>

PODATEAC フィールド

概要

マップの EDI 側では、日付情報が DTM セグメントに格納されます。DTM セグメントには、マップのヘッダー部の日付情報が含まれています。このセグメントは複数回にわたって繰り返されます。DTM01 (日 / 時 / 期間修飾子) が "4" の場合、DTM セグメントのそうした反復には注文日 / 時が含まれます。注文日 / 時のマップ先は、各アプリケーションレコード (PODATEHDR、PODATEDET、PODATEDESC、PODATEAC、および PODATESUM) 内の PODATE フィールドでなければなりません。

マップの EDI 側に既に作成されたのは、非繰り返し一時記憶領域セグメントおよびエレメントです。また、拡張ルールによって DTM セグメントから注文日 / 時情報が抽出され、PODATE 一時記憶領域エレメントに移動されました。

TEMPDATES 一時記憶領域セグメントは繰り返されません。PODATE 一時記憶領域エレメントから取得された情報のマップ先は、PODATEAC フィールドでなければなりません。PODATEDAC フィールドは、20 万回繰り返される PODetailGroup 内の POALLCHG セグメントに含まれています。

このアプリケーションフィールドに発注書日付をマップするには、拡張ルールを使って PODATE 一時記憶領域エレメントから発注書日付を抽出して、PODATEAC フィールドへ移動する必要があります。

拡張ルールの作成方法

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PODATEAC フィールドをダブルクリックして、[フィールドプロパティ] ダイアログボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] リストに次のように入力します。 #PODATEAC = \$ORDERS.#PODATE; このルールは、PODATEAC フィールドが処理された後で実行されます。
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが PODATEAC フィールドに追加されます。

PONUMAC フィールド

概要

BGM05 (ドキュメント / メッセージ番号) エlementには、発注書番号が含まれています。BGM セグメントは繰り返されません。BGM05 Elementからの情報のマップ先は、PONUMAC フィールドでなければなりません。ただし、PONUMAC フィールドは、20 万回繰り返される PODetailGroup 内に含まれています。

このアプリケーション フィールドにドキュメント / メッセージ番号をマップするには、拡張ルールを使って BGM05 Elementから発注書番号を抽出して、PONUMAC フィールドへ移動する必要があります。

拡張ルールの作成方法

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PONUMAC フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[拡張ルール] タブを選択します。
3	[ルール] リストに次のように入力します。 #PONUMAC = \$ORDERS.#1004; このルールは、PODATEAC フィールドが処理された後で実行されます。
4	[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。
5	[OK] をクリックすると、拡張ルールが PONUMAC フィールドに追加されます。

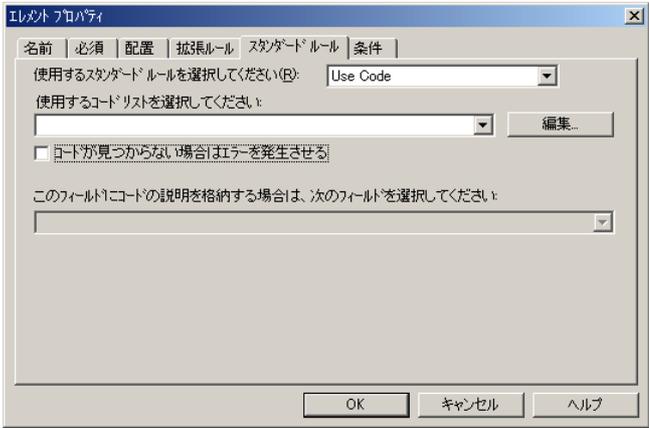
ACIND フィールド

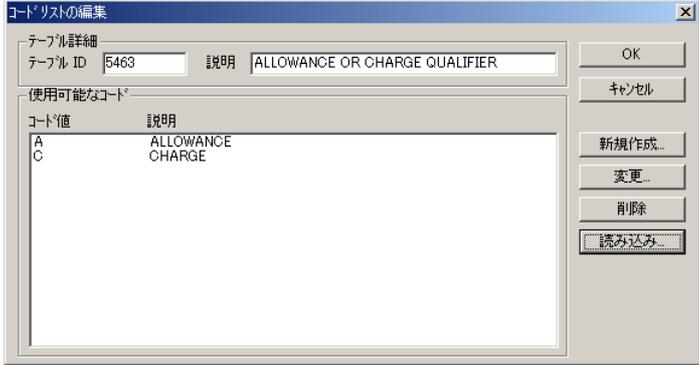
概要

マップの EDI 側では、ライン アイテム情報が ALC グループ (ALC:2 セグメント および MOA:8 セグメント内) に格納されます。ALC:2 セグメントは、LIN グループに所属する ALC グループに含まれています。ALC:201 エレメント内の引当 / 料金インジケータ用に受け入れられるコードを判別するには、コード リスト テーブルを使用します。使用可能なコードは、"A" (Allowance) および "C" (Charge) です。その後、ALC:2 セグメントから取得した引当 / 料金インジケータを、PODetailGroup に所属する POALLCHG アプリケーション レコードへ直接 マップしてください。

コード テーブルの読み込み方法

スタンダードからコード テーブルを読み込むには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	ALC:201 エレメントをダブルクリックします。すると、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Code] を選択します。 
4	[編集] をクリックして、[コード リストの編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。 テーブル ID には、このコード リスト テーブルを使用するエレメントが入ります。[説明] ボックスには、このコード リスト テーブルを使用するエレメントの説明が入ります。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [読み込み] をクリックします。すると、[データソースの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。 ▶ [コンピュータ データ ソース] タブを選択します。 ▶ EDI メッセージ スタンドアード (通常は Gentrans スタンドアード) へアクセスする目的にシステムで使用されるデータ ソース名を選択します。 ▶ [OK] をクリックします。 <p>システムからの応答 [コード リストの読み込み] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>[スタンダードのコード] リストで、[A Allowance] コードをクリックします。SHIFT キーを押して [C Charge] コードをクリックすると、両方のコードが反転表示されます。[追加] をクリックすると、両方のコードが [選択されたコード] リストに移動します。</p>
7	<p>[OK] をクリックすると、選択されたコードがロードされ、[コード リストの読み込み] ダイアログ ボックスが終了します。</p> <p>この時点で、[コード リストの編集] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
8	<p>[OK] をクリックすると、[コード リストの編集] ダイアログ ボックスが終了します。</p> <p>[スタンダード ルール] タブで、コード リストに "5463 ALLOWANCE OR CHARGE QUALIFIER" が含まれていることを確認します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
9	[エラーを発生させる] チェックボックスをオンにします。これで、適合性の理由から、コード テーブル リストから読み込んだ 2 つのコードのどちらか 1 つをエレメント内に必ず含めるように指定したことになります。
10	[OK] をクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

引当 / 料金インジ ケータのマップ方法

ACIND (Allowance or Charge Indicator) フィールドは、引当 / 料金が合計金額であることを示す ALC:201 エレメントから直接マップすることができます。

ALC:2 セグメント (LIN グループ内の ALC グループ) 内の ALC:201 エレメントは、POALLCHG レコード内のアプリケーション フィールド ACIND へ連結してください。

メモ

出力マップ コンポーネントの最大使用数が入力マップ コンポーネント未満であることを知らせるメッセージ ボックスが表示されて確認を促された場合は、[はい] をクリックしてメッセージに応答します。パートナーから送信される ALC グループの反復が 5 回以下であることから、データの損失のないことは認知されています。ただし、パートナーが 6 以上の ALC グループを送信することに決めた場合は、マップの出力側にある POALLCHG セグメントの最大使用数を、決定した送信回数と一致するように変更する必要があります。変更しないと、データを失う恐れがあります。

ACMETHAND フィールド

概要

マップの EDI 側では、ライン アイテム情報が ALC グループ (ALC:2 セグメント および MOA:8 セグメント内) に格納されます。ALC:2 セグメントは、LIN グループに従属する ALC グループに含まれています。ALC:204 エlement から取得した引当 / 料金処理方法コードは、PODetailGroup に従属する POALLCHG アプリケーションレコードへ直接マップすることができます。

引当 / 料金処理方法 コードのマップ方法

ACMETHAND フィールドをマップするには、ALC:2 セグメント (LIN グループの ALC グループに属する) 内の ALC:204 エlement を POALLCHG レコード内の アプリケーションフィールド ACMETHAND へ連結します。

メモ

出力マップ コンポーネントの最大使用数が入力マップ コンポーネント未満であることを知らせるメッセージボックスが表示されて確認を促された場合は、[はい]をクリックしてメッセージに応答します。パートナーから送信される ALC グループの反復が 5 回以下であることから、データの損失のないことは認知されています。ただし、パートナーが 6 以上の ALC グループを送信することに決めた場合は、マップの出力側にある POALLCHG セグメントの最大使用数を、決定した送信回数と一致するように変更する必要があります。変更しないと、データを失う恐れがあります。

ACTOTAMT フィールド

概要

マップの EDI 側では、ライン アイテム情報が ALC グループ (ALC:2 セグメント および MOA:8 セグメント内) に格納されます。MOA:8 セグメントは、MOA グループに含まれています。MOA グループは ALC グループに従属し、ALC グループは LIN グループに従属します。MOA:8 セグメントから取得した引当 / 料金合計金額は、PODetailGroup に従属する POALLCHG アプリケーションレコードへ直接マップする必要があります。MOA グループは最大 2 回まで繰り返されます。パートナーから自社へ送信される MOA グループの反復は 1 つだけであるため、グループの最大使用数を変更して、グループ内のレコードを親レベルにプロモートする必要があります。

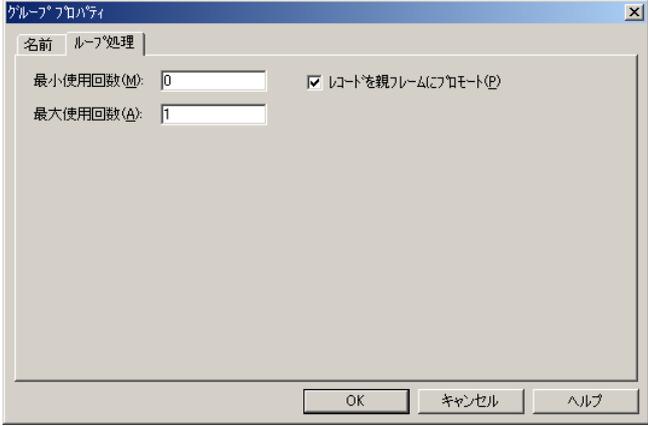
ほかに自社で認知しているのは、パートナーから自社に送信される唯一の金額タイプ修飾子 (MOA:801 エlement) が "128" であることです。"128" は、引当 / 料金の合計金額が入った MOA グループの反復を指定する修飾子です。"128" はパートナーから自社に送信される唯一の修飾子であるため、この Element を使用してマッピング操作を実行する必要はありません。

引当 / 料金の合計金額は、MOA:802 Element から ACTOTAMT アプリケーションフィールドへ直接マップすることができます。

MOA グループのプロパティの変更方法

MOA グループのプロパティを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	MOA グループ (LIN グループの ALC グループに属する) を右クリックします。ショートカットメニューから [プロパティ] を選択して、[グループプロパティ] ダイアログボックスにアクセスします。
2	[ループ処理] タブを選択します。
3	[最大使用回数] ボックスに「1」と入力すると、MOA グループが非繰り返しグループになります。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
4	<p>[レコードを親フレームにプロモート]チェックボックスをオンにします。すると、このグループのコンパイル時に従属セグメントを抽出して親グループ内に配置するように指定されます。この結果、MOA:8セグメントが、マップのアプリケーション側にあるPOALLCHGレコードと同レベルに配置されます。</p> <p>この時点で、[グループプロパティ]ダイアログボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
5	<p>[OK]をクリックすると、[グループプロパティ]ダイアログボックスが終了します。</p>

引当 / 料金の合計金額のマップ方法

ACTOTAMT (Allowance or Charge Total Amount) フィールドは、引当 / 料金の処理方法を指示する MOA:802 エレメントから直接マップしてください。

MOA:8セグメント (LIN グループの ALC グループに属する) 内の MOA: 802 エレメントは、POALLCHG レコード内のアプリケーション フィールド ACTOTAMT へ連結してください。

メモ

出力マップ コンポーネントの最大使用数が入力マップ コンポーネント未満であることを知らせるメッセージボックスが表示されて確認を促された場合は、[はい]をクリックしてメッセージに応答します。パートナーから送信される ALC グループの反復が 5 回以下であることから、データの損失のないことは認知されています。ただし、パートナーが 6 以上の ALC グループを送信することに決めた場合は、マップの出力側にある POALLCHG セグメントの最大使用数を、決定した送信回数と一致するように変更する必要があります。変更しないと、データを失う恐れがあります。

POSUMMARY レコードのマッピング

概要

はじめに

このセクションでは、POSUMMARY (合計) レコード内の各フィールドをマップする方法について説明します。POSUMMARY レコードには、発注書に記載される合計ライン アイテム数が含まれています。POSUMMARY レコードは、トランスレーションされた発注書ごとに 1 回ずつ出現します。

CUSTNUMSUM フィールド

概要

アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、Gentran:Server Partner Windows Editor から選択された情報を、スタンダード ルールを介してマップ内に使用することができます。パートナー エディタ内のトレーディング パートナーのプロファイルから取得された情報は、マップ内にある選択されたエレメントまたはフィールドへマップすることができます。マップ内に使用する情報には、テーブル内の任意のフィールド (場所、ルックアップ、またはクロスリファレンス) やパートナー キーからのデータも含まれています。

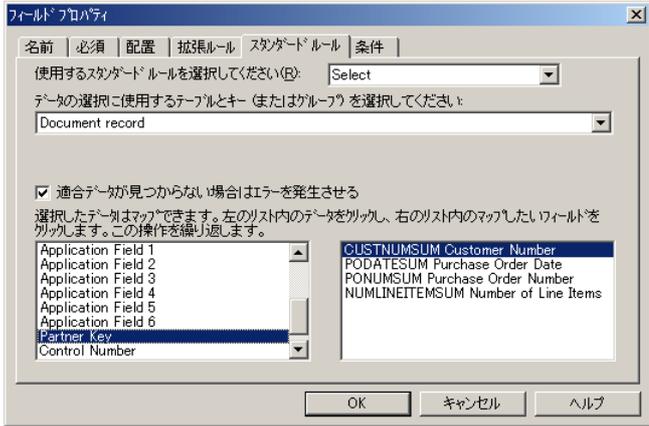
このマップで、パートナーの定義から取得した情報を使用して、マップのアプリケーション側にある [Customer Number] フィールドに設定する必要があります。[Customer Number] は各レコードのレコード キーの一部であるため、アプリケーション ファイル書式に 5 回、各レコード (CUSTNUMHDR、CUSTNUMDET、CUSTNUMDESC、CUSTNUMAC、および CUSTNUMSUM) に 1 回出現します。

パートナーのカスタマ番号は、アプリケーション ファイル書式内の各レコード キーの一部となっています。このカスタマ番号によって、発注書の送信元トレーディング パートナーが識別されます。このカスタマ番号は、既にこのパートナー用のパートナー定義の一部となっているため、パートナーの定義から各カスタマ番号フィールドへマップできます。

手順

パートナーの定義から取得されたカスタマ番号をマップするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	POSUMMARY レコード内の CUSTNUMSUM フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Select] を選択します。
4	テーブルとキーのリストで、[Document record] を選択します。
5	[エラーを発生させる] チェックボックスをオンにします。
6	左側の [マップ元] リストから [Partner Key] を選択します。このフィールドには、このパートナーの顧客番号が入ります。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	<p>右側の [マップ先] リストから [CUSTNUMSUM] を選択します。</p> <p>[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
8	<p>[OK] をクリックすると、スタンダード ルールが CUSTNUMSUM フィールドに追加されます。</p>

PODATESUM フィールド

概要

マップの EDI 側では、日付情報が DTM セグメントに格納されます。DTM セグメントには、マップのヘッダー部の日付情報が含まれています。このセグメントは複数回にわたって繰り返されます。DTM01 (日/時/期間修飾子) が "4" の場合、DTM セグメントのそうした反復には注文日/時が含まれます。注文日/時のマップ先は、各アプリケーションレコード (PODATEHDR、PODATEDET、PODATEDESC、PODATEAC、および PODATESUM) 内の PODATE フィールドでなければなりません。

DTM セグメントから適切な情報をアプリケーションヘッダーレコード内の PODATESUM フィールドにマップするには、データ型を判別して、注文日/時を抽出する必要があります。

マップの EDI 側に既に作成されたのは、非繰り返し一時記憶領域セグメントおよびエレメントです。注文日/時情報をアプリケーションファイル書式にマップするために、拡張ルールを使って DTM セグメントから注文日/時情報を抽出し、適切な一時記憶領域エレメントに移動しました。その後は、注文日/時を一時記憶領域エレメントから PODATESUM アプリケーションフィールドへ直接マップすることができます。

注文日/時の マップ方法

PODATESUM フィールドを PODATE 一時記憶領域エレメントから直接マップするには、"連結" 機能を使用します。

TEMPDATES セグメント内の PODATE 一時記憶領域エレメントは、POSUMMARY レコード内のアプリケーションフィールド PODATESUM へ連結してください。

メモ

PODATE は、PODATE レコード内の PODATEHDR へ既に連結されています。エレメントへの連結を複数持つことも可能です。

PONUMSUM フィールド

概要

パートナーから自社に送信される BGM05 エlement (ドキュメント / メッセージ番号) 用の文字が 22 文字のみであることを前に確認したため、その Element に対して許容される最大長を既に変更しました。PONUMSUM フィールドを BGM05 (ドキュメント / メッセージ番号) フィールドから直接マップするには、" 連結 " 機能を使用します。BGM05 Element が、POHEADER アプリケーションレコード内の PONUMHDR フィールドへ既にマップ (連結) されたため、この Element からの追加連結が POSUMMARY レコード内の PONUMSUM フィールドへ追加されるようになりました。

手順

ドキュメント / メッセージ番号をマップするには、BGM レコード内の BGM05 Element を、POSUMMARY レコード内のアプリケーション フィールド PONUMSUM に連結します。

NUMLINEITEMSUM フィールド

概要

マップの EDI 側では、Control の総数情報が CNT セグメントに格納されます。CNT セグメントにはすべてのコントロール値が含まれています。このセグメントは、複数回にわたって繰り返されます。CNT01 (コントロール修飾子) が "2" の場合、CNT セグメントのそうした反復には、メッセージ内のライン アイテム数が入ります。合計ライン アイテム数のマップ先は、POHEADER アプリケーションレコード内の NUMLINEITEMS フィールド、および POSUMMARY アプリケーションレコード内の NUMLINEITEMSUM フィールドでなければなりません。

CNT セグメントから適切な情報をアプリケーション サマリーレコード内の NUMLINEITEMSUM フィールドへマップするには、コントロール値のタイプを判別した後に、ライン アイテム数を抽出する必要があります。マップの EDI 側に既に作成されたのは、非繰り返し一時記憶領域セグメント (TEMPCONTROL) およびエレメント (NUMLINEITEMS) です。拡張ルールによって CNT セグメントからライン アイテムの数が抽出され、適切な一時記憶領域エレメントに移動されました。

ライン アイテムの数は、一時記憶領域エレメントから NUMLINEITEMS アプリケーションフィールドへ直接マップすることができます。NUMLINEITEMS 一時記憶領域エレメントが、POHEADER アプリケーションレコード内の NUMLINEITEMS フィールドへ既にマップ (連結) されたため、このエレメントからの追加連結が POSUMMARY レコード内の NUMLINEITEMSUM フィールドへ追加されるようになりました。

合計ライン アイテム数のマップ方法

TEMPCONTROL 一時記憶領域セグメント内の NUMLINEITEMS 一時記憶領域エレメントは、POSUMMARY レコード内のアプリケーションフィールド NUMLINEITEMSUM へ連結してください。

この最後のアプリケーションフィールドに対するマッピング操作の完了後は、各アプリケーションフィールド (ただし、PODETAIL アプリケーションレコード内の UPCCODE フィールドを除く) を表すアイコンが、赤いチェックマークで二等分されます。赤いチェックマークは、該当のフィールドに対してマップ操作が実行されたことを示します。

マップのまとめ

概要

はじめに

マッピング処理を完了するには、マップの保存、トランスレーション オブジェクトのコンパイル、Gentran:Server レポートの印刷と見直し、およびマップのテストが必要です。

マップのコンパイル方法

概要

トランスレーション オブジェクトは "コンパイル" 機能により生成されます。ユーザーが作成したマップ (PET_EORD.MAP) は "ソース マップ" であり、ソース マップがコンパイルされたときの結果は "コンパイル済みトランスレーション オブジェクト" です。

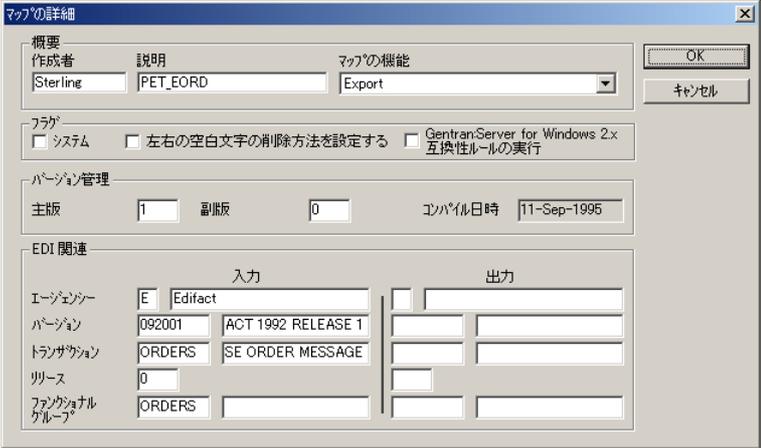
トランスレーション オブジェクトを保存後に使うには、事前に Gentran:Server for Windows システムに登録する必要があります。

手順

マップをコンパイルして、トランスレーション オブジェクトを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ファイル] メニューの [保存] を選択して、ソース マップを保存します。
2	[ファイル] メニューから [コンパイル] を選択すると、[トランスレーション オブジェクト名] ダイアログ ボックスが表示されます。  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[ファイル名] ボックスに "pet_eord.tpl" と表示されます。これはトランスレーション オブジェクトの名前で、既定の .TPL ファイル 拡張子が使用されています。トランスレーション オブジェクト (.TPL ファイル) には、マップ (.MAP ファイル) と同じファイル名を付けることをお勧めします。ファイル名を同じにして (別々のファイル拡張子で) 保存することは、ソース マップとコンパイル 済みトランスレーション オブジェクトとの関係を明白のままに保 てる点で意味があります。</p> <p>注意 ソース マップをコンパイル済みトランスレーション オブジェクト に上書きしないようにしてください。ソースマップと区別するた め、トランスレーション オブジェクト名には .TPL というファイル 拡張子を使用してください。</p>
4	<p>必要に応じて、コンパイル済みトランスレーション オブジェクト の保存先となるドライブおよびフォルダを変更します。</p> <p>注意 GENSRVNT¥RegTransObj サブフォルダへは、コンパイル済みトラ ンスレーション オブジェクトを保存しないでください。このサブ フォルダは、Gentran:Server for Windows に登録されたトランス レーション オブジェクトのコピーを保存する目的に予約されてい ます。</p>
5	<p>[保存] をクリックします。すると、マップがコンパイルされ、ト ランスレーション オブジェクトが生成されます。[コンパイル エ ラー] ダイアログ ボックスが表示されます。エラーが何も発生し なかったことを確認します (リストの下端までスクロールします)。 [OK] をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>[編集] メニューから [詳細] を選択します。 [マップの詳細] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>トランスレーション オブジェクトがコンパイルされた日付は、 [マップの詳細] ダイアログ ボックスの [コンパイル日時] ボックスに自動的に読み込まれます。 [OK] をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
7	<p>[ファイル] メニューの [保存] を選択して、ソース マップを保存します。</p> <p>メモ トランスレーション オブジェクトは、使用する前に Gentran:Server for Windows システムに登録する必要があります。</p> <p>参照 トランスレーション オブジェクトの登録の詳細については、Gentran:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。</p>

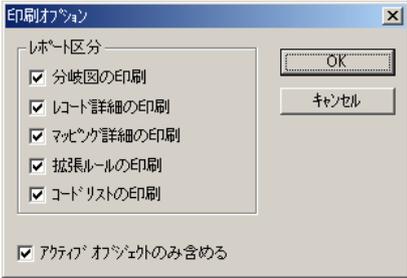
レポートの印刷方法

概要

Gentran:Server for Windows レポートでは、マップの検証および見直しのほか、修正もできます。レポートを見直してマップに誤りのあることが確認された場合は、修正を行い、マップを保存し、トランスレーションオブジェクトを再コンパイルして、もう一度レポートを印刷してください。

手順

Gentran:Server for Windows レポートを印刷するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル]メニューまたはメイン ツールバーから [印刷] を選択して、[印刷オプション] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p> 
2	<p>このダイアログ ボックスでは、既定値をそのまま使用 (すべてのオプションのチェックをオンに) します。その結果、レポートの中にセクションはすべて取り込まれますが、マップ コンポーネントはアクティブなものしか取り込まれません。[OK] をクリックすると、[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>適切なオプションを選択してから、[OK] をクリックします。</p>

トランスレーション オブジェクトのテスト

概要

マップのコンパイル、レポートの印刷および確認が済み、トランスレーション オブジェクトを **Gentran:Server** に登録し終えたら、トランスレーション オブジェクトをテストして、データが正しくトランスレーションされたことを確認してください。コンパイル済みトランスレーション オブジェクトをテストするには、パートナーからテスト データを取得して、データを処理します。受信確認処理 (該当する場合) およびネットワークとのコミュニケーションを検証してください。

手順

作成したインバウンド (エクスポート) トランスレーション オブジェクトをテストするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PET_EORD.TPL トランスレーション オブジェクトを Gentran:Server for Windows に登録します。
2	PETZONE1.PAR パートナー関係を Gentran:Server for Windows にインポートします。
3	パートナー エディタで、インバウンド関係に対して PET E 92.1 ORDERS エクスポート トランスレーション オブジェクトが選択されていることを確認します。
4	Gentran:Server for Windows の [ファイル処理] オプションを使用して、トランスレーション オブジェクトを介してデータ ファイル (PETTSTE1.INT) を処理します。データ ファイルは、 Gentran:Server for Windows がインストールされているフォルダの下の TUTORIAL サブフォルダに置かれます。データ ファイル用の既定パスは、次のとおりです。 C:\GENTSRVNT\TUTORIAL\PETTSTE1.INT
5	メッセージはトランスレーションされた後、 Gentran:Server for Windows のドキュメント内に配置されます。メッセージをエクスポートして、トランスレーションが正しく実行されたことを確認します。

参照

トランスレーション オブジェクトの登録、パートナーのインポート、インバウンド トランスレーション オブジェクトの選択、およびファイルのエクスポートの詳細については、**Gentran:Server for Windows** 『ユーザー ガイド』を参照してください。

アウトバウンド請求書 (INVOIC)

目次

- 概要..... 4**
 - ▶ はじめに 4
 - ▶ 基本操作 5
 - ▶ アプリケーション ファイル書式の分析 7
 - ▶ EDI ファイルの分析 13
 - ▶ アプリケーション ファイルと EDI ファイルの相関 17
- システム インポート マップ..... 23**
 - ▶ システム インポート マップの作成 23
 - ▶ HEADER レコードの作成方法 28
 - ▶ HEADER レコードの作成方法 30
 - ▶ キーの定義 33
 - ▶ マップのコンパイル方法 38
 - ▶ レポートの印刷方法 41
 - ▶ トランスレーション オブジェクトのテスト 42
- インポート マップの作成 43**
 - ▶ インポート マップの作成方法 43
 - ▶ EDI マップ コンポーネントのアクティブ化 48
 - ▶ リテラル定数の定義 52
 - ▶ UNS01 エレメントのマップ方法 54
 - ▶ グループと繰り返しセグメントのプロモート 55
 - ▶ EDI 区切文字の検証方法 66
- ほかのアプリケーション ファイル書式の定義 69**
 - ▶ 概要 69
 - ▶ HEADER レコードのコピー方法 70
 - ▶ HEADER スタンダード ルールの削除方法 71
 - ▶ INVBEGIN レコードの作成方法 72
 - ▶ INVCOMMENT グループの作成方法 74
 - ▶ INVCommentGroup 従属レコードの作成 75
 - ▶ INVDETAIL レコードの作成方法 78
 - ▶ INVSUMMARY レコードの作成方法 79

アプリケーション フィールドの作成	81
▶ 概要	81
▶ INVBEGIN アプリケーション フィールドの定義方法.....	85
▶ INVCOMMENT1 レコード用アプリケーション フィールドの 定義方法	88
▶ INVCOMMENT2 アプリケーション フィールドの定義方法.....	90
▶ INVDETAIL アプリケーション フィールドの定義方法.....	92
▶ INVSUMMARY アプリケーション フィールドの定義方法	94
データのマッピング	96
▶ 概要	96
▶ INVNUMBEG フィールド.....	97
▶ INVDATE フィールド	99
▶ PONUM フィールド.....	103
▶ PODATE フィールド	106
出荷 / 請求先情報のマッピング	109
▶ 概要	109
▶ VENDNAME フィールド	110
▶ SHIPTOLOC フィールド.....	113
▶ BOLNUM フィールド	115
▶ SHIPDATE フィールド	116
INVCommentGroup: INVCOMMENT1 レコード	119
▶ 概要	119
▶ INVCOMMENT1 レコード内のフィールドのマッピング	120
▶ REFNUM フィールドのマッピング方法	121
INVCommentGroup: INVCOMMENT2 レコード	123
▶ 概要	123
INVCommentGroup: INVDETAIL レコード	124
▶ 概要	124
▶ ITEMNUM フィールド	125
▶ QTYSHIP フィールド	129
▶ QTYORD フィールド.....	134
▶ UNITPRICE フィールド	136
▶ CUSTPROCEDURE フィールド	144
▶ UPCCODE フィールド.....	145
INVSUMMARY レコード	147
▶ 概要	147
▶ TOTALAMOUNT フィールド.....	148
▶ TRANSTOTAL フィールド.....	150

マップのまとめ	152
▶ 概要	152
▶ マップのコンパイル方法	153
▶ レポートの印刷方法	156
▶ トランスレーションオブジェクトのテスト	157

概要

はじめに

本章の内容

このチュートリアルでは、アプリケーション ファイルから EDIFACT 請求書 (INVOIC) へのトランスレーションに用いられるマップの作成に必要なタスクを定義します。アプリケーション ファイルから EDIFACT へのトランスレーションが済めば、トランスレーション済みファイルをトレーディング パートナーに送信する準備は完了です。

この章では、アウトバウンド請求書用マップの作成に関連する処理について説明します。具体的には、次のような処理が挙げられます。

- ▶ マッピング分析
 - ▶ 新規マップの作成
 - ▶ 定数の定義
 - ▶ グループ、セグメント、およびエレメントのアクティブ化
 - ▶ マップのアプリケーション側の定義
 - ▶ データのマップ
 - ▶ マップのまとめ
-

基本操作

概要

このチュートリアルは、完全にそのままの形で実行することが可能なように製作されています。インストールプログラムに付属している完成したマップを参照せずに、各タスクを順番に実行することをお勧めします。その後で、提供されているモデルを使用して、完成したマップを検証してください。

各タスクを順番に完了することにより、個々のマッピング技法のほか、独自のマップの作成時に活用する手法に対する論理的アプローチも習得されます。

アウトバウンド トランスレーションでは、システム インポート マップおよびインポート マップをセットアップする必要があります。一般的には、メッセージタイプごとに1つのシステム インポート マップを作成し、メッセージ送信先のパートナーごとに1つのインポート マップを作成します。

アウトバウンド マッピングの 前提条件とシナリオ

このチュートリアルの演習では、次のことを想定してください。

- ▶ ユーザーの勤務先は、各種ペット用サプライを製造する MWT Manufacturing Co. です。
- ▶ MWT Manufacturing Co. は、ペット用サプライを大手のペット用サプライ小売チェーンに直販しています。
- ▶ 大手のペット用サプライ小売店である Pet Zone は、トレーディング パートナーです。Pet Zone に注文品を出荷した後には、請求書を生成します。

請求書の生成、およびアプリケーション ファイルから Pet Zone 宛て EDI 請求書へのトランスレーションを可能にするマップを作成する必要があります。

請求書用にシステムで生成される情報を定義した既存のアプリケーション ファイルレイアウトは、自社の仕入先勘定部門から入手してあります。パートナーから送信される EDI 請求書の要件については、Pet Zone との話し合いの内容から把握してください。

(次のページへ続く)

マッピング分析

完璧なマップを作成する際に最も重要な最初のステップは、マッピング要件を分析することです。マッピング分析が完了すれば、効率的かつ論理的な方法でマップを作成するために必要なあらゆる情報が得られます。この重要なステップを省略すると、マップ作成のタスクがかなり長引いて困難になったり、見落としや手ぬかりが原因でマップが無効になったりする可能性があります。

次の表に、マッピング分析に使用されるステップをまとめます。

ステップ	操作
1	アプリケーションの書式を分析します。
2	パートナーの EDI ファイル書式を分析します。
3	アプリケーション ファイル書式と EDI ファイルを相関させます。

アプリケーション ファイル書式の分析

概要

マッピング分析では第1ステップとして、アプリケーション ファイル書式を分析します。その理由は、ユーザーが最もよく理解しているコンポーネントであると考えられるためです。アウトバウンド マップの場合、システムがメッセージを正常に生成できるよう EDI ファイルに変換する必要があるデータが、アプリケーション ファイルに格納されています。このチュートリアル用のアプリケーション ファイルには、パートナーから送信される発注書の生成に必要なあらゆる情報が格納されています。

Gentran:Server for Windows に対して、アプリケーション ファイルを定義する必要があります。自社に既存のアプリケーション ファイルがある場合は、担当者からレコード レイアウトを取得してください。自社に既存のアプリケーション ファイルレイアウトがない場合、そのレイアウトを作成するには、データを正しく処理すべきフィールドを決定した後、対象のフィールドをレコードの下に論理的にグループ化する必要があります。

システムインポート マップのアプリケーション ファイル レイアウト

このチュートリアルでは、システム インポート マップ用のアプリケーション ファイルレイアウトを次の表に示します。

フィールド名	必須/ オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
ヘッダーレコード (HEADER)。1 メッセージにつき 1 件。					
PARTNER_ID	X	Partner Identifier	String	1	9
STANDARD	X	Standard	String	1	1
VERSION	X	Version	String	6	6
TRANSACTION_SET	X	Transaction Set	String	1	6
TEST_PROD	X	Test/Production Flag	String	1	1

(次のページへ続く)

インポート マップ のアプリケーション ファイルレイアウト

このチュートリアルでは、インポート マップ用のアプリケーション ファイルレイアウトを次の表に示します。

フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
ヘッダーレコード (HEADER)。1 メッセージにつき 1 件。					
PARTNER_ID	X	Partner Identifier	String	1	9
STANDARD	X	Standard	String	1	1
VERSION	X	Version	String	6	6
TRANSACTION_SET	X	Transaction Set	String	1	6
TEST_PROD	X	Test/Production Flag	String	1	1
開始レコード (INVBEGIN)。1 メッセージにつき 1 件。					
BILLTOACCTBEG	X	Bill to Acct Number	String	1	9
DOCTYPBEG	X	Document Type	String	1	6
INVNUMBEG	X	Invoice Number	String	1	10
INVDATE	X	Invoice Date	Dt/Tm (YYMMDD)	6	6
PONUM		Purchase Order Number	String	0	20
PODATE		Purchase Order Date	Dt/Tm (YYMMDD)	6	6
VENDNAME		Vendor Name	String	0	35
VENDADD1		Vendor Address Line 1	String	0	35
VENDADD2		Vendor Address Line2	String	0	35
VENDCITY		Vendor City	String	0	35
VENDSTATE		Vendor State	String	0	2
VENDPOSTALCODE		Vendor Postal Code	String	0	9
SHIPTONAME		Ship To Name	String	0	35
SHIPTOADD1		Ship To Address Line 1	String	0	35
SHIPTOADD2		Ship To Address Line 2	String	0	35
(次のページへ続く)					

(続き) フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
SHIPTOCITY		Ship To City	String	0	35
SHIPTOSTATE		Ship To State	String	0	2
SHIPTOPOSTALCODE		Ship To Postal Code	String	0	9
SHIPTOLOC		Ship To Store Location	String	0	9
SHIPTODEPTNUM		Ship To Dept Number	String	0	4
REMITTONAME		Remit To Name	String	0	35
REMITTOADD1		Remit To Address Line 1	String	0	35
REMITTOADD2		Remit To Address Line 2	String	0	35
REMITTOCITY		Remit To City	String	0	35
REMITTOSTATE		Remit To State	String	0	2
REMITTOPOSTALCODE		Remit To Postal Code	String	0	9
BOLNUM		Bill of Lading Number	String	0	12
SHIPDATE		Invoice Date	Dt/Tm (YYMMDD)	6	6
コメント グループ (INVCommentGroup)。1 メッセージにつき 10 件。					
コメント レコード 1 (INVCOMMENT1)。1 メッセージにつき 1 件。					
BILLTOACCTCM1	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPCM1	X	Document Type	String	1	6
INVNUMCM1	X	Invoice Number	String	1	10
REFNUM	X	Reference Number	String	1	30
コメント レコード 2 (INVCOMMENT2)。1 メッセージにつき 1 件。					
BILLTOACCTCM2	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPCM2	X	Document Type	String	1	6
INVNUMCM2	X	Invoice Number	String	1	10
MESSAGETEXT	X	Message Text	String	1	232
(次のページへ続く)					

(続き) フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
明細レコード (INVDETAIL)。1 メッセージにつき最大 20 万件。					
BILLTOACCTDET	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPDET	X	Document Type	String	1	6
INVNUMDET	X	Invoice Number	String	1	10
ITEMNUM	X	Item Number (Our Item)	String	1	6
QTYSHIP	X	Quantity Shipped	Number (N0)	1	5
QTYORD	X	Quantity Ordered	Number (N0)	1	5
UNITPRICE	X	Unit Price	Number (N2)	1	7
UOM	X	Unit of Measure	String	1	4
CUSTPROCEDURE	X	Customer Product Code	String	1	10
UPCCODE	X	UPC Code	String	1	12
ITEMDESC		Item Description	String	0	30
合計レコード (INVSUMMARY)。1 メッセージにつき 1 件。					
BILLTOACCTSUM	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPESUM	X	Document Type	String	1	6
INVNUMSUM	X	Invoice Number	String	1	10
TOTALAMOUNT	X	Total Monetary Value Summary	Number (N2)	1	10
TRANSTOTAL	X	Transaction Totals	Number (N0)	1	6

(次のページへ続く)

アプリケーション ファイル定義

上の表には、Gentran:Server for Windows に対してアプリケーション ファイルを定義するために必要な最小限の情報 (名前、状態区分 (必須 / オプション)、説明、データ型、およびフィールド長) が記載されています。各レコード内には、論理的に関連するアプリケーション フィールドがグループ化されています。これらのフィールドには、システムで請求書の生成に必要とされる情報が入ります。

各レコード (適切な取引関係の選択に使用される HEADER レコードを除く) には、3 フィールドのレコード キーが含まれているため、各レコードの先頭に同じ識別情報が配置されることが保証されています。各レコードを個別に識別できるように、アプリケーション ファイル書式にはレコード キーが含まれています。この請求書のレコード キーの構成は、次のとおりです。

- ▶ 自社パートナーの請求先アカウント番号
- ▶ ドキュメントの種類
- ▶ 請求書番号

レコード / グループ 定義

レコード / グループ定義を、次の表に示します。

レコード / グループ	定義
HEADER (ヘッダー)	適切な取引関係を選択する目的に使用される 5 フィールド (パートナー識別子、スタンダード、バージョン、トランザクション セット (メッセージ) およびテスト / 本番フラグ) キーで構成されます。このヘッダーレコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 1 回ずつ出現します。
INVBEGIN (開始)	発注書番号 / 日付、ベンダー / 出荷先 / 送金先の所在地情報、発送費番号および出荷日付から構成されます。この開始レコードは必須であり、請求書ごとに 1 回ずつ出現します。
INVCommentGroup (コメント情報)	請求書に関するすべてのコメント情報 (参照番号およびメッセージ テキストを含む) をグループ化します。INVCommentGroup は、トランスレーションされた請求書ごとに最大 10 回出現します。INVCommentGroup 中の情報は、レコード別にさらに細分されます。
INVCOMMENT1 (第 1 コメント)	参照番号が入ります。第 1 コメントレコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 1 回ずつ (1 コメント行につき 1 回) 出現します。 (次のページへ続く)

(続き) レコード / グループ	定義
INVCOMMENT2 (第 2 コメント)	メッセージテキストが入ります。第 2 コメントレコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 1 回ずつ (1 コメント行につき 1 回) 出現します。
INVDETAIL (明細)	ラインアイテム番号、説明、出荷数量、注文数量、単位、価格、および製品コードから構成されます。明細レコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 20 万回 (請求済みラインアイテムごとに 1 回ずつ) 出現します。
INVSUMMARY (合計)	請求合計額およびトランザクション合計額から構成されます。この合計レコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 1 回ずつ出現します。

次の手順

これで、アプリケーションファイル書式が分析されたので、次の手順ではパートナーへ送信される請求書の要件を決定します。

EDI ファイルの分析

概要

EDI ファイルを分析するには、トレーディング パートナーへ送信すべき内容、およびパートナーから期待される受信内容を決定します。使用されるスタンダード、バージョン、およびメッセージについては、自社およびパートナーが同意する必要があります。このチュートリアルでは、EDIFACT バージョン 92.1 INVOIC を使用します。ここで重要なのは、自社パートナーが請求書に記載して送信する情報の種類、および使用される各エレメントに含まれるデータの種類を認知しておくことです。

EDI ファイルを分析する前に、使用する EDI スタンダード (1 つまたは複数) を確認しておく役立ちます。EDI スタンダードのマニュアルは、ご使用の各スタンダードおよびバージョンに対応したものを入手してください。スタンダードのマニュアルは、EDI スタンダード エージェンシーから入手することができます。

パートナーと送信内容を検討した後に、パートナーに必要なセグメントおよびエレメントを決定し、EDI スタンダードを再検討して、使用可能に (アクティブ化) するマップ コンポーネントの一覧を作成します。

(次のページへ続く)

EDI マップ コンポーネント

次の表に、必須であっても現在アクティブではないマップ コンポーネントをまとめます。

グループ		セグメント	複合 エレメント	エレメント
		BGM セグメント (既にアクティブ)		BGM05 エレメント
		DTM セグメント (既にアクティブ)	C507	DTM02 エレメント
		FTX セグメント	C108	FTX06 エレメント FTX07 エレメント
REF グループ		RFF セグメント	C506	REF02 エレメント
		DTM:2 セグメント	C507	DTM:202 エレメント
NAD グループ		NAD セグメント	C080 C059 C059	NAD10 エレメント NAD16 エレメント NAD17 エレメント NAD19 エレメント NAD20 エレメント NAD21 エレメント
		LOC セグメント	C517	LOC05 エレメント
	CTA グループ	CTA セグメント	C056	CTA03 エレメント
LIN グループ		LIN セグメント	C212 C212	LIN01 エレメント LIN03 エレメント LIN04 エレメント
		PIA セグメント	C212 C212	PIA02 エレメント PIA03 エレメント
		IMD:2 セグメント	C273	IMD:206 エレメント
		QTY:2 セグメント	C186	QTY:303 エレメント
	MOA グループ	MOA:5 セグメント	C516	MOA:502 エレメント
		CNT セグメント	C270	
MOA グループ (既にアクティブ)		MOA:10 セグメント	C516	MOA:1002 エレメント

(次のページへ続く)

EDI マップ コンポーネント (続き)

メモ

条件グループまたは条件セグメントをアクティブにすると、必須の従属セグメントおよびエレメントが自動的にアクティブになります。

推奨事項

ドキュメント名はマップごとに設定することをお勧めします。これにより、ドキュメントブラウザで、各メッセージを判別できるようになります。

ドキュメント名と 参照

ドキュメント名を設定するには、このマップによりトランスレーションされたメッセージを判別するデータが入っているエレメントまたはフィールドを選択します。エレメントまたはフィールドは、メッセージ内に1回だけ出現する、String のデータ型のものを選択することを強くお勧めします。このチュートリアルでは、ドキュメント / メッセージ名がシステム インポート ドキュメント名となっています。

また、マップごとにドキュメント参照を設定することにより、メッセージの判別が可能になります。アプリケーション インテグレーション サブシステムで参照を設定すると、このメッセージが入るドキュメントブラウザ内の RefData フィールドには、そのマップ済みフィールドからのデータが入ります。このチュートリアルでは、参照 (発注書) 番号がシステム インポート ドキュメント参照となっています。

定数の定義

これから作成するインポート マップは、アウトバウンド データの作成を用途としているため、マップの EDI (出力) 側の修飾子エレメント内の定数を定義しておく必要があります。どのエレメント内に修飾子を定義して使用すべきか、またどのエレメントを修飾子で修飾すべきかを決めることが、分析の一部となります。使用する定数は、EDI スタandard に準拠していなければなりません。

この表は、必須の修飾子エレメントを作成するために定義しておく必要のある定数の一覧です。

定数を使用した エレメント	定数 ID	定数値	被修飾 エレメント
DTM:2201	Invoice date/time	3	DTM:2202
RFF:1101 (PONUM_RFF)	Order number (purchase)	ON	RFF:1102 (PONUM_RFF)
DTM:2501 (PONUM_RFF)	Order date/time	4	DTM:2502 (PONUM_RFF)
NAD:301 (Vend_NAD)	Vendor	VN	NAD:310 (Vend_NAD)
(次のページへ続く)			

(続き) 定数を使用した エレメント	定数 ID	定数値	被修飾 エレメント
NAD:501 (RemitTo_NAD)	RemitTo	RE	NAD:510 (RemitTo_NAD)
NAD:401 (ShipTo_NAD)	ShipTo	ST	NAD:410 (ShipTo_NAD)
LOC:1301 (ShipTo_NAD)	Goods receipt place	4	LOC:1305 (ShipTo_NAD)
RFF:1201 (BOL_RFF)	Bill of lading number	BM	RFF:1202 (BOL_RFF)
DTM:2601 (BOL_RFF)	Despatch date/time	11	DTM:2602 (BOL_RFF)
FTX01	Invoice instruction	INV	FTX06/FTX07
QTY:501	Despatch quantity	12	QTY:502
QTY:601	Ordered quantity	21	QTY:602
MOA:1301	Unit price	146	MOA:1302
LIN04	Buyer's part number	BP	LIN03
PIA:203	UPC Code	UP	PIA:202
PIA:201	Additional Identification	1	PIA:202
UNS01	Summary	S	
CNT:201	Number of line items in message	2	CNT:202
CNT:301	Total quantity	1	CNT:302
MOA:1401	Total amount	128	MOA:1402

次の手順

EDI ファイルおよびアプリケーション ファイル書式の分析完了後は、2つのコンポーネントを相関させることが、マップ分析での最終ステップとなります。

アプリケーション ファイルと EDI ファイルの相関

概要

アウトバウンド データをトランスレーションするには、インポート マップおよびシステム インポート マップをビルドする必要があります。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、システム インポート マップを使用して、どのインポート マップを使用すべきかが決定されます。システム インポート マップは、トランスレータがパートナー関係を特定するために使用するキーを作成します。システム インポート マップの機能は、適切なパートナー関係の識別のみであり、データのマップは行いません。

システム インポート マップのヘッダー レコード内にキーをビルドする場合は、次の 2 つのメソッドのうちどちらか 1 つを使用できます。

- ▶ 5 フィールド (TRADACOMS スタンドアードの場合は 6 フィールド) キー
- ▶ 3 フィールド キー

このチュートリアルで推奨し例証している手法では、ヘッダー レコード内の EDI 固有フィールドとして次の 6 種類が必須とされています。

- ▶ パートナー キー
- ▶ スタンドアード
- ▶ バージョン
- ▶ メッセージ
- ▶ リリース (TRADACOMS の場合のみ)
- ▶ テスト / 本番状態

これら 6 つのフィールドの組み合わせにより、適切なパートナー関係を特定する一意のキーが指定されます。この手法は柔軟性があります。この理由から、この手法を使用することを推奨します。通常この方法は、自社アプリケーションを最初から定義し、ヘッダー レコードにまだ作成していない EDI 固有フィールドを単純に追加する場合に使用します。

3 フィールド キーの手法は容易にビルドできます。なぜなら、ヘッダー レコードに必要とされるのはパートナー キー、アプリケーション ID、およびアプリケーションのエイリアス値のみであるためです。ここで注意すべき点は、ブランクの文字列がアプリケーション ID フィールドおよびアプリケーション エイリアス値フィールドでは有効な値となっていることです。これら 3 つのフィールドの組み合わせにより、適切なパートナー関係を特定する一意のキーが指定されます。この手法は、3 フィールドのみの組み合わせによりキーがビルドされるため、5 フィールド キーの手法ほどの柔軟はありません。レガシー (既存の) アプリケーションの定義を使用する場合、しかも EDI 固有の情報を追加したくないときに 3 フィールド キーの手法を使用するのが一般的です。

(次のページへ続く)

概要 (続き)

アプリケーション ファイルを EDI ファイルと整合させるには、各アプリケーション フィールドを EDI ファイル内にある対応するエレメントで判別して、その各フィールドのマッピング方法を選択する必要があります。エレメントに情報をマップする場合は、連結、拡張ルール、またはスタンダード ルールのいずれかを使用することも、それら 3 つすべてを組み合わせることもできます。

連結 (簡易マッピング) を使用すると、マップの入力側にあるフィールドまたはエレメントを、マップの出力側にあるフィールドまたはエレメントにマップすることができます。2 つのマップ コンポーネント (フィールド) 間の連結は、2 つのフィールドをつなぐ線として表示されます。スタンダード ルールを使用すると、拡張ルールほど複雑ではないものの、連結より高度なマッピング機能を実行できます。拡張ルールを使用すると、ユーザーが **Gentran:Server for Windows** 専用のプログラミング言語を使って、ほとんどすべての必要なマッピング操作を実行することができます。

複数回にわたって繰り返す一部のグループおよびセグメントをプロモートして、グループまたは繰り返しセグメントの反復 (インスタンス) を 1 つ抽出する必要があります。この抽出を行わないと、複数のアプリケーション フィールドを同じセグメントまたはグループにマップできません。

推奨事項

アプリケーション ファイルのフィールドごとに、どのマッピング操作が必要かを定めることをお勧めします。

**システムインポート
マップの操作**

次の表に、このチュートリアル のシステム インポート マップに必要とされる (アプリケーション フィールド別) マッピング操作をまとめます。

フィールド名	説明	マッピング操作
ヘッダー レコード (HEADER)。1 メッセージにつき 1 件。		
PARTNER_ID	Partner Identifier	スタンダード ルールを選択して、パートナー レコード内の EDI コード (EDI コード別パートナー) と突き合わせます。
STANDARD	標準	ドキュメント レコード上の [エージェンシー] フィールドが更新されるように、スタンダード ルールを更新します。
VERSION	バージョン	ドキュメント レコード上の [バージョン] フィールドが更新されるように、スタンダード ルールを更新します。
(次のページへ続く)		

フィールド名	説明	マッピング操作
TRANSACTION_SET	Transaction Set	ドキュメントレコード上の [トランザクションセット ID] フィールドが更新されるように、スタンダードルールを更新します。
TEST_PROD	Test/Production Flag	ドキュメントレコード上の [テストモード] フィールドが更新されるように、スタンダードルールを更新します。

**インポート マップ
の操作**

次の表に、このチュートリアルでのインポート マップに必要なとされる (アプリケーションフィールド別) マッピング操作をまとめます。

フィールド名	説明	マッピング操作
ヘッダーレコード (HEADER)。1 メッセージにつき 1 件。		
PARTNER_ID	Partner Identifier	マッピング不要
STANDARD	Standard	マッピング不要
VERSION	Version	マッピング不要
TRANSACTION_SET	Transaction Set	マッピング不要
TEST_PROD	Test/Production Flag	マッピング不要
開始レコード (INVBEGIN)。1 メッセージにつき 1 件。		
BILLTOACCTBEG	Bill to Acct Number	マッピング不要
DOCTYPBEG	Document Type	マッピング不要
INVNUMBEG	Invoice Number	BGM05 および UNS01 へ連結
INVDATA	Invoice Date	"3" (Invoice Date/Time) コードを使用して、DTM:2202 へ連結
PONUM	Purchase Order Number	"ON" (Order Number) コードを使用して、RFF:1102 へ連結
PODATE	Purchase Order Date	"4" (Order Date/Time) コードを使用して、DTM:2502 へ連結
(次のページへ続く)		

(続き) フィールド名	説明	マッピング操作
VENDNAME	Vendor Name	(Vend_NAD) NAD:310 へ連結
VENDADD1	Vendor Address Line 1	(Vend_NAD) NAD:316 へ連結
VENDADD2	Vendor Address Line2	(Vend_NAD) NAD:317 へ連結
VENDCITY	Vendor City	(Vend_NAD) NAD:319 へ連結
VENDSTATE	Vendor State, Province, or Country	(Vend_NAD) NAD:320 へ連結
VENDPOSTALCODE	Vendor Postal Code	(Vend_NAD) NAD:321 へ連結
SHIPTONAME	Ship To Name	(ShipTo_NAD) NAD:410 へ連結
SHIPTOADD1	Ship To Address Line 1	(ShipTo_NAD) NAD:416 へ連結
SHIPTOADD2	Ship To Address Line 2	(ShipTo_NAD) NAD:417 へ連結
SHIPTOCITY	Ship To City	(ShipTo_NAD) NAD:419 へ連結
SHIPTOSTATE	Ship To State, Province, or Country	(ShipTo_NAD) NAD:420 へ連結
SHIPTOPOSTALCODE	Ship To Postal Code	(ShipTo_NAD) NAD:421 へ連結
SHIPTOLOC	Ship To Store Location	"4" (Goods Receipt Place) コードを使用して、(ShipTo_NAD) LOC:1305 へ連結
SHIPTODEPTNUM	Ship To Dept Number	(ShipTo_NAD) CTA:603 へ連結
REMITTONAME	Remit To Name	(RemitTo_NAD) NAD:510 へ連結
REMITTOADD1	Remit To Address Line 1	(RemitTo_NAD) NAD:516 へ連結
REMITTOADD2	Remit To Address Line 2	(RemitTo_NAD) NAD:517 へ連結
REMITTOCITY	Remit To City	(RemitTo_NAD) NAD:519 へ連結
(次のページへ続く)		

(続き) フィールド名	説明	マッピング操作
REMITTOSTATE	Remit To State, Province, or Country	(RemitTo_NAD) NAD:520 へ 連結
REMITTOPOSTALCODE	Remit To Postal Code	(RemitTo_NAD) NAD:521 へ 連結
BOLNUM	Bill of Lading Number	"BM" (Bill of Lading Number) コードを使用して、RFF:1202 へ連結
SHIPDATE	Ship Date	"11" (Despatch Date/Time) コー ドを使用して、DTM:2602 へ 連結
コメント グループ (INVCommentGroup)。1 メッセージにつき 10 件。		
コメント レコード 1 (INVCOMMENT1)。1 メッセージにつき 1 件。		
BILLTOACCTCM1	Bill To Acct Number	マッピング不要
DOCTYPCM1	Document Type	マッピング不要
INVNUMCM1	Invoice Number	マッピング不要
REFNUM	Reference Number	"INV" (Invoice Instruction) コー ドを使用して、FTX06 へ連結
コメント レコード 2 (INVCOMMENT2)。1 メッセージにつき 1 件。		
BILLTOACCTCM2	Bill To Acct Number	マッピング不要
DOCTYPCM2	Document Type	マッピング不要
INVNUMCM2	Invoice Number	マッピング不要
MESSAGETEST	Message Text	FTX07 へ連結
明細レコード (INVDETAIL)。1 メッセージにつき最大 20 万件。		
BILLTOACCT	Bill To Acct Number	マッピング不要
DOCTYPDET	Document Type	マッピング不要
INVNUMDET	Invoice Number	マッピング不要
ITEMNUM	Item Number (Our Item)	LIN01 へ連結
QTYSHIP	Quantity Shipped	"12" (Despatch Quantity) コー ドを使用して、QTY:502 へ連結
(次のページへ続く)		

(続き) フィールド名	説明	マッピング操作
QTYORD	Quantity Ordered	"21" (Ordered Quantity) コードを使用して、QTY:602 へ連結
UNITPRICE	Unit Price	"146" (Unit Price) コードを使用して、MOA:1302 へ連結
UOM	Unit of Measure	QTY:503 および QTY:603 へ連結
CUSTPROCEDURE	Customer Product Code	"BP" (Buyer's Part Number) コードを使用して、LIN03 へ連結
UPCCODE	UPC Code	"UP" (UPC Code) コードおよび "1" (Additional Information) コードを使用して、PIA:202 へ連結
ITEMDESC	Item Description	IMD:306 へ連結
合計レコード (INVSUMMARY)。1 メッセージにつき 1 件。		
BILLTOACCTSUM	Bill To Acct Number	マッピング不要
DOCTYPESUM	Document Type	マッピング不要
INVNUMSUM	Invoice Number	マッピング不要
TOTALAMOUNT	Total Monetary Value Summary	"128" (Total Amount) コードを使用して、MOA:1402 へ連結
TRANSTOTAL	Transaction Totals	"2" (Number of Line Items in Message) コードを使用して、CNT:202 へ連結

次の手順

アプリケーション ファイルと EDI ファイルを紙上で相関させた後は、システム インポート マップおよびインポート マップの作成を開始することができます。

システム インポート マップ

システム インポート マップの作成

概要

アウトバウンド トランスレーションでは、システム インポート マップおよびインポート マップをセットアップする必要があります。一般的には、メッセージ送信先のパートナーごとに1つのシステム インポート マップを作成し、メッセージタイプごとに1つのインポート マップを作成します。

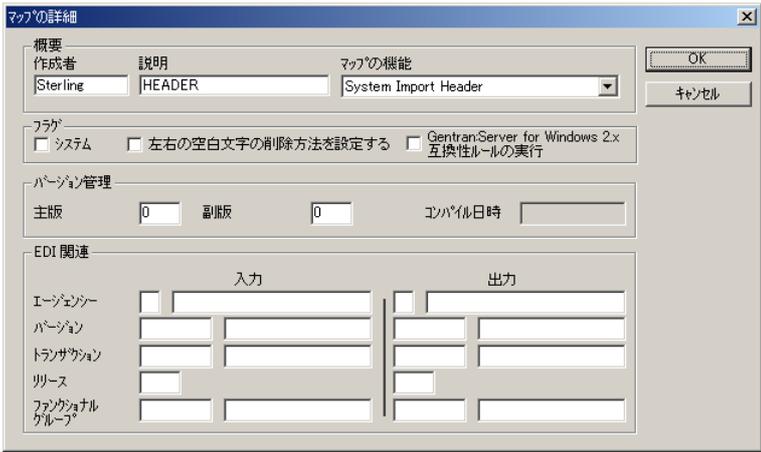
システムはシステム インポート マップを使用してメッセージ用のパートナー関係 (フラット ファイル定義) を検索し、データのトランスレーションに使用されるインポート マップを判別します。システム インポート マップは、トランスレータがパートナー関係を特定するために使用するキーを作成します。

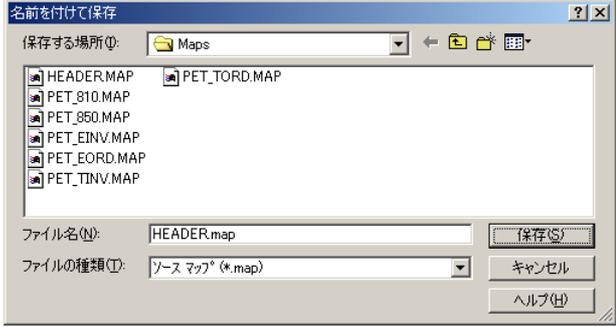
(次のページへ続く)

手順

システム インポート マップを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル]メニューの[新規作成]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [新規マップウィザード]が表示されます。</p>
2	<p>次のいくつかの質問に答えた後、[次へ]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [作成するマップの種類を指定してください。] [System Import Header]を選択します。 ▶ [マップの名前を指定してください。] マップの一意名として「HEADER」を入力します。自動的に .MAP 拡張子が追加されます。 ▶ [ユーザー名を入力してください。] ユーザー名がシステムから確認要求された名前とは異なる場合に入力します。 <p>システムからの応答 [新規マップウィザード - 入力書式]ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>メモ マップの入力側の書式設定を完了する必要があります。入力側の書式とは、Gentran:Server システムによってトランスレーションされるデータの書式です。</p>
3	<p>[この構文を使用して新しいデータ形式を作成する]リストから[固定長]オプションを選択し、[次へ]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新規マップウィザード - 出力書式]ダイアログボックスが表示されます。</p>
4	<p>[この構文を使用して新しいデータ形式を作成する]リストから[固定長]オプションを選択し、[次へ]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新規マップウィザード]が表示されます。</p>
5	<p>[完了]をクリックすると、新しいマップが作成されます(この処理に想定される所要時間は2～3秒です)。</p> <p>システムからの応答 アプリケーション インテグレーションのウィンドウに新しいマップが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>[編集] メニューから [詳細] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [マップの詳細] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
7	<p>[説明] ボックスに「System Import HDR」と入力します。システム インポート マップについては、「System Import*」と入力することをお勧めします。ここで、「*」はこのシステム インポート マップ用の識別子です。システム構成プログラムの [インポート] タブで、インポート処理でトランスレーションを開始するために使用されるシステム インポート トランスレーション オブジェクトを指定します。</p> <p>参照 システム管理者に要求されるシステム構成プログラム修正の方法の詳細については、『管理 ガイド』を参照してください。</p>
8	<p>[主版] フィールドおよび [副版] フィールドにデータを入力して、このトランスレーション オブジェクトのバージョン番号を指定します。[主版] フィールドには、バージョン番号として「1」を入力します。[副版] フィールドでは、「0」をリリース番号としてそのまま使用します。</p> <p>メモ マップにメジャーな変更を加えた場合、次の実数に対するバージョンが (たとえば、2.0、3.0 のように) 増分されます。マップにマイナーな変更を加えた場合、パーセントポイントに対するバージョンが (たとえば、2.1、2.2 のように) 増分されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
9	[OK] をクリックすると、マップの詳細が保存されます。
10	<p>[ファイル] メニューから [保存] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
11	<p>[ファイル名] ボックスに "Header.map" が入っていることを確認します。</p> <p>メモ マップを初めて保存するとき、または "名前を付けて保存" 機能を使用してマップのコピーを別の名前で保存するときは、フィールド名をマップに割り当ててください。マップを正しく定義するために、マップの名前に一意の文字 (1 ~ 8 文字) を使用する必要があります。既定のファイル拡張子は ".MAP" です。この拡張子を使用することにより、マップ ファイルが他の種類のファイル (たとえば、トランスレーション オブジェクト) と区別されます。Gentran:Server for Windows の命名規則としては、次のものが挙げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ソースマップ (Gentran:Server for Windows で作成されたマップ) に名前を付ける際には、(たとえば、HEADER.MAP のように) ファイル拡張子 ".MAP" を使用する必要があります。 ▶ コンパイルされたトランスレーション オブジェクト (ソースマップをコンパイルした結果としてのトランスレーション オブジェクト) に名前を付ける際には、ソースマップに割り当てられたものと同じファイル名を使用しますが、(たとえば、HEADER.TPL のように) ファイル拡張子 ".TPL" を使用する必要があります。 <p>推奨事項 上記の命名規則を使用して、ソース マップおよびコンパイル済みトランスレーション オブジェクトを他の種類のファイルと区別することをお勧めします。また、ソース マップと、ソース マップからコンパイルされたトランスレーション オブジェクトに同じファイル名を使用 (ただし、異なるファイル拡張子を付ける) ことをお勧めします。</p> <p>注意 コンパイルされるトランスレーション オブジェクトで、ソースマップを上書きしないよう十分に注意してください。ソースマップと区別するため、トランスレーション オブジェクト名には .TPL というファイル拡張子を使用してください。</p>
12	<p>[保存] をクリックすると、マップが保存されます。</p> <p>メモ このチュートリアル各セクションを完了した後、またはマップに何らかの変更を加えた場合は、[ファイル] メニューから [保存] を選択してマップを保存する必要があります。</p>

次の手順

システム インポート マップ作成後は、システム インポート マップ用のヘッダーレコードを定義する必要があります。このチュートリアルでは、6 フィールドキーを使用してください。

HEADER レコードの作成方法

概要

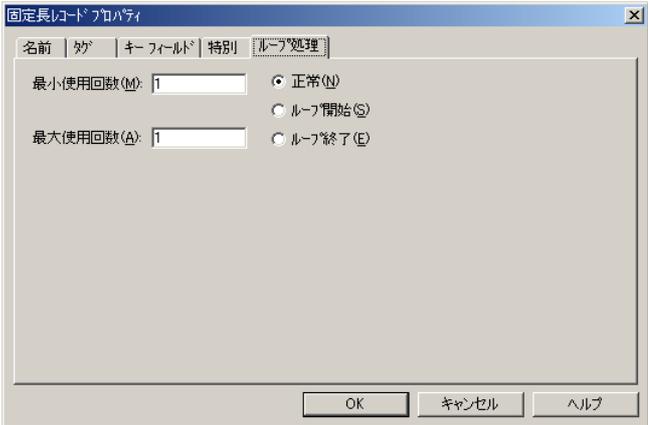
ヘッダーレコードは、ユーザーがシステム インポート マップ用に定義する唯一のレコードです。ヘッダーレコードは、マップの入力側にあるアイコンに從属しています。

HEADER (ヘッダー)レコードには、システム インポート マップのキーを構成する 5 フィールドが含まれています。HEADER レコードは必須であり、1 回のみ出現します。

手順

HEADER レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	マップの入力側にある固定長ファイルアイコンを反転表示します。
2	<p>[編集]メニューから[配下に作成]>[レコード]を選択します。 [固定長レコードプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。</p> 
3	<p>[名前]ボックスに、レコード識別コードとして「HEADER」を入力します。</p> <p>注意 [名前]ボックスには、スペースやダッシュ (-) を使用できません。語の区切りには、アンダースコア () を使用します。</p>
4	<p>[説明]ボックスに「Header Record」と入力します。このボックスには、類似するレコードどうしを判別するための短い説明を入力します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	[タグ] タブを選択します。
6	<p>[タグ] ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「HDR」を入力します。レコードは、次の構文によってシステムに認識されます。</p> <pre><TAG>[Field_1][Field_2]</pre> <p>各レコード用のレコード TAG によって、システムにレコードが認識されるため、マッピング要件の判別が可能になります。</p> <p>メモ レコード タグを明示的に含める目的から、フィールドを定義する代わりに [固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスで、アウトバウンド マップ用レコード タグを定義する必要があります。</p>
7	[配置] ボックスで、データ レコード内にあるタグの開始列位置として、既定値 "1" をそのまま使用します。
8	[ループ処理] タブを選択します。
9	<p>[最小使用回数] ボックスに「1」を入力すると、ヘッダーレコードが必須になります。この数は、最小限必要なレコード繰り返し回数です。</p> <p>メモ [最小使用回数] ボックスに "0" (ゼロ) が入ると、レコードは条件付きになります。[最小使用回数] ボックスに "1" 以上の値が入ると、レコードは必須になります。</p> <p>この時点で、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
10	[OK] をクリックすると、HEADER レコードが作成されます。

HEADER レコードの作成方法

概要

システム インポート キーの構築に適した手法を使用するには、ヘッダーレコード用に少なくとも 5 つのフィールド (パートナー キー、標準、バージョン、トランザクション、およびテスト / 本番状態) を定義する必要があります。これらのフィールドは、任意の順序または配列にする必要はありませんが、必ずヘッダーレコードの一部にしてください。

ヘッダーレコードおよびフィールドを定義した後は、トランスレータがパートナー関係の検索に使用するキーを定義するためのマッピング操作をセットアップする必要があります。

次の表に、ユーザーが作成する必要があるフィールドをまとめます。

フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
ヘッダーレコード (HEADER)。1 メッセージにつき 1 件。					
PARTNER_ID	X	Partner Identifier	String	1	9
STANDARD	X	Standard	String	1	1
VERSION	X	Version	String	6	6
TRANSACTION_SET	X	Transaction Set	String	1	6
TEST_PROD	X	Test/Production Flag	String	1	1

(次のページへ続く)

手順

HEADER レコード用のフィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	HEADER レコードを右クリックし、ショートカット メニューから [フィールドの編集] を選択して、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドは、レコード内の先頭フィールドとなります。[新規作成] をクリックします。新しいフィールドが配置される [フィールド] セクションに、ハイライト バーが表示されます。[フィールドの詳細] セクションのフィールド値は、必須です。
3	[名前] ボックスに「PARTNER_ID」と入力します。この入力値は、HEADER レコード内の先頭フィールドの名前です。
4	[必須] チェックボックスをクリックすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。システム インポート マップでは、キー内の各フィールドが必須です。
5	[説明] ボックスに「Partner Identifier」と入力します。
6	[データ型] リストから [String] を選択します。
7	[開始位置] ボックスに「4」と入力します。
8	[最小長] ボックスに、フィールドの最小長として「1」を入力します。
9	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「9」を入力します。
10	フィールドを追加し、そのフィールドの後ろに配置される次のフィールドを作成する場合は、Enter を押します。そのフィールドの下部に、ブランクの値を持つ新しいフィールドが配置されます。この新しいフィールドは、ユーザーがいつでも識別できる状態です。
11	3 - 30 ページに掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。 メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
12	<p>最終フィールドが追加された後、[自動配置] をクリックすると、そのフィールドがレコード内に自動的に配置されます。この結果、各フィールドを前にあるフィールドのすぐ後ろに配置し [最大長] ボックス内に指定された長さにするを基準にして、レコード内の各フィールド開始位置が計算されます。フィールドをこれから整列する旨の警告メッセージに、[はい] をクリックして応答します。</p> <p>注意 " 自動配置 " 機能が有効になるのは、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスでレコード タグを定義して、レコード内の全フィールドを各フィールドの出現順序で定義した場合だけ (このチュートリアルで演習したとおり) であることに注意してください。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
13	[OK] をクリックすると、フィールドが HEADER レコードに追加されます。

キーの定義

概要

ヘッダーレコードおよびフィールドを定義した後は、トランスレータがパートナー関係の検索に使用するキーを定義するためのマッピング操作をセットアップすることができます。

パートナーキーの定義方法

パートナーキーを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	HEADERレコードをダブルクリックすると、先ほど作成したフィールドが表示されます。
2	PARTNER_IDフィールドをダブルクリックすると、[フィールドプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3	[スタンダードルール]タブを選択します。
4	[スタンダードルール]リストから[Select]を選択します。
5	<p>テーブルリストから [Partner by EDI Code] ([Partner by Alternate code] または [Partner by Partner Key] を選択することも可能) を選択し、パートナーデータベース内の指示されたパートナーキーを検索して、このフィールドを更新します。</p> <p>[スタンダードルール]タブの表示が、下図のようになります。</p> 
6	[OK] をクリックして、スタンダードルールをパートナーキーフィールドに追加します。

(次のページへ続く)

[スタンダード] フィールドの 定義方法

EDI スタンダード フィールドを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタンダード] フィールドをダブルクリックすると、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Update] を選択します。
4	[テーブル] リストから [Document record] を選択します。すると、Gentran:Server for Windows ドキュメント用トラッキング データベース内にデータのアイテムを保存する必要があることが指定されます。
5	[列] リストから [Agency] を選択します。すると、システム バッファ内の [agency (standard)] フィールドを更新対象とすることが指定されます。 [スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。
	
6	[OK] をクリックして、スタンダード ルールをスタンダード フィールドに追加します。

(次のページへ続く)

[バージョン]
フィールドの
定義方法

バージョンを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[バージョン]フィールドをダブルクリックすると、[フィールドプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2	[スタンダードルール]タブを選択します。
3	[スタンダードルール]リストから[Update]を選択します。
4	[テーブル]リストから[Document record]を選択します。
5	<p>[列]リストから[Version]を選択します。すると、システムバッファ内の[standard version]フィールドを更新対象とすることが指定されます。</p> <p>[スタンダードルール]タブの表示が、下図のようになります。</p> 
6	[OK]をクリックして、スタンダードルールをバージョンフィールドに追加します。

(次のページへ続く)

**[トランザクション]
フィールドの
定義方法**

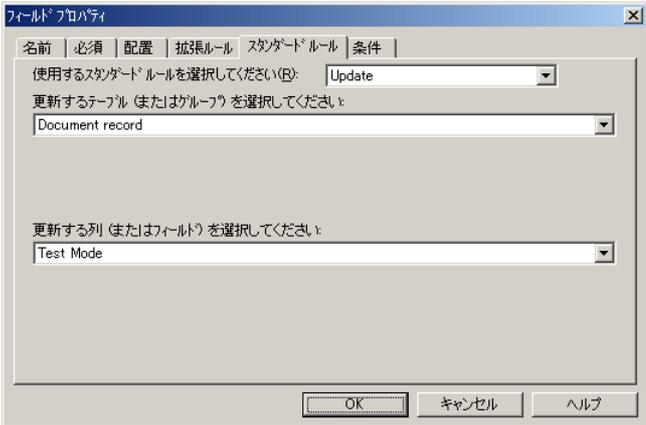
トランザクション セット (メッセージ) を定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[トランザクション セット] フィールドをダブルクリックすると、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Update] を選択します。
4	[テーブル] リストから [Document record] を選択します。
5	<p>[列] リストから [Transaction Set ID] を選択します。すると、システム バッファ内の [トランザクション セット] フィールドを更新対象とすることが指定されます。</p> <p>[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
6	[OK] をクリックして、スタンダード ルールをトランザクション セット フィールドに追加します。

(次のページへ続く)

**[テスト / 本番]
フィールドの
定義方法**

テストまたは本番状態フィールドを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[テスト / 本番] フィールドをダブルクリックすると、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Update] を選択します。
4	[テーブル] リストから [Document record] を選択します。
5	<p>[列] リストから [Test Mode] を選択します。すると、システムバッファ内の [リリース] フィールドを更新対象とすることが指定されます。</p> <p>[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
6	[OK] をクリックすると、スタンダード ルールがテスト / 本番状態フィールドに追加されます。

マップのコンパイル方法

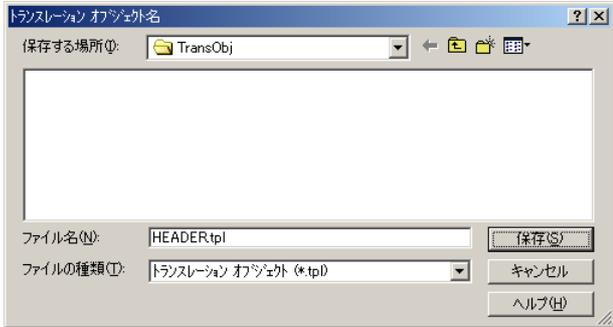
概要

トランスレーション オブジェクトは "コンパイル" 機能により生成されます。ユーザーが作成したマップ (HEADER.MAP) は "ソース マップ" であり、ソースマップがコンパイルされたときの結果は "コンパイル済みトランスレーション オブジェクト" です。

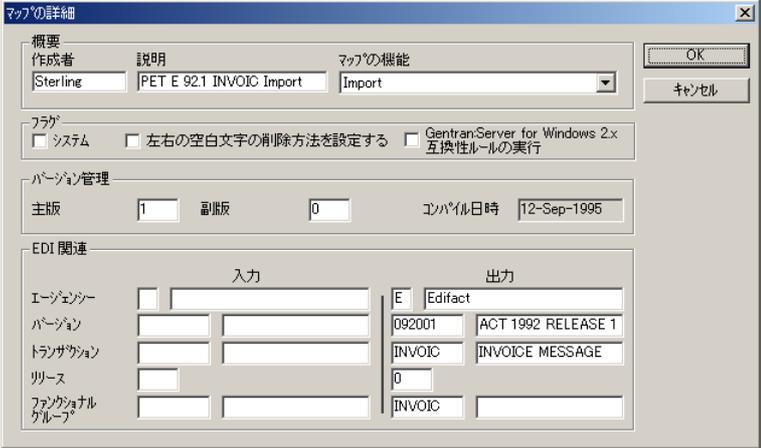
トランスレーション オブジェクトを保存後に使うには、事前に Gentran:Server for Windows に登録する必要があります。

手順

マップをコンパイルして、トランスレーション オブジェクトを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ファイル] メニューの [保存] を選択して、ソース マップを保存します。
2	<p>[ファイル] メニューから [コンパイル] を選択すると、[トランスレーション オブジェクト名] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[ファイル名] ボックスに "header.tpl" が自動的に入ります。これは、既定の .TPL ファイル拡張子を使用したトランスレーションオブジェクトの名前であり、このマニュアルで推奨しているとおり、マップ (.MAP ファイル) と同じファイル名をトランスレーションオブジェクト (.TPL ファイル) に付けたものです。ファイル名を同じにして (別々のファイル拡張子で) 保存することは、ソースマップとコンパイル済みトランスレーションオブジェクトとの関係が明白のままに保たれることを意味します。</p> <p>注意 ソースマップをコンパイル済みトランスレーションオブジェクトに上書きしないようにしてください。ソースマップと区別するため、トランスレーションオブジェクト名には .TPL というファイル拡張子を使用してください。</p>
4	必要に応じて、コンパイル済みトランスレーションオブジェクトの保存先となるドライブおよびフォルダを変更します。
5	<p>[保存] をクリックします。すると、マップがコンパイルされ、トランスレーションオブジェクトが生成されます。[コンパイルエラー] ダイアログボックスが表示されます。エラーが発生しなかったことを確認し、[OK] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>[編集] メニューから [詳細] を選択します。 [マップの詳細] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>トランスレーション オブジェクトがコンパイルされた日付は、 [マップの詳細] ダイアログ ボックスの [コンパイル日時] ボックスに自動的に読み込まれます。 [キャンセル] をクリックすると、ダイアログ ボックスが終了します。</p>
7	<p>[ファイル] メニューの [保存] を選択して、ソース マップを保存します。</p> <p>メモ トランスレーション オブジェクトは、使用する前に Gentran:Server for Windows システムに登録する必要があります。</p> <p>参照 トランスレーション オブジェクトの登録の詳細については、Gentran:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。</p>

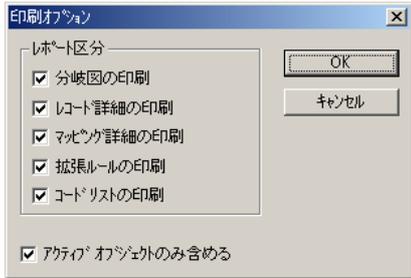
レポートの印刷方法

概要

Gentran:Server for Windows レポートでは、マップの検証および見直しのほか、必要に応じて修正もできます。レポートを見直してマップに誤りのあることが確認された場合は、修正を行い、マップを保存し、トランスレーションオブジェクトを再コンパイルして、もう一度レポートを印刷してください。

手順

Gentran:Server for Windows レポートを印刷するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル]メニューから[印刷]を選択して、[印刷オプション]ダイアログボックスにアクセスします。</p> 
2	<p>このダイアログボックスでは、既定値をそのまま使用 (すべてのオプションのチェックをオンに) します。その結果、レポートの中にセクションはすべて取り込まれますが、マップコンポーネントはアクティブなものだけが取り込まれます。[OK]をクリックすると、[印刷]ダイアログボックスが表示されます。</p>
3	<p>適切なオプションを選択します。[OK]をクリックします。[セットアップ]をクリックして、特定のプリンタ、用紙の向き、用紙サイズ、および給紙元を選択します。[印刷設定]ダイアログボックスが表示されます。</p>

トランスレーション オブジェクトのテスト

概要

マップのコンパイル、レポートの印刷および確認が済み、トランスレーション オブジェクトを **Gentran:Server** に登録し終えたら、トランスレーション オブジェクトをテストして、データが正しくトランスレーションされたことを確認してください。

参照

インポート マップをテストする際には、システム インポート トランスレーション オブジェクト (HEADER.TPL) をテストしてください (3 - 157 ページを参照)。

インポート マップの作成

インポート マップの作成方法

はじめに

新しいマップを作成するときの最初のタスクは、マップの入力側および出力側に使用される書式を定義することです。この例では、インポート マップを作成することにより、Gentran:Server for Windows を使用して、アプリケーション ファイルを自社からパートナーに送信する請求書にトランスレーションできるようにします。マップの入力側には、アプリケーション ファイルを反映させる必要があります。マップの出力側には、自社からパートナーに送信する EDIFACT 92.1 請求書 (INVOIC) を反映させる必要があります。システムに対して INVOIC メッセージをユーザー自身が定義する代わりに、Gentran:Server for Windows でシステム上のスタンダード データベースを使用して、スタンダードに従って請求書を作成できます。

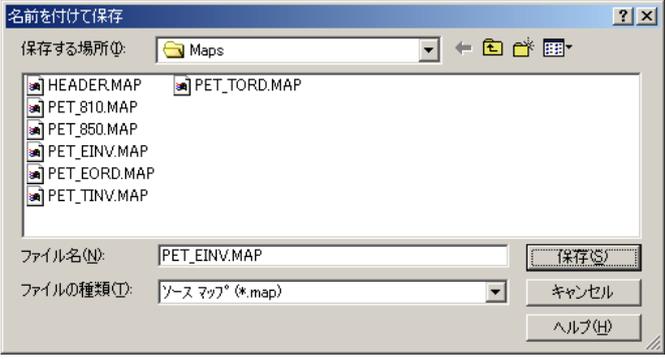
手順

アウトバウンド請求書のインポート マップを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル] メニューの [新規作成] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード] が表示されます。</p>
2	<p>次のいくつかの質問に答えた後、[次へ] をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [作成するマップの種類を指定してください。] [Import] を選択します。 ▶ [マップの名前を指定してください。] マップの一意名として「PET_EINV」を入力します。自動的に .MAP 拡張子が追加されます。 ▶ [ユーザー名を入力してください。] ユーザー名がシステムから確認要求された名前とは異なる場合に入力します。 <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード - 入力書式] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ マップの入力側の書式設定を完了する必要があります。入力側の書式とは、Gentran:Server システムによってトランスレーションされるデータの書式です。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[この構文を使用して新しい de-ta 形式を作成する] リストから [Positional] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード - 出力書式] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[この構文を使用して新しいデータ形式を作成する] リストから [Delimited EDI] を選択し、[カスタマイズ] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新規 Delimited EDI ウィザード] が表示されます。</p>
5	[次へ] をクリックします。
6	<p>[ODBC データ ソース] リストから [Gentran:Server Standards] (EDI スタンダード データ ソースを別の名前で定義した場合はその名前) を選択して、[次へ] をクリックします。</p>
7	<p>以下のように選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. [[E] Edifact] スタンダード エージェンシーを選択します。 b. [[092001] EDIFACT Release 1 (92.1)] バージョンを選択します。 c. [[[INVOIC] INVOICE MESSAGE]] トランザクション セットを選択します。 <p>[次へ] をクリックします。</p>
8	<p>[完了] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択されたトランザクション セットが読み込まれ、[新規マップ ウィザード - 出力書式] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
9	<p>[次へ] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード] が表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
10	<p>[完了]をクリックすると、新しいマップが作成されます(この処理に想定される所要時間は2～3秒です)。</p> <p>システムからの応答 アプリケーション インテグレーションのウィンドウに新しいマップが表示されます。</p> <p>メモ 新しいマップの作成および保存が完了したら、マップの入力側と出力側を定義する必要があります。定義の手順は、マップの種類がインポート、システム インポート、エクスポート、またはターナラウンドのいずれであるかによって異なります。</p>
11	<p>[編集]メニューから[詳細]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [マップの詳細]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
12	<p>[説明]フィールドに「PET E 92.1 INVOIC Import」と入力します。</p>
13	<p>[主版]フィールドおよび[副版]フィールドにデータを入力して、このトランスレーション オブジェクトのバージョン番号を指定します。[主版]フィールドには、バージョン番号として「1」を入力します。[副版]フィールドでは「0」をリリース番号としてそのまま使用します。</p> <p>メモ マップにメジャーな変更を加えた場合、次の実数に対するバージョンが(たとえば、2.0、3.0のように)増分されます。マップにマイナーな変更を加えた場合、パーセント ポイントに対するバージョンが(たとえば、2.1、2.2のように)増分されます。</p>
14	<p>[OK]をクリックすると、マップの詳細が保存されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
15	<p>[ファイル]メニューから [保存] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
16	<p>[ファイル名] ボックスに "pet_einv.map" が入っていることを確認します。</p> <p>メモ マップを初めて保存するとき、または "名前を付けて保存" 機能を使用してマップのコピーを別の名前で保存するときは、フィールド名をマップに割り当ててください。マップを正しく定義するために、マップの名前に一意の文字 (1 ~ 8 文字) を使用する必要があります。既定のファイル拡張子は ".MAP" です。この拡張子を使用することにより、マップ ファイルが他の種類のファイル (たとえば、トランスレーション オブジェクト) と区別されます。Gentran:Server for Windows の命名規則としては、次のものが挙げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ソース マップ (Gentran:Server for Windows で作成されたマップ) に名前を付ける際には、(たとえば、PET_EINV.MAP のように) ファイル拡張子 ".MAP" を使用する必要があります。 ▶ コンパイルされたトランスレーション オブジェクト (ソース マップをコンパイルした結果としてのトランスレーション オブジェクト) に名前を付ける際には、ソースマップに割り当てられたものと同じファイル名を使用しますが、(たとえば、PET_EINV.TPL のように) ファイル拡張子 .TPL を使用する必要があります。 <p>推奨事項 上記の命名規則を使用して、ソース マップおよびコンパイル済みトランスレーション オブジェクトを他の種類のファイルと区別することをお勧めします。また、ソース マップと、ソース マップからコンパイルされたトランスレーション オブジェクトに同じファイル名を使用 (ただし、異なるファイル拡張子を付ける) ことをお勧めします。</p> <p>注意 コンパイルされるトランスレーション オブジェクトで、ソース マップを上書きしないよう十分に注意してください。ソースマップと区別するため、トランスレーション オブジェクト名には .TPL というファイル拡張子を使用してください。</p>
17	<p>[保存] をクリックすると、マップが保存されます。</p> <p>メモ このチュートリアル各セクションを完了した後、またはマップに何らかの変更を加えた場合は、[ファイル] メニューから [保存] を選択してマップを保存する必要があります。</p>

次の手順

これで、新しいインポート マップの作成および保存が完了しました。今度は、マップの入力側および出力側を定義する必要があります。

EDI マップ コンポーネントのアクティブ化

概要

次の表に、EDI ファイルのマップ コンポーネントをまとめます。

アイコン	説明
	EDI ファイル
	セグメント
	ループ (グループ)
	複合エレメント
	エレメント

次の表に、固定長ファイルのマップ コンポーネントをまとめます。

アイコン	説明
	固定長ファイル
	レコード
	ループ (グループ)
	フィールド

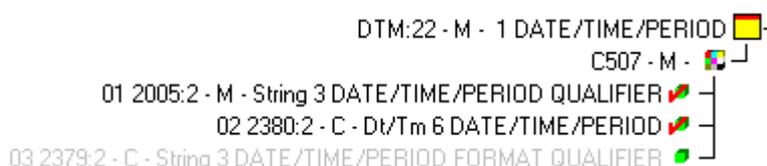
ユーザーが使用する特定の EDI マップ コンポーネントは、作成対象となるマップの種類、選択されたスタンダード、バージョンおよびトランザクションセット (メッセージ) のほか、自社に必要なセグメントおよびエレメントに応じて異なります。この手順を開始する前に、使用するセグメントおよびエレメントを決めておくことをお勧めします。

Gentran:Server for Windows で、マップの EDI 側 (1 つまたは複数) が生成されると、選択したメッセージバージョンに対してスタンダード エージェンシーが定義しているグループ、セグメント、複合エレメント、およびエレメントがすべてシステムに取り込まれます。スタンダードによって "必須" (存在している) と定義されているすべてのグループ、セグメント、複合およびエレメントがアクティブにされます。必須グループ、セグメント、複合およびエレメントを自分で非アクティブにすることはできません。

(次のページへ続く)

概要 (続き)

Gentran:Server for Windows では、既定ではアクティブなマップ コンポーネントの表示には黒いフォントが使用され、非アクティブなマップ コンポーネントの表示にはグレーのフォントが使用 (グレー表示) されます。下の例の DTM セグメントおよび DTM01 エレメントは必須であるため、システムによって既にアクティブ化されています。また、DTM02 エレメント (条件エレメント) もアクティブにする必要があります。



データをトランスレートする際、アクティブにされていないグループ、セグメント、複合、およびエレメント (またはレコードおよびフィールド) は処理されません。この理由から、スタンダードにより必須としては定義されていないグループ、セグメント、複合エレメントおよびエレメントであっても、マッピング時に使用する必要があると判断されたものはすべて、ユーザーが自分でアクティブにする必要があります。

必須の条件グループ、セグメント、およびエレメントのアクティブ化

次の表に、ユーザーが自分でアクティブにする必要のある必須の条件グループ、セグメント、およびエレメントをまとめます。

グループ	セグメント	複合エレメント	エレメント
	BGM セグメント (既にアクティブ)		BGM05 エレメント
	DTM セグメント (既にアクティブ)	C507	DTM02 エレメント
	FTX セグメント	C108	FTX06 エレメント FTX07 エレメント
RFF グループ	RFF セグメント	C506	RFF02 エレメント
	DTM:2 セグメント	C507	DTM:202 エレメント
(次のページへ続く)			

(続き) グループ		セグメント	複合 エレメント	エレメント
NAD グループ		NAD セグメント	C080 C059	NAD10 エレメント NAD16 エレメント NAD17 エレメント NAD19 エレメント NAD20 エレメント NAD21 エレメント
		LOC セグメント	C517	LOC05 エレメント
	CTA グループ	CTA セグメント	C056	CTA03 エレメント
LIN グループ		LIN セグメント	C212	LIN01 エレメント LIN03 エレメント LIN04 エレメント
		PIA セグメント	C212	PIA02 エレメント PIA03 エレメント
		IMD:2 セグメント	C273	IMD:206 エレメント
		QTY:2 セグメント	C186	QTY:303 エレメント
	MOA グループ	MOA:5 セグメント	C516	MOA:502 エレメント
		CNT セグメント	C270	
MOA group (既にアクティブ)		MOA:10 セグメント	C516	MOA:1002 エレメント

(次のページへ続く)

手順

必要な条件グループ、セグメント、およびエレメントをアクティブにするには、次の手順を完了してください。

ステップ	操作
1	<p>前の表にリストされたセグメントおよびグループを、ダブルクリックして開きます。これらは、ユーザーが自分でアクティブにする必要のあるグループ、サブグループ、セグメント、およびエレメントです。必要なグループ、セグメント、および複合エレメントをまずすべて開いてからアクティブにすることにより、マップをスクロールダウンして、セグメントおよびエレメントをシークンシャルにアクティブにすることができます。</p> <p>メモ グループまたはセグメントをアクティブにすると、必須の従属セグメントおよびエレメントが自動的にアクティブになります。</p>
2	メイン ツールバーの [アクティブ] ボタンをクリックします。
3	<p>使用する必要のあるグループが非アクティブな場合は、その各グループをクリックします。選択されたグループはアクティブになります。</p> <p>メモ アクティブにすべきでなかったグループ、セグメントまたはエレメントをクリックした場合は、それをマウスの右ボタンでクリックし、ショートカット メニューにアクセスして、ショートカットメニューから [非アクティブ] を選択してください。</p>
4	使用する必要のあるセグメントが非アクティブな場合は、その各セグメントをクリックします。選択されたセグメントはアクティブになります。
5	使用する必要のあるエレメントが非アクティブな場合は、その各エレメントをクリックします。選択されたエレメントはアクティブになります。
6	必要なグループ、セグメント、およびエレメントをすべてアクティブにした後、メイン ツールバーの [アクティブ] ボタンをクリックすると、アクティブ モードがオフになります。
7	<p>[表示] メニューから [アクティブのみ表示] を選択します。</p> <p>メモ この機能によって、表示する対象をアクティブなマップ コンポーネントだけに限定するようにシステムに指示が出されます。</p>

リテラル定数の定義

概要

システムはリテラル定数を使用して、後でマップ内に使用される情報を保存します。アウトバウンド マップの場合、通常、定数は修飾関係を定義するために使用されます。修飾関係により、エレメントとその修飾子との関係が構築されます。修飾子に関連付けられているエレメント (1 つまたは複数) を詳細に定義するためのコードは、その修飾子に含まれています。修飾関係は、通常、アウトバウンド マップで定義されます。修飾関係の定義にはスタンダード ルールが使用されます。このプロセスについては、このチュートリアルで後述します。

これから作成するインポート マップは、アウトバウンド データのトランスレーションを用途としているため、定数を使用してマップの EDI (出力) 側の修飾関係を定義しておく必要があります。最初に、時間を節約するために、マップ内に使用する定数を決定してから各定数を定義します。

このチュートリアルでは、次の定数を定義する必要があります。

定数 ID	定数タイプ	定数値
Invoice date/time	String	3
Order number (purchase)	String	ON
Order date/time	String	4
Vendor	String	VN
RemitTo	String	RE
ShipTo	String	ST
Goods receipt place	String	4
Bill of lading number	String	BM
Despatch date/time	String	11
Invoice instruction	String	INV
Despatch quantity	String	12
Ordered quantity	String	21
Unit price	String	146
Buyer's part number	String	BP
UPC Code	String	UP
(次のページへ続く)		

(続き) 定数 ID	定数タイプ	定数値
Additional Identification	String	1
Summary	String	S
Number of line items in message	String	2
Total quantity	String	1
Total amount	String	128

手順

インポート マップ内に使用するリテラル定数を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[編集] メニューから [定数] を選択します。すると、[マップの定数] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[新規作成] をクリックして、[定数の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。 
3	[ID] ボックスに「Invoice Date/Time」と入力します。この入力値は、表中にある 1 番目のリテラル定数識別子です。これは通常、定数が使用されるフィールドまたはエレメントの説明です。
4	[種類] リストから、このリテラル定数のカテゴリとして [String] を選択します。
5	[値] ボックスに、実際の定数式として「3」を入力します。この値が、リテラル定数の値になります。
6	[OK] をクリックして、システムに定数を追加します。
7	上記の「概要」セクションの表に従って、ステップ 2～6 を繰り返して残りの定数を作成します。
8	[閉じる] をクリックして、[マップの定数] ダイアログ ボックスを閉じます。

UNS01 エレメントのマップ方法

概要

UNS セグメントには、セクションコントロール情報が含まれています。UNS セグメントと UNS01 エレメントは両方とも必須です。これから作成するのはアウトバウンド (インポート) マップであるため、UNS01 エレメントにデータをマップしておく必要があります。このデータは、アプリケーション ファイルの一部ではないため、このエレメントに適切なデータをマップするには定数を使用する必要があります。このマップに使用される定数は既にすべて定義されています。

手順

必須データを UNS01 エレメントにマップするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	UNS セグメント内の UNS01 エレメント (セクション ID) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "S" 定数 (合計) を選択します。すると、UNS01 エレメントが概要セクションコントロールとして識別されるようになります。 [スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。
	
5	[OK] をクリックします。"S" コードがセクション ID エレメント内に読み込まれます。

グループと繰り返しセグメントのプロモート

概要

"プロモート"機能は、グループまたは繰り返しセグメントから1つの繰り返し(インスタンス)を抽出します。これにより、ユーザーのアプリケーションファイルから固有のデータをマップすることも、特別な定義を入力することも可能になります。有効なマッピング関係は、1対1(ループなし)または多対多(ループ)のものだけに限定されます。

プロモートは、EDI構造の整合性を保証する特殊機能です。グループおよび繰り返しセグメントによっては、ユーザーが自分でプロモートすべきものがあります。また、グループの複数インスタンスを容易に判別できるようにするには、プロモートするグループごとに特別な定義を入力することも必要です。同じセグメントを持つ複数インスタンス用に Gentran:Server で使用される命名規則が十分であり、プロモートするセグメント用に特別な定義を入力する必要のないことを確認します。

メモ

マップ内に複数回出現するセグメント/レコードやエレメント/フィールドは、名前の <ID> によって識別されます。以降のオカレンスは、<ID>:n で識別されます。ここで、"n" はマップ内のオカレンス番号です

DTM セグメントのプロモート方法

DTM セグメントには、マップヘッダー用の日/時情報が含まれています。このセグメントは最大35回まで繰り返されます。1回繰り返される INVBEGIN レコード内の INVDATA フィールドを DTM セグメントにマップするには、DTM セグメントの反復を1つ抽出する必要があります。

DTM セグメントの反復を1つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM セグメントを右クリックし、ショートカットメニューから [プロモート] を選択して、DTM セグメントの反復を1つ抽出します。新規の反復は DTM:22 と命名され、DTM セグメントのすぐ上に配置されます。
2	元の DTM セグメントを右クリックし、ショートカットメニューから [非アクティブ] を選択します。すると、DTM セグメントが非アクティブになり(この時点での繰り返し数は34回)、システムでは処理されなくなります。

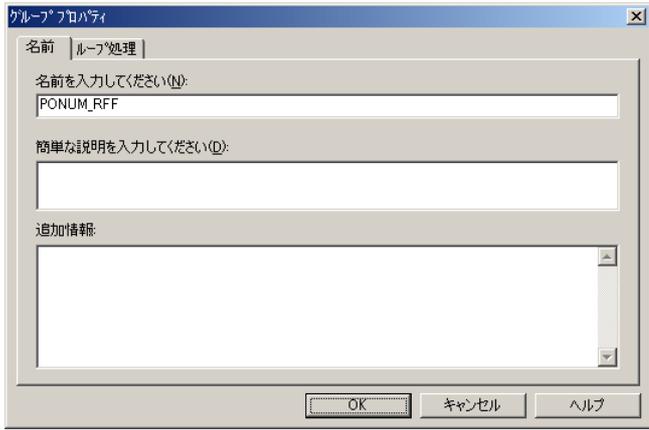
(次のページへ続く)

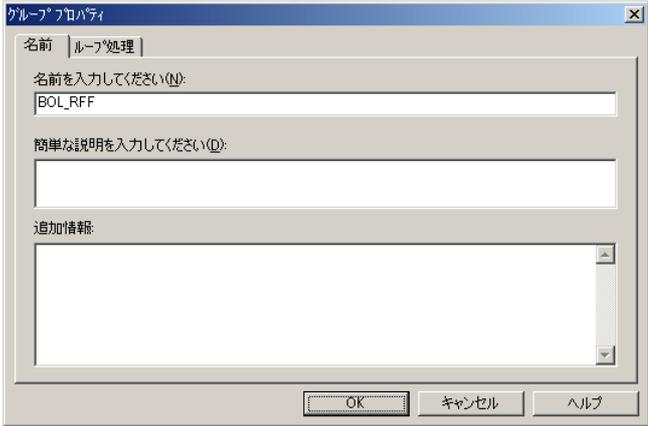
RFF グループの プロモート、および 特別な定義の 追加方法

RFF グループには参照情報が含まれています。このグループは最大 10 回まで繰り返されます。ユーザーが自分で抽出する必要があるのは、RFF グループに属した単独で出現する 2 つのインスタンスです。発注書番号と日付、および発送費番号と出荷日付は、(1 回繰り返される) INVBEGIN レコードからマップすることができます。RFF グループの 2 つのインスタンスを容易に判別できるようにするには、プロモートするグループごとに特別な定義を追加しておく必要があります。

RFF グループの反復を 2 つプロモートして特別な定義を追加するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	0100_RFF グループを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、RFF グループの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は 0100_RFF:2 と命名され、0100_RFF グループのすぐ上に配置されます。
2	0100_RFF グループ (この時点での繰り返し数は 9 回) を右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、RFF グループの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は 0100_RFF:3 と命名され、0100_RFF グループのすぐ上に配置されます。
3	元の 0100_RFF グループを右クリックし、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択して、0100_RFF グループ (この時点での繰り返し数は 8 回) を非アクティブにします。
4	0100_RFF:2 グループを右クリックし、[プロパティ] を選択して、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
5	<p>[名前] ボックスに「PONUM_RFF」と入力します。これは、このグループを発注書番号情報が含まれているグループとして識別する特別な定義です。</p> <p>この時点で、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
6	<p>[OK] をクリックすると、変更が保存され、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスが終了します。</p>
7	<p>0100_RFF:3 グループを右クリックし、[プロパティ] を選択して、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	<p>[名前] ボックスに「BOL_RFF」と入力します。これは、このグループを発送費請求先情報が含まれているグループとして識別する特別な定義です。</p> <p>この時点で、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
9	<p>[OK] をクリックすると、変更が保存され、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

DTM:23 セグメント のプロモート方法

PONUM_RFF グループ内の DTM:23 セグメントには、注文書番号参照用の日 / 時情報が含まれています。このセグメントは最大 5 回まで繰り返されます。1 回繰り返される INVBEGIN レコード内の PODATE フィールドを DTM:23 セグメントにマップするには、DTM:23 セグメントの反復を 1 つ抽出する必要があります。

DTM:23 セグメントの反復を 1 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>PONUM_REF グループ内の DTM:23 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、DTM:23 セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は DTM:25 と命名され、DTM:23 セグメントのすぐ上に配置されます。</p>
2	<p>元の DTM:23 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択して、DTM:23 セグメント (この時点での繰り返し数は 4 回) を非アクティブにします。</p>

(次のページへ続く)

**DTM:24 セグメント
のプロモート方法**

BOL_RFF グループ内の DTM:24 セグメントには、発送費請求先参照用の日 / 時情報が含まれています。このセグメントは最大 5 回まで繰り返されます。1 回繰り返される INVBEGIN レコード内の SHIPDATE フィールドを DTM:24 セグメントにマップするには、DTM:24 セグメントの反復を 1 つ抽出する必要があります。

DTM:24 セグメントの反復を 1 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	BOL_RFF グループ内の DTM:24 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、DTM:24 セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は DTM:26 と命名され、DTM:24 セグメントのすぐ上に配置されます。
2	元の DTM:24 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択して、DTM:24 セグメント (この時点での繰り返し数は 4 回) を非アクティブにします。

**NAD グループの
プロモート、および
特別な定義の
追加方法**

NAD グループには名前および住所の情報が含まれています。このグループは最大 20 回まで繰り返されます。非繰り返しレコード (INVBEGIN) から繰り返しグループ (NAD) へはマップすることができません。ベンダー、出荷先および送金先情報をアプリケーション ファイル書式からマップするには、NAD グループの個別の反復を 3 つ抽出する必要があります。この抽出により、INVBEGIN レコード内のアプリケーション フィールドと NAD グループとの間の連結が有効になります。NAD グループの 3 つのインスタンスを容易に判別できるようにするには、プロモートするグループごとに特別な定義を追加しておく必要があります。

NAD グループの反復を 3 つプロモートして特別な定義を追加するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	0200_NAD グループを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、NAD グループの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は 0200_NAD:2 と命名され、0200_NAD グループのすぐ上に配置されます。
2	0200_NAD グループ (この時点での繰り返し数は 19 回) を右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、NAD グループの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は 0200_NAD:3 と命名され、0200_NAD グループのすぐ上に配置されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
3	0200_NAD グループ (この時点での繰り返し数は 18 回) を右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、NAD グループの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は 0200_NAD:4 と命名され、0200_NAD グループのすぐ上に配置されます。
4	0200_NAD:2 グループを右クリックします。ショートカット メニューから [プロパティ] を選択して、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
5	[名前] ボックスに 「Vend_NAD」 と入力します。これは、このグループをベンダー情報が含まれているグループとして識別する特別な定義です。
6	[OK] をクリックすると、変更が保存され、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスが終了します。
7	0200_NAD:3 グループを右クリックします。ショートカット メニューから [プロパティ] を選択して、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
8	[名前] ボックスに 「ShipTo_NAD」 と入力します。これは、このグループを出荷情報が含まれているグループとして識別する特別な定義です。
9	[OK] をクリックすると、変更が保存され、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスが終了します。
10	0200_NAD:4 グループを右クリックします。ショートカット メニューから [プロパティ] を選択して、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
11	[名前] ボックスに 「RemitTo_NAD」 と入力します。これは、このグループを出荷情報が含まれているグループとして識別する特別な定義です。
12	[OK] をクリックすると、変更が保存され、[グループプロパティ] ダイアログ ボックスが終了します。
13	Vend_NAD グループおよび RemitTo_NAD グループを、ダブルクリックして開きます。
14	メイン ツールバーの [非アクティブ] ボタンをクリックします。元の 0200_NAD グループ (この時点での繰り返し数は 17 回) をクリックします。
15	Vend_NAD グループの LOC:10 セグメントおよび 0500_CTA:2 グループをクリックします。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
16	RemitTo_NAD グループの LOC:12 セグメントおよび 0500_CTA:4 グループをクリックします。
17	メイン ツールバーの [非アクティブ] ボタンをもう一度クリックすると、非アクティブ モードがオフになります。

LOC:11 セグメント のプロモート方法

ShipTo_NAD グループ内の LOC:11 セグメントには、出荷先場所の情報が含まれています。このセグメントは、最大 25 回まで繰り返されます。1 回繰り返される INVBEGIN レコード内の SHIPTOLOC フィールドを LOC:11 セグメントにマップするには、LOC:11 セグメントの反復を 1 つ抽出する必要があります。

LOC:11 セグメントの反復を 1 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	ShipTo_NAD グループ内の LOC:11 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、LOC:11 セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は LOC:13 と命名され、LOC:11 セグメントのすぐ上に配置されます。
2	元の LOC:11 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択して、LOC:11 セグメント (この時点での繰り返し数は 24 回) を非アクティブにします。

(次のページへ続く)

**CTA:3 グループの
プロモート方法**

ShipTo_NAD グループ内の CTA:3 グループには、連絡先情報が含まれています。このセグメントは、最大 5 回まで繰り返されます。1 回繰り返される INVBEGIN レコード内の SHIPTODEPTNUM フィールドを CTA:3 グループにマップするには、CTA:3 グループの反復を 1 つ抽出する必要があります。

CTA:3 グループの反復を 1 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	ShipTo_NAD グループ内の CTA:3 グループを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、CTA:3 グループの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は CTA:5 と命名され、CTA:3 グループのすぐ上に配置されます。
2	元の CTA:3 グループを右クリックし、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択して、CTA:3 グループ (この時点での繰り返し数は 4 回) を非アクティブにします。

**PIA セグメントの
プロモート方法**

PIA セグメントには、追加製品情報が含まれています。このセグメントは最大 25 回まで繰り返されます。ライン アイテムの UPC コードをマップできるようにするには、PIA セグメントの反復を 1 つ抽出する必要があります。

PIA セグメントの反復を 1 つ抽出するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	PIA セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、PIA セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は PIA:2 と命名され、PIA セグメントのすぐ上に配置されます。
2	元の PIA セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択して、PIA セグメント (この時点での繰り返し数は 24 回) を非アクティブにします。

(次のページへ続く)

**IMD:2 セグメントの
プロモート方法**

IMD:2 セグメントには、アイテム説明情報が含まれています。このセグメントは最大 10 回まで繰り返されます。ライン アイテムのアイテム説明をマップできるようにするには、IMD:2 セグメントの反復を 1 つ抽出する必要があります。

IMD:2 セグメントの反復を 1 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	IMD:2 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、IMD:2 セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は IMD:3 と命名され、IMD:2 セグメントのすぐ上に配置されます。
2	元の IMD:2 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択して、IMD:2 セグメント (この時点での繰り返し数は 9 回) を非アクティブにします。

**QTY:2 セグメント
のプロモート方法**

QTY セグメントには数量情報が含まれています。このセグメントは、最大 5 回まで繰り返されます。出荷数量および注文数量を保存できるようにするには、QTY:2 セグメントの反復を 2 つ抽出する必要があります。

QTY:2 セグメントの反復を 2 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	QTY:2 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、QTY:2 セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は QTY:5 と命名され、QTY:2 セグメントのすぐ上に配置されます。
2	元の QTY:2 セグメント (この時点での繰り返し数は 4 回) を右クリックし、ショートカット メニューから [プロモート] を選択して、QTY:2 セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は QTY:6 と命名され、QTY:2 セグメントのすぐ上に配置されます。
3	元の QTY:2 セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択して、QTY:2 セグメント (この時点での繰り返し数は 3 回) を非アクティブにします。

(次のページへ続く)

MOA グループの プロモート方法

マップ (LIN グループ) の明細セクション内の MOA グループには、ラインアイテムの単価が含まれています。このセグメントは最大 5 回まで繰り返されます。MOA グループに単価をマップできるようにするには、MOA グループの反復を 1 つ抽出する必要があります。これから抽出する MOA グループのインスタンスが 1 つだけに限られていて、非アクティブにする対象が元のグループであるため、グループの新規反復に特別な定義を追加する必要はありません。

MOA グループの反復を 1 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループ内の 2300_MOA グループを右クリックし、ショートカットメニューから [プロモート] を選択して、MOA グループの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は 2300_MOA:2 と命名され、2300_MOA グループのすぐ上に配置されます。
2	元の 2300_MOA グループを右クリックし、ショートカットメニューから [非アクティブ] を選択して、2300_MOA グループ (この時点での繰り返し数は 4 回) を非アクティブにします。

CNT セグメントの プロモート方法

CNT セグメントには、Control の総数情報が含まれています。このセグメントは、最大 10 回まで繰り返されます。合計ラインアイテム数および請求合計数量を保存できるようにするには、CNT セグメントの反復を 2 つ抽出する必要があります。

CNT セグメントの反復を 2 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	CNT セグメントを右クリックし、ショートカットメニューから [プロモート] を選択して、CNT セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は CNT:2 と命名され、CNT セグメントのすぐ上に配置されます。
2	CNT セグメント (この時点での繰り返し数は 9 回) を右クリックし、ショートカットメニューから [プロモート] を選択して、CNT セグメントの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は CNT:3 と命名され、CNT セグメントのすぐ上に配置されます。
3	元の CNT セグメントを右クリックし、ショートカットメニューから [非アクティブ] を選択して、CNT セグメント (この時点での繰り返し数は 8 回) を非アクティブにします。

(次のページへ続く)

**MOA グループの
プロモート方法**

マップの概要セクション内の MOA グループには、合計金額情報が含まれていません。このグループは最大 100 回まで繰り返されます。1 回繰り返される INVSUMMARY レコード内の TOTALAMOUNT フィールドを MOA グループにマップするには、MOA グループの反復を 1 つ抽出する必要があります。これから抽出する MOA グループのインスタンスは 1 つだけに限られている (また、非アクティブにする対象が元のグループである) ため、グループの新規反復に特別な定義を追加する必要はありません。

MOA グループの反復を 1 つプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	4500_MOA グループを右クリックし、ショートカットメニューから [プロモート] を選択して、MOA グループの反復を 1 つ抽出します。新規の反復は 4500_MOA:2 と命名され、4500_MOA グループのすぐ上に配置されます。
2	元の 4500_MOA グループを右クリックし、ショートカットメニューから [非アクティブ] を選択して、4500_MOA グループ (この時点での繰り返し数は 99 回) を非アクティブにします。

EDI 区切文字の検証方法

概要

ご使用の EDI スタンドに複合エレメントまたはサブエレメントが含まれている場合、Gentran:Server for Windows で、適切な区切文字が指定されていることを確認する必要があります。区切文字とは、システムで定義されているフラグであり、特定の EDI コンポーネントを区切るために使用されます。区切文字がすべての可変フィールド長スタンドに必要である理由は、データが圧縮される（そして、先頭のゼロおよび末尾の空白が削除される）ためです。フィールドの長さが一定でないため、システムがエレメント間の区切を識別するにはフラグが必要です。たとえば、エレメント区切文字は、新しいエレメントが開始される場所を示します。

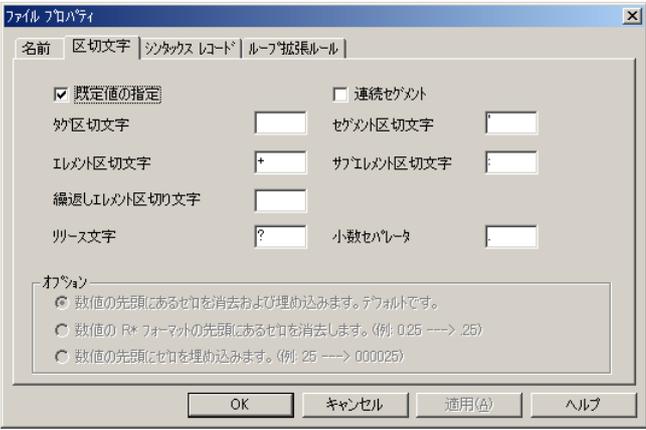
推奨事項

Gentran:Server for Windows で EDI 区切文字の検証が必須とされるのは、ご使用のスタンドに複合エレメントまたはサブエレメントが用意されている場合ですが、EDI 区切文字の検証タスクは、ご使用のスタンドには関係なく実行することをお勧めします。

(次のページへ続く)

手順

EDI 区切文字を検証するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVOIC INVOICE MESSAGE ファイルアイコンを右クリックして、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [ファイルプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
2	[区切文字] タブを選択します。 システムからの応答 区切文字の設定が表示されます。 
3	[既定値の指定] チェックボックスがオンになっていることを確認します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作																					
4	<p>その区切文字が EDIFACT スタンダード用の必要な区切文字であることを検証します。区切文字が下の表中にある既定値とは異なる場合、文字または 16 進数値のどちらかを適切なボックスに入力してください。スタンダード用の既定の区切文字は、次のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="624 589 1406 1055"> <thead> <tr> <th data-bbox="624 589 954 685">ボックス</th> <th data-bbox="954 589 1163 685">EDIFACT 用の既定の文字</th> <th data-bbox="1163 589 1406 685">EDIFACT 用の既定の 16 進数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="624 685 954 741">タグ区切文字</td> <td data-bbox="954 685 1163 741"></td> <td data-bbox="1163 685 1406 741"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="624 741 954 797">エレメント区切文字</td> <td data-bbox="954 741 1163 797">+(プラス)</td> <td data-bbox="1163 741 1406 797">0x2B</td> </tr> <tr> <td data-bbox="624 797 954 853">セグメント区切文字</td> <td data-bbox="954 797 1163 853">' (単一引用符)</td> <td data-bbox="1163 797 1406 853">0x27</td> </tr> <tr> <td data-bbox="624 853 954 909">サブエレメント区切文字</td> <td data-bbox="954 853 1163 909">:(コロン)</td> <td data-bbox="1163 853 1406 909">0x3A</td> </tr> <tr> <td data-bbox="624 909 954 965">リリース文字</td> <td data-bbox="954 909 1163 965">?(感嘆符)</td> <td data-bbox="1163 909 1406 965">0x3F</td> </tr> <tr> <td data-bbox="624 965 954 1055">小数セパレータ</td> <td data-bbox="954 965 1163 1055">.(ピリオド)</td> <td data-bbox="1163 965 1406 1055">0x2E</td> </tr> </tbody> </table> <p>EDIFACT の場合、タグ区切文字が使用されません。</p>	ボックス	EDIFACT 用の既定の文字	EDIFACT 用の既定の 16 進数値	タグ区切文字			エレメント区切文字	+(プラス)	0x2B	セグメント区切文字	' (単一引用符)	0x27	サブエレメント区切文字	:(コロン)	0x3A	リリース文字	?(感嘆符)	0x3F	小数セパレータ	.(ピリオド)	0x2E
ボックス	EDIFACT 用の既定の文字	EDIFACT 用の既定の 16 進数値																				
タグ区切文字																						
エレメント区切文字	+(プラス)	0x2B																				
セグメント区切文字	' (単一引用符)	0x27																				
サブエレメント区切文字	:(コロン)	0x3A																				
リリース文字	?(感嘆符)	0x3F																				
小数セパレータ	.(ピリオド)	0x2E																				
5	<p>[OK] をクリックして、[ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>																					

次の手順

次の手順では、アプリケーション ファイルレイアウトを定義します。

ほかのアプリケーション ファイル書式の定義

概要

はじめに

インポート マップ内にコピーして使用するシステム インポート マップは、既に定義されました。今度は、Gentran:Server for Windows に対して、残りのアプリケーション ファイルを定義する必要があります。インポート マップは、マップの入力側が固定長となります。アプリケーション ファイルには、パートナーに送信する EDI メッセージの生成に必要なあらゆる情報が含まれています。

アプリケーション ファイル書式を定義する前に、必要なレコード、フィールド、およびグループのレイアウトを取得してください。アプリケーション ファイル書式の各レベルは、シーケンシャルに作成されていなければなりません。

たとえば、ご使用のアプリケーション ファイル書式がレコードおよびグループで構成されているとします。レコードはフィールドで構成されていて、グループはレコードで構成されています。このため、従属フィールドおよびレコードを作成する際には、事前にレコードおよびグループを作成しておく必要があります。

HEADER レコードのコピー方法

概要

システム インポート マップのヘッダーレコードは、インポート マップにコピーすることができます。コピーされたレコードには、同じくコピー対象となる従属フィールドが含まれています。コピーされたマップ コンポーネントには、元のマップ コンポーネントに関する全情報が保持されています。このため、システム インポート マップのヘッダーレコード内のフィールド用に作成したスタンダード ルールは、削除しておく必要があります。

手順

HEADER レコードをシステム インポート マップからインポート マップにコピーするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	HEADER.MAP システム インポート マップを開きます。
2	HEADER レコードを反転表示します。
3	メイン ツールバーの [コピー] をクリックします。
4	PET_EINV.MAP インポート マップを開きます。
5	INPUT 固定長ファイル アイコンを反転表示します。
6	メイン ツールバーの [貼り付け] をクリックして、クリップボードの内容を貼り付けます。 HEADER レコードが従属マップ コンポーネントとして INPUT 固定長ファイル アイコンに貼り付けられます。

HEADER スタンダード ルールの削除方法

概要

先ほどからコピーした HEADER レコードには、5つのフィールドが含まれています。最初のフィールド (PARTNER_ID) に対しては、システム インポート マップで [Select] スタンダード ルールが適用されています。インポート マップ内にコピーされた HEADER レコード内にある残りの4つのフィールド (STANDARD、VERSION、TRANSACTION_SET、および TEST_PROD) に対しては、システム インポート マップで [Update] スタンダード ルールが適用されています。これら [Select] および [Update] スタンダード ルールは、インポート マップへの適用が不可能なため、削除しておく必要があります。

手順

インポート マップ内の HEADER レコードからスタンダード ルールを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	HEADER レコード内の PARTNER_ID フィールドをダブルクリックして、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [<none>] を選択して、フィールドからスタンダード ルールを削除します。
4	スタンダード ルールをフィールドから削除してよいかどうかの確認を促されます。そのスタンダード ルールを削除する場合は、[はい] をクリックします。すると、スタンダード ルールが削除されます。
5	[OK] をクリックすると、変更内容がフィールドに保存されます。
6	STANDARD フィールド、VERSION フィールド、TRANSACTION_SET フィールド、および TEST_PROD フィールドについて、ステップ 1～5 を繰り返します。

INVBEGIN レコードの作成方法

概要

アプリケーションファイル書式の中に作成する必要がある 2 つ目のレコード (INVBEGIN) は、HEADER レコードと同レベルにあります。

INVBEGIN (開始) レコードは、発注書番号 / 日付、ベンダー / 出荷先 / 送金先の所在地情報、発送費番号および出荷日付から構成されます。この開始レコードは必須であり、請求書ごとに 1 回ずつ出現します。

手順

INVBEGIN レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>HEADER レコードを反転表示します。[編集]メニューから[挿入]を選択します。サブメニューから[レコード]を選択すると、[固定長レコード プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ 同等のレコード / グループを作成したい場合は、[編集]メニューの[挿入]を使用します。従属グループ / レコード / フィールドを作成するには、[配下に作成]を使用します。</p>
2	<p>[名前]ボックスに、レコード識別コードとして「INVBEGIN」を入力します。</p> <p>注意 [名前]ボックスには、スペースやダッシュ (-) を使用できません。単語の区切りには、アンダースコア (_) を使用してください。</p>
3	<p>[説明]ボックスに「Beginning Record」と入力します。この説明には、類似するレコードどうしを判別するための、レコードに関する概略説明を入力します。</p>
4	<p>[タグ]タブを選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[タグ] ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「BEG」と入力します。レコードは、次の構文によって認識されます。</p> <p><TAG>[Field_1][Field_2]</p> <p>各レコード用のレコード TAG によって、システムにレコードが認識されるため、マッピング要件の判別が可能になります。</p> <p>メモ レコード タグを明示的に含める目的から、フィールドを定義する代わりに [固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスで、アウトバウンド マップ用レコード タグを定義する必要があります。</p>
6	<p>[配置] ボックスで、データレコード内にあるタグの開始列位置として、既定値 "1" をそのまま使用します。</p>
7	<p>[ループ処理] タブを選択します。</p>
8	<p>[最小使用回数] ボックスに「1」を入力すると、レコードが必須になります。このボックスには、最小限必要なレコード繰り返し数が入ります。</p> <p>メモ [最小使用回数] ボックスに "0" (ゼロ) が入ると、レコードは条件付きになります。[最小使用回数] ボックスに "1" 以上の値が入ると、レコードは必須になります。</p> <p>[最大使用回数] ボックスは、既定値 "1" のままにします。これにより、開始レコードの繰り返し数が 1 回のみに限られます (ループ構造ではなくなります)。</p>
9	<p>[OK] をクリックすると、INVBEGIN レコードが作成されます。</p>

INVCOMMENT グループの作成方法

概要

INVCommentGroup (コメント情報) は、参照番号やメッセージテキストなどの、請求書に関するすべてのコメント情報をグループ化します。INVCommentGroup は、トランスレーションされた請求書ごとに最大 10 回出現します。INVCommentGroup の中の情報は、関連レコード別にさらに細分されます。

手順

INVCommentGroup を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVBEGIN レコードと同レベルにグループを作成するには、INVBEGIN レコードを反転表示して、[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [グループ] を選択します。 システムからの応答 [グループプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[名前] ボックスに「INVCommentGroup」と入力します。すると、このグループにすべてのコメントレコードを含めるように指定されます。これはセグメント ループ識別コードです。
3	[説明] ボックスに、ループの説明として「Comment Group」と入力します。この説明は、ループについての簡単な説明です。
4	[ループ処理] タブを選択します。
5	[最小使用回数] ボックスに「1」を入力すると、ループが必須になります。この数は、ループの繰り返しを必須とする最小限の回数です。条件付きループの場合、このボックスには必ず「0」(ゼロ)を入力する必要があります。必須ループの場合、このボックスには「1」、またはそれより大きい値を入力する必要があります。 [最小使用回数] ボックスに「10」と入力します。すると、このグループのレコードが最大 10 回まで出現します。
6	[OK] をクリックすると、INVCommentGroup が作成されます。

INVCommentGroup 従属レコードの作成

概要

このチュートリアル of INVCommentGroup の中には、次の 2 種類の従属レコードが含まれています。

- ▶ INVCOMMENT1
- ▶ INVCOMMENT2

最初の従属レコード (INVCOMMENT1) を作成した後は、同レベルに従属レコード (INVCOMMENT2) を定義してください。

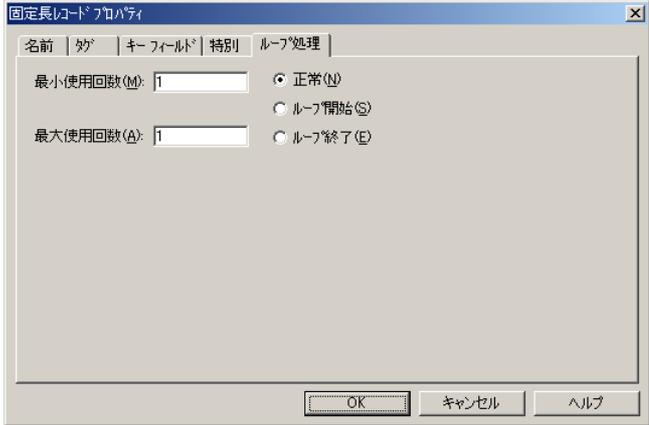
INVCOMMENT1 レコードの作成方法

INVCOMMENT1 (第 1 コメント) レコードには、参照番号が含まれています。第 1 コメントレコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 1 回ずつ (1 コメント行につき 1 回) 出現します。

INVCOMMENT1 レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVCommentGroup を反転表示します。[編集]メニューから[配下に作成]を選択します。サブメニューから[レコード]を選択します。[固定長レコード プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2	[名前]ボックスに、レコード識別コードとして「INVCOMMENT1」を入力します。
3	[説明]ボックスに「Invoice Comment Record 1」と入力します。
4	[タグ]タブを選択します。
5	[タグ]ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「CM1」と入力します。
6	[配置]ボックスで、データレコード内にあるタグの開始列位置として、既定値 "1" をそのまま使用します。
7	[ループ処理]タブを選択します。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
8	<p>[最小使用回数] ボックスに「1」を入力すると、レコードが必須になります。</p> <p>[最大使用回数] ボックスは、既定値 "1" のままにします。これにより、このレコードの繰り返し数が 1 回のみに限られます (ループ構造ではなくなります)。この時点で、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
9	<p>[OK] をクリックすると、INVCOMMENT1 レコードが作成されます。</p>

INVCOMMENT2 レコードの作成方法

INVCOMMENT2 (第 2 コメント) レコードには、メッセージテキストが含まれています。第 2 コメント レコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 1 回ずつ (1 コメント行につき 1 回) 出現します。

INVCOMMENT2 レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>INVCOMMENT1 レコードを反転表示します。[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [レコード] を選択すると、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[名前] ボックスに、レコード識別コードとして「INVCOMMENT2」を入力します。</p>
3	<p>[説明] ボックスに「Invoice Comment Record 2」と入力します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	[タグ] タブを選択します。
5	[タグ] ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「CM2」と入力します。
6	[配置] ボックスでは、既定値 "1" をデータレコード内のタグの開始列位置としてそのまま使用します。
7	[ループ処理] タブを選択します。
8	<p>[最小使用回数] ボックスに「1」を入力すると、レコードが必須になります。</p> <p>[最大使用回数] ボックスは、既定値 "1" のままにします。これにより、このレコードの繰り返し数が1回のみに限られます (ループ構造ではなくなります)。この時点で、[固定長レコードプロパティ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
9	[OK] をクリックすると、INVCOMMENT2 レコードが作成されます。

INVDETAIL レコードの作成方法

概要

INVDETAIL (明細) レコードは、HEADER レコード、INVBEGIN レコード、および INVCommentGroup と同レベルです。

INVDETAIL レコードは、ライン アイテム番号、説明、出荷数量、注文数量、単位、価格、および製品コードから構成されます。明細レコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 20 万回 (請求済みライン アイテムごとに 1 回ずつ) 出現します。

手順

INVDETAIL レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVCommentGroup を反転表示します。[編集]メニューから[挿入]を選択します。サブメニューから[レコード]を選択すると、[固定長レコード プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[名前]ボックスに、レコード識別コードとして「INVDETAIL」を入力します。
3	[説明]ボックスに、レコードの説明として「Detail Record」を入力します。
4	[タグ]タブを選択します。
5	[タグ]ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「DET」を入力します。
6	[配置]ボックスでは、既定値 "1" をデータ レコード内のタグの開始列位置としてそのまま使用します。
7	[ループ処理]タブを選択します。
8	[最小使用回数]ボックスに「1」を入力すると、レコードが必須になります。こボックスには、最小限必要なレコード繰り返し回数が入ります。
9	[最大使用回数]ボックスに、レコードの繰り返しが許可される最大回数として「200000」を入力します。
10	[OK]をクリックすると、INVDETAIL レコードが作成されます。

INVSUMMARY レコードの作成方法

概要

最後に作成する必要があるレコードは、INVDETAIL レコードと同レベルにある INVSUMMARY (合計) レコードです。

INVSUMMARY (合計) レコードには、請求合計額およびトランザクション合計額が含まれています。この合計レコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに1回ずつ出現します。

手順

INVSUMMARY レコードを作成するには、次の手順に従います。

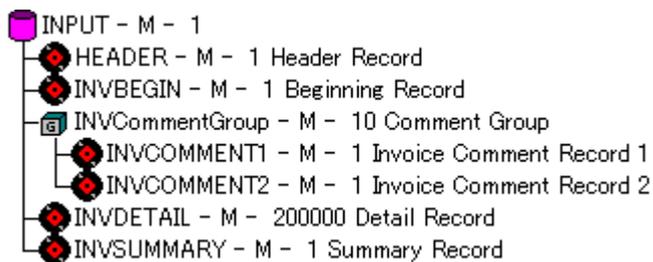
ステップ	操作
1	INVDETAIL レコードを反転表示します。[編集]メニューから[挿入]を選択します。サブメニューから[レコード]を選択すると、[固定長レコード プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[名前]ボックスに、レコード識別コードとして「INVSUMMARY」を入力します。
3	[説明]ボックスに、レコードの説明として「Summary Record」を入力します。
4	[タグ]タブを選択します。
5	[タグ]ボックスに、レコード識別コード <TAG> として「SUM」を入力します。
6	[配置]ボックスでは、既定値 "1" をデータ レコード内のタグの開始列位置としてそのまま使用します。
7	[ループ処理]タブを選択します。
8	[最小使用回数]ボックスに「1」を入力すると、レコードが必須になります。
9	[最大使用回数]ボックスは、既定値 "1" のままにします。
10	[OK]をクリックすると、INVSUMMARY レコードが作成されます。

(次のページへ続く)

次の手順

これでアプリケーションファイルのレコード構造が作成されたため、アプリケーションフィールドを定義することができます。

この時点で、マップのアプリケーション側 (入力) の表示が、下図のようになります。



アプリケーション フィールドの作成

概要

はじめに

ユーザーが作成した各レコード内には、論理的に関連するアプリケーションフィールドがグループ化されています。これらのフィールドには、請求書の処理にシステムで使用されるデータの構造および内容が定義されています。

アプリケーションフィールドをレコードに追加する最も簡単な方法は、[固定長フィールド エディタ]を使用することです。一般的には、INVBEGINレコードで開始するシーケンシャルレコードごとにフィールドを作成します。

アプリケーションフィールド

次の表に、ユーザーが自分で作成する必要があるアプリケーションフィールドをまとめます。

フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
ヘッダーレコード (HEADER)。1 メッセージにつき 1 件。					
PARTNER_ID	X	Partner Identifier	String	1	9
STANDARD	X	Standard	String	1	1
VERSION	X	Version	String	6	6
TRANSACTION_SET	X	Transaction Set	String	1	6
TEST_PROD	X	Test/Production Flag	String	1	1
開始レコード (INVBEGIN)。1 メッセージにつき 1 件。					
BILLTOACCTBEG	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPBEG	X	Document Type	String	1	6
INVNUMBEG	X	Invoice Number	String	1	10
INVDATE	X	Invoice Date	Dt/Tm (YYMMDD)	6	6
PONUM		Purchase Order Number	String	0	20
(次のページへ続く)					

(続き) フィールド名	必須 / オプション (x= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
PODATE		Purchase Order Date	Dt/Tm (YYMMDD)	6	6
VENDNAME		Vendor Name	String	0	35
VENDADD1		Vendor Address Line 1	String	0	35
VENDADD2		Vendor Address Line2	String	0	35
VENDCITY		Vendor City	String	0	35
VENDSTATE		Vendor State	String	0	2
VENDPOSTALCODE		Vendor Postal Code	String	0	9
SHIPTONAME		Ship To Name	String	0	35
SHIPTOADD1		Ship To Address Line 1	String	0	35
SHIPTOADD2		Ship To Address Line 2	String	0	35
SHIPTOCITY		Ship To City	String	0	35
SHIPTOSTATE		Ship To State	String	0	2
SHIPTOPOSTALCODE		Ship To Postal Code	String	0	9
SHIPTOLOC		Ship To Store Location	String	0	9
SHIPTODEPTNUM		Ship To Dept Number	String	0	4
REMITTONAME		Remit To Name	String	0	35
REMITTOADD1		Remit To Address Line 1	String	0	35
REMITTOADD2		Remit To Address Line 2	String	0	35
REMITTOCITY		Remit To City	String	0	35
REMITTOSTATE		Remit To State	String	0	2
REMITTOPOSTALCODE		Remit To Postal Code	String	0	9
BOLNUM		Bill of Lading Number	String	0	12
SHIPDATE		Ship Date	Dt/Tm (YYMMDD)	6	6
(次のページへ続く)					

(続き) フィールド名	必須 / オプション (X= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
コメント グループ (INVCommentGroup)。1 メッセージにつき 10 件。					
コメント レコード 1 (INVCOMMENT1)。1 メッセージにつき 1 件。					
BILLTOACCTCM1	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPCM1	X	Document Type	String	1	6
INVNUMCM1	X	Invoice Number	String	1	10
REFNUM	X	Reference Number	String	1	30
Comment Record 2 (INVCOMMENT2) 1 per message					
BILLTOACCTCM2	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPCM2	X	Document Type	String	1	6
INVNUMCM2	X	Invoice Number	String	1	10
MESSAGETEXT	X	Message Text	String	1	232
明細レコード (INVDETAIL)。1 メッセージにつき最大 20 万件。					
BILLTOACCTDET	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPDET	X	Document Type	String	1	6
INVNUMDET	X	Invoice Number	String	1	10
ITEMNUM	X	Item Number (Our Item)	String	1	6
QTYSHIP	X	Quantity Shipped	Number (N0)	1	5
QTYORD	X	Quantity Ordered	Number (N0)	1	5
UNITPRICE	X	Unit Price	Number (N2)	1	7
UOM	X	Unit of Measure	String	1	4
CUSTPROCEDURE	X	Customer Product Code	String	1	10
UPCCODE	X	UPC Code	String	1	12
ITEMDESC		Item Description	String	0	30
(次のページへ続く)					

(続き) フィールド名	必須 / オプション (X= 必須)	説明	データ型	最小長	最大長
合計レコード (INVSUMMARY)。1 メッセージにつき 1 件。					
BILLTOACCTSUM	X	Bill To Acct Number	String	1	9
DOCTYPSUM	X	Document Type	String	1	6
INVNUMSUM	X	Invoice Number	String	1	10
TOTALAMOUNT	X	Total Monetary Value Summary	Number (N2)	1	10
TRANSTOTAL	X	Transaction Totals	Number (N0)	1	6

INVBEGIN アプリケーション フィールドの定義方法

概要

これまでは、システム インポート マップ HEADER レコード用フィールドを作成し、そのフィールドをインポート マップにコピーして、スタンダード ルールを削除しました。INVBEGIN レコードは、フィールドのユーザー定義が必要とされる先頭レコードです。

手順

INVBEGIN レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVBEGIN アプリケーション レコードを右クリックし、ショートカット メニューから [フィールドの編集] を選択して、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成] をクリックします。新しいフィールドが配置される [フィールド] セクションに、ハイライト バーが表示されます。[フィールドの詳細] セクションの値は必須です。
3	[名前] ボックスに「BILLTOACCTBEG」と入力します。この入力値は、INVBEGIN レコード内の先頭フィールドの名前です。各アプリケーション フィールドには、一意の名前を付ける必要があります。 複数レコード内に出現するフィールドに対しては末尾にサフィックスを付けておくと、そのサフィックス付きレコードの種類が特定できる点で便利です。たとえば、「BEG」は開始レコードを表します。
4	[必須] チェックボックスをオンにすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明] ボックスに「Bill To Account Number」と入力します。この説明には、類似するフィールドどうしを判別するための、フィールドに関する概略説明を入力します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>[データ型] リストで、フィールド タイプとして [String] を選択します。これで、このフィールドに英数字データを含める必要のあることが指定されました。</p> <p>メモ レコード内のフィールド位置を正確に指定するには、[開始位置] ボックスにフィールド開始位置を入力してください。たとえば、使用するフィールドを 2 ～ 3 のみに限って各フィールドをレコード内に正確に配置したい場合は、フィールド開始位置を指定してください。</p> <p>参照 このチュートリアルでは、各フィールドの開始位置を指定する代わりに別の方法を使用します。これは、レコード内にフィールドをシーケンシャルに追加して、" 自動配置 " 機能を使用する方法です。" 自動配置 " 機能の詳細については、下記のステップ 13 を参照してください。</p>
7	データ型が "Number" または "Dt/Tm" の場合、[書式] リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が "0" (3 - 81 ページ以降に記載されている表による) の場合、[最小長] ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が "0" 以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「9」を入力します。
10	<p>フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、Enter を押します。そのフィールドの下部に、空白の値を持つ新しいフィールドが配置されます。この新しいフィールドは、ユーザーがいつでも識別できる状態です。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
11	<p>3 - 81 ページ以降に掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。</p>
12	<p>[自動配置] をクリックすると、そのフィールドがレコード内に自動的に配置されます。この結果、各フィールドを前にあるフィールドのすぐ後ろに配置し [最大長] フィールド内に指定された長さにするを基準にして、レコード内の各フィールド開始位置が計算されます。フィールドをこれから整列する旨の警告メッセージに、[はい] をクリックして応答します。</p> <p>注意 " 自動配置 " 機能が有効になるのは、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスでレコード タグを定義して、レコード内の全フィールドを各フィールドの出現順序で定義した場合だけ (このチュートリアル の演習内容のとおり) です。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> <div data-bbox="624 1173 1225 1659" data-label="Image"> </div> <p>[フィールド] リストに表示されるのは、レコード内の最後の 11 フィールドだけです。</p>

INVCOMMENT1 レコード用アプリケーション フィールドの定義方法

手順

INVCOMMENT1 レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVCOMMENT1 アプリケーションレコードを右クリックし、ショートカット メニューから [フィールドの編集] を選択して、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成] をクリックします。
3	[名前] ボックスに「BILLTOACCTCM1」と入力します。この入力値は、INVCOMMENT1 レコード内の先頭フィールドの名前です。
4	[必須] チェックボックスをクリックすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明] ボックスに「Bill To Account Number」と入力します。
6	[データ型] リストから、フィールド タイプとして [String] を選択します。
7	データ型が "Number" または "Dt/Tm" の場合、[書式] リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が "0" (3 - 81 ページ以降に記載されている表による) の場合、[最小長] ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が "0" 以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「9」を入力します。
10	フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、 Enter を押します。そのフィールドの下部に、ブランクの値を持つ新しいフィールドが配置されます。この新しいフィールドは、ユーザーがいつでも識別できる状態です。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
11	<p>3 - 81 ページ以降に掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。</p>
12	<p>[自動配置] をクリックします。フィールドをこれから整列する旨の警告メッセージに、[はい] をクリックして応答します。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 

INVCOMMENT2 アプリケーション フィールドの定義方法

手順

INVCOMMENT2 レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVCOMMENT2 アプリケーションレコードを右クリックし、ショートカット メニューから [フィールドの編集] を選択して、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成] をクリックします。
3	[名前] ボックスに「BILLTOACCTCM2」と入力します。この入力値は、INVCOMMENT2 レコード内の先頭フィールドの名前です。
4	[必須] チェックボックスをクリックすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明] ボックスに、フィールドの説明として「Bill To Account Number」を入力します。
6	[データ型] リストから、フィールド タイプとして [String] を選択します。
7	データ型が "Number" または "Dt/Tm" の場合、[書式] リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が "0" (3 - 81 ページ以降に記載されている表による) の場合、[最小長] ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が "0" 以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「9」を入力します。
10	フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、 Enter を押します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
11	<p>3 - 81 ページ以降に掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。</p>
12	<p>[自動配置] をクリックします。フィールドをこれから整列する旨の警告メッセージに、[はい] をクリックして応答します。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 

INVDETAIL アプリケーション フィールドの定義方法

手順

INVDETAIL レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVDETAIL アプリケーション レコードを右クリックし、ショートカット メニューから [フィールドの編集] を選択して、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成] をクリックします。
3	[名前] ボックスに「BILLTOACCTDET」と入力します。この入力値は、INVDETAIL レコード内の先頭フィールドの名前です。
4	[必須] チェックボックスをクリックすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明] ボックスに、フィールドの説明として「Bill To Account Number」を入力します。
6	[データ型] リストから、フィールド タイプとして [String] を選択します。
7	データ型が "Number" または "Dt/Tm" の場合、[書式] リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が "0" (3 - 81 ページ以降に記載されている表による) の場合、[最小長] ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が "0" 以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「9」を入力します。
10	フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、 Enter を押します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作																																																												
11	<p>3 - 81 ページ以降に掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。</p>																																																												
12	<p>[自動配置] をクリックします。フィールドをこれから整列する旨の警告メッセージに、[はい] をクリックして応答します。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p>  <table border="1" data-bbox="624 1122 1086 1323"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>必須M/条件付C</th> <th>種類</th> <th>開始</th> <th>長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>BILLTOACCTDET</td><td>M</td><td>String</td><td>4</td><td>9</td></tr> <tr><td>DOCTYPDET</td><td>M</td><td>String</td><td>13</td><td>6</td></tr> <tr><td>INVNUMDET</td><td>M</td><td>String</td><td>19</td><td>10</td></tr> <tr><td>ITEMNUM</td><td>M</td><td>String</td><td>29</td><td>6</td></tr> <tr><td>QTYSHIP</td><td>M</td><td>Numeric</td><td>35</td><td>5</td></tr> <tr><td>QTYORD</td><td>M</td><td>Numeric</td><td>40</td><td>5</td></tr> <tr><td>UNITPRICE</td><td>M</td><td>Numeric</td><td>45</td><td>7</td></tr> <tr><td>UOM</td><td>M</td><td>String</td><td>52</td><td>4</td></tr> <tr><td>CUSTPROCODE</td><td>M</td><td>String</td><td>56</td><td>10</td></tr> <tr><td>UPPCODE</td><td>M</td><td>String</td><td>66</td><td>12</td></tr> <tr><td>ITEMDESC</td><td>C</td><td>String</td><td>78</td><td>30</td></tr> </tbody> </table>	名前	必須M/条件付C	種類	開始	長さ	BILLTOACCTDET	M	String	4	9	DOCTYPDET	M	String	13	6	INVNUMDET	M	String	19	10	ITEMNUM	M	String	29	6	QTYSHIP	M	Numeric	35	5	QTYORD	M	Numeric	40	5	UNITPRICE	M	Numeric	45	7	UOM	M	String	52	4	CUSTPROCODE	M	String	56	10	UPPCODE	M	String	66	12	ITEMDESC	C	String	78	30
名前	必須M/条件付C	種類	開始	長さ																																																									
BILLTOACCTDET	M	String	4	9																																																									
DOCTYPDET	M	String	13	6																																																									
INVNUMDET	M	String	19	10																																																									
ITEMNUM	M	String	29	6																																																									
QTYSHIP	M	Numeric	35	5																																																									
QTYORD	M	Numeric	40	5																																																									
UNITPRICE	M	Numeric	45	7																																																									
UOM	M	String	52	4																																																									
CUSTPROCODE	M	String	56	10																																																									
UPPCODE	M	String	66	12																																																									
ITEMDESC	C	String	78	30																																																									

INVSUMMARY アプリケーション フィールドの定義方法

手順

INVSUMMARY レコード用アプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	INVSUMMARY アプリケーション レコードを右クリックし、ショートカット メニューから [フィールドの編集] を選択して、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	これから作成するフィールドがレコード内の先頭フィールドとなる場合は、[新規作成] をクリックします。
3	[名前] ボックスに「BILLTOACCTSUM」と入力します。この入力値は、INVSUMMARY レコード内の先頭フィールドの名前です。
4	[必須] チェックボックスをクリックすると、そのフィールドが必須フィールドとして識別されるようになります。
5	[説明] ボックスに、フィールドの説明として「Bill To Account Number」を入力します。
6	[データ型] リストから、フィールド タイプとして [String] を選択します。
7	データ型が "Number" または "Dt/Tm" の場合、[書式] リストから適切な書式を選択します。
8	フィールドの最小長が "0" (3 - 81 ページに掲載のテーブル長による) の場合、[最小長] ボックスは既定値のままにします。フィールドの最小長が "0" 以外の場合は、「1」を入力します。
9	[最大長] ボックスに、フィールドの最大長として「9」を入力します。
10	フィールドを追加してその後ろに配置する次のフィールドを作成するには、 Enter を押します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
11	<p>3 - 81 ページ以降に掲載のレコード レイアウト テーブルに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ レコード内の最終フィールドの情報を入力した後で Enter を押すと、ブランクのフィールドが作成されます。このブランクのフィールドは、[削除] をクリックして [はい] をクリックすれば削除されます。</p>
12	<p>[自動配置] をクリックします。フィールドをこれから整列する旨の警告メッセージに、[はい] をクリックして応答します。</p> <p>この時点で、[固定長フィールド エディタ] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 

次の手順

アプリケーション ファイルを定義した後は、必要なデータを EDI ファイルからアプリケーション フィールドへマップする必要があります。

データのマッピング

概要

はじめに

このセクションでは、各アプリケーションフィールドを順次に考察したうえで、各フィールドから適切なデータをマップするために実行する必要があるマッピング操作について説明します。

HEADER レコード

インポート マップの場合、HEADER (ヘッダー) レコード内のフィールドをマップ元にはできません。このレコードには、システム インポート マップ内のキーを構成する 5 フィールドが含まれています。ただし、このヘッダーレコードはアプリケーションファイルの一部となっているため、インポート マップ内に定義しておく必要があります。この定義は (HEADER レコードをシステム インポート マップからこのインポート マップにコピーしたときに) 行いました。ヘッダーレコードは必須であり、1 回のみ出現します。

INVBEGIN レコード

このセクションでは、INVBEGIN (開始) レコード内の各フィールドからマップする方法について説明します。INVBEGIN (開始) レコードは、発注書番号 / 日付、ベンダー / 出荷先 / 送金先の所在地情報、発送費番号および出荷日付から構成されます。この開始レコードは必須であり、請求書ごとに 1 回ずつ出現します。

BILLTOACCTBEG フィールド

BILLTOACCTBEG フィールドは、アプリケーションファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

DOCTYPBEG フィールド

DOCTYPBEG フィールドは、アプリケーションファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

INVNUMBEG フィールド

概要

PONUMBEG フィールドは、" 連結 " 機能を使えば BGM05 (ドキュメント / メッセージ番号) エレメントへ直接マップできます。" 連結 " 機能を使用すると、マップの入力側にあるフィールドまたはエレメントを、マップの出力側にあるフィールドまたはエレメントにマップすることができます。2つのフィールド間の連結は、2つのフィールドを接続する線分によって視覚的に表されます。

また、INVNUMBEG フィールドを UNS01 エレメント (セクション ID) へ直接連結することもできます。この UNS01 エレメントは、必須の UNS セグメント (セクションコントロール) 内に必須のエレメントです。Gentran:Server for Windows で、アウトバウンド マップ内に必須セグメントを作成するには、そのセグメントにフィールドを少なくとも 1 つはマップしておく必要があります。この直接連結を指定変更するには、既にマップ済みの定数値 ("S") を UNS01 エレメントへマップしてください。

ドキュメント ブラウザを使用する際には、マップ メッセージをより簡単に識別できるよう、[ドキュメント名] をセットアップすることをお勧めします。

ドキュメント名を設定するには、マップ内のエレメントまたはフィールドのうち、このマップによりトランスレーションされたメッセージを判別するデータが入っているものを選択する必要があります。

推奨事項

エレメントまたはフィールドは、メッセージ内に 1 回だけ出現する String のデータ型ものを選択することを強くお勧めします。請求書の場合は通常、ドキュメント / メッセージ番号がドキュメント名になります。

請求書番号の マップ方法

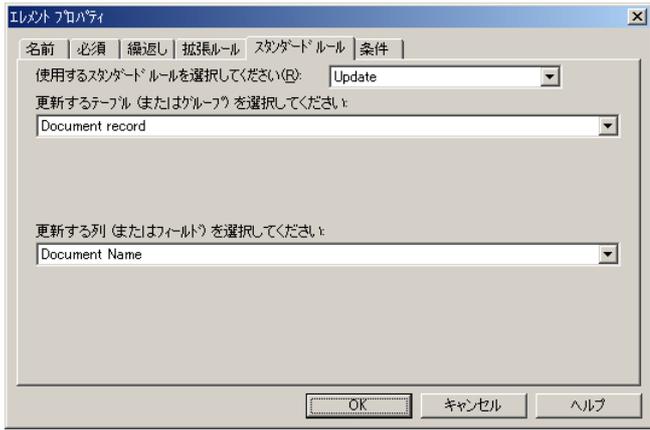
請求書番号をマップするには、INVBEGIN 4 レコード内のアプリケーション フィールド INVNUMBEG を BGM レコード内の BGM05 エレメントに連結します。

その後、INVNUMBEG フィールドを UNS01 エレメント (セクション ID) へ連結してください。

(次のページへ続く)

ドキュメント名の
設定方法

この請求書用のドキュメント名を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM05 エlementをダブルクリックすると、[Element プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Update] を選択します。
4	テーブルのリストから [Document record] を選択します。
5	<p>[列] リストから [Document Name] を選択します。すると、ドキュメント ブラウザの [名前] ボックスがこのElementの内容で更新されるように指定されます。</p> <p>[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
6	[OK] をクリックすると、ドキュメント名が設定されます。

INVDATE フィールド

概要

マップの EDI 側では、日付情報が DTM22 セグメントに格納されます。DTM2202 エlement (日/時/期間) のプロパティは、パートナーから送信される最小長、最大長、タイプ、および書式が反映されるように変更する必要があります。

INVDATE フィールドを DTM2202 (日/時/期間) Element から直接マップするには、"連結" 機能を使用します。DTM:2201 (Date/Time/Period 修飾子) が "3" の場合、DTM:22 セグメントには請求日/時が入ります。Date/Time/Period 修飾子に定数をマップして、日/時/期間との修飾関係を確立する必要があります。これにより、Date/Time/Period Element に請求日/時が入るように指定することができます。

DTM:2202 Element のプロパティの変更方法

DTM:2202 Element (日/時/期間) の 6 桁を送信することをパートナーに通知したとします。これらの 6 桁は、YYMMDD 書式の Dt/Tm データ型 (2 桁の年、2 桁の月、および 2 桁の日) となります。DTM:2202 Element の最小長、最大長、タイプ、および書式は、ユーザーが自分で変更する必要があります。

DTM2202 Element の長さを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM:2202 Element をダブルクリックします。すると、[Element プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[必須] タブを選択します。
3	[最小長] ボックスに、最小長として「6」を入力します。
4	[最大長] ボックスに、最大長として「6」を入力します。
5	[データ型] リストから [Date/Time] を選択します。すると、この Element が日/時 Element として指定されます。フィールドのデータ型を変更するとその書式が無効化される旨のメッセージが表示されて、確認を促されます。フィールドのデータ型を変更する場合は、[はい] をクリックしてこのメッセージに回答し、先へ進みます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>[書式] リストから [YYMMDD] を選択します。すると、最初の 2 桁に年、2 番目の 2 桁に月、そして最後の 2 桁に日が入るように指定されます。</p> <p>[必須] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

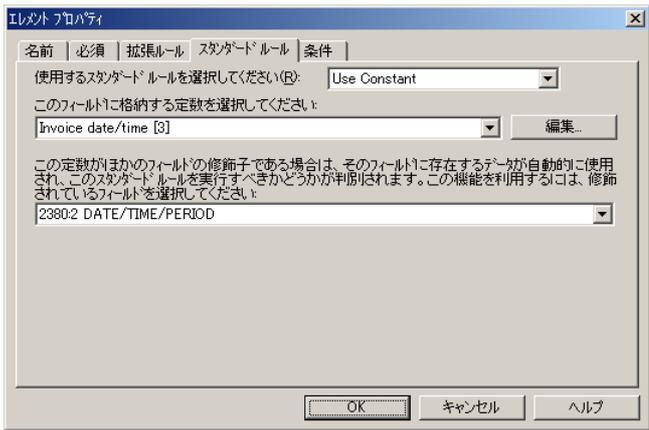
(次のページへ続く)

Date/Time/Period 修飾子の設定方法

Date/Time/Period 修飾子 (DTM:2201 エlement) に定数をマップして、日 / 時 / 期間 (DTM:2202 エlement) との修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。今度は、Date/Time/Period 修飾子Elementに適切な定数をマップします。

DTM:22 セグメント用の Date/Time/Period 修飾子を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM:22 内の DTM:2201 エlement (Date/Time/Period 修飾子) をダブルクリックして、[Element プロパティ] ダイアログボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "3" (Invoice Date/Time) を選択します。すると、DTM:2202 エlementが請求日 / 時を含んだElementとして識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [2380:2 DATE/TIME/PERIOD] を選択します。すると、DTM:2202 エlementとの修飾関係が設定されます。 メモ [Qualifies] リストには、修飾Elementと同じセグメント内にあるアクティブなElementだけが入ります。 [スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。
	
6	[OK] をクリックします。"3" コードが Date/Time/Qualifier Element内に読み込まれます。DTM:2201 Elementと DTM:2202 Element間の修飾関係が確立されました。

(次のページへ続く)

請求日のマップ方法

請求日をマップするには、DTM:22 セグメント内の DTM:2202 エlementを
INVBEGIN レコード内のアプリケーション フィールド INVDATE へ連結します。

PONUM フィールド

概要

PONUM フィールドを RFF:1102 (Reference Number) フィールドへ直接マップするには、" 連結 " 機能を使用します。RFF:1101 (Reference Qualifier) が "ON" の場合、RFF:11 セグメントには注文番号 (購買) が入ります。Reference Qualifier に定数をマップして、Reference Number との修飾関係を確立する必要があります。これにより、Reference Number エlement に注文番号 (購買) が入るように指定することができます。

推奨事項

メッセージをより簡単に識別できるよう、マップごとにドキュメント参照をセットアップすることをお勧めします。

ドキュメント参照を設定するには、マップ内のElementまたはフィールドのうち、このマップによりトランスレーションされたメッセージを判別するデータが入っているものを選択する必要があります。アプリケーション インテグレーション サブシステムで参照を設定すると、このメッセージが入るドキュメント ブラウザ内の RefData フィールドには、そのマップ済みフィールドからのデータが入ります。

Reference Qualifier の設定方法

Reference Qualifier (RFF:1101 Element) に定数をマップして、Reference Number (RFF:1102 Element) との修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。今度は、Reference Qualifier Element に適切な定数をマップします。

RFF:11 セグメント用の Reference Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	RFF:11 セグメント (PONUM_RFF グループ) 内の RFF:1101 Element (Reference Qualifier) をダブルクリックして、[Element プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "ON" 定数を選択します。すると、RFF:1102 Element が注文番号 (購買) を含んだElementとして識別されるようになります。 (次のページへ続く)

ステップ	操作
5	[Qualifies] リストから [1154:2 REFERENCE NUMBER] を選択して、RFFF:1102 エlementとの関係を設定します。
6	[OK] をクリックして、"ON" コードが Reference Qualifier エlement内に読み込まれます。RFF:1101 エlementと RFF:1102 エlement間の修飾関係も確立されました。

発注書番号の マップ方法

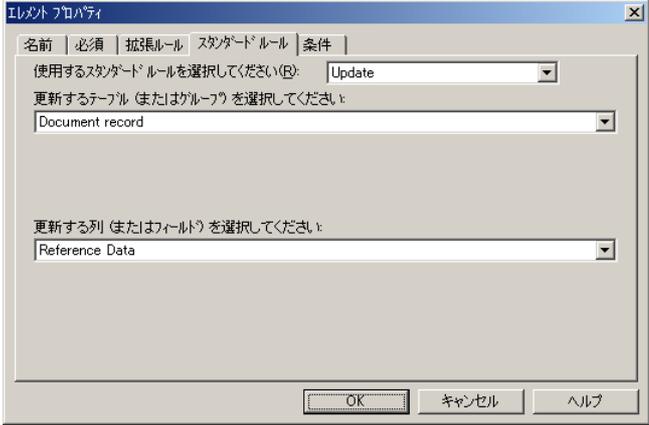
発注書番号をマップするには、INVBEGIN レコード内のアプリケーションフィールド PONUM を RFF:11 セグメント (PONUM_RFF グループ) 内の RFF:1102 エlementへ連結します。

ドキュメント参照の 設定方法

この請求書用のドキュメント参照を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	RFF:1102 エlementをダブルクリックします。すると、[エlementプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Update] を選択します。
4	[テーブル] リストから [Document record] を選択します。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
5	<p>[列] リストから [Reference Data] を選択します。すると、ドキュメント ブラウザの RefData フィールドがこのエレメントの内容で更新されるように指定されます。</p> <p>[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
6	<p>[OK] をクリックすると、ドキュメント参照が設定されます。</p>

PODATE フィールド

概要

マップの EDI 側では、発注書日付の情報が PONUM_RFF グループ内の DTM:25 セグメントに格納されます。DTM:2502 エレメント (日/時/期間) のプロパティは、パートナーから送信される最小長、最大長、タイプ、および書式が反映されるように変更する必要があります。

PODATE フィールドを DTM:2502 (日/時/期間) フィールドへ直接マップするには、"連結" 機能を使用します。DTM:2501 (Date/Time/Period Qualifier) が "4" の場合、DTM:25 セグメントには注文日/時が含まれます。Date/Time/Period Qualifier に定数をマップして、日/時/期間との修飾関係を定義する必要があります。これにより、日/時/期間に注文日/時が入るように指定することができます。

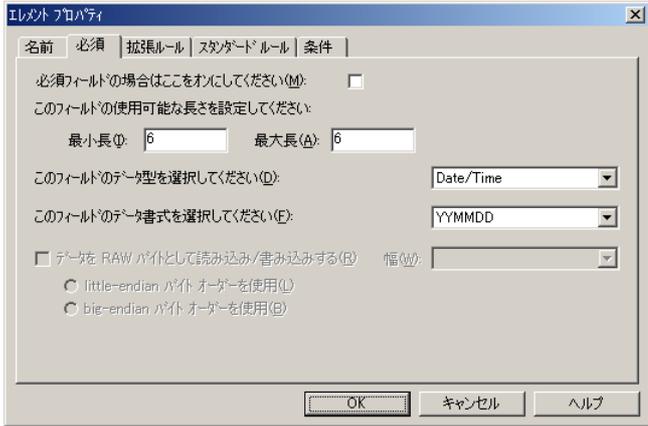
DTM:2502 エレメントのプロパティの変更方法

ここまでで、DTM:2502 エレメント (日/時/期間) の 6 桁を送信することが、パートナーに通知されました。これらの 6 桁が、YYMMDD 書式の Dt/Tm データ型 (2 桁の年、2 桁の月、および 2 桁の日) となります。DTM:2502 エレメントの最小長、最大長、タイプ、および書式は、ユーザーが自分で変更する必要があります。

DTM:2502 エレメントの長さを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM:2502 エレメントをダブルクリックします。すると、[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[必須] タブを選択します。
3	[最小長] ボックスに、最小長として「6」を入力します。
4	[最大長] ボックスに、最大長として「6」を入力します。
5	[データ型] リストから [Date/Time] を選択します。[はい] をクリックしてこのメッセージに応答し、先へ進みます。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>[書式] リストから [YYMMDD] を選択します。</p> <p>[必須] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

Date/Time/Period Qualifier の設定方法

Date/Time/Period Qualifier (DTM:2501 エレメント) に定数をマップして、日 / 時 / 期間 (DTM:2502 エレメント) との修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。これで、Date/Time/Period Qualifier エレメントに適切な定数をマップできるようになりました。

DTM:25 セグメント用の Date/Time/Period Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM:25 セグメント内の DTM:2501 エレメント (Date/Time/Period Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	<p>[定数] リストから "4" (Order Date/Time) を選択します。すると、DTM:2502 エレメントが注文日 / 時を含んだエレメントとして識別されるようになります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	[Qualifies] リストから [2380:5 DATE/TIME/PERIOD] を選択します。すると、DTM:2502 エレメントとの修飾関係が設定されます。
6	[OK] をクリックします。"4" コードが Date/Time/Period Qualifier エレメント内に読み込まれ、DTM:2501 エレメントと DTM:2502 エレメント間の修飾関係が確立されます。

注文書日付の マップ方法

PODATE フィールドを DTM2502 (日 / 時 / 期間) エレメントから直接マップするには、" 連結 " 機能を使用します。

注文書日付をマップするには、INVBEGIN レコード内のアプリケーションフィールド PODATE を DTM:25 セグメント (PONUM_RFF グループ) 内の DTM:2502 エレメントに連結します。

出荷 / 請求先情報のマッピング

概要

はじめに

NAD グループには、ベンダー、出荷先および請求先の名前 / 住所情報が含まれています。このグループは複数回にわたって繰り返されます。自社アプリケーション ファイルに含まれているベンダー、出荷先および送金先の情報は、NAD グループにマップする必要があります。ただし、フィールドおよびエレメントは、同レベルにあるものどうしに限りマップすることが可能です。つまり、非繰り返しレコードからグループへはマップできません。特に INVBEGIN レコード内のベンダー、出荷先および送金先情報は、NAD グループへ直接マップすることはできません。INVBEGIN レコードは繰り返されないためです。

ベンダー、出荷先および送金先情報をアプリケーション ファイル書式からマップするには、"プロモート" 機能を使用して NAD グループの個別の反復を 3 つ作成します。これにより、INVBEGIN レコード内のアプリケーション フィールドと NAD グループとの間の連結が有効になります。"プロモート" 機能は、グループ (または繰り返しセグメント) の反復 (インスタンス) を 1 つ抽出する機能です。これにより、自社アプリケーション ファイルからの一意のデータを各 NAD グループ (Vend_NAD、ShipTo_NAD、および RemitTo_NAD) にマップすることが可能になります。

VENDNAME フィールド

概要

NAD グループの各反復の NAD セグメント Party Qualifier へは、定数をマップすることができます。Party Qualifier が "VN" の場合、NAD グループのそうした反復には出荷先情報が含まれます。自社アプリケーション ファイル書式中の [Vendor name] フィールドおよび [Vendor address] フィールドのマップ先は、Vend_NAD グループでなければなりません。Party Qualifier が "ST" の場合、NAD グループのそうした反復には出荷先情報が含まれます。自社アプリケーション ファイル書式中の [Ship To name] フィールドおよび [Ship To address] フィールドのマップ先は、ShipTo_NAD グループでなければなりません。Party Qualifier が "RE" の場合、NAD グループのそうした反復には送金先情報が含まれます。自社アプリケーション ファイル書式中の [Remittance name] フィールドおよび [Remittance address] フィールドのマップ先は、RemitTo_NAD グループでなければなりません。

Party Qualifier の 設定方法

Vend_NAD グループ、ShipTo_NAD グループ、および RemitTo_NAD グループには、Party Qualifier を必ず設定してください。この設定により、各 NAD グループに含める必要のある名前およびアドレス情報のタイプをシステムで識別することが可能になります。

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。これで、各 Party Qualifier エlement に適切な定数をマップできるようになりました。

ステップ	操作
1	NAD:3 セグメント内の NAD:310 エlement (Party Qualifier) をダブルクリックして、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "VN" を選択します。すると、NAD グループのこの反復の内容が、ベンダー名およびアドレス情報として識別されるようになります。
5	[OK] をクリックします。"VN" コードが Party Qualifier エlement 内に読み込まれます。

(次のページへ続く)

**ShipTo_NAD
セグメント用
Party Qualifier の
設定方法**

ShipTo_NAD グループ用の Party Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	NAD:4 セグメント内の NAD:401 エレメント (Party Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "ST" を選択します。すると、NAD グループのこの反復の内容が、出荷先名およびアドレス情報として識別されるようになります。
5	[OK] をクリックします。"ST" コードが Party Qualifier エレメント内に読み込まれます。

**RemitTo_NAD
グループ用
Party Qualifier の
設定方法**

RemitTo_NAD グループ用の Party Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	NAD:5 セグメント内の NAD:501 エレメント (Party Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "RE" を選択します。すると、NAD グループのこの反復の内容が、ベンダー名およびアドレス情報として識別されるようになります。
5	[OK] をクリックします。"RE" コードが Party Qualifier エレメント内に読み込まれます。

(次のページへ続く)

**NAD グループの
連結方法**

アプリケーションフィールド内のエレメントを NAD グループ内の適切なエレメントに連結します。

**他のアプリケーション
フィールドおよび
エレメントの
マッピング**

次の表に、INVBEGIN レコード内のアプリケーションフィールド、およびそのマップ先となるエレメントをまとめます。

マップ対象の アプリケーション フィールド	フィールドの連結先
VENDNAME	NAD:3 セグメント (Vend_NAD グループ) 内の NAD:310 エレメント
VENADD1	NAD:3 セグメント (Vend_NAD グループ) 内の NAD:316 エレメント
VENADD2	NAD:3 セグメント (Vend_NAD グループ) 内の NAD:317 エレメント
VENDCITY	NAD:3 セグメント (Vend_NAD グループ) 内の NAD:319 エレメント
VENDSTATE	NAD:3 セグメント (Vend_NAD グループ) 内の NAD:320 エレメント
VENDPOSTALCODE	NAD:3 セグメント (Vend_NAD グループ) 内の NAD:321 エレメント
SHIPTONAME	NAD:4 セグメント (ShipTo_NAD グループ) 内の NAD:410 エレメント
SHIPTOADD1	NAD:4 セグメント (ShipTo_NAD グループ) 内の NAD:416 エレメント
SHIPTOADD2	NAD:4 セグメント (ShipTo_NAD グループ) 内の NAD:417 エレメント
SHIPTOCITY	NAD:4 セグメント (ShipTo_NAD グループ) 内の NAD:419 エレメント
SHIPTOSTATE	NAD:4 セグメント (ShipTo_NAD グループ) 内の NAD:420 エレメント
SHIPTOPOSTALCODE	NAD:4 セグメント (ShipTo_NAD グループ) 内の NAD:421 エレメント

SHIPTOLOC フィールド

概要

SHIPTOLOC (Ship to Location) は、出荷先住所に関する追加の参照情報が入りません。このフィールドは、1 回だけ出現する INVBEGIN レコード内に含まれています。このフィールドのマップ先は、ShipTo_NAD グループの LOC:13 セグメント内の LOC:1305 エlement (Place/Location) です。

Place Location Qualifier (LOC:1301 エlement) に定数をマップして、Place/Location (LOC:1305 エlement) との修飾関係を定義する必要があります。Place Location Qualifier が "4" (Goods Receipt Place) の場合、LOC:13 セグメントのそうした反復には出荷先場所が入ります。

Place/Location Qualifier の設定方法

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。今度は、Place/Location Qualifier エlement に適切な定数をマップします。

LOC:13 セグメント用の Place/Location Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	ShipTo_NAD グループの LOC:13 セグメント内の LOC:1301 エlement (Place/Location Qualifier) をダブルクリックして、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストで、リストにある 2 番目の "4" 定数を選択します。すると、LOC:13 セグメントのそうした反復が出荷先場所を含んだセグメントとして識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [3224:5 PLACE/LOCATION] を選択します。すると、Place/Location エlement との修飾関係が設定されます。
6	[OK] をクリックします。"4" コードが Place/Location Qualifier エlement 内に読み込まれ、LOC:1301 エlement と LOC:1305 エlement 間の修飾関係が確立されます。

(次のページへ続く)

**[Ship to Location]
フィールドの
マップ方法**

Place/Location Qualifier エlementに定数をマップして適切な修飾関係を確認した後、SHIPTOLOC フィールドをマップしてください。

SHIPTOLOC をマップするには、INVBEGIN レコード内のアプリケーション フィールド SHIPTOLOC を LOC:13 セグメント (ShipTo_NAD グループ) 内の LOC:1305 Elementへ連結します。

**[SHIPTODEPTNUM]
フィールドの
マップ方法**

SHIPTO DEPTNUM (Ship to Department Number) には、出荷先住所に関する追加の参照情報が入ります。このフィールドは、1 回だけ出現する INVBEGIN レコード内に含まれています。このフィールドのマップ先は、ShipTo_NAD グループの CTA:5 グループ内の CTA:603 Element (部署または従業員) です。

SHIPTODEPTNUM をマップするには、INVBEGIN レコード内のアプリケーション フィールド SHIPTODEPTNUM を CTA:6 セグメント (ShipTo_NAD グループ) 内の CTA:603 Elementへ連結します。

**他のアプリケーション
フィールドおよび
Elementの
マッピング**

次の表に、INVBEGIN レコード内のアプリケーション フィールド、およびそのマップ先となるElementをまとめます。

マップ対象の アプリケーション フィールド	フィールドの連結先
REMITTONAME	NAD:5 セグメント (RemitTo_NAD グループ) 内の NAD:510 Element
REMITTOADD1	NAD:5 セグメント (RemitTo_NAD グループ) 内の NAD:516 Element
REMITTOADD2	NAD:5 セグメント (RemitTo_NAD グループ) 内の NAD:517 Element
REMITTOCITY	NAD:5 セグメント (RemitTo_NAD グループ) 内の NAD:519 Element
REMITTOSTATE	NAD:5 セグメント (RemitTo_NAD グループ) 内の NAD:520 Element
REMITTOPOSTALCODE	NAD:5 セグメント (RemitTo_NAD グループ) 内の NAD:521 Element

BOLNUM フィールド

概要

BOLNUM フィールドを RFF:1202 (Reference Number) フィールドへ直接マップするには、" 連結 " 機能を使用します。RFF:1201 (Reference Qualifier) が "BM" の場合、RFF:12 セグメントには発送費番号が入ります。Reference Qualifier に定数をマップして、Reference Number との修飾関係を確立する必要があります。これにより、Reference Number エlementに発送費番号が入るように指定することができます。

Reference Qualifier の設定方法

Reference Qualifier (RFF:1201 エlement) に定数をマップして、Reference Number (RFF:1202 エlement) との修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。今回は、Reference Qualifier エlementに適切な定数をマップします。

RFF:12 セグメント用の Reference Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	RFF:12 セグメント (BOL_RFF グループ) 内の RFF:1201 エlement (Reference Qualifier) をダブルクリックして、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "BM" 定数 (発送費番号) を選択します。すると、RFF:1202 エlementが発送費番号を含んだエlementとして識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [1154:3 REFERENCE NUMBER] を選択して、RFF:1202 エlementとの関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"BM" コードが Reference Qualifier エlement内に読み込まれ、RFF:1201 エlementと RFF:1202 エlement間の修飾関係が確立されます。

発送費番号のマップ方法

BOLNUM (発送費番号) をマップするには、INVBEGIN レコード内のアプリケーション フィールド BOLNUM を RFF:12 セグメント (BOL_RFF グループ) 内の RFF:1202 エlementへ連結します。

SHIPDATE フィールド

概要

マップの EDI 側では、発注書日付の情報が BOL_RFF グループ内の DTM:26 セグメントに格納されます。DTM:2602 エレメント (日/時/期間) のプロパティは、パートナーから送信される最小長、最大長、タイプ、および書式が反映されるように変更する必要があります。

SHIPDATE フィールドを DTM2602 (Date/Time/Period) エレメントから直接マップするには、"連結" 機能を使用します。DTM:2601 (Date/Time/Period Qualifier) が "11" の場合、DTM:26 セグメントには配送日/時が入ります。Date/Time/Period Qualifier に定数をマップして、日/時/期間との修飾関係を定義する必要があります。これにより、Date/Time/Period エレメントに配送日/時が入るように指定することができます。

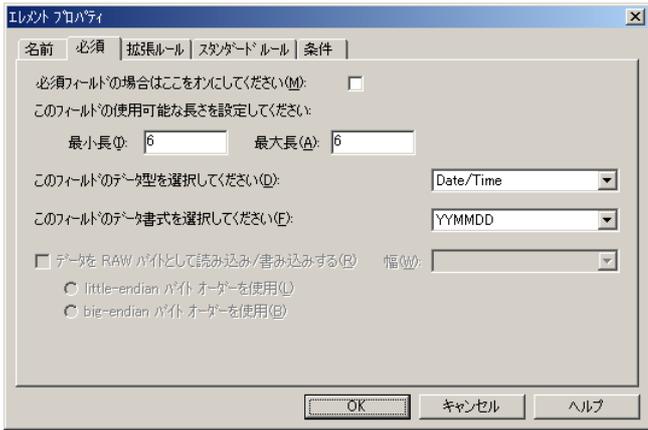
DTM:2602 エレメントのプロパティの変更方法

ここまでで、DTM:2602 エレメント (日/時/期間) の 6 桁を送信することが、パートナーに通知されました。これらの 6 桁が、YYMMDD 書式の Dt/Tm データ型 (2 桁の年、2 桁の月、および 2 桁の日) となります。DTM:2602 エレメントの最小長、最大長、タイプ、および書式は、ユーザーが自分で変更する必要があります。

DTM:2602 エレメントの長さを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM:2602 エレメントをダブルクリックします。すると、[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[必須] タブを選択します。
3	[最小長] ボックスに、最小長として「6」を入力します。
4	[最大長] ボックスに、最大長として「6」を入力します。
5	[データ型] リストから [Date/Time] を選択します。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>[書式] リストから [YYMMDD] を選択します。</p> <p>[必須] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

Date/Time/Period Qualifier の設定方法

Date/Time/Period Qualifier (DTM:2601 エレメント) に定数をマップして、Date/Time/Period (DTM:2602 エレメント) との修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。今度は、Date/Time/Period Qualifier エレメントに適切な定数をマップします。

DTM:26 セグメント用の Date/Time/Period Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	DTM:26 セグメント内の DTM:2601 エレメント (Date/Time/Period Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	<p>[定数] リストから "11" (Dispatch Date/Time) を選択します。すると、DTM:2602 エレメントが配送日 / 時を含んだエレメントとして識別されるようになります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



(続き) ステップ	操作
5	[Qualifies] リストから [2380:6 DATE/TIME/PERIOD] を選択します。すると、DTM:2602 エレメントとの修飾関係が設定されます。
6	[OK] をクリックします。"11" コードが Date/Time/Period Qualifier エレメント内に読み込まれ、DTM:2601 エレメントと DTM:2602 エレメント間の修飾関係が確立されます。

注文書日付の マップ方法

SHIPDATE フィールドを DTM2602 (日 / 時 / 期間) エレメントから直接マップするには、" 連結 " 機能を使用します。

注文書日付をマップするには、INVBEGIN レコード内のアプリケーションフィールド SHIPDATE を DTM:26 セグメント (BOL_RFF グループ) 内の DTM:2602 エレメントに連結します。

INVCommentGroup: INVCOMMENT1 レコード

概要

はじめに

INVCommentGroup (コメント情報) は、参照番号やメッセージテキストなどの、請求書に関するすべてのコメント情報をグループ化します。INVCommentGroup は、トランスレーションされた請求書ごとに最大 10 回出現します。INVCommentGroup の中の情報は、レコード別にさらに細分されます。

INVCOMMENT1 レコード内のフィールドのマッピング

概要

このセクションでは、INVCOMMENT1 (第1コメント) レコード内の各フィールドからマップする方法について説明します。INVCOMMENT1 レコードには、参照番号が含まれています。第1コメントレコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに1回ずつ(1コメント行につき1回)出現します。

BILLTOACCTCM1 フィールド

BILLTOACCTCM1 フィールドは、アプリケーションファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

DOCTYPCM1 フィールド

DOCTYPCM1 フィールドは、アプリケーションファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

INVNUMCM1 フィールド

INVNUMCM1 フィールドは、アプリケーションファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

REFNUM フィールドのマップ方法

概要

FTX セグメントには、自由形式テキストまたはコード化されたテキストの情報が含まれます。このセグメントは、最大 2 回まで繰り返されます。REFNUM フィールドは、FTX セグメント内の FTX 06 エレメントへ直接マップすることが可能です。ただし、Text Subject Qualifier (FTX01 エレメント) に定数をマップし、フリー テキスト (FTX06) エレメントとの修飾関係を定義して、FTX06 に参照番号が含まれていることが識別されるようにしておく必要があります。

Text Subject Qualifier の設定方法

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。今度は、Text Subject Qualifier エレメントに適切な定数をマップします。

FTX セグメント用の Text Subject Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	FTX セグメント内の FTX01 エレメント (Text Subject Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "INV" 定数を選択します。すると、FTX セグメントが参照番号 (請求指示) を含んだセグメントとして識別されるようになります。この参照番号は、主注文番号に対する付加的な番号です。
5	[Qualifies] リストから [4440:FREE TEXT] を選択します。すると、フリー テキスト エレメントとの修飾関係が設定されます。
6	[OK] をクリックします。"INV" コードが Reference Number Qualifier エレメント内に読み込まれ、FTX01 エレメントと FTX06 エレメント間の修飾関係が確立されます。

(次のページへ続く)

**参照番号の
マッピング**

Reference Number Qualifier エlementに定数をマップして適切な修飾関係を確立した後は、REFNUM フィールドをマップしてください。

出荷先参照情報をマップするには、INVCOMMENT1 レコード内のアプリケーション フィールド REFNUM を REF セグメント内の FTX06 Elementに連結します。

INVCommentGroup: INVCOMMENT2 レコード

概要

はじめに

このセクションでは、INVCOMMENT1 (第1コメント) レコード内の各フィールドからマップする方法について説明します。INVCOMMENT2 レコードには、メッセージテキストが含まれています。第2コメントレコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに1回ずつ(1コメント行につき1回)出現します。

BILLTOACCTCM2 フィールド

BILLTOACCTCM2 フィールドは、アプリケーションファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

DOCTYPCM2 フィールド

DOCTYPCM2 フィールドは、アプリケーションファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

INVNUMCM2 フィールド

INVNUMCM2 フィールドは、アプリケーションファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

MESSAGETEXT フィールドの マップ方法

メッセージテキストをマップするには、INVCOMMENT2 レコード内のアプリケーションフィールド MESSAGETEXT を FTX セグメント内の FTX07 エlementに連結します。

INVCommentGroup: INVDETAIL レコード

概要

はじめに

このセクションでは、INVDETAIL (明細) レコード内の各フィールドからマップする方法について説明します。INVCOMMENT2 レコードは、ライン アイテム番号、説明、出荷数量、注文数量、単位、価格、および製品コードから構成されます。明細レコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 20 万回 (請求済みライン アイテムごとに 1 回ずつ) 出現します。

BILLTOACCTDET フィールド

BILLTOACCTDET フィールドは、アプリケーション ファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

DOCTYPDET フィールド

DOCTYPDET フィールドは、アプリケーション ファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

INVNUMDET フィールド

INVNUMDET フィールドは、アプリケーション ファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

ITEMNUM フィールド

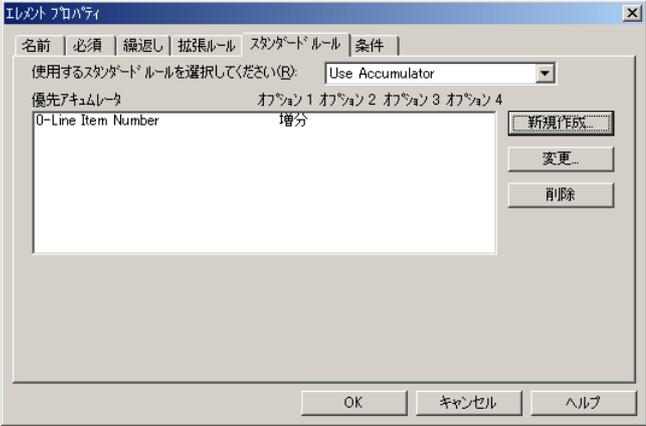
概要

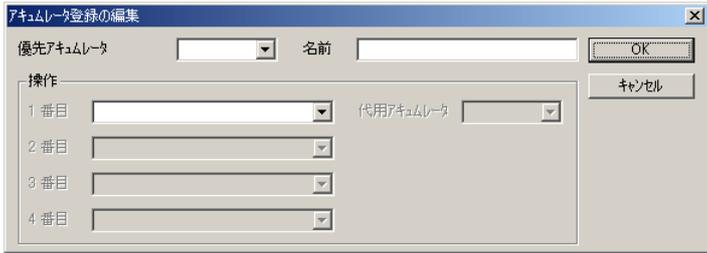
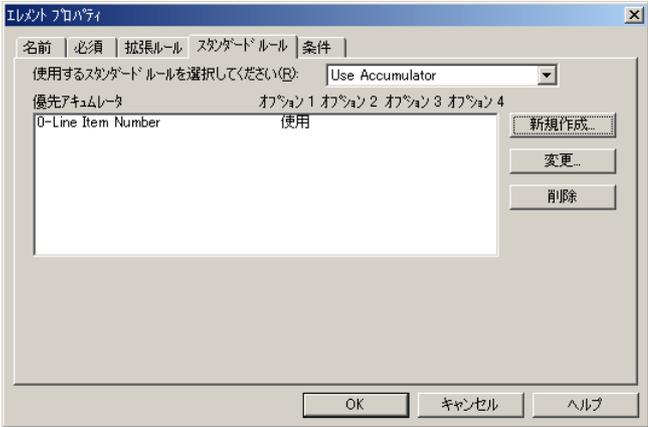
ITEMNUM フィールドは、LIN セグメント (LIN グループ) 内の LIN01 Line Item Number エlement へ直接マップすることが可能です。ただし、ライン アイテム数の連番カウントを計算しておく必要があります。トランザクション合計エlement (CNT:202) 内の合計値を使用してください。

ライン アイテム数の計算方法

ライン アイテムをカウントして Control の総数を生成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループの LIN セグメント内の LIN01 エlement をダブルクリックします。このフィールドは通常、ライン アイテムをカウントするために使用されます。[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Accumulator] を選択します。
4	[新規作成] を選択して、このエlement 用に新規の計算を作成するための [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。
5	[優先アキュムレータ] リストで、"0" を選択します。アキュムレータ上でまだ計算が実行されていない場合、アキュムレータのコンテンツは "0" (ゼロ) です。アキュムレータが使用されると、新しいアキュムレータがこのリストの最後に追加されます。 メモ アキュムレータはマップごとに 1 セットのみ存在します。つまり、アキュムレータ "0" は、[優先アキュムレータ] ボックスに使用するか [代用アキュムレータ] ボックスに使用するかに関係なく、同一内容を持つ同じアキュムレータです。マップの開始位置にあるアキュムレータ "0" に計算を割り当てた後、もう一度アキュムレータ "0" を使用すると、アキュムレータの内容が以前の計算の結果になります。そのアキュムレータに他にも計算を割り当てた場合は、以前の計算から求められた内容に対してその計算が実行されます。
6	[名前] ボックスに「Line Item Number」と入力します。この説明的なエイリアスによって、作成されたアキュムレータがどのような目的に使われているかを判別することができます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	<p>[1 番目] リストから [Increment primary] を選択します。ここで選択した演算が、最初に実行されます。これにより、このアキュムレータ内の値が LIN グループごとに 1 ずつ増分するよう指定されます。</p> <p>メモ [1 番目] ボックスは、優先アキュムレータを選択するとアクティブになります。</p>
8	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
9	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、スタンダード ルールが LIN01 エレメントに追加されます。</p>
10	<p>CNT:2 セグメント内の CNT:202 エレメントをダブルクリックします。このフィールドには通常、合計ライン アイテム数が入ります。[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
11	<p>[スタンダード ルール] タブを選択します。</p>
12	<p>[スタンダード ルール] リストから [Use Accumulator] を選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
13	<p>[新規作成] を選択して、このエレメント用に新規の計算を作成するための [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p> 
14	<p>[優先アキュムレータ] リストで、優先アキュムレータ "0" を選択します。このアキュムレータに、現在、ライン アイテムの総数が含まれています。</p>
15	<p>[1 番目] リストで、[Use primary] を選択します。これにより、アキュムレータの現在の値を CNT:202 (コントロール値) エレメントに読み込まれるように指定されます。</p>
16	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
17	<p>[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、CNT:202 エレメントにスタンダード ルールが追加されます。この時点で、CNT:202 エレメントには、請求書に記載される合計ライン アイテム数が入ります。</p>

(次のページへ続く)

**アイテム番号の
マップ方法**

アキュムレータを使用してライン アイテム数の連番カウントを計算した後は、ITEMNUM フィールドを LIN01 エlementへ直接マップします。

アイテム番号をマップするには、INVDETAIL レコード内のアプリケーション フィールド ITEMNUM を LIN セグメント (LIN グループ) 内の LIN01 エlementへ連結します。

QTYSHIP フィールド

概要

ここまでの、LIN グループ内の QTY セグメントの反復を既に 2 つプロモートしました。QTYSHIP フィールドは、LIN グループの QTY:5 セグメント内の QTY:502 Quantity エレメントへ直接マップすることが可能です。ただし、Quantity Qualifier (QTY:501 エレメント) に定数をマップして、Quantity (QTY:502 エレメント) との修飾関係を定義する必要があります。Quantity Qualifier が "12" (Despatch Quantity) の場合、QTY:5 セグメントのそうした反復には、出荷数量が入ります。

また、ライン アイテムごとに出荷数量をカウントして、CNT:302 (ハッシュトータル) フィールドに合計数を読み込む必要があります。さらに、Control Qualifier (CNT:301 エレメント) に定数をマップして、Monetary Amount (CNT:302) エレメントとの修飾関係を定義することも必要です。Control Qualifier が "1" (Total Quantity) の場合、CNT:3 セグメントのそうした反復には、合計数量が入ります。

Quantity Qualifier の設定方法

Quantity Qualifier (QTY:501 エレメント) に定数をマップして、Quantity (QTY:502) エレメントとの修飾関係を定義します

このマップに使用される定数は、既に定義されました。今度は、Quantity Qualifier エレメントに適切な定数をマップします。

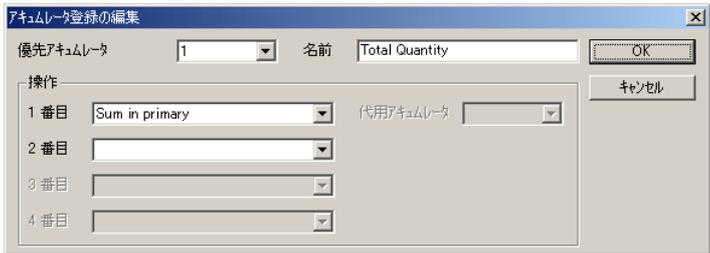
QTY:5 セグメント用の Quantity Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

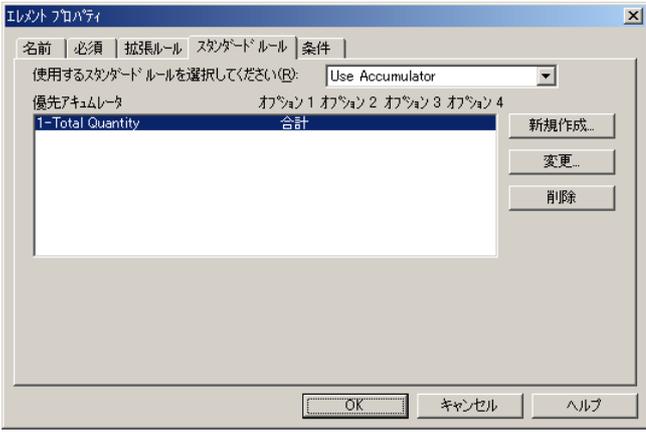
ステップ	操作
1	LIN グループの QTY:5 セグメント内の QTY:501 エレメント (Quantity Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "12" を選択します。すると、QTY:5 セグメントのこの反復の内容が出荷数量として識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [6060:2 QUANTITY] を選択して、数量エレメントとの関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"12" コードが数量修飾子エレメント内に読み込まれ、QTY:501 エレメントと QTY:502 エレメント間の修飾関係が確立されます。

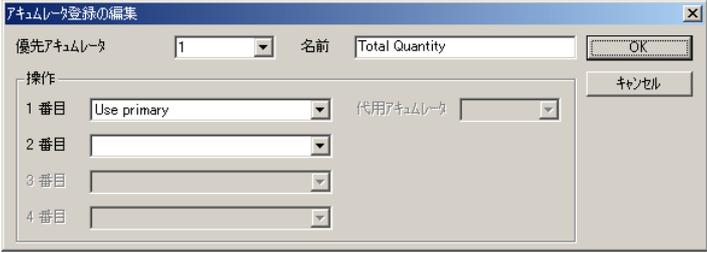
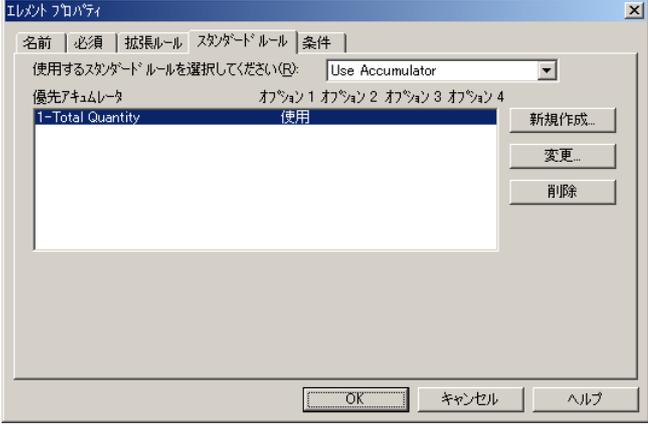
(次のページへ続く)

ライン アイテム数 の計算方法

ハッシュトータルをカウントして請求書を生成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループの QTY:5 セグメント内の QTY:502 エレメントをダブルクリックします。このフィールドは通常、ライン アイテムをカウントするために使用されます。[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Accumulator] を選択します。
4	[新規作成] を選択して、このエレメント用に新規の計算を作成するための [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。
5	[優先アキュムレータ] リストで、"1" を選択します。
6	[名前] ボックスに「Total Quantity」と入力します。この説明的なエイリアスによって、作成されたアキュムレータがどのような目的に使われているかを判別することができます。
7	<p>[1 番目] リストから [Sum in primary] を選択します。これは、システムで実行される最初の操作であり、システムが PO1 グループの各反復についてフィールドの数値 (プラス記号およびマイナス記号を考慮する) を優先アキュムレータの内容に追加するように指定する操作でもあります。</p> <p>この時点で、[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p>  <p>The screenshot shows a dialog box titled 'エレメントプロパティ' (Element Properties) with tabs for '名前', '必須', '拡張ルール', 'スタンダードルール', and '条件'. The 'スタンダードルール' (Standard Rules) tab is active. A dropdown menu is set to 'Use Accumulator'. Below it is a table with columns '優先アキュムレータ' (Priority Accumulator) and '合計' (Total). The table contains one row: '1-Total Quantity' and '合計'. To the right of the table are buttons: '新規作成...' (New), '変更...' (Change), and '削除' (Delete). At the bottom of the dialog are 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help) buttons.</p>
9	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、QTY:502 エレメントにスタンダード ルールが追加されます。</p>
10	<p>CNT:3 セグメント内の CNT:302 エレメントをダブルクリックします。このフィールドには通常、発注書の合計数量が入ります。[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
11	<p>[スタンダード ルール] タブを選択します。</p>
12	<p>[スタンダード ルール] リストから [Use Accumulator] を選択します。</p>
13	<p>[新規作成] を選択して、このエレメント用に新規の計算を作成するための [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p>
14	<p>[優先アキュムレータ] リストで、優先アキュムレータ "1" を選択します。このアキュムレータに、現在、合計数量が含まれています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
15	<p>[1 番目] リストから [Use primary] を選択します。すると、アキュムレータの現在の値を CNT:302 (コントロール値) エlement内に読み込むように指定されます。</p> <p>この時点で、[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
16	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
17	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、CNT:302 エlementにスタンダード ルールが追加されます。CNT:302 エlementには現在、発注書の合計数量が入っています。</p>

(次のページへ続く)

**Control Qualifier
の設定方法**

Control Qualifier (CNT:301 エlement) に定数をマップして、コントロール値 (CNT:302) エlement との修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用される定数は、既に定義されました。今度は、Control Qualifier エlement に適切な定数をマップします。

CNT:3 セグメント用の Control Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	CNT:3 セグメント内の CNT:301 エlement (Control Qualifier) をダブルクリックして、[エlement プロパティ] ダイアログボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "1" を選択します。すると、CNT:3 セグメントのこの反復の内容が合計数量として識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [6066:3 CONTROL VALUE] を選択して、コントロール値エlement との関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"1" コードが Control Qualifier エlement 内に読み込まれ、CNT:301 エlement と CNT:302 エlement 間の修飾関係が確立されます。

**出荷数量の
マップ方法**

アキュムレータを使って各ライン アイテムの請求数量を計算してハッシュトータルを生成した後は、QTYSHIP フィールドを QTY:502 エlement へ直接マップすることができます。

QTYSHIP をマップするには、INVDETAIL レコード内のアプリケーション フィールド QTYSHIP を QTY:5 セグメント (LIN グループ) 内の QTY:502 エlement へ連結します。

QTYORD フィールド

概要

ここまでの、LIN グループ内の QTY セグメントの反復を既に 2 つプロモートしました。QTYORD フィールドは、LIN グループの QTY:6 セグメント内の QTY:602 Quantity へ直接マップすることが可能です。ただし、Quantity Qualifier (QTY:601 エレメント) に定数をマップして、Quantity (QTY:602 エレメント) との修飾関係を定義する必要があります。Quantity Qualifier が "21" (注文数量) の場合、QTY:6 セグメントのそうした反復には、注文数量が入ります。

Quantity Qualifier の設定方法

Quantity Qualifier (QTY:601 エレメント) に定数をマップして、Quantity (QTY:602) エレメントとの修飾関係を定義する必要があります

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。今度は、Quantity Qualifier エレメントに適切な定数をマップします。

QTY:6 セグメント用の Quantity Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループの QTY:6 セグメント内の QTY:601 エレメント (Quantity Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "21" を選択します。すると、QTY:6 セグメントのこの反復の内容が注文数量として識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [6060:3 QUANTITY] を選択して、Quantity エレメントとの関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"21" コードが Quantity Qualifier エレメント内に読み込まれ、QTY:601 エレメントと QTY:602 エレメント間の修飾関係が確立されます。

(次のページへ続く)

**注文数量の
マップ方法**

アキュムレータを使って各ライン アイテムの請求数量を計算してハッシュテーブルを生成した後は、QTYORD フィールドを QTY:602 エレメントへ直接マップすることができます。

QTYORD をマップするには、INVDETAIL レコード内のアプリケーション フィールド QTYORD を QTY:6 セグメント (LIN グループ) 内の QTY:602 エレメントへ連結します。

UNITPRICE フィールド

概要

UNITPRICE フィールドは、MOA:13 セグメント (LIN グループに属する MOA:2 グループに含まれる) 内の MOA:1302 金額エレメントへ直接マップすることが可能です。ただし、Monetary Amount Type Qualifier (MOA:1301 エレメント) に定数をマップして、金額 (MOA:1302) エレメントとの修飾関係を定義する必要があります。Monetary Amount Type Qualifier が "146" (Unit Price) の場合、MOA:13 セグメントのそうした反復には単価が入ります。

増値を算出するには、各ライン アイテムの請求数量を単価で乗算する必要があります。また、増値の累計を生成して、最終的な合計 MOA:1402 (Total Invoice Amount) エレメントを読み込む必要もあります。

Monetary Amount Type Qualifier の設定方法

Monetary Amount Type Qualifier (MOA:1301 エレメント) に定数をマップして、金額 (MOA:1302) エレメントとの修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用される定数は、既に定義されました。今度は、Monetary Amount Type Qualifier エレメントに適切な定数をマップします。

MOA:13 セグメント用の Monetary Amount Type Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

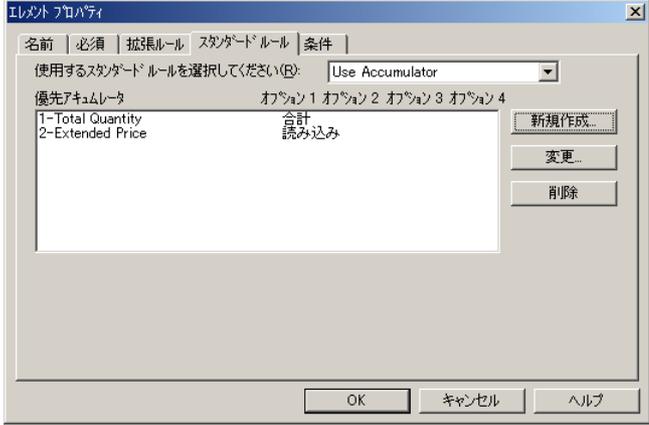
ステップ	操作
1	MOA:2 グループの MOA:13 セグメント内の MOA:1301 エレメント (Monetary Amount Type Qualifier) をダブルクリックして、[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "146" を選択します。すると、MOA:13 セグメントのこの反復の内容が単価として識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [5004:2 MONETARY AMOUNT] を選択して、Quantity との関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"146" コードが Monetary Amount Qualifier エレメント内に読み込まれ、MOA 1301 エレメントと MOA:1302 エレメント間の修飾関係が確立されます。

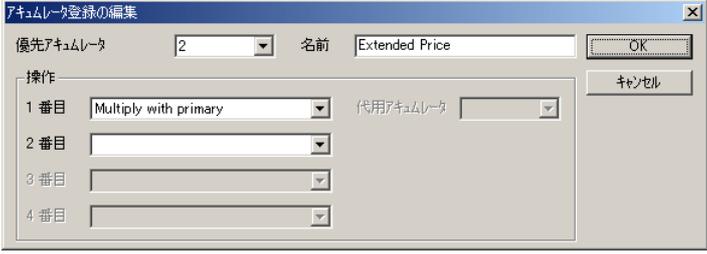
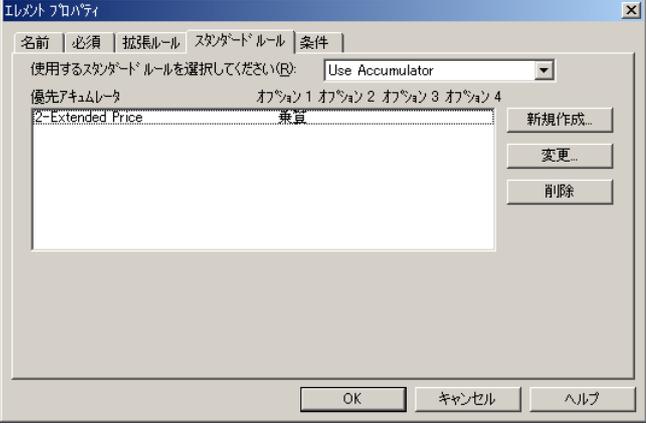
(次のページへ続く)

合計値の計算方法

各ラインアイテムの請求数量を単価で乗算して、増値を算出するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループの QTY:5 セグメント内の QTY:502 エレメントをダブルクリックします。このフィールドは通常、請求数量をカウントするために使用されます。[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[新規作成] を選択して、このエレメント用に新規の計算を作成するための [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。
4	[優先アキュムレータ] リストで、"2" を選択します。
5	[名前] ボックスに「Extended Price」と入力します。
6	<p>[1 番目] リストで、[Load primary] を選択します。これは、システムで実行される最初の操作であり、システムが QTY:5 グループの各反復についてエレメントの内容を優先アキュムレータに読み込むように指定する操作でもあります。</p> <p>この時点で、[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

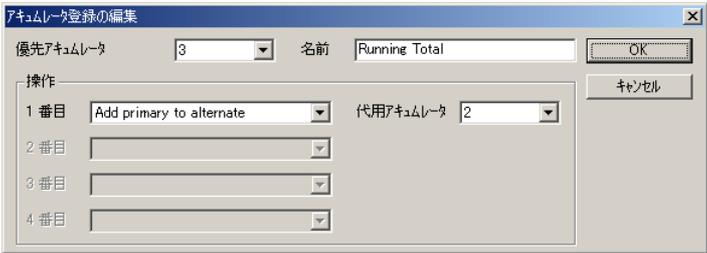
(続き) ステップ	操作
7	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
8	<p>[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、QTY:502 エレメントにスタンダード ルールが追加されます。</p>
9	<p>MOA:1302 エレメント (LIN グループに属する MOA:2 グループ内の MOA:13 セグメントにある) をダブルクリックします。このエレメントは、各ライン アイテム用の単価が入るフィールドです。[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
10	<p>[スタンダード ルール] タブを選択します。</p>
11	<p>[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。</p>
12	<p>[新規作成] を選択して、このエレメント用に新規の計算を作成するための [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p>
13	<p>[優先アキュムレータ] リストで、"2" を選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

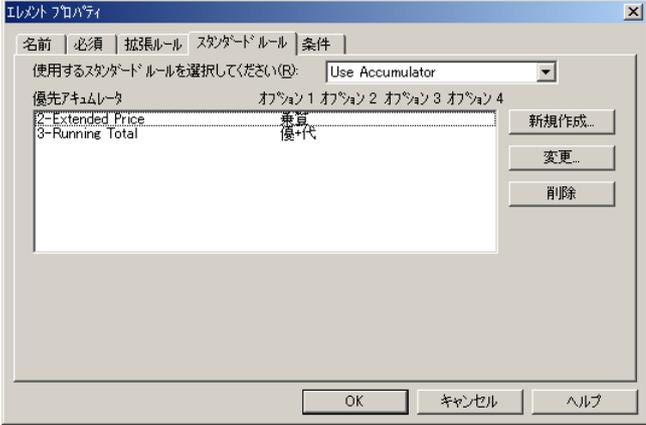
(続き) ステップ	操作
14	<p>[1 番目] リストで、[Multiply with primary] を選択します。ここで選択した演算が、最初に行われます。これにより、システムが MOA:1302 (Unit Price) エレメントの値を優先アキュムレータの内容で乗算して、MOA:2 グループの各反復について結果を優先アキュムレータに格納するように指定されます。</p> <p>この時点で、[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
15	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
16	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、MOA:1302 エレメントにスタンダード ルールが追加されます。</p> <p>メモ EDI ファイル内に増値エレメントがある場合は、増値計算からの合計を、そのエレメント内に読み込みます。このロードを行うには、アキュムレータ 2 用に [Use primary] を指定する増値エレメントに対して、アキュムレータを使用します。</p>

(次のページへ続く)

累計の生成方法

現行の総合計金額を生成するには、次の手順に従います。

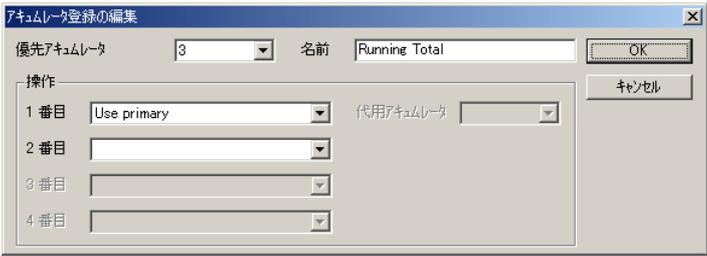
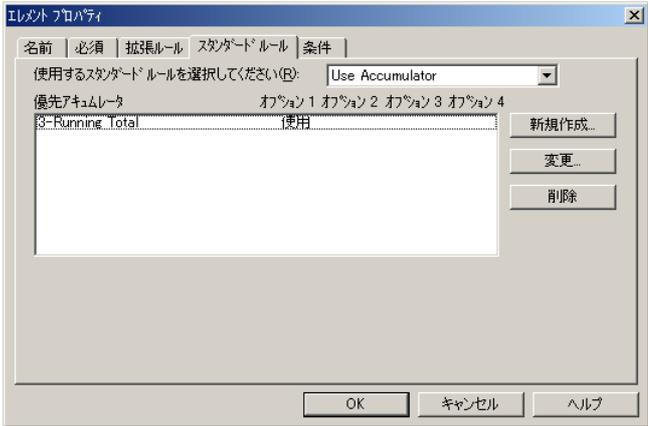
ステップ	操作
1	MOA:1302 エlement (LIN グループに属する MOA:2 グループ内の MOA:13 セグメントにある) をダブルクリックします。この Element は、各ライン アイテム用の単価が入るフィールドです。[Element プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[新規作成] をクリックして、この Element 用に別の計算を作成するための [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。
4	[優先アキュムレータ] リストで、優先アキュムレータ "3" を選択します。
5	[名前] ボックスに「Running Total」と入力します。
6	[1 番目] リストで、[Add primary to alternate] を選択します。これにより、システムが優先アキュムレータの内容を代用アキュムレータに追加して、MOA:2 グループの各反復について結果を優先アキュムレータに格納するように指定されます。
7	<p>[代用アキュムレータ] リストで、"2" を選択します。これにより、アキュムレータの値 "2" (ライン アイテムの増値を含む) をアキュムレータの値 "3" (MOA:2 グループの各反復に対する増値累計を含む) に追加するように指定されます</p> <p>この時点で、[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
9	<p>[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、MOA:1302 エレメントにスタンダード ルールが追加されます。</p>

**累積合計の
読み込み方法**

増値の累計を MOA:1402 (金額) エレメントに読み込むには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>MOA:1402 エレメント (マップの概要セクション中の MOA:2 グループに含まれる MOA:14 セグメントにある) をダブルクリックします。このエレメントは、合計金額が入るフィールドです。[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[スタンダード ルール] タブを選択します。</p>
3	<p>[スタンダード ルール] リストから [Use Accumulator] を選択します。</p>
4	<p>[新規作成] をクリックして、このエレメント用に新規の計算を作成するための [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p>
5	<p>[優先アキュムレータ] リストで、"3" を選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>[1 番目] リストで、[Use primary] を選択します。これにより、優先アキュムレータの内容を MOA:1402 エレメントに読み込むように指定されます。</p> <p>この時点で、[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスの表示が、下図のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。[スタンダード ルール] タブの表示が、下図のようになります。</p> 
8	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、MOA:1402 エレメントにスタンダード ルールが追加されます。</p>

単価のマップ方法

アキュムレータを使って各ライン アイテムの請求数量を単価で乗算して増値を算出し、増値の累計を生成した後は、UNITPRICE フィールドを MOA:1302 エレメントへ直接マップします。

UNITPRICE をマップするには、INVDDETAIL レコード内のアプリケーション フィールド UNITPRICE を MOA:13 セグメント (LIN グループに属す MOA:2 グループ) 内の MOA:1302 エレメントへ連結します。

(次のページへ続く)

**UOM フィールドの
マップ方法**

ここまでで、出荷数量を QTY:5 セグメントにマップし、注文数量を QTY:6 セグメントにマップしました。単位は両方のセグメントにマップします。

UOM を両方のセグメントにマップするには、INVDETAIL レコード内のアプリケーションフィールド UOM を QTY:5 セグメント (LIN グループ) 内の QTY:503 エlementへ連結します。その後、INVDETAIL レコード内のアプリケーションフィールド UOM を QTY:6 セグメント (LIN グループ) 内の QTY:603 エlementへ連結します。

CUSTPROCEDURE フィールド

概要

CUSTPROCEDURE (customer product code) フィールドは、LIN グループの LIN セグメント内の LIN03 エlement へ直接マップすることが可能です。ただし、LIN04 エlement (コーディング済みアイテム番号タイプ) に定数をマップして、アイテム番号 (LIN03) との修飾関係を確立する必要があります。これにより、LIN03 エlement にパートナーの製品コードが入るように指定することができます。

コーディング済み ライン アイテム タイプの設定方法

LIN04 エlement (コーディング済みアイテム番号タイプ) に定数をマップして、アイテム番号 (LIN03) との修飾関係を確立する必要があります。

このマップに使用される定数は、既に定義されました。今回は、コーディング済みアイテム番号タイプ エlement に適切な定数をマップします。

コーディング済みアイテム番号タイプ エlement 用の定数を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループの LIN セグメント内の LIN04 エlement (コーディング済みアイテム番号タイプ) をダブルクリックして、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "BP" 定数 (Buyer's Part Number) を選択します。すると、LIN04 エlement が customer product code を含んだエlement として識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [7140:2 ITEM NUMBER] を選択して、アイテム番号エlement との関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"BP" コードがコーディング済みアイテム番号タイプ エlement 内読み込まれ、LIN03 エlement と LIN04 エlement 間の修飾関係が確立されます。

customer product code のマップ方法

適切な修飾関係を確立した後は、CUSTPROCEDURE フィールドをマップします。

製品コード情報をマップするには、INVDDETAIL レコード内のアプリケーション フィールド CUSTPROCEDURE を LIN セグメント (LIN グループ) 内の LIN03 エlement へ連結します。

UPCCODE フィールド

概要

UPCCODE (自社の UPC コード) フィールドは、LIN グループの PIA:2 セグメント内の PIA:202 エレメントへ直接マップすることが可能です。ただし、PIA:203 エレメント (コーディング済みアイテム番号タイプ) に定数をマップして、アイテム番号 (PIA:202) との修飾関係を確立する必要があります。これにより、PIA:202 エレメントに自社の UPC コードが入るように指定することができます。

さらに、PIA:2 セグメント (PIA:201 エレメント) 用に Product ID Function Qualifier を設定することも必要です。

コーディング済み ラインアイテム タイプの設定方法

PIA:203 エレメント (コーディング済みアイテム番号タイプ) に定数をマップして、アイテム番号 (PIA:202) との修飾関係を確立する必要があります。

このマップに使用される定数は、既に定義されました。今度は、コーディング済みアイテム番号タイプ エレメントに適切な定数をマップします。

コーディング済みアイテム番号タイプ エレメント用の定数を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループの PIA:2 セグメント内の PIA:203 エレメント (コーディング済みアイテム番号タイプ) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "UP" 定数 (UPC Code) を選択します。すると、PIA:202 エレメントが自社の UPC コードを含んだエレメントとして識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [7140:7 ITEM NUMBER] を選択して、アイテム番号エレメントとの関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"UP" コードがコーディング済みアイテム番号タイプ エレメント内に読み込まれ、PIA:202 エレメントと PIA:203 エレメント間の修飾関係が確立されます。

(次のページへ続く)

Product ID Function Qualifier の設定方法

PIA:201 エレメント (Product ID Function Qualifier) に定数をマップして、アイテム番号 (PIA:202) との修飾関係を確立する必要があります。

このマップに使用される定数は、既に定義されました。今回は、Product ID Function Qualifier エレメントに適切な定数をマップします。

Product ID Function Qualifier エレメント用の定数を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LIN グループの PIA:2 セグメント内の PIA:201 エレメント (Product ID Function Qualifier) をダブルクリックして、[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "1" 定数 (追加情報) を選択します。すると、PIA:202 エレメントが追加の製品情報を含んだエレメントとして識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [7140:7 ITEM NUMBER] を選択して、アイテム番号エレメントとの関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"1" コードが Product ID Function Qualifier エレメント内に読み込まれ、PIA:201 エレメントと PIA:202 エレメント間の修飾関係が確立されます。

UPC コードのマップ方法

適切な修飾関係を確立した後は、UPCCODE フィールドをマップします。

製品コード情報をマップするには、INVDETAIL レコード内のアプリケーションフィールド UPCCODE を PIA:2 セグメント (LIN グループ) 内の PIA:202 エレメントへ連結します。

ITEMDESC フィールドのマップ方法

LIN グループの IMD セグメントのインスタンスが既に 1 つプロモートされたため、ITEMDESC (アイテム説明) フィールドを IMD:306 エレメントへ直接マップすることができます。

アイテム説明をマップするには、INVDETAIL レコード内のアプリケーションフィールド ITEMDESC を IMD:3 セグメント (LIN グループ) 内の IMD:306 エレメントへ連結します。

INVSUMMARY レコード

概要

はじめに

このセクションでは、INVSUMMARY (合計) レコード内の各フィールドからマップする方法について説明します。INVSUMMARY レコードには、請求合計額およびトランザクション合計額が含まれています。この合計レコードは必須であり、トランスレーションされた請求書ごとに 1 回ずつ出現します。

BILLTOACCTSUM フィールド

BILLTOACCTSUM フィールドは、アプリケーション ファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

DOCTYPSUM フィールド

DOCTYPSUM フィールドは、アプリケーション ファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

INVNUMSUM フィールド

INVNUMSUM フィールドは、アプリケーション ファイル書式のキーの一部となっていますが、システムでの請求書の生成に使用されるデータは含んでいません。このフィールドに対しては、マッピング操作を実行しないでください。

TOTALAMOUNT フィールド

概要

システムで出力セグメントを作成するには、そのセグメント内にエレメントへの明示的な連結が少なくとも 1 つ存在していなければなりません。また、その連結をサポートするデータも必要です。アキュムレータを使用して合計金額をマップする場合にも、データが入ったアプリケーション フィールドとの明示的な連結を追加する必要があります。

Monetary Amount Type Qualifier (MOA:1401 エレメント) に定数をマップして、Monetary Amount (MOA:1402) エレメントとの修飾関係を定義する必要があります。Monetary Amount Type Qualifier が "128" (Total Amount) の場合、MOA:14 セグメントのそうした反復には合計請求金額が入ります。

Monetary Amount Type Qualifier の設定方法

Monetary Amount Type Qualifier (MOA:1401 エレメント) に定数をマップして、Monetary Amount (MOA:1402) エレメントとの修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用される定数は、既に定義されました。今度は、Monetary Amount Type Qualifier エレメントに適切な定数をマップします。

MOA:14 セグメント用の Monetary Amount Type Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	MOA:2 グループの MOA:14 セグメント内の MOA:1401 エレメント (Monetary Amount Type Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "128" を選択します。すると、MOA:14 セグメントのこの反復の内容が合計請求金額として識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [5004:3 MONETARY AMOUNT] を選択して、Quantity エレメントとの関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"128" コードが Monetary Amount Type Qualifier エレメント内に読み込まれ、MOA 1401 エレメントと MOA:1402 エレメント間の修飾関係が確立されます。

(次のページへ続く)

**総合計金額値の
マップ方法**

総合計金額値をマップするには、INVSUMMARY レコード内のアプリケーションフィールド TOTALAMOUNT を MOA:2 グループの MOA:14 セグメント内の MOA:1402 エlementへ連結します。

TRANSTOTAL フィールド

概要

システムで出力セグメントを作成するには、そのセグメント内にエレメントへの明示的な連結が少なくとも1つ存在していなければなりません。また、その連結をサポートするデータも必要です。このため、アキュムレータを使用してトランザクション合計をマップする場合にも、データが入ったアプリケーションフィールドとの明示的な連結を追加する必要があります。

さらに、Control Qualifier (CNT:201 エレメント) に定数をマップして、Monetary Amount (CNT:202) エレメントとの修飾関係を定義することも必要です。Control Qualifier が "2" (Number of Line Items in Message) の場合、CNT:2 セグメントのそうした反復には、合計ライン アイテム数が入ります。

Control Qualifier の設定方法

Control Value (CNT:201 エレメント) に定数をマップして、Control Value (CNT:202) エレメントとの修飾関係を定義する必要があります。

このマップに使用する定数はすべて、既に定義されています。今度は、Control Qualifier エレメントに適切な定数をマップします。

CNT:2 セグメント用の Control Qualifier を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	CNT:2 セグメント内の CNT:201 エレメント (Control Qualifier) をダブルクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスします。
2	[スタンダード ルール] タブを選択します。
3	[スタンダード ルール] リストから [Use Constant] を選択します。
4	[定数] リストから "2" を選択します。すると、CNT:2 セグメントのこの反復の内容が合計ライン アイテム数として識別されるようになります。
5	[Qualifies] リストから [6066:2 CONTROL VALUE] を選択して、コントロール値エレメントとの関係を設定します。
6	[OK] をクリックします。"2" コードが Control Qualifier エレメント内に読み込まれ、CNT:201 エレメントと CNT:202 エレメント間の修飾関係が確立されます。

(次のページへ続く)

**合計トランザクシ
ョン量のマップ方法**

トランザクション合計をマップするには、INVSUMMARY レコード内のアプリケーション フィールド TRANSTOTAL を CNT:2 セグメント内の CNT:202 エレメントへ連結します。

マップのまとめ

概要

はじめに

マッピング処理を完了するには、マップの保存、トランスレーション オブジェクトのコンパイル、Gentran:Server for Windows レポートの印刷と見直し、およびマップのテストが必要です。

マップのコンパイル方法

概要

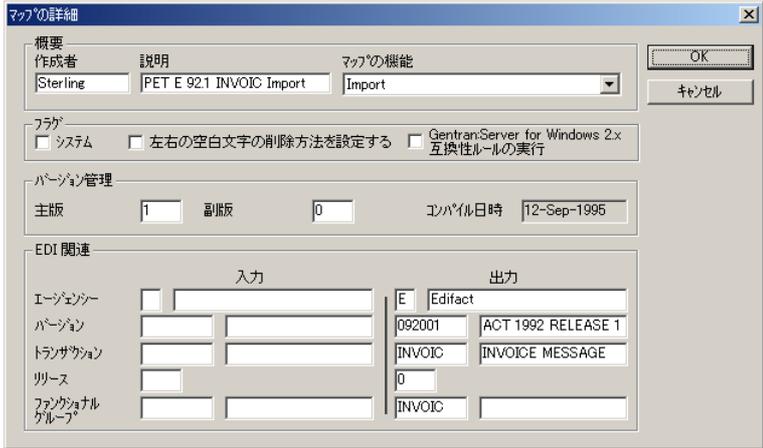
トランスレーション オブジェクトは "コンパイル" 機能により生成されます。作成されたマップ (PET_EINV.MAP) が、"ソース マップ" です。ソース マップがコンパイルされたときの結果は "コンパイル済みトランスレーション オブジェクト" です。

トランスレーション オブジェクトを保存後に使うには、事前に Gentran:Server for Windows に登録する必要があります。

手順

マップをコンパイルして、トランスレーション オブジェクトを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ファイル] メニューの [保存] を選択して、ソース マップを保存します。
2	[ファイル] メニューから [コンパイル] を選択すると、[トランスレーション オブジェクト名] ダイアログ ボックスが表示されます。 
3	[ファイル名] ボックスへは既に "PET_EINV.TPL" が入っています。これはトランスレーション オブジェクトの名前で、既定の .TPL ファイル拡張子が使用されています。トランスレーション オブジェクト (.TPL ファイル) には、マップ (.MAP ファイル) に付けた名前と同じファイル名を付けることをお勧めします。 注意 ソース マップをコンパイル済みトランスレーション オブジェクトに上書きしないようにしてください。ソースマップと区別するため、トランスレーション オブジェクト名には .TPL というファイル拡張子を使用してください。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
4	<p>必要に応じて、コンパイル済みトランスレーションオブジェクトの保存先となるドライブおよびフォルダを変更します。</p> <p>注意 GENSRVNT\RegTransObj サブフォルダへは、コンパイル済みトランスレーションオブジェクトを保存しないでください。このサブフォルダは、Gentran:Server for Windows に登録するトランスレーションオブジェクトのコピーを保存する目的に予約されています。</p>
5	<p>[保存] をクリックします。すると、マップがコンパイルされ、トランスレーションオブジェクトが生成されます。[コンパイルエラー] ダイアログボックスが表示されます。エラーが発生しないことを確認し、[OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。</p>
6	<p>[編集] メニューから [詳細] を選択します。[マップの詳細] ダイアログボックスが表示されます。</p>  <p>トランスレーションオブジェクトがコンパイルされた日付は、[マップの詳細] ダイアログボックスの [コンパイル日時] ボックスに自動的に読み込まれます。[キャンセル] をクリックすると、ダイアログボックスが終了します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	<p>[ファイル]メニューの[保存]を選択して、ソースマップを保存します。</p> <p>メモ トランスレーションオブジェクトは、使用する前に Gentrans:Server システムに登録する必要があります。</p> <p>参照 トランスレーションオブジェクトの登録の詳細については、Gentrans:Server for Windows 『ユーザーガイド』を参照してください。</p>

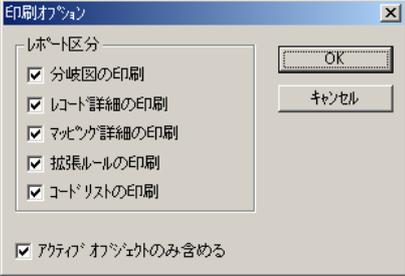
レポートの印刷方法

概要

Gentran:Server for Windows レポートでは、マップの検証および見直しのほか、必要に応じて修正もできます。レポートを見直してマップに誤りのあることが確認された場合は、修正を行い、マップを保存し、トランスレーションオブジェクトを再コンパイルして、もう一度レポートを印刷してください。

手順

Gentran:Server for Windows レポートを印刷するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル]メニューまたはメイン ツールバーから [印刷] を選択して、[印刷オプション] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p> 
2	<p>このダイアログ ボックスでは、既定値をそのまま使用 (すべてのオプションのチェックをオンに) します。その結果、レポートの中にセクションはすべて取り込まれますが、マップ コンポーネントはアクティブなものだけが取り込まれます。[OK] をクリックします。[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>適切なオプションを選択してから、[OK] をクリックします。</p> <p>[セットアップ] をクリックして、特定のプリンタ、用紙の向き、用紙サイズ、および給紙元を選択します。[印刷設定] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>

トランスレーション オブジェクトのテスト

概要

マップのコンパイル、レポートの印刷および確認が済み、トランスレーション オブジェクトを **Gentran:Server** に登録し終えたら、トランスレーション オブジェクトをテストして、データが正しくトランスレーションされたことを確認するとよいでしょう。

手順

システム インポート トランスレーション オブジェクト (HEADER.TPL) および インポート トランスレーション オブジェクト (PET_EINV.TPL) をテストするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	HEADER.TPL トランスレーション オブジェクトおよび PET_EINV.TPL トランスレーション オブジェクトを Gentran:Server for Windows に登録します。
2	この登録がまだ完了していない場合は、 PETZONE1.PAR パートナー関係を Gentran:Server for Windows にインポートします。パートナー ファイル用の既定パスは、次のとおりです。 C:¥GENSRVNT¥TUTORIAL¥PETZONE1.PAR
3	パートナー エディタで、アウトバウンド関係に対して PET E 92. 1 INVOIC インポート トランスレーション オブジェクトが選択されていることを確認します。
4	システム インポート トランスレーション オブジェクト (HEADER.TPL) をシステム構成プログラムに追加するように、システム管理者に依頼してください。
5	Gentran:Server for Windows の [インポート] オプションを使用して、トランスレーション オブジェクトを介してデータ ファイル (PET_EINV.TXT) を処理します。データファイルは、 Gentran:Server for Windows がインストールされているフォルダの TUTORIAL サブフォルダにありますデータ ファイル用の既定パスは、次のとおりです。 C:¥GENSRVNT¥TUTORIAL¥PET_EINV.TXT
6	メッセージはトランスレーションされた後、 Gentran:Server for Windows のワークスペース内に配置されます。EDI データを表示して、メッセージが正しくトランスレーションされたことを確認します。

(次のページへ続く)

手順 (続き)**参照**

トランスレーション オブジェクトの登録、パートナーのインポート、アウトバウンド トランスレーション オブジェクトの選択、および EDI データの表示の詳細については、Gentran:Server for Windows 『ユーザー ガイド』を参照してください。

用語解説

? インドキュメント	この Gentran:Server ブラウザには、システム内で受信されたがエラーのあるドキュメント、または識別可能なパートナーまたはトランザクションセットを持たないドキュメントのリストが表示されます。
? アウトドキュメント	この Gentran:Server ブラウザには、自動処理でシステムにインポートされたが無効になったドキュメントのリストが表示されます。
AIAG	自動車産業アクショングループ (AIAG: Automotive Industry Action Group) は、自動車業界の標準制定団体です。これらのスタンダードは、ANSI X12 スタンダードのサブセットになっています。
ANA	商品番号割当協会 (Article Numbering Association)
ANSI	米国規格協会 (American National Standards Institute)。ANSI では、安全ガラスやバッテリー容量をはじめ、さまざまな製品やサービスの標準を制定しています。ANSI X12 委員会は、米国での EDI スタンダードの制定における中心的な組織です。
Communicator	Gentran:Server のコミュニケーションソフトウェア。Communicator を使用すると、送信、受信、再送信、コミュニケーションポート定義の設定、コミュニケーションプロファイルの設定、コミュニケーションスクリプトの設定、およびコミュニケーションセッションの表示と削除を行うことができます。
Constant	このスタンダードルールを使用して、指定したエレメントやフィールドにリテラル定数値を移動したり、他のエレメントやフィールドとの修飾関係を示したり、指定したエレメントやフィールドに現在の日時をマッピングしたりできます。

(次のページへ続く)

EANA	国際商品番号割当協会 (International Article Numbering Association)、ベルギーのブリュッセルに設置。
EDI	電子データ交換 (EDI: Electronic Data Interchange) とは、企業がコンピュータを使用して、書類を印刷することなくビジネスドキュメントをアプリケーション間で直接交換するためのプロセスのことです。
EDIA	電子データ交換協会 (Electronic Data Interchange Association)。前身は輸送データ調整委員会 (TDCC: Transportation Data Coordinating Committee) です。
EDIFACT	国連経済社会理事会 (United Nations Economic and Social Council) の標準機構。行政、商業、運輸向け電子データ交換 (Electronic Data Interchange for Administration, Commerce, and Transport) の頭文字です。
EDI スタANDARD	ビジネスドキュメントを EDI ドキュメントに変換するためのルールです。
Loop count	このスタンダードルールを使用すると、エレメントやフィールドがループの一部である場合に、ループの回数を数えることができます。ループがネストされている場合、現在のループまたは外側のループを数えることができます。たとえば、ループ Y がループ X にネストされていて、ループ Y が 15 回、またループ X が 3 回繰り返されています。この場合、ユーザーは、15 (ループ Y) または 3 (ループ X) のいずれかを数えることができます。
ODETTE	ヨーロッパ遠隔送信データ交換機構 (Organization for Data Exchange by Tele-Transmission in Europe)
Select	このスタンダードルールを使用すると、Gentran:Server パートナーエディタで作成した所在地テーブル、クロスリファレンステーブル、パートナーテーブル、または照合テーブルからエントリを選択することができます。次に、これらのテーブルのフィールドをデータ内の 1 つ以上のフィールドにマップできます。Select 機能では現在のフィールドの値を使用して選択が行われます。

(次のページへ続く)

string	この種類のフィールドまたはエレメントには、1つ以上の印刷可能文字が入りません。フィールドまたはエレメントを string 型と指定する場合、シンタックストークンを指定して書式を設定します。
TDC	「 EDIA 」を参照してください。
TDF	トランザクションデータファイル (Transaction Data File) の略。このファイルは、ドキュメントファイルと Gentran:Server トランスレータ間で、フィルタの役割をします。アウトバウンド処理では、データは TDF Import トランスレーションオブジェクトを使用して、 TDF ファイルからインポートされ、 EDI 形式にトランスレーションされます。その後、データはポストされ、トレーディングパートナーに送信できる状態になります。インバウンド処理では、 Gentran:Server で受信した EDI ドキュメントは TDF Export トランスレーションオブジェクトを使用して、 TDF 形式ファイルにエクスポートされます。その後、このデータファイルは処理したり、または内部アプリケーションファイルに変換したりできる状態になります。
TRADACOMS	商品番号割当協会 (UK Article Numbering Association) が公開している英国の EDI スタンドアード。
UCS	統一通信標準 (Uniform Communications Standard) は、食料雑貨業界で使用するスタンダードです。
Update	<p>このスタンダードルールを使用すると、ドキュメントレコード、エンベロープセグメント、インターチェンジ、グループ、現在のパートナー、またはドキュメント (マップの作業側の形式が EDI の場合) の特定のフィールドを、エレメント、またはフィールドのコンテンツで更新することができます。</p> <p>注意 この機能は、内部 Gentran:Server データベース テーブルを更新します。内部データベース テーブルを更新する必要があるときにだけ、この機能を使用するようお勧めします。</p> <p>この機能は、通常、ドキュメント テーブルのドキュメント名や参照を更新するとき以外は使用されません。この機能を他の目的で使用すると、致命的な障害が発生することがあります！</p>

(次のページへ続く)

Use accum

このスタンダードルールを使用すると、数値演算により操作できる一連の数値変数を利用できます。その後、その変数をフィールド間でやり取りできます。この機能を使用すると、ハッシュトータル(たとえば、数量や価格など数値フィールドの値を累積するのに使用)を含むエレメントやフィールドの計算を追加、変更または削除できます。また、累積したトータルを **Control** の総数のフィールドにマッピングし、アキュムレータを使用できます。通常、アキュムレータは、特定のエレメントが実行される回数を数えたり、増加または連続レコード数またはラインアイテム数を生成するために使用されます。

Use code

このスタンダードルールを使用すると、定義済みコードテーブルに対してエレメントやフィールドを照合させたり、エレメントやフィールドにコードテーブルの値が1つも含まれていない場合エラーを生成するかどうかを指定したり、他のエレメントやフィールドにコードの説明を格納したりできます。

VICS

任意産業間通信標準 (Voluntary Inter-industry Communication Standards) は小売業界のスタンダード制定団体であり、ANSI X12 のサブセットを定めています。

X12

EDI スタンダードを制定し公開する ANSI の委員会。

アウト ドキュメント

Gentran:Server ブラウザには、送信の準備が完了しているドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントは、正常に送信された後、自動的に [アウト ドローワ] に転送されます。

アウト ドローワ

この Gentran:Server ブラウザには、正常に送信されたドキュメントのリストが表示されます。

**アウトバウンド
マッピング**

ドキュメントをパートナーへ送信できるように、アプリケーションファイル形式が EDI スタンダード形式にトランスレーションされます。アウトバウンドデータをトランスレーションするには、Gentran:Server でインポート マップとシステム インポート マップを作成する必要があります。

(次のページへ続く)

アクティブ化

この機能によって、マップ コンポーネントを使用可能にします。スタンダードによって " 必須 " (存在している) と定義されているすべてのグループ、セグメント、複合およびエレメントがアクティブにされます。必須のグループ、セグメント、複合およびエレメントをユーザーが非アクティブにすることはできません。データをトランスレートする際、アクティブにされていないグループ、セグメント、複合、およびエレメント (またはレコードおよびフィールド) は処理されません。したがって、スタンダードによって必須と定義されていないグループ、セグメント、複合、およびエレメントをマッピングに使用すると決定した場合、それらをユーザーがアクティブにする必要があります。

アプリケーションシステム

特定のビジネス機能を遂行するように設計されている、EDI の外にあるコンピュータ システム。会計、購買、資材管理、人事、出荷などのシステムがあります。

アプリケーションファイル

インポート マップまたはエクスポート マップを作成する場合、自社で使用しているアプリケーションを **Gentran:Server** に定義する必要があります。**Gentran:Server** の用語では、自社で使用しているアプリケーション ファイルは " 固定長形式ファイル " または " 固定長ファイル " と呼びます。データが正確に処理されるためには、アプリケーション ファイルに、パートナーのドキュメントから抽出する必要がある情報 (マップがインバウンドの場合)、またはパートナーに送る必要がある情報 (マップがアウトバウンドの場合) のいずれかのすべての情報が含まれている必要があります。

色

この機能を使用すると、前景色や背景色を選択して、さまざまなマップ コンポーネントを視覚的に定義することができます。色の使用は、オプションです。

印刷物

トレーディング パートナーから受け取ったデータが印刷トランスレーション オブジェクトへ渡されると出力されます。データを実際に印刷する必要はありません。印刷物は、ファイルとしてハードディスクに保存することもできます。

インターチェンジ

インターチェンジには、同じ伝送において、ある送信者からある受信者に送られたドキュメント (トランザクション セット) の全ファンクショナル グループが含まれます。

(次のページへ続く)

インターチェンジ ブラウザ

この Gentran:Server ブラウザには、送信または受信したすべてのインターチェンジの階層リストを表示できます。インターチェンジの状態に関する情報 (ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認の状態など) が表示されます。また、このブラウザでは、インターチェンジ内のドキュメントを表示できます。インターチェンジブラウザは常に使用可能です。

イン ドキュメント

この Gentran:Server ブラウザには、システム内で受信したがユーザーがまだ処理していないドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの処理 (印刷またはエクスポート) が終了すると、ドキュメントは [イン ドローワ] に転送されます。

インバウンド マッピング

トレーディング パートナーからドキュメントを受信できるように、パートナーの EDI スタンダード形式ビジネスドキュメントが、自社のアプリケーション ファイル形式にトランスレーションされます。インバウンド データをトランスレーションするには、エクスポート マップを作成する必要があります。

インポート

このコマンドを実行すると、外部アプリケーション ファイルからデータをインポートできます。ファイルの内容に応じて、パートナー、トランザクション、またはトランスレーション オブジェクトの情報の入力を要求される場合があります。

インポート トランスレーション オブジェクト

「[インポート マップ](#)」を参照してください。

インポート マップ

このマップは、自社のアプリケーション ファイル (テキスト形式のファイル定義。複数のドキュメントで構成される場合もある) のデータを、パートナーが受け取る EDI スタンダード形式ドキュメントへ変換する方法を定義します。インポート マップは、アウトバウンド処理に必要になります。

エクスポート トランスレーション オブジェクト

「[エクスポート マップ](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

エクスポート マップ

このマップは、パートナーが送信した EDI スタandard 書式のドキュメントのデータを自分が使用するアプリケーションに移動する方法を定義します (テキスト形式のファイル定義)。インバウンド処理に必要になります。

エレメント

使用可能な情報の最小単位のことであり、Standard によって定義されます。たとえば、数量、単価、または説明について定義します。個々のエレメントは、それぞれの状況に応じて意味合いが多少異なります。したがって、エレメントは通常、組み合わせられてセグメントとなるまでは、有用な意味を持つものとはみなされません。また、エレメントとは EDI マップ コンポーネントのことで、対応するアプリケーションフィールドにマッピング (連結) して、EDI ファイルとの間でデータをやり取りします。

以下のように、3 種類のデータ エレメントがあります。

データ エレメント	定義
単純データ エレメント	Standard で定義されている最小単位の情報
複合データ エレメント	複数のコンポーネント エレメントで構成されるデータ エレメント
コンポーネントデータ エレメント	複合データ エレメントを構成する個々のデータ エレメント。サブエレメントとも言います。

(次のページへ続く)

エンベロープ

処理の便宜を図るために、伝送時に情報を分割する手段のひとつ。エンベロープには、それぞれヘッダー セグメントとトレーラ セグメントが含まれています。これらのセグメントは、そのエンベロープとほかのエンベロープとを区別し、エンベロープの内容に関する情報を提供します。

エンベロープには、次に示す3つのレベルがあります。

- ▶ **トランザクション セット**
各トランザクション セット (ビジネスドキュメント) は、トランザクション セット エンベロープに入っています。
- ▶ **ファンクショナルグループ**
関連するビジネスドキュメントが入っているエンベロープです。スタンダードにより、ファンクショナルグループ エンベロープにまとめなければならないトランザクション セットが定義されています。
- ▶ **インターチェンジ エンベロープ**
1回のコミュニケーションで1つのトレーディング パートナーに送信されるすべてのデータ。インターチェンジ エンベロープは、ANSI で使用されている用語です。EDIA ではこのレベルのエンベロープを意味する用語として「伝送エンベロープ」を使用しています。しかし、ここでは「伝送 (transmission)」という用語について別の使い方をしているため、インターチェンジ エンベロープと呼ぶことにします。

メモ

コミュニケーション セッションには、インターチェンジ エンベロープを簡単に取り込むことができます。そのため、スタンダード制定団体ではコミュニケーション セッション全体をカバーする第4レベルのエンベロープを検討中です。

応答

この Gentran:Server の機能を使用すると、インドローワ内で選択されている1つ以上のドキュメントへの応答として、(パートナー関係に設定されたターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用して) ターンアラウンド ドキュメントを作成できます。

拡張ルール

このルールを使用すると、Gentran:Server 用プログラミング言語を使用して、ほとんどすべてのマッピング処理を実行できます。

関係付ける条件

この機能を使用すると、シンタックスまたは適合性の理由から、フィールドを結びつけることができます。たとえば、フィールド A はフィールド B が存在しないと無効になります。したがって、フィールド A とフィールド B をペアにする条件を設定した場合、どちらか片方のフィールドが存在しないときに、エラーが生成されます。

(次のページへ続く)

既定値	定義済みの値 — 特に変更していない限り、プログラムではあらかじめ組み込まれている値が使用されます。
均等化	この機能を使用すると、フォーカスされているマップの入力側と出力側のサイズを同じサイズに戻すことができます。"均等化"機能の使用は、オプションです。
クリック	クリックとは、指定されたアイテムの上にカーソルを置き、第1マウスボタンを押してから離すことを言います。第1マウスボタンは、マウス操作を右手と左手のどちらで行う場合でも、人差し指を使って押すボタンのことです。
グループ	ループ構造のことで、この構造にはグループデータが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達成するまで、順次繰り返される関連するレコード / セグメントとグループまたはどちらか一方が含まれます。他のグループに從属するグループ (サブグループ) を作成する場合、このグループはネストされたループ構造 (ループ内のループ) になります。アプリケーション (固定長) ファイルと EDI ファイルは共にグループなので、それらのファイルは、Gentran:Server の他のグループやサブグループと同じように見えます。
クロスリファレンス テーブル	このテーブルはパートナー エディタで作成され、アウトバウンド処理中は、ユーザーの値をトレーディング パートナーの値に、インバウンド処理中は、パートナーの値をユーザーの値に変換するのに使用されます。
コードリスト テーブル	コードリスト テーブルは、コードのリストの保管場所として、EDI スタンダードによって使用されます。各 EDI スタンダードによって、追加定義される各エレメントのコードリストが用意されます。
固定形式ファイル	「 アプリケーションファイル 」を参照してください。
固定長ファイル	「 アプリケーションファイル 」を参照してください。

(次のページへ続く)

**コミュニケーション
セッション**

1回の連続接続期間における、ある電話番号との間でのすべてのやり取り。これには、異なるトレーディング パートナー向けの2つまたは3つのインターチェンジエンベロープをネットワークへ送信することも含まれます。

コンパイル

この機能は、マップをコンパイルしたりトランスレーションオブジェクトを作成したりします。Gentran:Server を使用して作成したマップは、"ソース マップ"と呼ばれます。ソース マップがコンパイルされると、"コンパイルされたトランスレーションオブジェクト"となります。作成されたトランスレーションオブジェクトは、使用する前に Gentran:Server システムに登録する必要があります。

**コンポーネント
データ エlement**

複合データ エlementに属する単純なデータ エlement。サブElementとも言います。

**サードパーティ
ネットワーク**

「[ネットワーク](#)」を参照してください。

**システムインポート
トランスレーション
オブジェクト**

「[システム インポート マップ](#)」を参照してください。

**システムインポート
マップ**

このマップを使って、トランスレータはアプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係 (パートナー エディタで確立) を識別します。これにより、ドキュメントの処理にどのインポート マップを使用するかが識別されます。アウトバウンド データをトランスレーションするには、EDIMGR.INI で定義されたシステム インポート マップが必要です。

**システム
トランスレーション
オブジェクト**

これらのトランスレーションオブジェクトでは、インターチェンジ、ファンクショナルグループ、およびトランザクションセットの作成と分割を制御します。また、ファンクショナル受信確認を生成したり、ファンクショナル受信確認との整合性をとるためにも使用されます。必要なシステムトランスレーションオブジェクトはすべて、Gentran:Server システムによって自動的にインストールされます。

(次のページへ続く)

実数	実数には、明示的な小数点(たとえば、2.01 は、2.01 と書式化される)があり、末尾のゼロが切り捨てられます。
修飾子	コードで表現される値を持つエレメントで、他のエレメントの機能に特定の意味を付与します。修飾関係とは、エレメントとその修飾子との間の相互作用のことです。エレメントの機能は、修飾に含まれるコードによって異なります。
受信	この Gentran:Server の機能を使用すると、トレーディング パートナーからデータを受信するためのコミュニケーション セッションを手動で開始できます。
受信確認	この用語は、ANSI 997 ファンクショナル受信確認、EDIA 999 受理 / 拒絶アドバイス、および EDIFACT CNTRL ドキュメントを示すために使用されます。
主要な機関	EDI コミュニケーションのスタンダードの開発および更新を行う組織。ANSI、EDIA、AIAG、UCS、EDIFACT、ODETTE、および VICS などの組織があります。
条件	「 関係付ける条件 」を参照してください。
照合テーブル	パートナー エディタで作成されるテーブルの 1 つ。インバウンドまたはアウトバウンド データの値に関連した情報を選択するのに使用します。
所在地テーブル	パートナー エディタで作成されるテーブルの 1 つ。パートナーの住所情報を格納できます。
シンプルなマッピング	「 連結 」を参照してください。
数字	この型のフィールドまたはエレメントには、整数または実数が入ります。フィールドまたはエレメントを番号型と指定する場合、N(整数)またはR(実数)のいずれかの書式を指定し、小数点以下の桁数を指定して、書式を決めます。

(次のページへ続く)

**スタンダード
ルール**

これらのルールを使用すると、拡張ルールほど複雑ではないものの、単純な連結よりアドバンスド マッピング操作を実行できます。各スタンダード ルールは、相互に両立しません (1 つのフィールドに使用できるスタンダード ルールは 1 つだけです)。

ステータス バー

アプリケーション ウィンドウのステータス バーの機能には、選択、コマンド、またはプロセスに関する情報の定義、各アイテムを反転表示にしたときのメニュー バー アイテムの定義、および入力時の現在のキーボード開始モード (たとえば、Caps Lock キーに対しては CAP、Num Lock キーに対しては NUM) の表示などがあります。シンタックス トークン

この機能を使用すると、string 型のエレメントやフィールドに使用できる文字や数字の範囲を定義する "トークン" を指定できます。その後、指定したシンタックス トークンを [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [書式] フィールドで使用できます。これにより、各エレメント / フィールドのエラー チェック中に使用する文字の種類 (ある範囲内の英数字、ある範囲内の数値など) を定義できます。

整数

含意の小数点を持つ数字 (たとえば、2.01 は、201 と書式設定される)。

セグメント

有用なデータをやり取りするために組み合わせられた関連エレメントまたは複数データ エレメントのグループ。セグメントは EDI スタンダードによって定義されます。1 つのセグメントは、一度だけ実行される場合と、複数回繰り返される場合があります。たとえば、カタログ定価セグメントはアイテムの説明、数量、価格、リードタイムなどのエレメントで構成されているとします。これらのエレメントが単独で有用な情報を伝えるわけではありません。しかし、これらのエレメントを組み合わせることにより、そのアイテムが希望に合うかどうか、または価格が妥当なものかどうかなどを判断するために必要な情報になります。複数のセグメントが集まるとトランザクション セットになります。

セット

「[トランザクション セット \(ドキュメント\)](#)」を参照してください。

送信

Gentran:Server のこの機能を使用すると、トレーディング パートナーにデータを送信するためのコミュニケーション セッションを手動で開始できます。選択されたドキュメントのみがエンベロープに収められて送信されます。ドキュメントが選択されていない場合は、すべてのドキュメントが送信されます。正常に送信されたドキュメントは、アウト ドローワへ移動します。

(次のページへ続く)

ターンアラウンドドキュメント	ソースドキュメントからのデータエレメントが、ターンアラウンド マップを使用して自動的に転送される際の転送先のドキュメント。
ターンアラウンドマップ	インバウンド (ソース)ドキュメントからターンアラウンドドキュメント (ソースへの論理的応答ドキュメント)を作成するために使用される一連の命令。ソースドキュメントからターゲットドキュメント (トランスレーションオブジェクト)にデータを転送することによって作成されます。
ダイアログボックス	ダイアログボックスには、ユーザーが取る必要のある動作の追加情報またはオプションが表示されています。オプションを指定した場合、コマンドを実行するためのボタンを選択できます。要求された作業を実行できない理由を示す警告またはメッセージが表示されるダイアログボックスもあります。ダイアログボックスにタイトルバーがある場合には、デスクトップの別の場所にそれを移動することができます。
タイトルバー	アプリケーションウィンドウのタイトルバーにはアプリケーション名が表示されます。タイトルバーを使用して、デスクトップ上の別の場所にウィンドウを移動できます。
ダブルクリック	ダブルクリックとは、指定されたアイテムの上にカーソルを置き、第1マウスボタンをすばやく2回、押してから離すことです。第1マウスボタンは、マウスを右きき用にしていても左きき用にしていても、人差し指を使って押すボタンのことです。
チェックボックス	チェックボックスによって、リストからオプションを選択またはクリアできます。オプションをリストから必要なだけ選択できます。チェックボックスを選択すると、チェックマークが表示されます。使用できないオプションのラベルは、グレー表示されます。
ツールバー	ツールバーには、メニューバーで使用可能なコマンドがグラフィカルなボタンで表示されます。

(次のページへ続く)

定義済み

データ登録トランスレーション オブジェクトにおける、特定のエレメントの既定値。必要に応じて値を変更できます。

適合

ドキュメントが、トランスレーション オブジェクトで定義されたとおり、EDI スタンドに準拠していることを意味します。

伝送

「[コミュニケーション セッション](#)」を参照してください。

伝送チェーン

EDI コミュニケーションがたどることのできるパス。パスには、1つの会社、1つのトレーディング パートナー、および1つ以上のネットワーク サービスが含まれます。

ドキュメント

実データが含まれ、単一の実体として処理される1つのトランザクション セット。ドキュメントであるか否かの識別は、データ量とは関係なく、単一の実体として処理されるかどうかによってのみ判定されます。たとえば、発注書に記載されているアイテムが1件であろうと、1万件であろうと、それが1枚の発注書である限り1つのドキュメントとなります。

10枚の発注書が含まれるコミュニケーションをトレーディング パートナーが送信した場合、自社側では10枚のドキュメントを受け取ることになります。コミュニケーションに15枚の請求書が含まれていれば、15枚のドキュメントを受け取るようになります。

**トランザクション
セット
(ドキュメント)**

スタンダードで定義されているビジネス書式。たとえば、ANSI 850 発注書や UCS 880 請求書などです。スタンダードでは、フォームを構成するセグメントおよびエレメント、それらが表示される順序、およびそれらの関係について、それぞれのトランザクション セットを定義しています。これはヨーロッパでは "メッセージ" とも呼ばれています。

(次のページへ続く)

**トランスレーション
オブジェクト**

特定のトランザクション セットの入力または出力が確実に存在し、使用可能な形で表示されるように設定された、あらかじめ設計済みの配置。各パートナー関係で使用するトランスレーション オブジェクトを指定する必要があります。

インバウンド トランスレーション オブジェクト：

ターンアラウンド：このトランスレーション オブジェクトは、ドキュメント受信時にそのドキュメントからできるだけ多くのエレメントが含まれる自然な応答ドキュメントを作成するために使用します。

エクスポート ファイル：このトランスレーション オブジェクトでは、ドキュメントの受信時にそのドキュメントを指定されたファイル形式にエクスポートするように指定します。

印刷：このトランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントを印刷します。

アウトバウンド トランスレーション オブジェクト：

インポート：このトランスレーション オブジェクトは、アプリケーション ファイルからデータをインポートする場合に使用します。

印刷：このトランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントを印刷します。

画面入力：このトランスレーション オブジェクトは、ドキュメント エディタにデータを入力する場合に使用します。

トランスレータ

Gentran:Server、アプリケーション インテグレーション サブシステム、およびフォーム インテグレーションのデータを処理するエンジン。

**トレーディング
パートナー**

ドキュメントを交換する相手先となる企業。パートナーともいいます。

日 / 時

この種類のフィールドまたはエレメントには、日付または時刻が入ります。フィールドまたはエレメントを日 / 時型と指定する場合、日付または時刻の書式を正確に指定しなければなりません。

ネットワーク

企業からの伝送を受け入れてトレーディング パートナー側で受信準備ができるまで保持するサード パーティ ネットワークまたは付加価値ネットワーク (VAN: Value-Added Network) とも呼ばれます。

(次のページへ続く)

バージョン	各スタンダード制定団体は、定期的にスタンダードを更新します。それぞれの正式な更新のことをバージョンと呼びます。
パートナー	ドキュメントを交換する相手の企業。トレーディングパートナーとも言います。
パートナーエディタ	この Gentran:Server の機能を使用すると、自社および全トレーディングパートナーのすべてのパートナー情報を定義、編集、および削除できます。
非アクティブ化	この機能によって、マップコンポーネントをシステムが使用できないようにします。必須グループ、セグメント、複合およびエレメントを非アクティブにすることはできません。
ファンクショナルグループ	関連するトランザクションセット間の互換性を確保する目的で、スタンダード制定団体 (ANSI など) によって定義されたトランザクションセットのグループ。たとえば、すべての購買トランザクションセットをまとめたものとして定義されているファンクショナルグループがあります。
フィールド	アプリケーションファイルで定義される情報の最小単位。また、フィールドとはアプリケーションマップコンポーネントのことで、対応する EDI エレメントにマッピング (連結) して、アプリケーションファイルとの間でデータをやり取りします。
フォント	この機能を使用すると、すべてのマップの表示に使用されるフォントをグローバルに変更できます。Gentran:Server の既定のフォントは、9 ポイントの Sans Serif です。"フォント" 機能を使用すると、フォントの種類、スタイル、およびポイントサイズを変更できます。この機能によって、フォントを自由にカスタマイズすることが可能になります。たとえば、マップのより広い範囲を画面に表示する必要がある場合にフォントを小さくしたり、またはフォントを大きくしたり、さらにまたフォントをより読みやすい種類やスタイルに変更したりできます。
複合データエレメント	2 つ以上のコンポーネントデータエレメントまたはサブエレメントから構成されます。複合は、それらの複合を使用する EDI スタンダード (EDIFACT、TRADACOMS、および一部の ANSI X12 スタンダード) によって定義されます。

(次のページへ続く)

ブラウザ

ブラウザは、ドキュメント (トランザクションセット)、インターチェンジ、トランスレーション オブジェクトなどのアイテムのリストを表示するウィンドウです。ドキュメント ブラウザには、ドキュメントのみが表示されます。

プロモート

この機能は、グループまたは繰り返されるセグメントから 1 つの繰り返し (インスタンス) を抽出します。この機能を使用すると、アプリケーション ファイルから一意のデータをマッピングして、特別な定義を入力することができます。Gentran:Server では、1 対 1 (ループなし) および複数対複数 (ループ) のみが有効です。

分割

この機能を使用すると、グループや繰り返されるセグメントを 2 つのループに分割することができます。通常この機能は、複数回出現する同じマップ コンポーネントのインスタンスが 1 つ以上必要な場合に使用します。

ポスト

この Gentran:Server の機能を使用すると、適合するドキュメントをワークスペースからアウト ドキュメントに移動することができます。

ボタン

ボタンを使用して、コマンドを実行できます。ボタンを選択するには、そのボタンをクリックするか、使用したいボタンが選択されるまで **TAB** を押し、次に **ENTER** を押します。使用できないボタンは、グレー表示になっており、現在選択されているボタンは、他のボタンより縁が濃くなっています。

マップ

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムで定義する一連の手順。自社のアプリケーション ファイルと EDI スタandard 間の対応関係を示し、システムがデータをトランスレーションする方法を定義します。

メニュー

選択するアイテムのリスト。各アイテムは、コマンドを表します。使用できないアイテムはメニュー上でグレー表示され、無効であることが示されます。

メニューバー

アプリケーション メニューのリストが表示されます。

(次のページへ続く)

**ユーザー
トランスレーション
オブジェクト**

これらのトランスレーション オブジェクトでは、画面入力、インポート、エクスポート、ターンアラウンド ドキュメント、および印刷レポート作成を制御します。これらのトランスレーション オブジェクトは、アプリケーション インテグレーションまたはフォーム インテグレーション サブシステムを使用して作成されます。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、インポート、エクスポート、およびターンアラウンド ドキュメントのトランスレーション オブジェクトを作成できます。フォーム インテグレーション サブシステムでは、画面入力および印刷のトランスレーション オブジェクトを作成できます。

ラジオ ボタン

ラジオ ボタンは、相互に排他的なオプションのグループを指します。一度に選択できるオプションは1つだけです。オプションを選択するには、ラジオ ボタンをクリックするか、必要なオプションが選択されるまでスペース バーを押します。選択されたオプションには、黒丸(●)が入ります。使用不可の選択肢は、ラベルがグレー表示されます。

リスト ボックス

リスト ボックスには、選択肢のリストが表示されます。選択肢の数多くてボックスに収まりきらない場合は、スクロールバーが提供されます。

リテラル定数

システムがマップで後で使用する情報を保存しておく保管場所。通常、定数はアウトバウンド マップで修飾子を生成するために使用されます。

**ループ開始 /
ループ終了**

一部の EDI スタンダードでは、ループ開始 (LS: Loop Start) およびループ終了 (LE: Loop End) セグメントが使用されます。同じタイプのループが複数ある場合、LS および LE セグメントによって区別されます。トランザクションに LS および LE セグメントが含まれている場合、マップで使用しているループの LS および LE セグメントを定義する必要があります。マップがインバウンドかアウトバウンドかによって、2つのうちいずれか1つの方法で定義します。

レコード

関連フィールドのグループで構成されます。1つのレコードは一度だけ実行される場合と、複数回繰り返される場合があります。

連結

この機能を使用すると、マップの入力側のフィールドまたはエレメントを出力側のフィールドまたはエレメントにマッピングすることができます。2つのマップ コンポーネント (以下フィールドと呼ぶ) 間の連結は、2つのフィールドをつなぐ線として表示されます。

(次のページへ続く)

ワークスペース

Gentran:Server ブラウザには、アウトバウンド " 処理中 " ドキュメントのリストが表示されます。最近インポートしたドキュメントや画面入力ドキュメントも表示されます。

